

外国語学部 中国学科 (2019年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	1
		1年			
	教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	2
		1年			
	教育心理学 PSY120M 山下 智也	2学期	1	2	3
		1年			
	教育社会学 EDU223M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	4
		2年			
	教育課程論 EDU260M 見玉 弥生	2学期	2	2	5
		2年			
	道徳教育指導論 EDU264M 船原 将太	2学期	2	2	6
		2年			
	特別活動・キャリア教育論 EDU265M 楠 凡之	2学期	2	2	7
		2年			
	教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法 EDU160M 下地 貴樹	2学期	1	2	8
		1年			
	生徒指導論 EDU262M 楠 凡之	2学期	2	2	9
		2年			
	教育相談 EDU261M 山下 智也	1学期	2	2	10
		2年			
教育実習 1 EDU380C 休講	2学期	3	2		
	3年				
教育実習 2 EDU480C 休講	1学期	4	2		
	4年				
教育実習 3 EDU481C 休講	1学期	4	2		
	4年				
教職実践演習(中・高) EDU490C 休講	2学期	4	2		
	4年				
特別支援教育論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	2	11	
	2年				

外国語学部 中国学科 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■選択科目	発達心理学 PSY220M 税田 慶昭	1学期	2	2	12
	2年				
	障害児の心理と指導 PSY221M 税田 慶昭	2学期	2	2	13
	2年				
人権教育論 EDU222M 休講	1学期	2	2		
2年					
生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	14	
2年					
■教科及び教科の指導法に関する科目	中国語科教育法A EDU254C 胡 玉華	1学期	3	2	15
	3年				
	中国語科教育法B EDU255C 胡 玉華	2学期	3	2	16
	3年				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	日本史 古賀 康士	2学期	1	2	17
	1年				
	東洋史 植松 慎悟	2学期	1	2	18
	1年				
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	19
	1年				
	人文地理学 外柙保 大介	2学期	1	2	20
	1年				
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	21
	1年				
	地誌学 外柙保 大介	2学期	1	2	22
	1年				
	日本国憲法 中村 英樹	2学期	1	2	23
	1年				
教育とコンピューター 浅羽 修丈	1学期	2	2	24	
教職2年					
■地域科目	地域特講A (現代社会と新聞ジャーナリズム) 露日本新聞社、基盤教育センター 稲月正、外国語学部 中野博文	1学期	1	2	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■地域科目	地域特講B (Innovation and Regional Development)	2学期	1	2	25
	SPL201F ダンカン・ウォトリイ	1年			
	都市と地域	2学期	1	2	26
	RDE002F 奥山 恭英	1年			
	地域の社会と経済	1学期	1	2	27
	ECN170F 李 錦東	1年			
	地域の文化と歴史	1学期	1	2	28
	HIS170F 南 博	1年			
	地域の達人	2学期	1	2	
	CAR212F 休講	1年			
	地域のにぎわいづくり	2学期	1	2	29
	RDE270F 南 博	1年			
	地域と国際	1学期	1	2	30
	RDE003F 吉村 英俊	1年			
地域防災への招待	1学期	1	2	31	
SSS001F 加藤 尊秋 他	1年				
地域防災への招待	1学期	1	2		
SSS001F 休講	1年				
北九州市の都市政策	1学期	2	2	32	
PLC270F 内田 晃	2年				
まなびと企業研究I	2学期	2	2	33	
CAR270F 小林 敏樹	2年				
まなびと企業研究II	1学期	3	2	34	
CAR370F 見館 好隆	3年				
■環境科目	環境特講A	1学期	1	2	
	SPL102F 休講	1年			
	環境特講B (現代社会とエシカル消費)	1学期	1	2	35
SPL202F 大平 剛	1年				
環境都市としての北九州	2学期	1	2	36	
ENV001F 日高 京子 他	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	37
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	38
	1年				
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	39
	1年				
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	40
	1年				
自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	41	
1年					
生命科学入門 BIO200F 日高 京子	2学期	1	2	42	
1年					
環境ESD入門 ENV102F 石川 敬之	2学期	1	2	43	
1年					
■世界(地球)科目	世界(地球)特講A(テロリズム論) SPL103F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	44
	1年				
	世界(地球)特講B SPL203F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	韓国の社会と文化 ARE010F 休講	2学期	1	2	45
	1年				
	国際学入門 IRL110F 伊野 憲治	2学期	1	2	46
	1年				
	安全保障論 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	47
	1年				
現代の国際情勢 IRL003F 北 美幸 他	1学期	1	2	48	
1年					
国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	49	
1年					
グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	50	
1年					

外国語学部 中国学科 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■世界(地球)科目	近代史入門 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	51
		1年			
	Japanese Culture and Society ARE221F ロジャー・ウィリアムソン	2学期	2	2	52
		2年			
	English Speaking Cultures and Societies ARE231F ローズマリー・リーダー	2学期	2	2	53
		2年			
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	54	
	2年				
可能性としての歴史 HIS200F 藤田 俊	1学期	2	2	55	
	2年				
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	56
		中1 - ア . 英 1 - キ			
	アカデミック・スキルズI GES101F 高木 駿	1学期	1	2	57
		中1 - イ			
	アカデミック・スキルズI GES101F 浅羽 修丈	2学期	1	2	58
		1学期未修得者再履			
	アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) GES102F 中尾 泰士	2学期	1	2	59
		1年			
	アカデミック・スキルズII GES102F 休講 (浅羽 修丈)	2学期	1	2	
		1年			
	アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	60
		1年			
	アカデミック・スキルズII (安全保障を哲学する) GES102F 休講	2学期	1	2	
	1年				
アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) GES102F 永末 康介	2学期	1	2	61	
	1年				
アカデミック・スキルズII (教養を磨く『新聞のちから』) GES102F 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介	2学期	1	2		
	1年				
アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対 GES102F 高木 駿	2学期	1	2	62	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の技法科目	知の技法特講A SPL104F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	知の技法特講B SPL204F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	63
	1年				
	法への誘い LAW001F 中村 英樹 他	2学期	1	2	64
	1年				
	コンピューターリテラシー INF101F 古川 洋章	2学期	1	1	65
	1年				
データ分析 INF201F 浅羽 修丈	1学期/2学期	2	2	66	
2年					
データ分析 INF201F 佐藤 貴之	2学期	2	2	67	
2年					
■知の創造科目	知の創造特講A SPL105F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	知の創造特講B (戦後の日本経済) SPL205F 土井 徹平	2学期	1	2	68
	1年				
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	69
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	70
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 松本 亜紀 他	1学期	1	2	71
	1年				
企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	72	
1年					
民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	1学期	1	2	73	
1年					
社会哲学入門 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	74	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	文化を読む LIT001F 真鍋 昌賢 他	1学期	1	2	75
		1年			
	芸術と人間 PHR006F 真武 真喜子	2学期	1	2	76
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	77
		1年			
	情報表現 INF230F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	78
	1年				
倫理思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	79	
	1年				
言語・認知・コミュニケーション LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	80	
	2年				
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	81	
	2年				
■共生と協働科目	共生と協働特講A SPL106F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	共生と協働特講B SPL206F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	82
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	83
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	84
		1年			
サービスマーケティング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	85	
	1年				
サービスマーケティング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	86	
	1年				
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	87	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	88
	1年				
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	89
	1年				
	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	90
	2年				
	基盤演習I (防衛セミナー) GES201F 休講 (戸蒔 仁司)	1学期	2	2	
	2年				
	基盤演習I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	91
	2年				
	基盤演習I GES201F 休講 (浅羽 修丈)	1学期	2	2	
	2年				
	基盤演習I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	92
	2年				
	基盤演習II (文化論セミナー) GES202F 休講 (神原 ゆうこ)	2学期	2	2	
	2年				
基盤演習II (防衛セミナー) GES202F 休講 (戸蒔 仁司)	集中	2	2		
2年					
基盤演習II GES202F 休講 (浅羽 修丈)	2学期	2	2		
2年					
基盤演習II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	93	
2年					
基盤力応用 (地域課題解決のためのICT活用) GES301F 浅羽 修丈	2学期	3	2	94	
3年					
基盤力応用 (政治的暴力<応用編>) GES301F 戸蒔 仁司	2学期	3	2	95	
3年					
■ライフ・デザイン科目	ライフ・デザイン特講A (税理士による租税講座) SPL107F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	96
	1年				
	ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) SPL207F 友松 史子	集中	1	2	97
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	98
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	99
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	100
		1年			
	メンタル・ヘルス PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	101
		1年			
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	102
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	103
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	104
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	105
		1年			
フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	106	
	1年				
フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	107	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	108	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	109	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	110	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	111	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 梨羽 茂	1学期	1	1	112	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	113
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 下釜 純子	1学期	1	1	114
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	115
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	116
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	117
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー/バレーボー HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	118
		1年			
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	119	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 仲里 清	2学期	1	1	120	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	121	
	1年				
世界での学び方 CAR001F 二宮 正人 他	1学期/2学期	1	2	122	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	123	
	2年				
企業・団体の課題解決 CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	124	
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English I (中1-A) ENG101F 杉山 智子	1学期	1	1	125
		中1-A			
	Communicative English I (中1-B) ENG101F 團迫 雅彦	1学期	1	1	126
	中1-B				
	Communicative English II (中1-A) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	127
	中1-A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English II (中 1-B) ENG111F 杉山 智子	2学期	1	1	128
		中 1 - B			
	Communicative English III (中 1-A) ENG102F デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	129
		中 1 - A			
	Communicative English III (中 1-B) ENG102F ポール・ガラフ・ステイール	1学期	1	1	130
		中 1 - B			
	Communicative English IV (中 1-A) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	131
		中 1 - A			
	Communicative English IV (中 1-B) ENG112F デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	132
		中 1 - B			
	Communicative English V (中 2年) ENG201F 安丸 雅子	1学期	2	1	133
		中 2年			
	Communicative English VI (中 2年) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	134
		中 2年			
	Communicative English VII (中 2年) ENG202F デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	135
		中 2年			
	Communicative English VIII (中 2年) ENG212F 薬師寺 元子	2学期	2	1	136
		中 2年			
	Intermediate English I (中 2 I - A) ENG301F 十時 康	1学期	2	2	137
		中 2 I - A			
Intermediate English I (中 2 I - B) ENG301F 團迫 雅彦	1学期	2	2	138	
	中 2 I - B				
Intermediate English II (中 2 I - A) ENG311F マーニー・セイデイ	2学期	2	2	139	
	中 2 I - A				
Intermediate English II (中 2 I - B) ENG311F ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	2	140	
	中 2 I - B				
Higher English I (2 H-B) ENG302F 休講	1学期	2	2	中国済営比人律政	
Higher English I (2 H-A) ENG302F ダンカン・ウォトリイ	1学期	2	2	141	
	中国済営比人律政				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Higher English II (2 H-B) ENG312F 休講	2学期	2	2	中国済営比人律政	
	Higher English II (2 H-A) ENG312F ダニー・ミン	2学期	2	2		142
■第二外国語	朝鮮語I (1 - a) KRN101F 吳 香善	1学期	1	1	英中比人 1年	143
	朝鮮語I (1 - b) KRN101F 金 貞愛	1学期	1	1	英中比人 1年	144
	朝鮮語I (1 - c) KRN101F 安 潑珠	1学期	1	1	英中比人 1年	145
	朝鮮語I (1 - d) KRN101F 金 光子	1学期	1	1	英中比人 1年	146
	朝鮮語II (1 - a) KRN111F 吳 香善	2学期	1	1	英中比人 1年	147
	朝鮮語II (1 - b) KRN111F 休講	2学期	1	1	英中比人 1年	148
	朝鮮語II (1 - c) KRN111F 安 潑珠	2学期	1	1	英中比人 1年	149
	朝鮮語II (1 - d) KRN111F 金 光子	2学期	1	1	英中比人 1年	150
	朝鮮語III (1 - a) KRN102F 金 惠媛	1学期	1	1	英中比人 1年	151
	朝鮮語III (1 - b) KRN102F 金 貞愛	1学期	1	1	英中比人 1年	152
	朝鮮語III (1 - c) KRN102F 安 潑珠	1学期	1	1	英中比人 1年	153
	朝鮮語III (1 - d) KRN102F 金 光子	1学期	1	1	英中比人 1年	154
	朝鮮語IV (1 - a) KRN112F 金 惠媛	2学期	1	1	英中比人 1年	155

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅳ (1 - b) KRN112F 休講	2学期	1	1	156
		英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅳ (1 - c) KRN112F 安 滯珠	2学期	1	1	157
		英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅳ (1 - d) KRN112F 金 光子	2学期	1	1	158
		英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅴ KRN201F 金 貞愛	1学期	2	1	159
		英中 2年			
	朝鮮語Ⅵ KRN211F 金 光子	2学期	2	1	160
		英中 2年			
	朝鮮語Ⅶ KRN202F 安 滯珠	1学期	2	1	161
		英中 2年			
	朝鮮語Ⅷ KRN212F 安 滯珠	2学期	2	1	162
		英中 2年			
	上級朝鮮語Ⅰ KRN301F 安 滯珠	1学期	3	1	163
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語Ⅱ KRN311F 安 滯珠	2学期	3	1	164
		英中国済営比人 3年			
	ドイツ語Ⅰ GRM101F 山下 哲雄	1学期	1	1	165
		英中国 1年			
ドイツ語Ⅱ GRM111F 山下 哲雄	2学期	1	1	166	
	英中国 1年				
ドイツ語Ⅲ GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	167	
	英中国 1年				
ドイツ語Ⅳ GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	168	
	英中国 1年				
ドイツ語Ⅴ GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	169	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅵ GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	170	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	171
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	172
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	173
		英中国 1年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	174
		英中国 1年			
	フランス語III FRN102F 小野 菜都美	1学期	1	1	175
		英中国 1年			
	フランス語IV FRN112F 小野 菜都美	2学期	1	1	176
		英中国 1年			
	フランス語V FRN201F 小野 菜都美	1学期	2	1	177
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VI FRN211F 小野 菜都美	2学期	2	1	178
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	179
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	180
		英中国済営比人律政 2年			
スペイン語I SPN101F 野村 明衣	1学期	1	1	181	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語II SPN111F 野村 明衣	2学期	1	1	182	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	183	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	184	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	185	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	186
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	187
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	188
		英中国済営比人律政2年			
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	189
		留学生1年			
	日本語II JSL102F 金 元正	1学期	1	1	190
		留学生1年			
	日本語III JSL103F 小林 浩明	1学期	1	1	191
		留学生1年			
	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	192
		留学生1年			
	日本語V JSL112F 小林 浩明	2学期	1	1	193
		留学生1年			
	日本語VI JSL113F 金 元正	2学期	1	1	194
		留学生1年			
	日本語VII JSL104F 則松 智子	1学期	2	1	195
		留学生2年			
	日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	196
		留学生2年			
	日本事情(人文)A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	197
		留学生1年			
	日本事情(人文)B JPS102F 清水 順子	2学期	1	2	198
		留学生1年			
日本事情(社会)A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	199	
	留学生1年				
日本事情(社会)B JPS104F 小林 浩明	2学期	1	2	200	
	留学生1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	研究演習 A SEM311M 鳥谷 まゆみ	1学期	3	2	201
		3年			
	研究演習 A SEM311M 武井 満幹	1学期	3	2	202
		3年			
	研究演習 A SEM311M 平田 直子	1学期	3	2	203
		3年			
	研究演習 A SEM311M 白石 麻保	1学期	3	2	204
		3年			
	研究演習 A SEM311M 橋本 愛	1学期	3	2	205
		3年			
	研究演習 A SEM311M 堀地 明	1学期	3	2	206
		3年			
	研究演習 A SEM311M 山本 進	1学期	3	2	207
		3年			
	研究演習 B SEM312M 鳥谷 まゆみ	2学期	3	2	208
		3年			
	研究演習 B SEM312M 武井 満幹	2学期	3	2	209
	3年				
研究演習 B SEM312M 平田 直子	2学期	3	2	210	
	3年				
研究演習 B SEM312M 白石 麻保	2学期	3	2	211	
	3年				
研究演習 B SEM312M 橋本 愛	2学期	3	2	212	
	3年				
研究演習 B SEM312M 堀地 明	2学期	3	2	213	
	3年				
研究演習 B SEM312M 山本 進	2学期	3	2	214	
	3年				
卒業研究演習 A SEM411M 休講	1学期	4	2		
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	卒業研究演習B	2学期	4	2		
	SEM412M 休講	4年				
■基礎教育科目	中国近現代史I	1学期	1	2	215	
	HIS120M 堀地 明	1年				
	中国近現代史II	2学期	1	2	216	
	HIS121M 堀地 明	1年				
	中国文学概論I	1学期	1	2	217	
	LIT150M 与小田 隆一	1年				
	中国文学概論II	2学期	1	2	218	
	LIT151M 与小田 隆一	1年				
	中国文化論	1学期	1	2	219	
	ARE110M 板谷 秀子	1年				
	■専攻外国語科目	中国語初級総合I	1学期	1	4	220
		CHN100M 平田・李	1 - 1			
中国語初級総合I		1学期	1	4	221	
CHN100M 橋本・李		1 - 2				
中国語初級総合I		1学期	1	4	222	
CHN100M 胡・宋(宥)		1 - 3				
中国語初級総合II		2学期	1	4	223	
CHN110M 平田・李		1 - 1				
中国語初級総合II		2学期	1	4	224	
CHN110M 橋本・李		1 - 2				
中国語初級総合II		2学期	1	4	225	
CHN110M 胡・宋(宥)		1 - 3				
中国語初級会話I		1学期	1	1	226	
CHN120M 葉 言材		1 - 1				
中国語初級会話I	1学期	1	1	227		
CHN120M 葉 言材	1 - 2					
中国語初級会話I	1学期	1	1	228		
CHN120M 葉 言材	1 - 3					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語科目	中国語初級会話II CHN121M 于 佳	2学期	1	1	229
		1 - 1			
	中国語初級会話II CHN121M 王 晨	2学期	1	1	230
		1 - 2			
	中国語初級会話II CHN121M 王 晨	2学期	1	1	231
		1 - 3			
	中国語中級総合I CHN200M 武井 満幹	1学期	2	1	232
		2 - 1			
	中国語中級総合I CHN200M 武井 満幹	1学期	2	1	233
		2 - 2			
	中国語中級総合I CHN200M 武井 満幹	1学期	2	1	234
		2 - 3			
	中国語中級総合II CHN210M 武井 満幹	2学期	2	1	235
		2 - 1			
	中国語中級総合II CHN210M 武井 満幹	2学期	2	1	236
		2 - 2			
	中国語中級総合II CHN210M 武井 満幹	2学期	2	1	237
		2 - 3			
	中国作品講読I LIT251M 鳥谷 まゆみ	1学期	2	2	238
		2 - 1			
中国作品講読I LIT251M 鳥谷 まゆみ	1学期	2	2	239	
	2 - 2				
中国作品講読I LIT251M 鳥谷 まゆみ	1学期	2	2	240	
	2 - 3				
中国作品講読II LIT252M 鳥谷 まゆみ	2学期	2	2	241	
	2 - 1				
中国作品講読II LIT252M 鳥谷 まゆみ	2学期	2	2	242	
	2 - 2				
中国作品講読II LIT252M 鳥谷 まゆみ	2学期	2	2	243	
	2 - 3				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語科目	中国語中級会話A I CHN220M 張 景珊	1学期	2	1	244
		2 - 1			
	中国語中級会話A I CHN220M 張 景珊	1学期	2	1	245
		2 - 2			
	中国語中級会話A I CHN220M 張 景珊	1学期	2	1	246
		2 - 3			
	中国語中級会話A II CHN221M 張 景珊	2学期	2	1	247
		2 - 1			
	中国語中級会話A II CHN221M 張 景珊	2学期	2	1	248
		2 - 2			
	中国語中級会話A II CHN221M 張 景珊	2学期	2	1	249
		2 - 3			
	中国語中級会話B I CHN222M 王 曉芳	1学期	2	1	250
		2 - 1			
	中国語中級会話B I CHN222M 王 曉芳	1学期	2	1	251
		2 - 2			
	中国語中級会話B I CHN222M 王 曉芳	1学期	2	1	252
		2 - 3			
	中国語中級会話B II CHN223M 王 曉芳	2学期	2	1	253
		2 - 1			
中国語中級会話B II CHN223M 王 曉芳	2学期	2	1	254	
	2 - 2				
中国語中級会話B II CHN223M 王 曉芳	2学期	2	1	255	
	2 - 3				
中国語中級作文I CHN224M 陳 振華	1学期	2	2	256	
	2 - 1				
中国語中級作文I CHN224M 陳 振華	1学期	2	2	257	
	2 - 2				
中国語中級作文I CHN224M 陳 振華	1学期	2	2	258	
	2 - 3				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語科目	中国語中級作文II CHN225M 陳 振華	2学期	2	2	259
		2 - 1			
	中国語中級作文II CHN225M 陳 振華	2学期	2	2	260
		2 - 2			
	中国語中級作文II CHN225M 陳 振華	2学期	2	2	261
		2 - 3			
	中国語中級リスニングI CHN226M 馬 叢慧	1学期	2	1	262
		2 - 1			
	中国語中級リスニングI CHN226M 馬 叢慧	1学期	2	1	263
		2 - 2			
	中国語中級リスニングI CHN226M 馬 叢慧	1学期	2	1	264
		2 - 3			
	中国語中級リスニングII CHN227M 馬 叢慧	2学期	2	1	265
		2 - 1			
	中国語中級リスニングII CHN227M 馬 叢慧	2学期	2	1	266
		2 - 2			
	中国語中級リスニングII CHN227M 馬 叢慧	2学期	2	1	267
		2 - 3			
	中国語上級総合I CHN300M 橋本 愛	1学期	3	1	268
		3年			
中国語上級総合I CHN300M 一木 達彦	1学期	3	1	269	
	3年				
中国語上級総合II CHN310M 橋本 愛	2学期	3	1	270	
	3年				
中国語上級総合II CHN310M 一木 達彦	2学期	3	1	271	
	3年				
中国語上級会話A I CHN320M 胡 玉華	1学期	3	1	272	
	3 - A				
中国語上級会話A I CHN320M 胡 玉華	1学期	3	1	273	
	3 - B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語科目	中国語上級会話AⅡ CHN321M 胡 玉華	2学期	3	1	274
		3 - A			
	中国語上級会話AⅡ CHN321M 胡 玉華	2学期	3	1	275
		3 - B			
	中国語上級会話BⅠ CHN322M 王 宇南	1学期	3	1	276
		3 - A			
	中国語上級会話BⅠ CHN322M 王 宇南	1学期	3	1	277
		3 - B			
	中国語上級会話BⅡ CHN323M 王 宇南	2学期	3	1	278
		3 - A			
	中国語上級会話BⅡ CHN323M 王 宇南	2学期	3	1	279
		3 - B			
	中国語上級作文Ⅰ CHN324M 篠原 征子	1学期	3	2	280
		3 - A			
	中国語上級作文Ⅰ CHN324M 篠原 征子	1学期	3	2	281
		3 - B			
	中国語上級作文Ⅱ CHN325M 篠原 征子	2学期	3	2	282
		3 - A			
中国語上級作文Ⅱ CHN325M 篠原 征子	2学期	3	2	283	
	3 - B				
中国語上級リスニングⅠ CHN326M 王 雲燕	1学期	3	1	284	
	3 - A				
中国語上級リスニングⅠ CHN326M 王 雲燕	1学期	3	1	285	
	3 - B				
中国語上級リスニングⅡ CHN327M 王 雲燕	2学期	3	1	286	
	3 - A				
中国語上級リスニングⅡ CHN327M 王 雲燕	2学期	3	1	287	
	3 - B				
■選択科目 ■専門科目	中国語学概論Ⅰ LIN210M 一木 達彦	1学期	2	2	288
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■専門科目	中国語学概論II LIN211M 一木 達彦	2学期	2	2	289
		2年			
	中国語音声学I LIN212M 平田 直子	1学期	2	2	290
		2年			
	中国語音声学II LIN213M 平田 直子	2学期	2	2	291
		2年			
	中国研究概論 ARE111M エステバン コルドバ	1学期	1	2	292
		1年			
	現代中国の政治 ARE211M 下野 寿子	1学期	2	2	293
		2年			
	現代中国の外交 ARE212M 下野 寿子	2学期	2	2	294
		2年			
	中国の社会 ARE210M 植松 慎悟	2学期	2	2	295
		2年			
	日中比較文化論 ARE263M 板谷 秀子	2学期	2	2	296
		2年			
	中国社会経済史I HIS220M 山本 進	1学期	2	2	297
		2年			
	中国社会経済史II HIS221M 山本 進	2学期	2	2	298
		2年			
中国経済論I ECN253M 白石 麻保	1学期	2	2	299	
	2年				
中国経済論II ECN254M 白石 麻保	2学期	2	2	300	
	2年				
漢文学 LIT250M 榑崎 洋一郎	1学期	2	2	301	
	2年				
比較中国思想 ARE310M 鄧 紅	2学期	3	2	302	
	3年				
時事中国語講読I ARE311M 白石 麻保	1学期	3	2	303	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■専門科目	時事中国語講読II ARE312M 白石 麻保	2学期	3	2	304
	3年				
	中国語現代文献講読I ARE313M 堀地 明	1学期	3	2	305
	3年				
	中国語現代文献講読II ARE314M 堀地 明	2学期	3	2	306
	3年				
	中国歴史社会研究I HIS320M 山本 進	1学期	3	2	307
	3年				
中国歴史社会研究II HIS321M 山本 進	2学期	3	2	308	
3年					
ビジネス中国語I CHN330M 唐 雋	1学期	3	2	309	
3年					
ビジネス中国語II CHN331M 唐 雋	2学期	3	2	310	
3年					
東アジア経済論 ECN352M 柳 学洙	2学期	3	2	311	
3年					
■関連科目	東南アジア研究概論 ARE113M 篠崎 香織	2学期	2	2	312
	2年				
	英米文化概論I ARE130M 久木 尚志	1学期	2	2	313
	2年				
	英米文化概論II ARE226M 中野 博文 他	2学期	2	2	314
	2年				
	東アジア地域秩序論I ARE315M 大和 裕美子	1学期	3	2	315
	3年				
東アジア地域秩序論II ARE316M 大和 裕美子	2学期	3	2	316	
3年					
国際経済論 ECN224M 魏 芳	1学期	3	2	317	
3年					
国際経済論特講 ECN225M 魏 芳	2学期	3	2	318	
3年					

外国語学部 中国学科 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	アメリカ経済 ECN332M 山崎 好裕	2学期	3	2	319
		3年			
	東南アジアの社会と歴史 ARE215M 篠崎 香織	1学期	3	2	320
		3年			
	東南アジアの政治と外交 ARE216M 篠崎 香織	2学期	3	2	321
		3年			
■実践科目	特定課題演習 A SEM184M 齊藤 園子	1学期	1	2	322
		1年			
	特定課題演習 B (異文化理解) SEM185M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	特定課題演習 B (ダイバーシティ) SEM185M フィオナ・クリーサー 他	2学期	1	2	323
		1年			
	特定課題演習 C SEM186M 中野 博文 他	集中	1	2	324
		1年			
	特定課題演習 D SEM187M 休講		1	2	
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	325
		1年			
	教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	326
		1年			
	教育心理学 PSY120M 山下 智也	2学期	1	2	327
		1年			
	教育社会学 EDU223M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	328
		2年			
	教育課程論 EDU260M 見玉 弥生	2学期	2	2	329
		2年			
	道徳教育指導論 EDU264M 船原 将太	2学期	2	2	330
		2年			
	特別活動・キャリア教育論 EDU265M 楠 凡之	2学期	2	2	331
		2年			
	教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法 EDU160M 下地 貴樹	2学期	1	2	332
		1年			
	生徒指導論 EDU262M 楠 凡之	2学期	2	2	333
	2年				
教育相談 EDU261M 山下 智也	1学期	2	2	334	
	2年				
教育実習 1 EDU380C 見玉 弥生 他	2学期	3	2	335	
	3年				
教育実習 2 EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2		
	4年				
教育実習 3 EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2		
	4年				
教職実践演習 (中・高) EDU490C 楠 凡之 他	2学期	4	2		
	4年				
特別支援教育論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	2	336	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■選択科目	発達心理学 PSY220M 税田 慶昭	1学期	2	2	337
		2年			
	障害児の心理と指導 PSY221M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	人権教育論 EDU222M 河嶋 静代	1学期	2	2	338
		2年			
	生涯学習学 EDU220M 休講	1学期	2	2	
		2年			
■教科及び教科の指導法に関する科目	中国語科教育法A EDU254C 休講	1学期	3	2	
		3年			
	中国語科教育法B EDU255C 休講	2学期	3	2	
		3年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	339
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	340
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	341
		1年			
	生命科学入門 BIO200F 休講	2学期	1	2	
		1年			
■世界(地球)科目	国際学入門 IRL110F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	安全保障論 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	342
		1年			
	現代の国際情勢 IRL003F 北 美幸 他	1学期	1	2	343
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2	
		1年			
グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2		
	1年				

外国語学部 中国学科 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■世界(地球)科目	近代史入門 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	344
		1年			
	現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	345
		2年			
	可能性としての歴史 HIS200F 休講	2学期	2	2	
		2年			
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 中尾 泰士	2学期	1	2	346
		1学期未修得者再履			
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	347
		1年			
■知の創造科目	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	348
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	349
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	350
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	社会哲学入門 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	351
		1年			
	文化を読む LIT001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	倫理思想史 PHR005F 休講	2学期	1	2	
	1年				
戦争論 PLS210F 休講	2学期	2	2		
	2年				
■共生と協働科目	異文化理解の基礎 ANT110F 閉講	1学期	1	2	
		1年			

外国語学部 中国学科 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	人権論 SOC004F 休講	1学期	1	2	352
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 閉講	1学期	1	2	353
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	354
		1年			
	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	355
	1年				
障がい学 SOW001F 閉講	1学期	1	2	356	
	1年				
共生社会論 SOW200F 閉講	2学期	2	2	357	
	2年				
■ライフ・デザイン科目	メンタル・ヘルス PSY001F 中島 俊介	2学期	1	2	354
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 山本 浩二	1学期	1	2	355
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 山本 浩二	2学期	1	1	356	
	1年				
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	国際経済論 ECN224M 休講	1学期	3	2	358
		3年			
	国際経済論特講 ECN225M 休講	2学期	3	2	359
		3年			
アメリカ経済 ECN332M 閉講		3	2	360	
	3年				

教職論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類-1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提として進めます。

教職論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的な事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

教育課程論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。

本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題②(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④(グループ討論)
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%
コメントシート：20%
小テスト：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動・キャリア教育論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本講義の主な内容は以下のとおりである。

1. 文科省の中学校及び高等学校の学習指導要領・特別活動の目標と内容について
2. 学級活動や学校行事、生徒会活動を通じた「人間関係形成」「社会参加」「自己実現」の課題と方法
3. 特別活動の取り組みを進めていくための教職員の共同や家庭・地域との連携の課題と方法
4. 学校における進路指導、キャリア教育の位置づけと学校教育全体を通じたキャリア教育の課題
5. 職場体験学習などの体験活動を通じたキャリア教育の意義と進め方
6. キャリアカウンセリングの基本的な課題と方法について

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 文科省の学習指導要領「特別活動」の課題と方法についての基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文科省 中学校学習指導要領解説「特別活動編」 東山書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き

○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店

○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 特別活動の目標と内容
- 2回 教育課程の中での特別活動の位置づけと各教科との関連
- 3回 学級活動の目標と内容
- 4回 学級活動の実際 その1 中学校の取り組み
- 5回 学級活動の実際 その2 高等学校の取り組み
- 6回 学級活動における対立解決プログラムの取り組み
- 7回 学校行事の目標と内容
- 8回 学校行事の実際
- 9回 生徒会活動の目標と内容
- 10回 生徒会活動の実際
- 11回 キャリア教育の課題について
- 12回 今日の若者の就労問題とキャリア教育の課題
- 13回 北九州キャリア教育研究会 夢授業の取り組み(講師 北九州キャリア教育研究会 木原大助さん)
- 14回 キャリアカウンセリングの課題と方法(ポートフォリオの活用を含む)
- 15回 中学校におけるキャリア教育の取り組み

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30点

キャリア教育に関する学習指導案 20点

期末試験 50点

本授業は原則としてすべての授業回に出席して、課題を提出してもらうことが原則です。介護等体験などで欠席した場合には、その回のレジュメを読んで課題を提出してください。その感想文の提出をもって出席扱いとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では多くのグループワークと意見発表の機会を設け、教師としての実践的な指導力の育成を目指します。

大変かと思いますが、よろしくお願いします。

特別活動・キャリア教育論【昼】

履修上の注意 /Remarks

遅刻に対しては厳しく対応するので、十分に注意すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の目標、学級活動、生徒会活動、学校行事、キャリア教育

教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法【昼】

教育の基礎的理解に関する科目等
必修科目

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。また学校ごとに特色ある「総合的な学習の時間」について、その内容の取り扱いや目標のあり方を理解し、各教科との関連を踏まえて捉えるようにする。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

到達目標

【知識】 これからの子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基本的知識を身につけている

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 改訂版 (2019 有斐閣アルマ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)
高等学校学習指導要領 (平成30年告示 文部科学省)
他にも授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：西洋における教育思想と教育方法の歴史
 - 第3回：日本における教育改革と教育方法の歴史
 - 第4回：現代教育方法学の論点と課題
 - 第5回：子どもは何を学ぶのか・学習とは何か
 - 第6回：「学力」について考える・学力とは何か
 - 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
 - 第8回：教育の道具・素材・環境を考える
 - 第9回：何をどう評価するのか・評価と評定・基準と規準
 - 第10回：教科外活動を構想する
 - 第11回：授業研究・授業をいかに捉えるか
 - 第12回：総合的な学習の意義と課題
 - 第13回：総合的な学習の指導計画と取り扱い
 - 第14回：教師の専門性・専門職性
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (グループワークや質疑などへの参加) (30%)
発表・レジュメ作成 (20%)
定期試験・課題レポート (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料 (レジュメ) を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義の3分の2以上の出席が試験受験の前提となる。
欠席の際は、連絡を入れるようにしましょう。

教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法【昼】

教育の基礎的理解に関する科目等
必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合的な学習の時間は、各学校や地域ごとに特色ある活動を行っています。どのような実態があるかを考えるためには、他者との交流や対話的な学びが不可欠です。

能動的・積極的な姿勢を身に着けていきましょう。

キーワード /Keywords

生徒指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害、セクシュアルマイノリティ等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 生徒理解と生徒指導に対する基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待・いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト

参考書・参考資料等

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 生徒指導の意義と目的 - 子どもたちの自己存在感を育むために
- 2回 生徒指導における個別指導と集団指導、積極的生徒指導と生活指導
- 3回 教育相談と生徒指導、不登校問題と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その1 - 教科教育と生徒指導
- 5回 教育課程と生徒指導 その2 - 総合的な学習の時間、道徳教育と生徒指導
- 6回 教育課程と生徒指導 その3 - 学級づくりを通じた生徒指導
- 7回 生徒指導に関する法制度等(第7章他)
- 8回 生徒指導における規範意識の醸成をめぐる諸問題(ゼロトレランスの問題も含めて)
- 9回 生徒指導における体罰問題を考える - 家父長制的学校観を乗り越えるために
- 10回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 11回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールカウンセラーとの連携
- 12回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールソーシャルワーカーその他との連携
- 13回 青少年の自殺予防の取り組み
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 学校での支援
- 15回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 関係諸機関との連携

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート20点、試験80点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」のテキストはしっかり読み込んで内容を修得しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

全学の教職課程履修学生の必修科目ではありますが、人間関係学科の学生で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの仕事に関心がある学生にも対応した内容になっているので、積極的に履修してください。

生徒指導論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活指導、生徒指導の3機能、積極的生徒指導と消極的生徒指導、児童虐待問題

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
最終試験 60%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

教育相談【昼】

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

特別支援教育論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや外国にルーツを持つ子ども、セクシュアルマイノリティの子どもなど、多様な「特別なニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

到達目標 特別なニーズを持つ子ども、特別支援教育に関する基礎的な知見を修得している。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文科省特別支援学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

1. オリエンテーション + 昨年度のテキスト感想レポートの紹介
2. 特別支援教育の教育制度と教育課程
3. 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
4. 自閉スペクトラム症の当事者研究
5. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その1 日本語学習支援の取り組み
6. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その2 学力問題とアイデンティティ問題に視点をあてて
7. セクシュアルマイノリティの子ども・青年の抱える生きづらさについて
8. 性の多様性が尊重される学級づくりの課題
9. 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援 (外部講師)
10. 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
11. 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
12. 被虐待児に対する理解と指導 - 不安定な愛着の問題に視点をあてて
13. インクルーシブ教育と集団づくり その1 小学校
14. インクルーシブ教育と集団づくり その2 中学校
15. インクルーシブ教育と集団づくり その3 高等学校
全体のまとめ

注 この中の第9回目から第11回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月の月上旬に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート 25点、平常点 25点(+ ボーナス点)、期末試験 50点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。
 介護等体験に行く学生は、9回目から11回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。
 ただし、9回目から11回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。
 そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。

特別支援教育論【昼】

キーワード /Keywords

特別支援教育、特別なニーズ、自閉スペクトラム症、セクシュアルマイノリティ、外国にルーツを持つ子ども

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達における障害とその支援に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 知覚障害の理解と支援
- 第8回 まとめ・レポート課題1
- 第9回 姿勢・運動の障害について
- 第10回 知的障害について
- 第11回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第12回 発達障害について①【自閉スペクトラム症】
- 第13回 発達障害について②【注意欠如多動症・限局性学習症】
- 第14回 家族支援・地域支援について
- 第15回 まとめ・レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポート含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

生涯学習に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 生涯学習・社会教育の意義
- 第2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第3回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第4回 成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第5回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第6回 社会教育の歴史と発展-生涯学習関連施策の動向
- 第7回 社会教育行政と事業 -学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第8回 社会教育施設 -地域公民館
- 第9回 公民館の実践 -社会教育と地域づくり
- 第10回 社会教育指導者と事業の連携・発展
- 第11回 社会教育施設-博物館
- 第12回 社会教育施設と生涯学習施設
- 第13回 社会教育施設-図書館
- 第14回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第15回 住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

生涯学習学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、講義、議論、ピアレビュー、模擬授業などを通して、中国語発音学習における実践的指導力を身に付けさせることが目的である。外国語学習の動機付けは学習者の学習意欲の持続に大きく影響する。また、入門期における発音指導の良し悪しは学習者の語学の習得を左右する。そのため、本講義では、まず外国語としての中国語学習の基本的内容及び要領を確認し、中国語学習者のモチベーションについて議論する。次に、発音学習における日本人学習者の学習難点を焦点に、効果的な発音指導法について考える。最後に、発音学習におけるICT手段の導入、音読指導、シャドウイングなど新しい指導方法を体験する。
なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領 第8節 外国語』（平成30年）
- ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：外国語編・英語編』（平成30年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 奥水優『中国語の教え方・学び方 - 中国語科教育法概説』（富山房インターナショナル、2005）
- ・ 胡玉華『中国語教育とコミュニケーション能力の育成 - 「わかる」中国語から「できる」中国語へ』（東方書店、2009）
- ・ TJF『外国語学習のめやす2012—高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（株式会社ココ出版、2012）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国の言語・文化・社会について
- 3回 学習指導要領について
- 4回 中国語学習の動機付け(1) - 理論
- 5回 中国語学習の動機付け(2) - 実践
- 6回 ピンインに関する概説
- 7回 声調に関する問題点とその指導
- 8回 基本母音、複母音に関する問題点とその指導
- 9回 子音に関する問題点とその指導
- 10回 学習指導案について
- 11回 ピンヒンの指導方法及び実践
- 12回 情報機器 (ICT) による発音指導及び実践
- 13回 音読の効用とその指導
- 14回 シャドウイングの効用とその指導
- 15回 まとめ：レポート作成指導

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（小テストを含む）...50%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と授業内容の復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

中国語初級レベルの知識を習得していることを前提としている。1年次に使用した中国語のテキストを教える立場から再読してください。。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動機づけ、発音学習の指導

中国語科教育法 B 【昼】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、講義、議論、ピアレビュー、模擬授業などを通して、文法学習やコミュニケーション能力の育成における実践的指導力を身に付けさせることが目的である。

具体的に、本授業では、まず、日本人学習者の学習難点とされる文法項目について、その本質を確認した上、従来の教授法を吟味しながら、効果的な教え方を考える。次に、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を向上させるための教授法を体験する。最後に、真のコミュニケーション能力を高めるためにどのような教室活動を行うかについて、模擬授業も交えながら議論する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領 第8節 外国語』（平成30年）
- ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：外国語編・英語編』（平成30年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 輿水優『中国語の教え方・学び方 - 中国語科教育法概説』（富山房インターナショナル、2005）
- ・ 胡玉華『中国語教育とコミュニケーション能力の育成 - 「わかる」中国語から「できる」中国語へ』（東方書店、2009）
- ・ TJF『外国語学習のめやす2012—高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（株式会社ココ出版、2012）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（中国語の基本文型復習）
- 2回 初級教育で扱う語彙と文法事項の選定
- 3回 文法指導法（1）- 能願動詞を中心に
- 4回 文法指導法（2）- “了”を中心に
- 5回 文法指導法（3）- “有”を中心に
- 6回 文法指導法（4）- “把”構文を中心に
- 7回 模擬授業（文法指導法の実践）
- 8回 4技能の指導及び評価（1）：リスニング
- 9回 4技能の指導及び評価（1）：スピーキング
- 10回 4技能の指導及び評価（1）：リーディング
- 11回 4技能の指導及び評価（1）：ライティング
- 12回 コミュニケーション能力の指導模擬授業
- 13回 コミュニケーション能力の評価
- 14回 模擬授業（コミュニケーション・アプローチの実践）
- 15回 年間授業計画表及び教案の作成について

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（小テストを含む）...50%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

中国語初級レベルの知識を習得していることを前提としている。1年次の中国語の授業で使用したテキストを教える立場から再読してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文法学習の指導、4技能の指導、コミュニケーション能力の育成

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記することでも、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。

この授業では、日本史に関する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジユメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —過去・史料・歴史家—
- 第3回：ヒトはどこから来たのか？ —人類の拡散と日本列島—
- 第4回 狩猟採集社会と農耕社会 —気候変動と縄文・弥生人—
- 第5回：前方後円墳とヤマト王権 —初期国家の成立—
- 第6回 日本の古代国家 —東アジアの律令国家—
- 第7回：日本の中世社会 —分権化する国家と社会—
- 第8回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第9回：世界史のなかの「近世」 —東アジアにおける伝統社会の形成—
- 第10回：歴史人口学の世界
- 第11回：結婚と離婚 —歴史のなかの男と女—
- 第12回：貨幣からみる近世社会
- 第13回：日本の「近代」
- 第14回：「日本人」と戦争
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%、小レポートなどを含む)、期末試験 (50%) によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、秦の始皇帝による中国統一から、三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦の始皇帝
 - 4回 前漢の高祖
 - 5回 前漢の武帝
 - 6回 前漢の昭帝
 - 7回 前漢の宣帝
 - 8回 前漢の元帝
 - 9回 前漢の成帝
 - 10回 新の王莽
 - 11回 後漢の光武帝
 - 12回 後漢時代と『三国志』の幕開け
 - 13回 魏の曹操
 - 14回 蜀の劉備と呉の孫権
 - 15回 まとめ
- 期末試験(場合によってはレポートなどの課題提出に変更する)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)

予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておく、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
 人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
 講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
 具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の歴史
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地域概念と重力モデル、時間地理学、空間認識
- 第3回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第4回 社会・文化と地域(2) 食文化と地域
- 第5回 社会・文化と地域(3) 町並み保存
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
- 第11回 都市構造と都市システム(4) 都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
- 第12回 産業立地と集積(1) チェーンストアの配送と立地
- 第13回 産業立地と集積(2) 産業集積、企業城下町
- 第14回 産業立地と集積(3) コンテンツ産業の集積
- 第15回 産業立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

オンライン開講の場合、成績評価等が一部変更になることがあります。
 授業中の説明に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を知るための地図が必要で、地図は「地理学の言語」と言われるくらい重要です。この科目では、地図を通じて基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の基礎的研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。この科目では、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年 4,800円
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年 3048円

高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1) : ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2) : ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ヘネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容 : 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容 : 山口県防府市、県庁所在地の変容 : 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容 : 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容 : 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容 : 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容 : 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

オンライン開講の場合、成績評価等が一部変更になることがあります。授業中の説明に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
適宜、レジュメ・資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒村圭吾編『プレステップ憲法 第2版』(弘文堂、2018年)
- 斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』(弘文堂、2018年)
- 芦部信喜『憲法 第7版』(岩波書店、2019年)
- 渋谷秀樹『憲法への招待 新版』(岩波書店、2014年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定?
- 第9回 統治のしくみ①-全体像・内閣
- 第10回 統治のしくみ②-国会
- 第11回 統治のしくみ③-内閣と国会の関係・裁判所
- 第12回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第13回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸問題
- 第14回 法の下での平等①-合理的な区別と不合理な差別
- 第15回 法の下での平等②-具体的事例

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記参考書をはじめ、授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

教育とコンピューター 【昼】

担当者名
 /Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 教職2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業の概要 /Course Description

文部科学省は「GIGAスクールネットワーク構想」を掲げ、2022年度までに一人一台の学習用コンピューター、全学校での高速・大容量・機密性の高いネットワークの実現を目指している。学校におけるICT環境が整備される中、教師は、情報教育・教科指導における情報通信技術の活用・校務の情報化を3本柱とする「教育の情報化」に適応した能力が求められる。

本授業では、「教育の情報化」に適応するための基礎的スキルの習得を目指す。具体的には、以下の基礎的スキルを習得することが目標である。

- ・ 「教育の情報化」の重要性について説明することができる。
- ・ 文書作成ソフトを用いて、教材や書類を作成することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、教材作成や校務処理を行うことができる。
- ・ プレゼンテーションソフトを用いて、教材を作成することができる。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』，FOM出版，2,000円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：教育の情報化とは何か【オリエンテーション】
- 2回目：教育の情報化の現状と重要性
- 3回目：文書作成レッスン(1)【レポートの作成】【図や表の挿入】
- 4回目：文書作成レッスン(2)【表現カアツ】【長文レポートの編集】
- 5回目：文書作成演習
- 6回目：表計算レッスン(1)【データの入力】【表の作成】
- 7回目：表計算レッスン(2)【表の編集】【表の印刷】【グラフ作成】
- 8回目：表計算レッスン(3)【データベースの操作】【複数シートの操作】
- 9回目：表計算レッスン(4)【高度な関数】
- 10回目：表計算レッスン(5)【条件付き書式設定】【高度なグラフ作成】【ピボットテーブル】
- 11回目：表計算演習
- 12回目：プレゼンテーションレッスン(1)【プレゼンテーションの作成】【オブジェクトの挿入】【構成の変更】
- 13回目：プレゼンテーションレッスン(2)【動きの設定】【印刷】【別アプリのデータの利用】【スライド共通のデザイン設定】
- 14回目：プレゼンテーション演習
- 15回目：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

教育の情報化に関するレポート・・・10%，文書作成課題・・・20%，表計算課題・・・50%，プレゼンテーション課題・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書の内容をよく読み、事前に練習をしておくこと。
 事後学習として、パソコン自習室や自宅のパソコンなどを用いて、授業で習った内容に沿って操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピューターの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。「コンピューターリテラシー」を受講しておくこと、受講しやすい。
 この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

教育の情報化、文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト

地域特講B (Innovation and Regional Development) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
地域科目

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL201F	◎		○		○
科目名	地域特講B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

1. My concept is to help people learn about the goals of local and regional development and revitalization and give learners the skills, inspiration and knowledge to realize ideas, ideals and visions in Kitakyushu City and the Chikuho region.
1.私のコンセプトは、北九州と筑豊でアイデアやビジョンを実現するためのスキル、インスピレーション、知識を学習者に与えることです。目標は、生徒が自分の夢と野心を地域の発展と活性化にどのように相乗させるかの見つけ方を手助けすることです。

2. Students will learn about Kitakyushu and Chikuho, including its history, culture and its unique characteristics. They will understand the challenges and opportunities that are present now and in the future.
2.学生は、北九州と筑豊の歴史、文化、地域の特徴を学びます。彼らは、現在そして未来に存在するであろう課題と機会を理解します。

3. Learners will learn about regional development policy and revitalization - both globally and locally. Case studies in Japan and in other cities and regions across the world will be examined. 学生は、世界と近隣地域の両方で、一般に農村および地域の開発と活性化について学びます。世界の他の都市や地域の事例研究と検討します。

4. They will be encouraged to develop, debate and discuss their own ideas about products, services and local infrastructure as they gain knowledge of current legal, political and social conditions and policy. 彼らは、開発者が遭遇する現在の法的、政治的、社会的背景を探るケーススタディと参考資料を通じて必要なことを学びながら、製品、サービス、インフラストラクチャに関する独自のアイデアを開発する動機を得るでしょう。

5. Learners will learn the importance of understanding legal issues such as sustainable environmental practices, liability management and intellectual property law, and how to leverage government efforts to encourage regional development.
5.学習者は、持続可能な環境慣行、法的責任管理や知的財産法などの法的問題を理解することの重要性と、地域開発を奨励する政府の取り組みを活用する方法を学びます。

6. They will learn about building connections between local governments, local businesses, research institutions and communities.
6.また、起業家精神や地方自治体、地方の商業および研究機関、コミュニティのメンバーなどの利害関係者との相乗効果をどのように実現できるかについても学びます。

Due to the global pandemic the following instructions have been issued.
1) The first two classes will be held 'ON DEMAND' or remotely.
2) Later classes will be held in the CALL classroom.
3) Please bring your own personal headset/earphones

教科書 /Textbooks

No text book.
The teacher will provide materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The teacher will give you guidance about materials available in the library and online.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class Contents

Class 1 Introduction : What is this course about? Start of our imagining a future journal.

Class 2 What are the goals of regional development? Regional development across the world: Case Studies: Glasgow (UK), Pittsburg (USA)

Class 3 Regional Development and Revitalization in Japan: A historical overview of Kitakyushu and Chikuho. Challenges and Opportunities

Class 4 Opening the Debate. Populate and Perish vs Smaller and Smarter

Class 5 Finding out 1 - Environmental and Commercial Sustainability

Class 6 Reaching Out 1 - Assessing Community Attitudes and Expectations

Class 7 Finding Out 2 - Getting Technical Advice.

Class 8 Reaching Out 2 - Approaching Local Businesses.

Class 9 Finding out 3 - Legal issues, liabilities, responsibilities, intellectual property

Class 10 Reaching Out 3 - Local Government, National and Local incentives. Special Zones. Guest lecture from a local government representative.

Class 11 Communication 1 - the media, social media and community surveying

Class 12 Communication 2- establishing partnerships with local business.

Class 13 Building a business. Guest lecture from successful entrepreneur from Australia

Class 14 Adapting to change and learning from perceived failure.

Class 15 Exhibition: Visions of Kitakyushu and the Chikuho Region

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) Reports 20%
- 2) Unit quizzes 30%
- 3) Project 30%
- 4) Class Participation 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please check Moodle each week for information about tasks, homework, projects and news on the class forum.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you and learning about, 'Innovation and Regional Development' together.

キーワード /Keywords

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE002F	◎		○		○
科目名	都市と地域		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて議論する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの側面から分析する枠組みや手法を紹介する。「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個人としての定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例 (L Qによる分析)
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市の構造
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ (合計) ... 30% 授業内貢献... 10% 最終クイズ (2回合計) ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨むこと。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を吟味することを心がける。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨むこと。

都市と地域【昼】

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、複数の (Moodleによる) クイズへの回答、および2回の最終クイズへの回答が必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を重要視する
また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数 (授業貢献を含む) が0点になる。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域の社会と経済【昼】

担当者名 李 錦東 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN170F	◎		○		○
科目名	地域の社会と経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自ら考えることを目指している。

本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストとしてお招きし、北九州・下関地域出身者はもとより地域外出身にとっても、学生生活を過ごす地域への理解深化や自身のキャリア形成等にとって学びとなるお話をさせていただく。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の社会と経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の社会と経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域の社会と経済に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：北九州の産業・社会
- 第3回：北九州市政と市民
- 第4回：人口でみる北九州地域の概況
- 第5回：下関地域の概況と北九州との関係
- 第6回：人口でみる北九州地域の産業構造・経済
- 第7回：データでみる北九州地域の社会・生活
- 第8回：地域の企業① 【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の企業② 【地元企業関係者等による説明】
- 第10回：地域の企業③ 【地元企業関係者等による説明】
- 第11回：地域の起業環境 【NPO等の専門家による説明】
- 第12回：地域社会とのつながり 【関連活動に参加している団体との座談会】
- 第13回：地域社会を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第14回：地域を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第15回：まとめ・住みたいまちのために

※講義のテーマ、順番等については一部変更となる場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

各回ごとのショートレポート(14回)：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われている。日ごろから新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って事前・事後に情報収集に努めること。

また、授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

地域の社会と経済【昼】

履修上の注意 /Remarks

ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんがこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増やして有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。また、地域の現状と事情に密着した人材として、創造性の持つ人材として、地域での活躍ができる一歩であるとも考えています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化
SDGs8 . 働きがい・経済成長、SDGs11 . まちづくり

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS170F	◎		○		○
科目名	地域の文化と歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする回を中心とする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の文化と歴史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の文化と歴史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域の文化と歴史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》古代の地域
- 第 4 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 5 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 6 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 7 回： 《歴史》昭和期の地域
- 第 8 回： 《文化》北九州市の文化芸術政策の概要
- 第 9 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 10 回： 《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
- 第 11 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 12 回： 《文化》地域の文化財
- 第 13 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇
- 第 14 回： 《文化》地域の文学
- 第 15 回： 《文化》文芸活動等による地域への政策効果

※この授業における「地域」とは、基本的に「北九州・下関地域」を指す。

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：2020年度のゲストの所属組織の例（2021年度も概ね同様の予定だが、一部変更となる可能性がある）

《北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市文化企画課、下関市立歴史博物館、下関市教育委員会文化財保護課 など》

地域の文化と歴史【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(各回で課す提出課題): 100%
※課題はMoodleで提出することを基本とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前: 各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
事後: 各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域(関門地域)、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE270F	◎		○		○
科目名	地域のにぎわいづくり				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、自らの考えをまとめたり対応方策を考えたりすること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

2021年度授業においては、主にスポーツ・文化芸術関連のイベントや取り組み、観光振興政策、市民主体のにぎわいづくりに着目し、にぎわいづくりの実務に関わっておられるゲストの講話等を通じて、にぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学んでいく。本授業は、行政および地域の各種団体等の協力のもとで実施する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力身につけている。

【自立的行動力】地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性① 【総論】
- 第 3回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性② 【事例研究】
- 第 4回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性③ 【スタジアム・アリーナ整備】
- 第 5回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり
- 第 6回 《スポーツ》国際スポーツ大会の開催効果
- 第 7回 《文化芸術》文化芸術とにぎわいづくりの関係性
- 第 8回 《文化芸術》東アジア文化都市について
- 第 9回 《文化芸術》文化財を活かしたにぎわいづくり
- 第 10回 《文化芸術》MICE、大型イベントによるにぎわいづくり
- 第 11回 《観光等》観光振興によるにぎわいづくり
- 第 12回 《観光等》港湾をいかしたにぎわいづくり
- 第 13回 《市民主体》食を活かしたにぎわいづくり
- 第 14回 《市民主体》企業の視点からみたにぎわいづくり
- 第 15回 まとめ

※ゲスト(にぎわいづくりの実務家)の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：2020年度のゲストの所属組織の例(2021年度も概ね同様の予定だが、変更・追加の可能性もある)

《北九州市役所(観光課、MICE推進課、クルーズ・交流課、東アジア文化都市推進室)、下関市教育委員会、特定非営利活動法人門司赤煉瓦倶楽部、株式会社ギラヴァンツ北九州》

地域のにぎわいづくり【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す提出課題）： 100%
※課題はMoodleで提出することを基本とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し現実に即した視点や取り組み事例等を学ぶことで、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識を得ることができる授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域活性化の視点からにぎわいづくりの重要性について論じるとともに、北九州市役所や地域団体等ににぎわいづくり関連事業に取り組んでおられる実務家をゲストとしてお招きし、学生の地域への関心の醸成や理解の深化等を図る。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、 SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

地域と国際【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE003F	◎		○		○
科目名	地域と国際				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業は、人口の減少や市場の成熟により国内市場の成長が期待できない中、新たな市場を求めて海外展開を進めています。また労働力人口が減少し、さらに高齢者が増加する中、外国人労働者の受入れを余儀なくされています。さらに外国人観光客も年々増加するものと思われます。こういった状況にあつて、北九州地域の企業や公的機関（市役所など）がどのように取り組んでいるのか、本授業では原則毎回、企業や公的機関から海外事業に携わっている担当者を招聘して、国際化の実状についてお話ししていただき、みなさん方と意見交換を行います。

(到達目標)

【知識】国際化の実情と地域の取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】国際化の実情と地域の取り組みの諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】国際化の実情と地域の取り組みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜、書籍や資料を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、書籍や資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 公的機関の国際化の現状 (例、北九州市の国際交流・多文化共生)
 - 第3回 公的機関の国際化の現状 (例、北九州市の国際環境保全)
 - 第4回 公的機関の国際化の現状 (例、北九州市の水ビジネス)
 - 第5回 公的機関の国際化の現状 (例、国の国際貢献活動)
 - 第6回 公的機関の国際化の現状 (例、国の企業の海外展開支援)
 - 第7回 企業の海外事業の現状 (例、製造業)
 - 第8回 企業の海外事業の現状 (例、サービス業)
 - 第9回 企業の海外事業の現状 (例、金融業)
 - 第10回 企業の海外事業の現状 (例、建設業)
 - 第11回 本学における取組み事例① (例、カンボジア：人材育成)
 - 第12回 本学における取組み事例② (例、ベトナム：中小企業振興)
 - 第13回 国際化が進展する中で、いかに生きるか①
 - 第14回 国際化が進展する中で、いかに生きるか②
 - 第15回 まとめ
- ※講師 (ゲストスピーカー) の都合により、授業の内容や順番に変更があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート：100% (原則毎回レポートを提出、期末テストは行いません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞や雑誌、インターネットなどを通じて、国際情勢にかかわる情報の収集に努めて下さい。
北九州地域の企業や公的機関の国際化の実状を理解し説明ができるようにして下さい。さらにこれらの実状に対して、独自の考えを述べることもできるようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

積極的に質問したり、意見を述べたりして下さい。
授業を受け身で捉えるのではなく、授業をつうじて、学生生活の過ごし方や、将来のあるべき姿・生き方を考えて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

海外にかかわっている企業や公的機関の方が、その取組み内容を"熱く"語ります。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○

科目名	地域防災への招待	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
 地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
 ささまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標
 地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
 地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
 京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
 金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
 片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 人が死なない防災（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 活発な授業参加 20%
レポートおよび小テスト 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習しておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

北九州市派遣講師の回は、教室での対面講義を予定しているため、受講人数制限あり。
講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
本年度は、新型コロナウイルス対策のため、会場での合同ワークショップは実施しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業
SDGsで関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

北九州市の都市政策【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC270F	◎		○		○
科目名	北九州市の都市政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

(到達目標)

【知識】北九州市の都市政策全般を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州市の都市政策の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】都市政策に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第3回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第4回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第5回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第6回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第7回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第8回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第9回 北九州市の産業・雇用政策【新成長戦略、企業誘致】
- 第10回 北九州市の保健福祉政策【子育て支援、高齢者支援】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州エコタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% 毎回の授業レポート・・・30% 期末レポート・・・50%

北九州市の都市政策 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。(必要な学習時間の目安は60分)
授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は60分)

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。出席せずにレポートだけ提出しても評価できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR270F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」（3年次）の準備講座としての役割も果たしています。

（到達目標）

【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター（2019）「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀（2016）「サステナブル・カンパニー入門：ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか（2016）「まちづくりの仕事ガイドブック：まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部（2011）「いま、都市をつくる仕事：未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮（2015）「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか（2014）「ハードワーク！グッドライフ！新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとぴあホームページ（<https://manabitopia.jp/>）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論（グループワーク）、レポート記述
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 各回の講義で出題されるレポート（全14回）・・・90%
- 質疑応答、議論・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、こういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域（社会）貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

まなびと企業研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR370F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的> 北九州市や下関市および周辺の企業団体と連携しながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることが目的です。

2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。これは同時に今までの「就活」が終焉し、それに対応していた従来の「キャリア教育」もゼロリセットされたと考えていいでしょう。従来の就職支援は、3年生は業界研究を皮切りに、夏のインターンシップ、秋からの就職ガイダンス、自己分析、企業研究、エントリーシートや面接対策、そして3年生3月の合説解禁からの選考といった流れでした。しかし、自由化になった以上、いつ、何をするかは、大学や企業団体に決められたルールに乗る必要はもうありません。リクルートキャリア「就職白書2019」によると、「プレエントリー受付」以外は2018年卒を下回る一方で、2018年度のインターンシップ実施率は95.9%となり、2017年度よりも11.3ポイント増加しています。つまり、夏から始まるインターンシップ経由での採用が増えたことを意味しています。また「キャリアタス就活2020 学生モニター調査」（3月1日）によると、エントリーシート提出者は52.0%で、筆記試験受験者は54.6%、面接試験受験者は46.4%と、いずれも前年同期から10ポイント以上増えています。さらに「キャリアタス就活2020 学生モニター調査」（4月1日）によると、2020年春卒業予定の大学生・大学院生の4月1日時点の内定率（内々定を含む）が26.4%と発表。3月1日時点（13.9%）に比べて12.5ポイント、昨年度同時期（18.8%）に比べ7.6ポイント上回りました。これは学生優位の売り手市場が鮮明となるなか、企業の採用活動の前倒しがさらに進んだことを意味します。

以上のように、従来の就職活動より早まっている中、少なくとも5月から始まるインターンシップ募集までに、今、何をすべきでしょうか。それは、本学が持つ北九州や下関地域の企業団体のネットワークを活用し、自らのキャリアの方向性を明確に掴むことです。

本授業では、履修者一人一人のキャリア支援のために作られました。様々なキャリア形成の理論を用いて「自分を知る」、そして本学のネットワークを駆使して「相手（企業団体）を知る」、さらに夏のインターンシップに向けてどうすればいいのか「キャリアプランを創る」ことを目標とします。

<進め方> 形式は問題基盤型学習（Problem-based-Learning）です。

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。

【最終課題】北九州市や下関市などの企業団体の一つを選び、取材し、取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。

<目標> 自分を知る（自己分析）、相手を知る（企業団体研究）、就職活動のプランを創る。

（到達目標）【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。【自立的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

まなびと企業研究II【昼】

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時の参考にしてください。
- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』筑摩書房
- 本田由紀『教育の職業的意義-若者、学校、社会をつなぐ』筑摩書房
- スプツニ子!『はみだすカ』宝島社
- J.D.クランボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 大嶋祥誉『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力: その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン: 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- 宇田川元一『他者と働く 「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 マインドセット
- 4回 計画された偶発性
- 5回 企業団体研究事例①DX
- 6回 インターンシップ対策(経験学習)
- 7回 グリット(やり抜く力)
- 8回 企業団体研究事例②グリット
- 9回 問いを立てる力
- 10回 デザイン思考
- 11回 企業団体研究事例③VUCA
- 12回 GD対策(アイデアの作り方)
- 13回 自己分析(アイデンティティ資本)
- 14回 面接対策(インプロビゼーション)
- 15回 企業団体研究成果発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業のプレゼンテーション...75% 最終プレゼンテーション...20% 最終レポート...5%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。

【最終課題】フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、就職活動や進学など将来のキャリアについての悩みを払拭し、見通しを立て、自信をもって就職活動などに挑めるように支援します。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

※人事経験を持ち、北九州市や下関市および近郊の企業団体に人脈を持つ教員が、それらの企業団体への訪問を軸とした問題基盤型学習をコーディネート

キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

実務経験のある教員による授業

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL202F	◎		○		○
科目名	環境特講B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上になり立っているのではないかと、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そのためにいくつかの具体的な事例を取り上げ、主にDVD鑑賞を通して倫理的消費について受講生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、環境に負荷をかけない生活を考える契機にしたい。

【知識】 設定されたテーマを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】 設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとも参考になります。

○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。

末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクッション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【種子】『種子-みんなのもの? それとも企業の所有物?』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第8回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第9回 【フードロス】『0円キッチン』(DVD)の観賞
- 第10回 【アニマル・ウェルフェア】論点整理、ディスカッション
- 第11回 【プラスチック】『プラスチックごみ-日本のリサイクルの幻想』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第12回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第13回 【フェアトレード】『もっと!フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第14回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

3回のレポート(60%)、エッセイ(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、レポート(A4一枚程度)を3回課しますので、振り返りをしてください。

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」
「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」
「SDGs 17. パートナーシップ」

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV001F	◎		○		○
科目名	環境都市としての北九州		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアムなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

到達目標

- 【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円(税込み)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(基盤・村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 12回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 13回 特別講演(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(地域共生教育センター)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績・・・40%
授業ごとのMoodle課題(確認テストやミニレポートなど)・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストに関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

環境都市としての北九州【昼】

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアム）は原則として必須とする。

- ・ 環境ミュージアム見学は授業期間中に各自で行うこと。
- ・ 環境首都検定は12月12日（日）の予定。

*スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。

*環境ミュージアムまでの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1回 ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高) | 【ウイルス】 |
| 7回 生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 8回 生物の多様性(4)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 9回 生物の多様性(5)多様な生命(日高) | 【生物多様性】 |
| 10回 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 11回 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 12回 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 13回 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 14回 科学的な方法とは(3)人類の起源(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 15回 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

生命と環境 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
- ・ 遠隔授業 (オンデマンド動画配信) の予定。
- ・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高 (生物担当) および中尾 (物理担当) による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして⑩経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%
小レポート試験：20%
最終試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV003F	◎		○		○
科目名	未来を創る環境技術				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：

環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：

環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

社会で生きる「自立的行動力」：

環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、
- 第2回：北九州市の環境エネルギー政策と風力産業拠点化政策
- 第3回：世界における再生可能エネルギー
- 第4回：日本における風力発電【洋上風力発電事業の取り組み】
- 第5回：日本における風力発電【風力発電のメンテナンス】
- 第6回：日本における風力発電【海洋産業従事者の安全技術教育】
- 第7回：再生可能エネルギーの産業【電力システム】
- 第8回：再生可能エネルギーの産業【エネルギーマネジメント】
- 第9回：都市の環境とエネルギー【経済学からのアプローチ】
- 第10回：都市の環境とエネルギー【機械工学からのアプローチ】
- 第11回：都市の環境とエネルギー【情報学からのアプローチ】
- 第12回：都市の環境とエネルギー【建築学からのアプローチ】
- 第13回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
- 第14回：都市の環境とエネルギー【化学・生物工学からのアプローチ】
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート 70%

未来を創る環境技術 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ZOL001F	◎		○		○
科目名	動物のみかた		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

(到達目標)

【知識】

人間と動物の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

人間と動物の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】

人間と動物の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらす)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV002F	◎		○		○
科目名	自然学のまなざし		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智慧を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

(達成目標) 双方向的な学びを楽しんで下さい。

【知識】

自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

自然の営みについての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】

自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

生命科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- 【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 体を作る物質(1)細胞の構成成分 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
- 3回 体を作る物質(2)食物分子と代謝 【酵素】【触媒】
- 4回 体を作る物質(3)遺伝物質DNA 【二重らせん】
- 5回 体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ 【RNA】【セントラルドグマ】
- 6回 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること 【ゲノム】【体質】【遺伝病】
- 7回 体を作るしくみ(3)発生と分化 【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
- 8回 細胞の社会(1)そのとき染色体は 【細胞周期】【染色体異常】
- 9回 細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション 【受容体】【シグナル分子】
- 10回 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん 【がん遺伝子】
- 11回 関連ビデオ鑑賞
- 12回 体を守るしくみ(1)寿命と老化 【早老症】【テロメア】
- 13回 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス 【ウイルス】【抗体】
- 14回 体を守るしくみ(3)私たちと微生物 【腸内細菌】
- 15回 質疑応答・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
- 事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。
遠隔授業の予定です。詳細については第1回目にMoodle上で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

環境ESD入門 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV102F	◎		○		○
科目名	環境ESD入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現在、世界で起きている様々な問題、例えば「環境破壊」「異常気象」「国際紛争」などは、ESDの観点から読み解くことができます。ESDとは「持続可能な開発のための教育」のことであり、「環境」「国際理解」「気候変動」「生物多様性」「防災」「エネルギー」など幅広い分野において、これからの地球の将来を見据えた議論を進めています。本講義は、上述のような多様な問題にESDの視点からアプローチしていきます。本講義を通じて受講生がESDの基本的な考え方を習得し、さらなる問題意識をもって私たちの生きる社会や環境を見つめ直すことを目指します。

到達目標

- 【知識】ESDの諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】ESDの諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】ESDに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業内で適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：環境ESDについて
- 第2回 北九州市と環境ESD
- 第3回 路上ゴミについて考える -日本人は果たしてきれい好きなのか-
- 第4回 海洋プラスチックゴミ問題について
- 第5回 経済活動とゴミ問題
- 第6回 ゴミ問題とリサイクル
- 第7回 環境に配慮した生活とは
- 第8回 地球の環境問題と私たちにできること
- 第9回 食から考える環境問題
- 第10回 環境問題と国際理解
- 第11回 環境問題と国際協力
- 第12回 環境問題とジェンダー問題
- 第13回 環境問題とエネルギー
- 第14回 北九州市のSDGsとESDの取り組み
- 第15回 まとめ・副専攻環境ESDプログラムの紹介

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業において課すレポートにて評価(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から環境問題に対する関心を持ち、意識して様々な情報に触れるようにしてください。それが大きな事前学習になります。各回の講義テーマに関しては事前に紹介しますので、書籍やインターネットなどで予備知識を得ておいてください(事前学習)。また受講後は、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってください(自習時間の目安は60分程度)。

環境ESD入門【昼】

履修上の注意 /Remarks

各講義終了後に小レポートの作成と提出を求めます。
講義内でのディスカッション、および質疑応答に積極的に参加できるよう、事前・事後の自発的学習を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境ESDに関する入門的な講義となります。
本講義を履修したうえで、さらなる発展的な学びとして「副専攻環境ESDプログラム」を受講することを薦めます。

キーワード /Keywords

環境、持続可能性、国際理解、生物多様性

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL103F	◎		○		○
科目名	世界（地球）特講A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

2001年の911以降の国際社会を考える上で、テロリズム問題を避けて通ることはできません。しかし、テロは以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

コロナ対応で、動画配信となります。動画は、各回編集カット作業してBGMやテロップ付きのyouTube仕様を心がけます。

到達目標

- 【知識】テロリズムを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】テロリズムについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※昨年度に配信した動画タイトルは以下の通りです。今年度は、部分的に作り替えたり、組み替えたりしていきます。授業回数は15回で、1回45～60分程度の視聴時間になります。各回の内容は変更する可能性があります。

- 1 ガイダンス / 問題の所在（テロから何を学び取るのか）
- 2 自由の戦士としてのテロリスト像 / ルクソール事件
- 3 犯罪としてのテロ / テロに政治目的は必要か。 / テロの定義はたくさんある！
- 4 911の衝撃 / テロによる社会的動揺 / 対人テロ / 対物テロ
- 5 テロリストとは誰か、残された課題
- 6 行動によるプロパガンダ（アナキズム） / 近代日本とテロ
- 7 政治的脅迫としてのテロ（アイルランドのナショナリズム）
- 8 ナショナリズムとテロ（サライェヴォ事件とスラブ主義） / 民族解放（シオニズムとイスラエル建国）
- 9 爆弾テロという手法
- 10 国際テロの誕生（パレスチナ人の闘争）
- 11 学生運動の過激化と日本赤軍（ロッド空港事件）
- 12 劇場型テロ（ミュンヘン・オリンピック事件）
- 13 現代テロとテロ対策
- 14 動機が多様化（右翼・保守テロ、オクラホマシティ連邦ビル爆破テロ）
- 15 動機が多様化（環境テロ、ユナボマー）

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に1度、小テストを実施する。最終的に、小テストの合計点数から成績を評価する。
 小テスト（8回）100%、ただし、小テストの回数は若干前後する可能性がある。

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容についてのフィードバックは、WEB掲示板を用意しますので、不明な点は書き込んでください。メールでも質問受付ます。

事後学習ですが、頻繁に小テストがあるので、何回でもいいので動画を視聴してください。

履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

説明が主体になる講義については、教室での授業や生配信よりも、録画された動画の方が学習効果が高いと考えています。皆様の期待を裏切らないように、可能な限り、魅力的な動画を配信していくつもりです。

キーワード /Keywords

韓国の社会と文化【昼】

担当者名
/Instructor

休講

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE010F	◎		○		○

科目名

韓国の社会と文化

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象や、歴史を含めた日韓関係のあり方を考えるための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについて考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化についても見つけなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、日韓の歴史についても学習を深める。

(到達目標)

【知識】韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得している。

【思考・判断・表現力】文化の多様性や理解を深め、適切な思考・判断力・表現力を習得している。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に無し。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国のいろは①【韓国の基本的な知識を知る】
- 3 韓国のいろは②【国を象徴するものを中心に】
- 4 韓国の文字・ハングルの仕組みについて
- 5 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 6 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 7 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 8 ドラマで「植民地時代」を追体験する
- 9 韓国(人)にとって日本(人)とは?
- 10 日本(人)にとって韓国(人)とは?
- 11 韓国における日本大衆文化の受容政策
- 12 グローバル化するK-POP
- 13 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 14 歴代大統領でみる韓国の社会と文化
- 15 韓国の宗教&詩人・尹東柱

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の視聴レポート	25%
毎回のコメントカード	40%
その他、小レポートなど	35%

韓国の社会と文化【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日韓関係にかかわる歴史や問題点などについて学習できる資料と映像を適宜、提示し、課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 歴史 異文化理解 日韓関係

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL110F	◎		○		○
科目名	国際学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

（到達目標）

【知識】現代の国際社会で生起する様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生起する諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

安全保障論【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理したり、新作も作りしたいと思います。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 安全保障と外交
- 自衛隊の海外派遣
- 安全保障の非軍事的な側面
- 日米同盟と自衛隊
- 自衛隊の任務
- 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 海上警備行動
- 企画動画
- 安全保障流の地図の読み方
- スクランブル
- 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- イージス・アショアと代替

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(8回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、YouTube配信なので、コメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
篠崎 香織 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジユメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
 - 第3回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
 - 第4回 阿部 米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
 - 第5回 政所 国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
 - 第6回 政所 国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
 - 第7回 久木 2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
 - 第8回 久木 2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
 - 第9回 篠崎 東南アジアの多文化・多宗教社会【イスラム教】【上座仏教】【自律史観】
 - 第10回 篠崎 世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華僑華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
 - 第11回 リーダー Humour in British Politics (イギリス政治におけるユーモア)【British politics (イギリス政治)】【Protest (抵抗)】【Humour (ユーモア)】
 - 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
 - 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
 - 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
 - 第15回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- ※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連

第4回 阿部 9「産業・技術革命」

第5回、第6回 政所 16「平和と公正」

第9回、第10回 篠崎 11「まちづくり」

第12回 白石 17「グローバル・パートナーシップ」

第15回 下野 5「ジェンダー平等」、16「平和と公正」

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL004F	◎		○		○
科目名	国際社会と日本		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

- 【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科
専門職学位課程
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○
科目名	グローバル化する経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

(到達目標)

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクションーグローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 内なる国際化と地域経済(1)【外国人労働者】【自動車産業】
- 9回 内なる国際化と地域経済(2)【外国人労働者】【サービス業】
- 10回 アジアにおける日系企業の事業展開【経営現地化】
- 11回 外資系による日系企業の買収合併【外資政策による規制】【S社の事例】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

グローバル化する経済【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代史入門【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

- ・ 本授業の到達目標
「知識」
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
「思考・判断・表現力」
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
「自立的行動力」
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジユメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学で学ぶ歴史
- 第2回 現代の起点としての第一次世界大戦
- 第3回 言論の「中立」化
- 第4回 国際協調体制と戦争の違法化
- 第5回 1920年代の日本と中国
- 第6回 近代日本と災害
- 第7回 政治の大衆化
- 第8回 軍縮をめぐる政治と世論
- 第9回 満洲事変と「熱狂」の創出
- 第10回 政党政治の崩壊と軍の政治的台頭
- 第11回 日中戦争の諸相
- 第12回 新体制運動
- 第13回 日米交渉・日米開戦
- 第14回 戦時体制下における情報・宣伝・報道
- 第15回 太平洋戦争の終結と聖断

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジユメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese Culture and Society 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE221F	◎		○		○
科目名	Japanese Culture and Society				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：日本の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：日本の文化と社会についての考え方をういて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

自立的行動力：日本の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

The objective of this course is to cover and discuss various aspects of Japanese society and culture from the past till present. Topics will include subjects ranging from traditional customs to pop culture and the influence of different religions. One specific goal will be to analyze the way Japan has been influenced by outside cultural influences throughout its long history. Another aspect of this course will be to see Japan from the perspective of non-Japanese students in order to help international students adapt to their new surroundings as well as encourage Japanese students to realize their own cultural identity.

教科書 /Textbooks

Hood, Christopher P. Japan: The Basics, Routledge 2015 ISBN: 978-0-415-62971-3 (pbk) 2657円 or 978-1-315-74568-6 (ebk) 2398円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ellington, Lucien. Japan: A Global Studies Handbook (ebk)

Other printed materials will be supplied by instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and Orientation
- 2回 Studying about Japan
- 3回 Demographic challenges
- 4回 Japan on the move
- 5回 Natural Japan
- 6回 Student Led Discussion & Presentations I: Demographic challenges
- 7回 Student Led Discussion & Presentations II: Japan on the move
- 8回 Student Led Discussion & Presentations III: Natural Japan
- 9回 Japanese Core Values
- 10回 Pure Japanese
- 11回 One for all, all for one/ Re)building Japan
- 12回 Student Led Discussion & Presentations IV: Core Values
- 13回 Student Led Discussion & Presentations V: Pure Japanese
- 14回 Student Led Discussion & Presentations VI: One for all, all for one /
- 15回 Student Led Discussion & Presentations VII: Re)building Japan and submission of final paper

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation and Participation -50%

Final Paper -50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to participate actively in discussion and make presentations on materials presented in this course. Students should read assigned materials before class.

履修上の注意 /Remarks

All coursework will be done in English.
A TOEIC Score of 650 or higher before registration is highly recommended

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Speaking Cultures and Societies 【昼】

担当者名 /Instructor ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE231F	◎		○		○
科目名	English Speaking Cultures and Societies				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 知識：英語圏の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 思考・判断・表現力：英語圏の文化と社会についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
 自立的行動力：英語圏の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

This class aims to provide an overview of the English speaking cultures and societies that exist, and provide a springboard for students to research the topics that interest them in particular in greater detail. This covers historical aspects such as British mythology as well as British expansion spreading English all over the globe, a variety of conflicts that have shaped some of the communities in different ways, and religious beliefs that underpin some cultural attitudes. We will also look at topics such as food, sport, and entertainment as well as exploring some well known festivals.

教科書 /Textbooks

None

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suggestions to be made when necessary in class

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Legends and Lore
- 第3回 Three Chords and the Truth
- 第4回 Protest and Politics
- 第5回 Ghost Stories
- 第6回 Empire to Empire
- 第7回 The Clearances and the Troubles
- 第8回 Masters of War
- 第9回 Fusion Culture
- 第10回 Blood † Body
- 第11回 Silly Point
- 第12回 Food
- 第13回 Christmas
- 第14回 A Barrel of Laughs
- 第15回 POP!

成績評価の方法 /Assessment Method

60% group projects
 40% individual projects

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Instructions to be given in class. Try to pay attention to English media and news, and keep up-to-date with topics that may intersect with those we cover in class to help deepen your understanding of relevant issues.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 1学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT210F	◎		○		○
科目名	現代社会と文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第1部 現代社会において異文化を理解すること
- 第2回 文化を「知る」とはどういうことか？
- 第3回 ナショナリズムと文化
- 第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第5回 植民地主義と文化
- 第6回 レポートについての注意と課題レポート①の説明
- 第7回 マイノリティ文化の保護と多文化主義
- 第8回 多文化主義の可能性と限界
- 第9回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ
- 第10回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

第II部 文化の違いを超えて？

- 第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化
- 第12回 身体近代化
- 第13回 医療の持つ権力と文化
- 第14回 癒しの多様性
- 第15回 課題レポート②の解説と課題レポート③の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート（3回） 60%、毎回の授業課題 40%
毎回の授業課題については、提出時期や授業への貢献により得点が変わります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遠隔授業の場合は、オンデマンド配信となりますが、毎回の課題は提出時期により得点が変わるので、計画的に受講すること。
- ・ 受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。
- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

可能性としての歴史【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS200F	◎		○		○
科目名	可能性としての歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を行っていたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

- ・ 本授業の到達目標
- 「知識」
→歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる 知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」
→歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」
→歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジユメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 「反実仮想」と歴史学
- 第3回 鎖国か、開国か
- 第4回 国土・国境・共通語
- 第5回 「望ましい」首都
- 第6回 通過儀礼
- 第7回 教育のあり方
- 第8回 日中戦争
- 第9回 日独伊三国同盟とソ連
- 第10回 日米開戦への道
- 第11回 太平洋戦争
- 第12回 核を巡る問題
- 第13回 敗戦と占領
- 第14回 天皇制
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジユメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通して下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

可能性としての歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 中1 - ア・英
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1 - キ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中1 - イ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算)の必須課題に合格しなければならない。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は「アカデミック・スキルズ」で培ってきた考える力をさらに活用して、大学での学びに必要な論理的思考能力を伸ばすことを目的とします。データ収集からはじめて、それを取捨選択して加工、可視化して、他者に向けて発信するという一連の過程を具体的に実践していきます。

具体的には、以下のような項目を身につけます：

- 情報収集を行い、その情報の信頼性をチェックすることができる
- 表計算ソフトなどを利用し、データを可視化することができる
- プログラミングを基礎から学ぶことで、論理的な思考力を鍛え、現在不足しているといわれるデータサイエンス人材への一歩を踏み出す
- グループ活動を通じて、他者とのコミュニケーションをとることができる

(到達目標)

【技能】大学生生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データを集める【検索】 【情報の信頼性】 【着眼点】
- 3回 データを加工する(表計算の復習)
- 4回 論理的思考力1(プログラミングの基礎)
- 5回 論理的思考力2(図形の描画)
- 6回 論理的思考力3(変数の利用)
- 7回 論理的思考力4(条件分岐, ループ)
- 8回 論理的思考力5(双方向性)
- 9回 論理的思考力6(配列)
- 10回 データの可視化1(グラフの種類)
- 11回 データの可視化2(棒グラフ)
- 12回 データの可視化3(折れ線グラフ)
- 13回 データの可視化4(円グラフ)
- 14回 現実のデータを活用する
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 90%

積極的な授業参加 ... 10%

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料などを提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に提示した課題を次回の授業時に提出したりしてもらいますので、授業時間外の作業が必要となります。特にグループ活動においては、グループメンバーと議論する時間を確保してください。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や授業進度、そのほかの社会状況に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在、ビッグデータやAIなど、ICTスキルやデータを活用できる人材が世の中で求められています。いわゆる「文系」という枠に自分を限定するのではなく、自分の将来に向けてプログラミングを学んでみませんか？

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング (論理的な思考) , プログラミング , データの可視化 , コミュニケーション能力 , 思考力 , SDGs 17:パートナーシップ

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることです。最終的な目標は、テーマに沿って自分で問いを設定し、文献を読んで考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジユメの作りかた、論点の見つけ方、文献の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、受講者同士の議論を経て、レポートの作成を目指します。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている

教科書 /Textbooks

黒木登志夫 2020『新型コロナの科学：パンデミック、そして共生の未来へ』中公新書(940円+税)

新型コロナに関連する問題は、科学の分野の知識のみで解決できるとは限りません。それぞれの地域の様々な問題と結びついています。今年度は現在進行形の問題について思索を深めることを試みます。このテキストは2020年12月に発売されました。授業が始まるころには状況も変化していると思いますが、それを含めて議論したいと思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 慶応義塾大学教養研究センター 2014『ダメレポート脱出法』慶応大学出版会
- 佐渡島沙織ほか編 2015『レポート・論文をさらによくする書き直しガイド』大修館書店
- 白井利明・高橋一郎2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

そのほかMoodleに参考となる電子書籍のリンクを貼ります。必要に応じて閲覧してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本の理解を深めるには・レジユメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 議論のしかた
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献 (報告内容、積極的な発言など) 50%
(第13回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。
※学期末レポートの最低文字数は2000字です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は、第1回の授業から必ず出席してください。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。受講する段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。
- ・ 演習の準備に時間がかかることを嫌がらないでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。レポートをあまり書かない学部の学生も、学期末には2000字以上のレポートを頑張って書いています。レポートに慣れている学部の学生は、この機会に自分の書き方を点検し、より高く評価されるレポートを目指してみましよう。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

身近なことをテーマに考えたり自分の考えを表現したりすることを、様々な学部（学群）の学生と行ってもらおう。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業を通じて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：考える力
- 3回：コミュニケーション能力
- 4回：ことばを有効に活用するためのスキル
- 5回：自分を理解する①【大切にもの】
- 6回：自分を理解する②【違和感のあるもの】
- 7回：相手を理解する
- 8回：自分を理解してもらおう
- 9回：個人発表
- 10回：ここまでの振り返り
- 11回：北九大を理解する①【キャンパス探訪】
- 12回：北九大を理解する②【課題設定】
- 13回：北九大を理解する③【表現する】
- 14回：個人発表（または、グループ発表）
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（事前・事後学習を含む） ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に役立つ活動を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために)

【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の興味や関心に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
たくさんのインプットとたくさんのアウトプットをしていただくことを期待しています。
よく考えて、受講してください。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、率

関連するSDGsゴール：17.「パートナーシップで目標を達成しよう」

アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対話) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、「アカデミック・スキルズI」で養った「考える力」をより伸ばしていくことを目的とします。では、考える力とはどんな力なのでしょうか。あるいは、考えるとはどんな行為なのでしょう。授業では、これらの問いを改めて問い直し、他者（他の参加者）との対話を行うを通じて、考えることの中でも論理的思考、批判的思考と呼ばれるものを学んでいきます。

まずは、論理的思考に触れます。論理についての講義をしたうえで、実際に論理トレーニングを行い、小さなレポートを書いてもらいます。次に、批判的思考を学びます。論理的思考と批判的思考の違いについて抑えたいので、「哲学対話」という方法を通じて、批判的思考を実践していきます。批判と聞くと悪口や非難を想像するかもしれませんが、この場合の「批判」とは、ある事柄に疑問符をつける、あるいは、問いを立てることです。例えば、「大企業の人は勝ち組である」といった言説に対して、批判的思考は、「勝ち組って何？」「幸福って何？」「勝ち負けだけなの？」などとどんどん問いを投げつけ、その問いをその根本にある本質にまで掘り下げていきます。これによって新しい選択肢や価値観を獲得することができます。その過程では、他者の存在が不可欠であることも実感できるでしょう。

【到達目標】

《技能》大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

《コミュニケーション力》異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

野矢茂樹『論理トレーニング101題』, 産業図書, ISBN-13 : 978-4782801369, (2,200円 + 税)

* 論理トレーニングに使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 梶谷真司『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門』, 幻冬舎新書
- ・ ○E. B.ゼックミスタラ『クリティカルシンキング: あなたの思考をガイドする40の原則』, 北大路書房

などなど。授業中にも紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 思考と論理の歴史について①【論理的思考の出自】
- 第3回 思考と論理の歴史について②【論理的思考の発展】
- 第4回 論理トレーニング①【論証の構造】
- 第5回 論理トレーニング②【演繹】
- 第6回 論理トレーニング③【推測】
- 第7回 論証してみよう！【小レポートを書く】
- 第8回 論証を確認しよう！【相互添削とコーヒーブレイク】
- 第9回 論理的思考から批判的思考へ
- 第10回 批判的思考と対話
- 第11回 サイレント・ダイアローグ【書く対話】
- 第12回 根っこゲーム【問いを疑ってみよう】
- 第13回 哲学対話①【対話と批判的思考の実践】
- 第14回 哲学対話②【対話と批判的思考の実践】
- 第15回 まとめ

アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対話) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業貢献および小テスト 50%
(小テストは論理トレーニング回に宿題として出す予定です。)
 - ・ 期末レポート 50%
(期末レポートは、批判的思考を用いて問いを立てるというレポートです)
- * 授業を5回欠席した場合は、レポートを出しても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 論理トレーニングについては、予習と復習が欠かせません。小テストも出題します。
- ・ 小レポートについては、事前にお題を出しますので、データなどの素材を前もって集めてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクション (導入) ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕もツイッターやっていますが、140字ぐらいの短い文章 (短文) が当たり前になると、長い文章で論理的に考えることができなくなります。ネトウヨが典型的ですが、思考が短絡的になり、態度や価値観も独善的で短絡的になる傾向にあります。皆さんには、絶対にそうなってほしくない。そのために、ぜひこの授業で論理的・批判的な思考方法を身につけて欲しいと思います。と同時に、他者の存在に配慮し、その声に耳を傾けることがどれほど重要なことなのかも考えて欲しいと思います。皆さんと対話できることを、とても楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】 情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】 情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライブログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。
その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

法への誘い【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW001F		◎	○		○
科目名	法への誘い				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自立的行動力を身につけることを目指す。

(到達目標)

- 【技能】法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている
- 【思考・判断・表現力】法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている
- 【自立的行動力】社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法によって人を規制するということ - 感染症をめぐる公法学
- 第3回 検察庁法の改正法案は何が問題だったのか? - 行政権と内閣
- 第4回 肉1ポンドを担保にしてお金を借りることは許されるか? - ヴェニス商人に見る同意
- 第5回 高齢者の罪は許すべき?
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか? - AIと法
- 第7回 電気は「物」か? - 物に関する法
- 第8回 女性にだけ再婚禁止期間が原則100日も設けられているのはなぜか? - 民法における再婚禁止期間と嫡出推定の関係
- 第9回 法律と年齢 - ○○オになったら□□ができる!?
- 第10回 災害リスク管理制度としての保険
- 第11回 年金って私たちはもらえないんでしょ? - 公的年金の役割
- 第12回 長時間労働はなぜ起きるのか?
- 第13回 自分の臓器を売る自由? - 自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家 - ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

法への誘い【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピューターリテラシー 【昼】

担当者名 /Instructor 古川 洋章 / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF101F		◎			
科目名	コンピューターリテラシー		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、コンピューターやインターネットを正しく扱うための知識や技術を学習し、情報社会において自らの考えや判断を表現・伝達する手段として利活用する能力を身につけることです。そのため、本授業では実際にコンピューターを操作しながら、以下のような項目を達成できる技能の習得を目指します。

【情報モラル・情報セキュリティ】

- ・ インターネットにおけるリスクを把握し正しい使い方について説明することができる
- ・ 著作権と引用のルールについて説明することができる

【電子メール】

- ・ 電子メールの特性および仕組みについて説明することができる
- ・ ビジスマナーを意識した電子メールの作成・送受信ができる

【文章作成】

- ・ 基礎的な文章の作成ができる
- ・ 文章作成ソフトの機能を活用した文章の装飾ができる
- ・ 長文レポートの作成ができる

【表計算・グラフ作成】

- ・ 基礎的な表の作成ができる
- ・ 数式や関数を用いたデータの集計ができる
- ・ 基礎的なグラフの作成ができる
- ・ 条件に応じて出力結果を変えることができる

なお、本授業は初心者を対象としています。

(到達目標)

【技能】コンピューターを適切に利用する技能を身につけている。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』 FOM出版、2,000円 (税抜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

コンピューターリテラシー 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コンピューターの操作方法
- 3回 情報モラル・情報セキュリティ：インターネットにおけるリスクとコミュニケーション
- 4回 電子メール：大学における電子メール
- 5回 文章作成1：文章作成の基本操作
- 6回 文章作成2：文章作成ソフト機能の活用
- 7回 文章作成3：レポート作成
- 8回 文章作成4：文章作成練習
- 9回 演習1：文章作成
- 10回 表計算・グラフ作成1：表作成の基本操作
- 11回 表計算・グラフ作成2：グラフ作成
- 12回 表計算・グラフ作成3：条件に応じた出力
- 13回 表計算・グラフ作成4：表計算・グラフ作成練習
- 14回 演習2：表計算・グラフ作成
- 15回 ふり返り・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ インターネット・情報モラル・情報セキュリティに関する課題...15%
- ・ 電子メールの課題...10%
- ・ 文章作成演習の課題...25%
- ・ 表計算・グラフ作成演習の課題...25%
- ・ 授業支援ツールを用いた授業への積極的な参加...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて予習してください。また授業終了後には、パソコン自習室や自身のパソコン等で積極的に授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、パソコンを使った演習が必須ですので、自由に利用できるパソコンを持っていることが望ましいです。パソコンを持っていない場合は、大学内のパソコン自習室を利用するなど、パソコンが利用できる環境を準備してください。

また、コンピューターの基本的な操作（キーボードによる文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすいです。なお、受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もあります。また、受講者数調整を実施する可能性もあります。詳細は、初回の授業中に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、初心者を対象に、情報社会においてコンピューターやインターネットを正しく扱うための基本的な知識や技術について学習し、利活用する能力の体得を目指します。実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に練習に取り組む姿勢が大切です。わからないことがあれば、随時、質問をしてください。

キーワード /Keywords

文章作成、表作成、グラフ、電子メール、情報モラル、情報セキュリティ

データ分析 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期/2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

データ分析【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。
また、データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間以外に、積極的にデータ分析の練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、パソコンを使った演習が必須なので、自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい。パソコンを持っていない場合は、大学内のパソコン自習室を利用するなど、パソコンが使える環境を準備しておくこと。また、表計算ソフトを使った演習が中心となるので、表計算ソフトがある程度使えれば、受講しやすくなる。
受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。
この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。また、受講者数調整を実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から、難しい数式が出てくる印象を与えるが、本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している。データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので、興味のある学生は積極的に受講して欲しい。

キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データ分析 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

データ分析【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。
また、データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間以外に、積極的にデータ分析の練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、パソコンを使った演習が必須なので、自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい。パソコンを持っていない場合は、大学内のパソコン自習室を利用するなど、パソコンが使える環境を準備しておくこと。また、表計算ソフトを使った演習が中心となるので、表計算ソフトがある程度使えれば、受講しやすくなる。
受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。
この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。また、受講者数調整を実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から、難しい数式が出てくる印象を与えるが、本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している。データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので、興味のある学生は積極的に受講して欲しい。

キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL205F			◎		
科目名	知の創造特講B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

かつて日本は、今よりずっと活気ある国としてありました。そしてこの時代の日本人は自信に満ちていました。彼らは今年より来年、来年より再来年、自分たちの生活はどんどん「豊か」で「贅沢」なものになっていくと信じていましたし、それが彼らの目標でもありました。

しかし現在、かつての活気は失われ、これとは対称的に、慢性的な不況や「少子高齢化」、地方の「過疎化」など、「衰退」を象徴するような、ネガティブな側面ばかりが目立っています。

そして私たちは「豊かさ」や「贅沢」を追い求めることをやめ、積極的にお金を使い、物を買うことすら控えるようになってきました。

では、それはなぜなのでしょう？

なぜかつての日本には活力があつて今はなく、私たちはかつての「豊かさ」を求めなくなってしまったのでしょうか。そしてそんな中、私たちは今、どんな生活を理想として生きているのでしょうか。

私たちは過去、何を経験し、その結果、今、未来に何を期待しているのでしょうか。

この講義は、私たち日本人が戦後、どのような時代を生き、そこで何を経験し、そのことでどう変わってきたのか、私たち自身の過去と現在、そして未来を客観的に理解するための授業です。

そしてここではそれを、日本人の生活条件の変化、つまり日本経済の歴史をもとに考えていきます。

私たちの生活は、各時代の経済によって規定されています。

したがって、経済が過去からどう変化して来たのか知ることは、私たちの生活がこれまでどう変化して来たのか知ることであります。そして私たちの生活がどう変化して来たのか理解出来れば、上の問いに対する答えを見つけることもできるようになります。

ここではぜひ皆さんに、経済と歴史をもとに現在の私たち自身を理解する、経済学的・歴史学的な思考を実践し、身に付けていただきたいと思ひます。

☆到達目標

【思考・判断・表現力】

設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 なぜ「経済史」を学ぶのか
- 第2回 敗戦直後の日本経済
- 第3回 戦後復興の始まり - 「鉄は国家なり」 -
- 第4回 「団塊の世代」
- 第5回 人口の急増と経済危機 - 「人口転換」 -
- 第6回 「人口ボーナス」
- 第7回 産業基盤の整備と「高度経済成長」
- 第8回 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 「団塊の世代」の世帯形成と日本経済
- 第10回 日本人の生活水準の向上 - 都市的な生活様式への憧れ -
- 第11回 「一億総中流」 - 「ホワイトカラー」の台頭 -
- 第12回 「高度経済成長」の終焉 - 「オイルショック」と「団塊ジュニア」 -
- 第13回 「安定成長期」 - 産業構造の転換と「鉄冷え」 -
- 第14回 「バブル崩壊」
- 第15回 「失われた20年」と現在

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 人口転換 団塊の世代 高度経済成長 オイルショック 安定成長期 団塊ジュニア バブル崩壊 失われた20年 口
ストジェネレーション

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC002F			◎	○	
科目名	社会学的思考		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の4点を目標とする。

- (1) 現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。
- (2) 多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。
- (3) どのような社会構造の中で人が生活をしているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。
- (4) 社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代の社会学的解説』,山本努・辻正二・稲月正著,学文社,2014年,¥2640(古書)
- 『最新 社会福祉士養成講座⑨ 社会学と社会システム』,一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規,2021年,¥2,750
- その他、講義の中で、適宜、紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会とは、社会学とは【文化、社会化】
- 第2回 社会学的な考え方とは【行為、規範、制度、社会構造、エスノグラフィー】
- 第3回 社会学の歴史的展開1 - デュルケム【規範、集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミ的自殺】
- 第4回 社会学の歴史的展開2 - ウェーバー【社会的行為、理解社会学、社会的行為の意図せざる結果】
- 第5回 家族とジェンダー【家族類型、家族の機能、世帯の概念、男女共同参画、ワークライフバランス】
- 第6回 集団と組織【準拠集団、第1次集団、第2次集団、官僚制、NPO】
- 第7回 逸脱と社会統制【差別、偏見、マイノリティ、ラベリング理論】
- 第8回 都市と農山村【人口構造、人口動態、都市化と過疎化、中山間地域、コミュニティ】
- 第9回 社会階層と社会移動【階級、階層、社会移動、所得格差、教育格差、健康格差、社会指標】
- 第10回 社会問題と社会政策(貧困、失業、過労死、非正規雇用、社会的孤立、福祉国家と福祉社会、社会運動)
- 第11回 環境【公害、SDGs、ESD】
- 第12回 災害【被災、支援、ボランティア】
- 第13回 社会システムと社会変動【近代化、産業化、情報化、戦後日本型循環モデル】
- 第14回 グローバリゼーションと移民【国境を越える移動、移民、多文化共生】
- 第15回 まとめ

社会学的思考 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認小テスト...40%、課題レポート...60%とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

- DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
- DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著） 椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業時に指示した文献の講読
- 事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

ことばの科学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科, 田中 信利 / 人間関係学科
田島 司 / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第3回 脳とこころ2【睡眠の影響】
- 第4回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第5回 まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【科学としての心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【行動主義、客観性】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

現代人のこころ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

(到達目標)

【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

企業と社会 【昼】

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8. 働きがい・経済成長、SDGs12. 作る・使う責任、SDGs15. 環境保全、等の問題と強く関連する。

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる；ことが求められる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっており、そのためにも上記の4要件を満たすことが期待され、ま

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファアソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高畠・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカー-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。V-dem指標を知り、たとえば民主主義の場から女性を排除してきたスイスは民主主義国だろうかといった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護するシュンペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらがはらむ危険性)について知る。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的パフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにかんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。また、現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想であることをその内容を含めて理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、CJTに対しては批判も存在し、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても事例を含めて理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。

さらに、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません(それがない人を想定して授業を行います)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

SDG 5. ジェンダー平等 SDGs 16. 平和と公正

社会哲学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。最後に、COVID(コビット)-19との関係の中で私たちの社会は今後どうあるべきか、どこへむかうのか、どうなったらいいのか、一緒に考えていきたいとも思います。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

* この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「倫理思想史」があります。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・バトラー』, 青土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

社会哲学入門 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？社会って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：善き生と徳（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：支配と民主制（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：神と被造物（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：愛の共同体（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：社会契約と国家（ホッブス、ロック、ルソー、カント）
- 第7回 【近代】人間って何？③：自由と権利（カント）
- 第8回 【近現代】人間って何？④：産業の奴隷（マルクス）
- 第9回 【近現代】共同体って何？④：社会主義と資本主義（ハイエク）
- 第10回 【現代】公共性って何？：プライベートとパブリック（ハーバーマス）
- 第11回 【現代】正義って何？：平等と格差（ロールズ）
- 第12回 【現代】フェミニズムって何？：男女の平等と差異
- 第13回 【現代】ジェンダーって何？：ジェンダーとセックス（バトラー）
- 第14回 【現代】優生思想って何？：命の法的管理
- 第15回 【現代】COVID-19と共にどう生きたらいいのか？

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 45%
- （オンデマンドの場合は、Googleフォームを使用します。）
- ・ 期末テスト 55%

* 授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるINTRODUCTION（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われませんが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

文化を読む【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科
生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する＝読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。表象研究、宗教研究、異文化間教育、文学研究といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。“いま”、“ここ”にいる“わたし”にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎表象

人間は情報を共有するために様々なメディアを通じた表現活動をおこなう。本講義ではそれを、表象(representation)とよび、理解と誤解の源泉として位置付けてみよう。本講義では、イメージとして生み出される表象をとりあげて、歴史社会的な文脈のなかで読み解いてみたい。

◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

◎異文化間教育

文化というもの、見える文化と見えない文化があり、本人が自覚しにくい見えない文化に気づくことが異文化理解の始まりである。異文化の理解があってはじめて、外国語のコミュニケーション能力が育つ。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】文化について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

文化を読む【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表象を読む①描かれた〈日本人〉-明治期風刺画をとりあげて-
- 第3回 表象を読む②描かれた〈日本〉-ジャポニズムの流行をとりあげて-
- 第4回 表象を読む③演じられた〈日本人〉-オペラ『蝶々夫人』をとりあげて-
- 第5回 神社の成立① 神社建築成立以前の神社
- 第6回 神社の成立② 神社の成立年代
- 第7回 日本の神 ー神教との比較を通して
- 第8回 罪・戒律・禁忌
- 第9回 異文化を理解することは可能なか？（見えない文化と価値観）
- 第10回 バイリンガルはうらやましい？（「移動する子ども」のライフストーリー）
- 第11回 異文化トレーニング（他者との出会いを捉え直す）
- 第12回 安部公房「棒」の解釈
- 第13回 乙ー「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物（西南戦争風刺画を知る）
- 第15回 幕末・明治の出版物（西南戦争風刺画を読み解く）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%（表象、宗教、異文化間教育、文学に関する4つのレポートすべてを提出しなければ、評価の対象とはならない）
各回において、課題コメントの提出によって出席（視聴）を確認する。提出状況は成績に加味される。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義は録画オンデマンドによる遠隔授業を予定している。講義回によっては、講義方法が変更される場合があるが、その際にはmoodleにて告知する。
修正登録による受講者は、必ずさかのぼって講義を視聴してコメントを提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーター：真鍋までメールで質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

表象、メディア、宗教、異文化、日本近現代文学

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR006F			◎		○
科目名	芸術と人間		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会と芸術の関係性について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」
美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒテキ アートダイバー 2014
- 「アート・パワー」現代企画室 ポリス・グロイス著 石田圭子ほか訳 2017
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 高松次郎 存在を見つめる芸術表現
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭啓介 原発に抗する
12. ヤノベケンジ 失われた遊園地
13. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
14. 会田誠 道程
15. Chim↑pom 世界を公共空間として認識すること

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト 2回 50%
- レポート(学期末) 40%
- 日常の取組(出欠など) 10%

芸術と人間【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したが、また、展開させたいか、を問うものである。

近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、プライベート/パブリック、プロジェクト

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリベタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

現代正義論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

情報表現【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF230F		○	◎	○	
科目名	情報表現		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、自分自身が伝えたい情報を表現するための知識や技術を習得することである。自分の想いを一方的に伝えるだけでなく、他者の存在を意識して表現することが重要である。このため、本授業では、個人ワークを行いながら、以下の2点の習得を目指す。

- ・プレゼンテーションやロジカルシンキング、スライドデザインなどに関する学びや疑問などを具体的に表現することができる。
- ・プレゼンテーションソフトを活用して、伝えたい情報を分かりやすく表現することができる。

(到達目標)

【技能】情報を適切に発信する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 話し方や書き方1【要約】
- 3回 話し方や書き方2【PREP】
- 4回 考え方：ロジカルシンキング1【課題発見】
- 5回 考え方：ロジカルシンキング2【原因分析】
- 6回 プレゼンテーション1【Power Point】
- 7回 プレゼンテーション2【発表】
- 8回 情報の収集1【検索】【信頼性】
- 9回 情報の収集2【ドメイン名】
- 10回 情報の整理【プロット】【ストーリー】
- 11回 情報の表現【デザイン】【レイアウト】
- 12回 情報の発信1【発表者】
- 13回 情報の発信2【スライド】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で実施する課題や振り返りレポートなどへの取り組み... 60%
プレゼンテーションソフトPowerPointを用いた課題提出... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことをノートにまとめて、課題や振り返りレポートなどを締め切りまでに間に合うように提出すること。課題は、プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて実施するものもある。

情報表現【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は、「アカデミック・スキルズ」を履修しておくことが望ましい。大学で対面授業が実施できる場合は、授業中にグループディスカッションや発表を行ってもらうこともある。ただし、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。なお、受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、授業開始前に掲示にて説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、振り返りレポートを提出してもらい、受講生の質問や意見を反映させながら、授業を展開する。このため、積極的に授業に参加して欲しい。また、実際にコンピュータを操作して作成する課題もある。その際には、授業時間外に積極的に取り組むこと。受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、スライドデザイン

倫理思想史 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？まず、倫理学は、考える学問である哲学の一分野です。では、何を考えるのか？それは、私たちの行動や振る舞い、そしてその善さや悪さです。少し専門的に言えば、倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょう。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死／尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

* この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「社会哲学入門」があります。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

倫理思想史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション：倫理学って何？
- 第2回 【基礎】義務論①：多数者のために一人を殺すべきか？（トロッコ問題）
- 第3回 【基礎】義務論②：無条件の義務（カント）
- 第4回 【基礎】功利主義①：幸福とは何か？（ハチソン、ベンタム、ミル）
- 第5回 【基礎】功利主義②：選好功利主義（ヘア）
- 第6回 【基礎】徳倫理学①：徳とは何か？（プラトン、アリストテレス）
- 第7回 【基礎】徳倫理学②：善い人間と善い社会（マッキンタイア）
- 第8回 【基礎】メタ倫理学：善さとは何か？（ムーア）
- 第9回 【応用】討議倫理学：コミュニケーションと倫理（ハーバーマス）
- 第10回 【応用】生命医療倫理学①：いつから人間になる？（中絶、ES / IPS細胞）
- 第11回 【応用】生命医療倫理学②：いつまで人間でいられる？（認知症、安楽死 / 尊厳死）
- 第12回 【応用】環境倫理学①：人間中心主義と自然中心主義（クレプス、アービツヒ、ネス）
- 第13回 【応用】環境倫理学②：動物の権利（シンガー、ヌスパウム）
- 第14回 【応用】ケアの倫理学①：道徳とジェンダー（ギリガン）
- 第15回 【応用】ケアの倫理学②：ケアは誰が担うべきなのか？（フェミニズム、ジェンダー論）

* () の中は、その回に扱う主な思想家や問題です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 45%
- (オンデマンドの場合は、グーグルフォームを使用します。)
- ・ 期末テスト 55%

* 授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われませんが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

言語・認知・コミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN210F			◎		
科目名	言語・認知・コミュニケーション				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力

言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

* 本授業は多くの履修生が想定されるため、オンライン授業で行います。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)

- 第1回 序・講義の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 ヒューマンエラー(松田)
- 第8回 アフォーダンスとシグニファイアー(松田)
- 第9回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(植田)
- 第12回 モノの切り取り方と分類(カテゴリー論)(植田)
- 第13回 比喩と理解(植田)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%

(すべての教員の課題を提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語・認知・コミュニケーション【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。対面授業の場合は私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

成績評価の方法 /Assessment Method

1~3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(8回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

戦争論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。またYouTube配信なので、コメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT110F	○		○	◎	
科目名	異文化理解の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

（到達目標）

【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己（編）2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか（編）2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(2回)50%、毎回の授業課題 50%

毎回の授業課題は、提出時期、授業への貢献によって得点に変化する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 遠隔授業の場合はオンデマンド配信となりますが、課題は提出時期によって得点が異なります。計画的に受講しましょう。
- ・ 受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC004F			○	◎	○
科目名	人権論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なもの」というイメージを抱くかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念、現存する人権課題やその社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権課題とは何かについて共に考えていきたい。

(目標)

【思考・判断・表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。

【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」 オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」 人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「平和と人権」 戦争・平和についての解説。
- 6 「ハンセン病について」 ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。
- 7 「教育と人権～識字問題」 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 8 「教育と人権～夜間中学」 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 9 「部落問題について」 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 10 「部落問題について」 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 11 「在日外国人と人権課題」 在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 12 「在日コリアンについて」 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 13 「障害者と人権」 障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 14 「アジアの人権状況」 アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権課題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率7割を満たした学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN001F			○	◎	○
科目名	ジェンダー論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この科目では、なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学、科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのかなど、日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点および理論、ならびに社会や文化に潜むジェンダー・ギャップを可視化するツールとしての統計を読み・活用する方法を学びます。

【到達目標】

- 【思考・判断・表現力】ジェンダーに関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自立的行動力】ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『改訂版 ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2017）2,640円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
- (○) マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
- R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ジェンダー論を学ぶためのキー概念【セックス】【ジェンダー】【セクシュアリティ】【家父長制】
【ホモソーシャル】【ホモフォビア】【ミソジニー】【ジェンダー統計】
- 2回 日本語表現に潜むジェンダー【女言葉】【男言葉】【ジェンダーバイアス】【女子力】
- 3回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学【カノン】【権力】【公と私】【眼差し】【当事者性】
- 4回 現代アートとジェンダー【制度】【主体】【客体】【オリエンタリズム】
- 5回 ワーク・ライフ・コンフリクト問題【男らしさ】【性別役割分業】【ワーク・ライフ・バランス】
- 6回 多様なライフスタイルと家族【近代家族】【コレクティブ/シェア・ハウジング】【ゲイ・ファミリー】
【ステップ・ファミリー】【シングルペアレント・ファミリー】【シングル化】
- 7回 セクシュアリティと日本社会【ジェンダー化される身体】【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】
【リアリティ/ヘルス・ライツ】【性のダブル・スタンダード】【性の商品化】【JKビジネス】
- 8回 「性別」は「女と男」ではない【ワン・セックス・モデル】【ツウ・セックス・モデル】【多様な性】
- 9回 教育とジェンダー【近代化】【国民国家】【ジェンダー・ギャップ】【隠れたカリキュラム】【理系女】
- 10回 年金とジェンダー【片働き・共働き】【専業主婦優遇制度】
- 11回 高齢者介護とジェンダー【ケアの担い手】【ケアの有償化】【介護保険制度】【ヤング・ケアラー】
- 12回 刑法の国際化とジェンダー【女性に対する暴力】【セカンド・レイプ】【売買春】【人身取引】
【国際人権法】
- 13回 「従軍慰安婦」問題【戦争とジェンダー】【暴力の連続体】【女性の権利は人権である】
- 14回 女性差別撤廃条約と人権【ジェンダーの解消】【アフターマティブ・アクション】【個人通報制度】
- 15回 グローバル化とジェンダー【経済格差の拡大】【移住労働】【性別役割分業の国際的再配置】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている教科書の章を読み、その内容に関連した日常生活の事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、発展的学びのために教科書の各章末尾に紹介されている図書のうち関心のあるものを読んでみる、期末課題の作成に向けて文献・資料等を探して読むこと、レポートの構想を練ることなど、計画的に準備を進めていくこと。

履修上の注意 /Remarks

- (1)ジェンダー関連の法制度改正・整備等の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、ジェンダーにセンシティブな感覚を身につけ、レポートおよび期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

「SDGs 5. ジェンダー平等、SDGs 10. 不平等をなくす」

サービスラーニング入門Ⅰ【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR110F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

この講義の到達目標は以下のとおりです

- 【知識】 サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 サービス・ラーニングの考え方
- 第3回 サービス・ラーニングとボランティア
- 第4回 サービス・ラーニングを行う理由
- 第5回 サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
- 第6回 サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
- 第7回 サービス・ラーニングと地域の変化
- 第8回 これからの社会とサービス・ラーニング
- 第9回 日本における社会貢献活動の歴史
- 第10回 経験学習について
- 第11回 サービス・ラーニングの実践に向けて
- 第12回 良き市民としてのサービス・ラーニング
- 第13回 受講生による実践報告（1）
- 第14回 受講生による実践報告（2）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」（55%）+「授業内での小テスト+授業への取り組み」（45%）=合計100%評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加（ボランティア活動の実施）を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」（ボランティア）を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」（1500字程度）として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向かうための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門Ⅱ【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR180F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきをえられることを期待します。

(到達目標)

- 【知識】 サービスラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 計画発表会①
- 計画発表会②
- 実践報告①
- 実践報告②
- 実践報告③
- 実践報告④
- 受講生による振り返り
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門II【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

(到達目標)

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 40%

期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

（到達目標）

【知識】 地域福祉を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、地域福祉に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 地域福祉に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

採用予定のテキストが2021年8月頃発行予定のため、授業時に指示させていただきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・ 行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税
福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・ 社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・ 福祉・ 国際視点からのアプローチ-』大学教育出版
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 5回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域包括ケアと地域共生社会【地域包括ケア、多機関協働、生活困窮者自立支援】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 災害と地域福祉活動【非常時や災害時における法制度、福祉避難所、災害ボランティア】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。

事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW001F	○		○	◎	
科目名	障がい学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

（到達目標）

【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3. 健康と福祉」「16. 平和と公正」「17. パートナーシップ」

共生社会論【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW200F	○		○	◎	
科目名	共生社会論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていききたい。

(到達目標)

【知識】共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

基盤演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症(障害)を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症(障害)とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本(1) 障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本(2) 構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本(3) コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本(4) 行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本(5) 自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本(6) 余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加(貢献)度30%。
課題への対応70%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることながらに関してインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

基盤演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

基盤演習I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々と協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

基盤演習II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

基盤演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

基盤力応用 (地域課題解決のためのICT活用) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES301F			○	◎	△
科目名	基盤力応用		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

サブテーマ：地域課題解決のためのICT活用

近年のICTは、コンピュータの処理速度の高度化やネットワークの高速大容量化が実現し、社会に急速に浸透してきている。重要なことは、高度化したICTをどのように活用するかを考えることである。

本授業では、ICTの活用方法について、地域貢献という観点から考えていく。すなわち、各地域が抱えている課題を見つけて明確化し、その課題に対してICTをどのように活用して解決していくかについて企画、提案していく。これらの活動を通じて、本授業では以下の項目について学習することを目指す。

- 情報社会を構成しているICTに関する基礎的知識
- 問題・課題解決のための基礎的能力
- 地域の課題に対して論理的にアプローチできる思考力
- 最新のICTを使う利点について他者を納得させる企画力と説得力

(到達目標)

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：身の回りにあるICTと情報社会【オリエンテーション】
- 2回目：高精度な位置情報システム【ジオメディア】【GPS】
- 3回目：ICT活用演習(1)：位置情報システムを使った課題解決と評価
- 4回目：画像認識【画像処理】【顔画像認識】【状況説明】【機械学習】
- 5回目：ICT活用演習(2)：画像認識を使った課題解決と評価
- 6回目：IoT【センサー】【クラウドコンピューティング】
- 7回目：ICT活用演習(3)：IoTを使った課題解決と評価
- 8回目：人工知能【AI】【ディープラーニング】【技術的特異点】
- 9回目：ICT活用演習(4)：人工知能を使った課題解決と評価
- 10回目：ICT地域活性化事例の分析(1)【課題の選定と明確化】
- 11回目：ICT地域活性化事例の分析(2)【課題解決の効果と改善点】
- 12回目：地域課題解決演習(1)【地域課題の発見と明確化】
- 13回目：地域課題解決演習(2)【ICTを使った地域課題の解決方法】
- 14回目：地域課題解決演習(3)【ICTを使った地域課題解決の効果】
- 15回目：発表とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ICT活用演習・・・20%，地域活性化事業の分析・・・20%，地域課題解決演習・・・50%，積極的な授業参加・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、普段の生活においてICTはどのように活用されているのか、また、ICTをどのように活用すれば生活が豊かになるかを常に思考しておくこと。そうすることで、授業中に提示する課題に取り組みやすくなる。

事後学習として、授業中に説明した内容を復習すること。また、授業中に提示された課題については、授業後においても積極的に取り組み、完成度を高める努力をすること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。また、受講者数調整を実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、各回に適した課題や質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。そのため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

ICT活用，地域課題解決，論理的思考力，説得力，アクティブラーニング

基盤力応用 (政治的暴力 < 応用編 >) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES301F			○	◎	△
科目名	基盤力応用		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

基盤力応用 (サブタイトル「政治的暴力 (応用編) 」) は、1・2年次教養科目で戸蒔が担当する「世界特講テロリズム論」「安全保障論」「戦争論」を発展的に継承し、その上位に位置づけられる科目として提供されるものです。

これら科目に共通するのは「政治的な暴力」ですが、各科目15回の中で時間が足りずに扱えなかった内容も色々あり、それらについて考察する科目、という位置づけです。

到達目標

【思考・判断】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。※今年度はコロナ対応なので、感染リスクが高いコミュニケーション力の向上は目標から外します。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを準備します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

基盤力応用 (政治的暴力 < 応用編 >) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「テロ」「安全保障・防衛」「戦争」の3テーマについて、それぞれ5回分をあてることを予定していますが、今年度が初めての開講となるので、内容は未定です。以下は、いまのところ念頭にある計画ですので、内容は大きく変更される可能性があります。

※コロナの状況によって、動画対応になる可能性もあり得ます。

第1回 ガイダンス

第2回 テロ応用 (オウム真理教)

第3回 テロ応用 (9 1 1 とアルカイダ)

第4回 テロ応用 (ISIL)

第5回 テロ応用 (その他。例えば、日本赤軍関連)

(1 ~ 5 までテーマ変更あり。例えば、全てオウム関連とか日本赤軍になる場合もありうる)

第6回 安全保障応用 (現在の日本の状況評価)

第7回 安全保障応用 (島嶼防衛)

第8回 安全保障応用 (ゲリコマ対処)

第9回 安全保障応用 (その他。例。災害派遣、宇サ電など)

第10回 安全保障応用 (安全保障の今後)

(6 ~ 10 までテーマ変更あり。そして、テロと安全保障の関連なども扱うかもしれない)

第11回 戦争応用 (化学兵器と戦争)

第12回 戦争応用 (生物兵器と戦争)

第13回 戦争応用 (戦後の戦争①朝鮮戦争とベトナム戦争)

第14回 戦争応用 (戦後の戦争②中東戦争と湾岸戦争、イラク戦争)

第15回 まとめ

(11 ~ 15 までも同様です)

※最終的に、第1~第3テーマが全て連動しあっている、というところが分かってもらえればなあと思っています。

成績評価の方法 /Assessment Method

対面なら、授業態度30% + 学期末試験 (筆記) 70%。

動画なら、小テスト (5 回) の合計点100%。 (ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1・2年次の関連する授業動画はすべてyoutubeで閲覧可能にしておくので、それを視聴することが事前学習になります。YouTubeのAIが選ぶ「関連動画」を視聴することが事後学習になります。

履修上の注意 /Remarks

可能であれば、「テロリズム論」「安全保障論」「戦争論」のどれか1つでも受講済みであることを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

対面なのか動画なのか分かりませんが、よろしくお願いします。

キーワード /Keywords

ライフ・デザイン特講A (税理士による租税講座) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL107F					◎
科目名	ライフ・デザイン特講A				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、租税に関する正しい知識を得て、責任ある社会の一員として行動できるようになることである。また、税理士及び税理士制度に関心を持ち、将来の選択肢としての税理士や税理士事務所での働き方について学習する。これらの目的を達成するために、本授業では、九州北部税理士会から選定された税理士に会計及び税法の授業を展開してもらう。本授業は、税理士を目指す者及び税理士事務所等に就職する者の増加を目的とする日本税理士会連合会による寄付講座である。

本授業の目標は、以下の通りである。

- ・ 租税が、この国の基本的価値である「自由主義」と「民主主義」を維持させるために必要なものであり、いわば「自由と民主の対価」であることを理解する。
- ・ 課税してはならないもの（担税力のないもの）に対して課税しないことは、個人の尊厳（自由主義）の関係を考える上で重要であることを理解する。
- ・ 国家の運営に必要な資金の負担は国民の間で「公平」であるべきであり、「公平が自由のためにある」ことについて理解する。
- ・ 租税は「担税力のないものに課税しないこと」や「公平」を実現するためにあり、租税の世界の正義（立法動機）を実現するためには租税制度の整備が不可欠であり、法整備によってしか正義の実現はないことを理解する。
- ・ 何のために税があり、何のために税制があるのかについて認識を深める。
- ・ 租税制度（言い換えれば、この国の自由主義と民主主義）を拡充発展させるために設けられた制度が税理士制度であることを理解する。

(到達目標)

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 税理士の業務とその使命
- 3回 租税概論
- 4回 消費税
- 5回 所得税 ①【所得税の概略】
- 6回 所得税 ②【所得税に関する事例】
- 7回 相続税・贈与税 ①【相続税・贈与税の概略】
- 8回 相続税・贈与税 ②【相続税・贈与税に関する事例】
- 9回 法人税
- 10回 会計と法人税
- 11回 ファイナンシャルプランナーと税理士
- 12回 公認会計士と税理士
- 13回 弁護士と税理士
- 14回 税理士の実務
- 15回 まとめ

ライフ・デザイン特講A (税理士による租税講座) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 (毎回の授業で実施する振り返りレポートを含む) ... 80%
まとめレポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことをノートにまとめて、振り返りレポートを締め切りまでに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

九州北部税理士会の都合により、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

九州北部税理士会から選定された税理士に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらおう。このため、以下の注意点に留意すること。
① 「税理士による租税講座」は、2021年度のみ開講である。(2022年度以降の開講は未定である。) 税理士及び税理士制度に関心がある人、将来の選択肢として税理士や税理士事務所で働きたいと考えている人は、ぜひ、受講して欲しい。
② 受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、授業開始前に掲示にて説明する。
③ 毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す学びを深めて欲しい。
④ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。

キーワード /Keywords

税理士、租税、消費税、所得税、相続税、贈与税、法人税、会計士、弁護士

ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 友松 史子 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL207F					◎

科目名	ライフ・デザイン特講B
-----	-------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業は、国際教育交流センターが主催する教員引率型の海外学修プログラムのための講座です。

本授業では下記にある海外学修コースの各訪問先で能動的に学ぶ / 活動に取り組むにあたり、前半は学修テーマや訪問先について理解を深め、後半は現地活動のための準備を行います。また並行して、渡航準備のためのポイントなどを学びながら海外活動に向けた心構えを形成していきます。

そのため、受講するだけでなく、本授業に付随する短期海外学修にも参加し、座学で学んだことを渡航先の活動に活かし、日本ではできない貴重な体験を得ることを通じ、その後の学修や学内外の活動につなげましょう。

なお、渡航に際しては、出国から帰国まで教員が引率し、また渡航準備のための細やかな指導も行います。大学最初のチャレンジとして、海外経験のない学生や海外渡航に不安のある学生も安心して参加できる入門コースです。

渡航先では、渡航コース毎に設定したテーマに基づいたフィールドワークや体験学習に取り組むほか、本学が大学間交流協定を結ぶ大学等を訪問し、協定校の実際の授業を見学・英語講座を受講したり、現地学生たちとの交流するなど様々な形の活動に取り組み、視野を広げや主体的に学び、行動する力を養い、異文化に対する理解を深めます。

この短期の海外学修を契機に、より長期の海外留学につなげたいと思っている学生にとっても良い経験となるでしょう。

2021年度は、次の1コースの実施を予定しています。

- < 学修テーマ > “ハワイの文化と歴史を学ぶ”
- < 渡航先 > アメリカ合衆国・ハワイ州 (オアフ島)
- < 連携大学 > ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ (本学協定校)
- < 渡航期間 > 2022年2月下旬または3月上旬で1週間程度。うち現地での活動は5日間程度。
※具体的な渡航日程は2学期初めに案内予定です。
- < 費用 > 16万円程度
- < 募集人数 > 12～16名

※海外体験の費用は、参加者負担となります。

※渡航で来た場合でも予定していた活動先がCOVID-19の影響等で変更となる可能性もあります。また、渡航先の感染状況によっては渡航中止になる場合があります。あらかじめご了承ください。

なおハワイへ渡航するに際し、本講座のほか、渡航2か月前ほどから開かれる事前研修 (実際の渡航準備やオリエンテーション) への参加が必須となります。

また、帰国後は次年度の参加学生のために活動成果報告書または活動成果報告ポスターを作成します。

< ハワイコースの到達目標 >

- 様々なフィールドでの活動を通じ、これまでと異なる視点を得、それぞれの価値観や考え方の幅を広げる。
- 現地での交流や経験を通じ、異国や異文化への理解を深めるとともに、自国や自文化、自己のアイデンティティについても考える意欲を得る。
- 帰国後学修において、自己の経験や成長を振り返り、言語化し、他者に適切に発信できるとともに、それらをその後の学生生活に活かしていく積極的な姿勢を身につける。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。
授業に必要な資料は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は、適宜、指示しますが、渡航先の国/地域や渡航先で取り組むことに関する書籍だけでなく、映像資料で得る情報も重要な参考資料となります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記第1-15回の授業を9/6(月)~9/10(金)の日程で1日3コマ行います。
各日程と内容は次の通りです。

<1日目>

- 9/6(月) 第01回 コースガイダンス - ハワイスタディーツアーの概要 -
- 9/6(月) 第02回 海外体験目的の明確化と目標設定
- 9/6(月) 第03回 講義：ハワイと日本について

<2日目>

- 9/7(火) 第04回 グループワーク①：ハワイの日系移民とその歴史と訪問先施設について情報収集・整理
- 9/7(火) 第05回 発表、意見交換、訪問先での質問リスト作成
- 9/7(火) 第06回 グループワーク②：Pearl Harbor Historical Siteについて情報収集・整理

<3日目>

- 9/8(水) 第07回 発表、意見交換、訪問先でのリサーチテーマの設定
- 9/8(水) 第08回 グループワーク③：大学紹介の発表資料作成
- 9/8(水) 第09回 大学紹介の実演、資料のブラッシュアップ作業

<4日目>

- 9/9(木) 第10回 グループワーク④：日本文化紹介の発表資料作成
- 9/9(木) 第11回 日本文化紹介の実演、資料のブラッシュアップ作業
- 9/9(木) 第12回 グループワーク⑤：交流活動内容の企画、準備の進め方についてシミュレーション
グループワーク⑥：その他の市内視察やハワイでの過ごし方情報収集

<5日目>

- 9/10(金) 第13回 講義：海外危機管理学修
- 9/10(金) 第14回 講義：渡航準備について、ハワイスタディプラン作成
- 9/10(金) 第15回 スタディプラン発表・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ リサーチ課題・・・50%
- ・ 企画作成課題・・・20%
- ・ 最終課題・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にグループで取り組む課題のための情報収集をしっかり行い、授業に臨んでください。また授業での学びを定着をさせるため、海外学修を事後学修とし、これに参加することを推奨します。なお、詳細は北方Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業ではPC持参のこと
- ・ ハワイでの海外学修コース参加希望の方は本授業を履修してください。

※なお、ハワイコースはKGEP Challengeコースの「海外体験」分野のメダル付与や正式登録のための対象プログラムになります。またはAdvancedコースの修了要件である「国際教育交流センターが提供するプログラム」とすることもできます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

インターネットやメディアの報道で得た情報ではなく、現地で実際に自分の目で見ると、耳で聞く、肌で感じる経験は、視野を広げたり、それまでのものの見方を変えたり、知的好奇心を刺激したり、学問やキャリア形成面にインパクトを与えたりと自分の中で何かが動き出すのを感じると思います。また、現地で様々な活動を行うことで、海外渡航へのハードルも低くなるでしょう。大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、このプログラムではそんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター、海外学修、ファカルティレッドプログラム(FLD)、Kiakyushu Global Challenge Program(KGEP)、Advancedコース、Challengeコース

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

大学生生活を充実させるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ①社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ②将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を聞きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①全体ガイダンス
- ②学びのアップデート
- ③日本の「キャリアデザイン」
- ④日本が迎える大きな変化
- ⑤情報革命
- ⑥日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦中間振り返り
- ⑧お金と情報
- ⑨ビジネスと就活
- ⑩もう一つのキャリアデザイン
- ⑪「働き方」の最新事情
- ⑫日本の潮流、世界の潮流
- ⑬誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮全体振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると 생각합니다。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

（到達目標）

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス キャリアデザインとは
- 第2回 キャリアデザインと大学生活
- 第3回 日本の大学生の姿を通じて
- 第4回 大学生生活の落とし穴とその回避のために
- 第5回 来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
- 第6回 自分を知る
- 第7回 キャリアは「デザイン」できるのか？
- 第8回 留学とキャリアデザイン
- 第9回 これからの働き方
- 第10回 就職とキャリアデザイン
- 第11回 自分の新たな扉を開く
- 第12回 「幸せ」な人生とは？
- 第13回 作品に学ぶキャリアデザイン
- 第14回 先輩からのメッセージ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的>

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・具体的には大学生の本分である学びの深掘、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・就職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアアエンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

<進め方>

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

<目標>

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。そして、アイデンティティ（自分らしさの探求）やコミュニケーション能力、課題解決などを身に付け、社会が必要とする創造力を発揮できる基礎を身につけること。

（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会（税込1,980円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- スブツニ子!『はみだす力』宝島社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 コミュニケーション技法①傾聴
- 4回 コミュニケーション技法②アサーション
- 5回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 6回 社会人インタビューレポート①
- 7回 ロジカルシンキング
- 8回 働くということ(社会人登壇)
- 9回 Digital transformation
- 10回 新しい仕事を創る(ジョブスタ)
- 11回 企業団体研究のノウハウ
- 12回 自分らしい就職活動(先輩登壇)
- 13回 社会人インタビューレポート②
- 14回 計画された偶発性
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・学びの実践レポート)・・・78%
社会人インタビューレポート・・・12%
最終レポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> Moodleに予習・復習・実践課題を掲示しますので、締め切りまでに行ってください。
<インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

<基本事項>
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

<履修者調整について>
※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「ハートが震える機会」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊か

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

にする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさんの学生の履修をお待ちしております。

※人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

メンタル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

(到達目標)

【自立的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類、よくある誤解】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【大人】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第7回 精神と行動の異変(2)【精神疾患】
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業のリアクションを Moodle 上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS003F					◎
科目名	自己管理論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

到達目標

【自立的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (基盤教育セ・日高)
- 2回 社会人のマナー (キャリアセンター・木村)
- 3回 身体の健康 (保健室看護師)
- 4回 心の健康 (相談室・臨床心理士)
- 5回 スポーツと健康 (基盤教育セ・日高)
- 6回 市民生活の基本 (行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課)
- 7回 災害への備え (基盤教育セ・村江)
- 8回 犯罪防止 (小倉南警察署生活安全課)
- 9回 自転車の交通安全 (小倉南警察署交通課)
- 10回 消防と救急 (消防局予防課・救急課)
- 11回 消費者トラブル (消費生活センター)
- 12回 大学生とお金 (福岡県金融広報委員会)
- 13回 ハラスメント防止 (総務局男女共同参画推進課)
- 14回 課題研究
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題 (確認テスト、ミニレポート等) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
- ・ 終了後には、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遠隔授業 (オンデマンド動画配信) の予定。
- ・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらおう。
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が
目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

フィジカル・ヘルス 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

到達目標

コミュニケーション力；他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
自律的駆動力；自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことと考えます。

スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。また、特別講師としておがわ整骨院院長の小川博久先生からテーピングを中心に授業を行います。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 50%
まとめ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後は文献等で再度復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体活動をととして理論と実践を学びます。
積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

健康・安全・衛生

フィジカル・ヘルス 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】 自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的效果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的效果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

フィジカル・ヘルス 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回 ~ 13回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 14回 スキル獲得テスト②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズ I	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ゲーム法の解説
- 9回～14回 ゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

バドミントン、基礎技術、ゲーム、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 下釜 純子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 ヨガストレッチ (1)
- 3回 ヨガストレッチ (2)
- 4回 体幹トレーニング (1)
- 5回 体幹トレーニング (2)
- 6回 バランスボール (1)
- 7回 バランスボール (2)
- 8回 バasketボール (1) ドリブル、パス、シュートの基礎練習
- 9回 バasketボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 10回 選択種目 (1) 【バドミントン】 【卓球】
- 11回 選択種目 (2) 【バレーボール】 【トレーニング】
- 12回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 13回 女性のためのエクササイズ (1)
- 14回 女性のためのエクササイズ (2)
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

バドミントン、基礎技術、ゲーム、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズII
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストローウクの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 仲里 清 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 3回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 4回 ソフトボール(ゲーム①)
- 5回 ソフトボール(ゲーム②)
- 6回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 7回 ソフトボール(ゲーム④・スキル獲得の確認)
- 8回 サッカー(パスの基礎練習)
- 9回 サッカー(シュート・連携)
- 10回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 11回 サッカー(ゲーム②)
- 12回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 13回 フットサル(戦術・ルール把握)
- 14回 フットサル(ゲーム①)
- 15回 フットサル(ゲーム②・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。体育館ではフットサルおよびテニスに替わるラケット種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

ラケット種目、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

到達目標

コミュニケーション力；他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
自立的行動力；自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。
また、フェアプレーも学びます。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70%
スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

時速400キロ・フェアプレー

世界での学び方【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 友松 史子 / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期/2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験させることで、国際理解や知識を拡大させるとともに、語学力の向上につなげさせ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKitakyushu Global Challenge Program (KGEP) / Challengeコースの入門科目となっています（コース修了のための要件科目（必修）です）。

受講を通じ、大学時代に海外での学びを体験してみたいと考えている人に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかについて考えてもらうことで、学生が社会で生きるのに必要とされる「自立的行動力」としての自己を確立する力を涵養することを目的としています。また本学の留学や海外研修プログラム参加のための準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に取り組めるよう、必要な知見や視座を提供することも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学習を通じ、理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私的プログラムとの異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機リスクについて、一定の知見を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験の目標を、自己の成長の観点から、かつ、キャリア設計の観点から、設定することができる。
- ⑤ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験挑戦計画を策定できる。
 - a) 体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
 - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸の観点を導入した計画を立案することができる。
 - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
 - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
 - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑥ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業では、講義を中心としますが、必要に応じ、グループワークや個人作業（海外体験を経験した本学学生や海外協定校からの短期留学生への聞き取りやインタビュー）、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが自身の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。またみなさんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースを修了されることを期待します。

（到達目標）

【自立的行動力】外国での学びに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。
講義資料等は、北方モデルにアップするので、各自、印刷して精読し、持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義時に、適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション ～世界の学び方ってどんな授業～…「千里の道も一歩から」
 - 第02回 北九大の「KGEP」と「海外体験プログラム」の紹介…「敵を知り己を知れば百戦危うからずや」
 - 第03回 北九州市立大学の国際交流の歴史と今…「温故知新」
 - 第04回 キャンパスが世界、グローバル化する地域…「灯台下暗し」
 - 第05回 世界の中の日本…「井の中の蛙大海を知らず」
 - 第06回 ショートプログラム（語学研修など）への参加のすすめ…「隗より始めよ」
 - 第07回 「交換留学」や「派遣留学」への挑戦のすすめ…「虎穴に入らずんば虎子を得ず」
 - 第08回 異文化体験と適応…「柳は緑花は紅」
 - 第09回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう（成長の可視化）…「艱難、汝を玉にす」
 - 第10回 海外での危機管理を考える① - マインドセット編…「転ばぬ先の杖」
 - 第11回 海外での危機管理を考える② - シミュレーション編…「備えあれば患いなし」
 - 第12回 海外体験計画を作成する…「画竜点睛」
 - 第13回 Group 1による海外体験計画の発表会
 - 第14回 Group 2による海外体験計画の発表会
 - 第15回 Group 3による海外体験計画の発表会
- * 留学フェアなどの時期により、講座の入替が生じます。具体的な日程は、初回授業時に指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業課題・・・50%
- 実践課題・・・20%
- 最終課題・・・30%（「海外体験挑戦計画」書：30%＋発表：10%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業に臨むことを求めます。また指示に従い、事後学習（課題）を進め、授業内容の定着を図ってください。詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、国際教育交流センターが所管する Kitakyushu Global Education Program (KGEP) の一部です。国際教育交流センターの海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集手続きを行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター、国際交流、海外体験、交換留学、派遣留学、語学研修、海外短期研修、Kitakyushu Global Challenge Program (KGEP)

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR210F					◎
科目名	プロフェッショナルの仕事				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 事業の概要 (特にコロナ禍における現状、および今後の方向性について)
2. 仕事の概要 (ご自身の1年目、3年目、5年目の仕事内容と、仕事のやりがい)
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ (学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス)

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。(到達目標)【自立的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です(敬称略・順不同)。

<2020年度> TOTOインフォム、タカギ、日本航空 (JAL)、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会 (NHK)、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug

<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグिव・ニーズ (T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ (teamLab)、労働基準監督官 (厚生労働省)、カモ井加工紙 (mt)、大創産業 (ダイソー)、西日本旅客鉄道 (JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸 (ANA)、本田技研工業 (HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

<2018年度> ファミリア、日本航空 (JAL)、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

<2017年度> サニーサイドアップ、ジンス (JINS)、JR九州エージェンシー、全日本空輸 (ANA)、日本放送協会 (NHK)、キャメル珈琲 (カルティ・コーヒーファーム)、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス (モスバーガー)、日本たばこ産業 (JT)、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、力の源ホールディングス (一風堂)、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造 (獺祭)

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会 (NHK)、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、九州旅客鉄道 (JR九州)、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空 (JAL)、ニトリ、北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91%
最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR211F					◎
科目名	企業・団体の課題解決		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。

<進め方> 以下の流れで企業団体（3団体を予定）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1. 企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。（到達目標）【自立的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
 ○ジェームス W. ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
 ○嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』デイスカヴァー・トゥエンティワン
 ○加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
 ○加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
 ○大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
 ○大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
 ○上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
 ○安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
 ○伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 【団体A】課題提示
- 第03回 【団体B】課題提示
- 第04回 【団体C】課題提示
- 第05回 ロジカルシンキング
- 第06回 アイデアの作り方
- 第07回 相談日
- 第08回 【団体A】中間発表とフィードバック
- 第09回 【団体B】中間発表とフィードバック
- 第10回 【団体C】中間発表とフィードバック
- 第11回 課題解決の仕方（デザイン思考）
- 第12回 相談日
- 第13回 【団体A】最終プレゼンテーション
- 第14回 【団体B】最終プレゼンテーション
- 第15回 【団体C】最終プレゼンテーション

※参考

<2020年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォーム株式会社

新たな採用活動手法の提案（選ばれる・目につく）

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

これからのウェディングに求められるものとは？（誰のためか・他社との違い・今までとの違い・明確な目的）

■株式会社タカギ

コロナショックの今だからこそ、タカギができることは何か？（資産を活用する・1000万円・2021年4月成果報告）

■SALASUSU（カンボジアのNPO）

新規プロジェクトを盛り上げよ！（オンラインショッピング、オンラインツアーなど）

<2019年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォーム株式会社

社員が安心して働ける職場を実現するには？

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

今までにない感動を体感できるウェディングとは？

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

<2018年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

毎日見たくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには？

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

■株式会社スターフライヤー

新しい機内販売の提案

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）…56%

最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）…30%

最終レポート…14%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

※第2～4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

Communicative English I (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習などを取り込みます。

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

Quick Exercises for the TOEIC L&R TEST 500 Listening (松柏社) ISBN978-4-88918-749-0 1,430円

連続ミステリー：もうひとりの自分 (朝日出版) ISBN978-4-255-15445-9 1,700円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時、あるいは moodle 上で指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の力をつける①)	読解 (単語と文法の力をつける①)
3回	聴解 (単語と文法の力をつける②)	読解 (単語と文法の力をつける②)
4回	聴解 (単語と文法の力をつける③)	読解 (単語と文法の力をつける③)
5回	聴解 (単語と文法の力をつける④)	読解 (表現に注目する①)
6回	聴解 (英語の音に注目する①)	読解 (表現に注目する②)
7回	聴解 (英語の音に注目する②)	読解 (表現に注目する③)
8回	聴解 (英語の音に注目する③)	読解 (文脈を考える①)
9回	聴解 (英語の音に注目する④)	読解 (文脈を考える②)
10回	聴解 (多様な英語に注目する①)	読解(文脈を考える③)
11回	聴解 (多様な英語に注目する②)	読解 (言語外の知識を利用する①)
12回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える①)	読解 (言語外の知識を利用する②)
13回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える②)	読解 (言語外の知識を利用する③)
14回	聴解 (「聞き取る」から「理解する」へ)	読解 (訳読からテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時、あるいは moodle 上で指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

Communicative English I (中 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。
また、初回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition (センゲージラーニング) (¥2,200 [税込])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC(R) TEST 英単語 出るとこだけ! (アルク) 小石裕子・Dorey, Paul (著) (¥1,980 [税込])

○TOEIC(R) TEST 英文法 出るとこだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,320 [税込])

○TOEIC(R) TEST リスニング 出るとこだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,760 [税込])

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Unit 1: Shopping (動詞)
- 第 3 回 Unit 2: Daily Life (名詞)
- 第 4 回 Unit 3: Transportation (代名詞)
- 第 5 回 Unit 4: Jobs (形容詞と副詞)
- 第 6 回 Unit 5: Meals (時制)
- 第 7 回 Unit 6: Communication (受動態・分詞)
- 第 8 回 Unit 1~6 の振り返り / 腕試し
- 第 9 回 Unit 7: Fun (動名詞と不定詞)
- 第 10 回 Unit 8: Office Work (助動詞)
- 第 11 回 Unit 9: Meeting (比較)
- 第 12 回 Unit 10: Travel (前置詞)
- 第 13 回 Unit 11: Finance (接続詞)
- 第 14 回 Unit 12: Business (関係詞)
- 第 15 回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English I (中 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

Communicative English II (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では英語力の基盤となる文法知識の復習とともに、リーディング学習では教科書の精読に英文多読を適宜交えて、読む力を伸ばします。リスニング学習では、事前・事後学習を含めて、実践的な聴く力を伸ばします。また授業では、理解度を測る小テスト[事前に指定された教科書の内容が中心となる]を実施します。

教科書 /Textbooks

北尾泰幸 他 『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 -advanced- 』 (朝日出版社)
(¥1870 [税込み])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle (学習システム) にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1 Eating Out リスニング&文法(八品詞・句と節)
- 3回 Unit 1 Eating Out リーディング&文法(文型)
- 4回 Unit 2 Travel リスニング&文法(時制 - 現在・過去)
- 5回 Unit 2 Travel リーディング&文法(時制 - 未来)
- 6回 Unit 3 Amusement リスニング&文法(時制3 - 現在完了形)
- 7回 Unit 3 Amusement リーディング&文法(時制4 - 過去・未来完了形)
- 8回 Unit 4 Meetings リスニング&文法(動詞 - 動詞分類)
- 9回 Unit 4 Meetings リーディング&文法(動詞2 - 能動態・受動態)
- 10回 Unit 5 Personnel リスニング&文法(動詞3 - 現在分詞)
- 11回 Unit 5 Personnel リーディング&文法(動詞4 - 過去分詞)
- 12回 Unit 6 Shopping リスニング&文法(関係代名詞1 - 制限用法)
- 13回 Unit 6 Shopping リーディング&文法(関係代名詞2 - 非制限用法)
- 14回 Unit 7 Advertisement リスニング&文法(関係副詞1 - 制限用法)
- 15回 Unit 7 Advertisement リーディング&文法(関係副詞2 - 非制限用法) & まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト・・・30%, 平常の学習状況(小テストを含む)・・・70%

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English II (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習などを取り込みます。

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またある程度の難易度の読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

600点をめざす新TOEIC(R) TEST リスニング対策問題集 (松柏社) ISBN4-88198-572-8 1,100円
イギリス人特派員が見た日本 (金星堂) ISBN978-4-7647-4041-9 2,090円

その他、適宜、プリントをいたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時、あるいは moodle 上で指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の力をつける①)	読解 (単語と文法の力をつける①)
3回	聴解 (単語と文法の力をつける②)	読解 (単語と文法の力をつける②)
4回	聴解 (単語と文法の力をつける③)	読解 (単語と文法の力をつける③)
5回	聴解 (単語と文法の力をつける④)	読解 (表現に注目する①)
6回	聴解 (英語の音に注目する①)	読解 (表現に注目する②)
7回	聴解 (英語の音に注目する②)	読解 (表現に注目する③)
8回	聴解 (英語の音に注目する③)	読解 (文脈を考える①)
9回	聴解 (英語の音に注目する④)	読解 (文脈を考える②)
10回	聴解 (多様な英語に注目する①)	読解(文脈を考える③)
11回	聴解 (多様な英語に注目する②)	読解 (言語外の知識を利用する①)
12回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える①)	読解 (言語外の知識を利用する②)
13回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える②)	読解 (言語外の知識を利用する③)
14回	聴解 (「聞き取る」から「理解する」へ)	読解 (訳読からテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時、あるいは moodle 上で指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

Communicative English II (中 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。
また、初回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 1A - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

「税込価格：3,091円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Living for Work 1
- 第3回：Living for Work 2
- 第4回：Good Times 1
- 第5回：Good Times 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：The Marketing Machine 1
- 第8回：The Marketing Machine 2
- 第9回：Wild Weather 1
- 第10回：Wild Weather 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：Focus on Food 1
- 第13回：Focus on Food 2
- 第14回：Consolidation
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and do the assignments before class

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all homework assignments for this course.

Communicative English III (中 1 - A) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's all have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based language learning

Communicative English III (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

Due to the nature of the Covid19 pandemic, ALL aspects of this syllabus is subject to change depending on how we might need to do classes face to face, or do them online/on-demand. In the case of those changes, the Instructor will provide as much instruction as possible. In all cases, we will make extensive use of the University's Teams for providing material and collecting assignments.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3rd edition 2 A by Ken Wilson Oxford University Press 2695 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

In the case of doing assignments and classes online, you will require internet access from a computer as well as a working video camera.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Course Introduction: Basic writing. Self Introduction Using Teams. Covid19 contingencies.
2. Unit 1 Speaking basics: How was your vacation? vocabulary, conversation and language practise
3. Writing and reading A tough vacation and likes and dislikes
4. Unit 2 Speaking basics: I think it is exciting vocabulary, conversation and language practise
5. Writing and reading Movie disasters and introducing yourself to a pen pal
6. Unit 3 Speaking basics: Do it before you're 30 vocabulary, conversation and language practise
7. Writing and reading Have you seen anything like this? write an interview with a celebrity
8. Review of Units 1,2 and 3
9. Unit 4 Speaking basics: The best place in the world! vocabulary, conversation and language practise
10. Writing and reading, the most dangerous place in the world Write a description of the city where you live
11. Unit 5 Speaking basics Where's the party? vocabulary, conversation and language practise
12. Writing and reading Festival time in Latin America and write about a festival in your country
13. Unit 6 Speaking basics: You should try it! vocabulary, conversation and language practise
14. Writing and reading Are you a stressed out student? Write about a class you have just started taking.
15. Test Practice

成績評価の方法 /Assessment Method

Class writing and peer journal 20% and final exam 80%

This part of the syllabus is also subject to change depending on how the class is conducted; whether online or face to face.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion. All content subject to change at instructor's discretion.

During online classes, inattention to the class is prohibited and subject to penalty.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you a chance to use the English you have studied in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2B 3rd edition by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602785
2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
Week 5 Unit 8 I like people who are smart.(B)
Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
Week 8 Review of Units 7-9
Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English IV (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 1B - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

「税込価格：3,091円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Housing for the Future 1
- 第3回：Housing for the Future 2
- 第4回：Exploring Space 1
- 第5回：Exploring Space 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：Creative Arts 1
- 第8回：Creative Arts 2
- 第9回：Our Relationship with Nature 1
- 第10回：Our Relationship with Nature 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：How can we Communicate 1
- 第13回：How can we Communicate 2
- 第14回：Consolidation
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

Communicative English IV (中 1 - B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based language learning

Communicative English V (中2年) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST : INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」 番場直之 他著 金星堂 ￥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ￥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purshasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

Communicative English V (中 2 年) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (中 2 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

- ◎“BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST –REVISED EDITION-” (TOEIC LISTENING AND READING TESTへの総合アプローチ-改訂新版-) (著者) 吉塚弘他共著 成美堂 ¥2,420
- ◎“TOEIC®L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ” (著者) TEX加藤 朝日新聞出版 ¥979

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant、(金のフレーズ)単語小テスト1
- 3回 Unit 2 Entertainment、U. 1単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト2
- 4回 Unit 3 Business、U. 2単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト3
- 5回 Unit 4 Office、U. 3単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト4
- 6回 Unit 5 Telephone、U. 4単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト5
- 7回 Unit 6 Letter & E-mail、U. 5単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト6
- 8回 Unit 7 Health、U. 6単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト7
- 9回 Unit 8 Bank & Post Office U. 7単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト8
- 10回 Unit 9 New Products、U. 8単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト9
- 11回 Unit 10 Travel◎、U. 9単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト10
- 12回 Unit 11 Travel◎、U. 10単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト11
- 13回 Unit 12 Job Applications、U. 11単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト12
- 14回 Unit 13 Shopping、U. 12単語小テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%
最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

Communicative English VI (中 2 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English VII (中2年) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion during and after class. The focus will be on developing critical thinking skills and academic writing ability.

教科書 /Textbooks

World in Focus (National Geographic Learning)

「税込価格：2,860円」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Orientation
- 第2回 A Taste of Mexico (Food and Culture 1)
- 第3回 Lightening (Extreme Weather Science 1)
- 第4回 Penguins in Trouble (Life Science 1)
- 第5回 Parasomnia (Human Psychology 1)
- 第6回 Maasai Teacher (Anthropology 1)
- 第7回 Living in Venice (Lifestyle and Culture 1)
- 第8回 Tornado Chase (Extreme Weather Science 2)
- 第9回 Treasures in Old San Juan (Food and Culture 2)
- 第10回 Bee Therapy (Anthropology 2)
- 第11回 Inca Mummy (Archeology 1)
- 第12回 Global Warming (Extreme Weather Science 3)
- 第13回 More Water for India (Anthropology 3)
- 第14回 Tsunami: Killer Wave (Life Science 2)
- 第15回 Mecca (Lifestyle and Culture 2)

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

Communicative English VII (中 2 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Topic based discussion and writing

Communicative English VIII (中 2 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。又、この授業は、映像を通して英語圏の文化や人々の考え方を認識すると同時に英語能力を高めることも目的とします。

（到達目標）

[技能]英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施する。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Warm-up, Vocabulary Preview, Getting to know the place, Learning More, Listening, Reading, American Voices をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
又、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力、及び、他人に自分の考えを発信する力を養成する。

教科書 /Textbooks

『American Vibes-People, Places and Perspectives』
著者：Todd Rucynski, Yoko Nakagawa,
2020年1月 発行、 ¥2,700 (税別)
出版社：金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

Communicative English VIII (中 2 年) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3 回 Chapter 2 Maine
- 4 回 Chapter 3 New York City 1
- 5 回 Chapter 4 New York City 2
- 6 回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 7 回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8 回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 9 回 Chapter 8 Oswego, New York
- 10 回 Chapter 9 Austin, Texas
- 11 回 Chapter10 Saint Jo, Texas
- 12 回 Chapter11 Santa Fe, New Mexico
- 13 回 Chapter12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14 回 Chapter13 Los Angeles 1
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する)(20%)
- ③ 期末考査(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

Intermediate English I (中 2 I - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 2 I - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG301F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。
(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

VOA (Voice of America)のニュース記事を使って、英語をトレーニングする授業です。毎週短めの記事をピックアップします。VOAの中でも Learning Englishのセクションに上がっている非英語話者向けの記事を使いますので、語彙、文法、読み上げスピードのどれも頑張れば十分に手が届くレベルです。

授業ではピックアップしたニュース記事、レポート記事をじっくりと読みます。単語はクイックレスポンスできるまで繰り返し練習し、登場した単語は正しく発音できるまで徹底練習、文法ルールは分かるまで丁寧に。内容をしっかり理解した後は、動画や音声を使ってシャドーイングやリピーティングの練習を個人、ペア、グループで行います。

ピックアップした記事をいろいろな角度から、いろいろなやり方でモノにしていきます。

教科書 /Textbooks

使用しません。VOAのサイト上に公開されている素材を使います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自、高校時代に使用していた参考書など、しっかり読み返しましょう。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション (授業の進め方、グループわけ、アプリ紹介)
- 2 . VOAニュース記事 教育分野
- 3 . VOAニュース記事 文化分野
- 4 . VOAニュース記事 政治分野
- 5 . VOAニュース記事 医療分野
- 6 . VOAニュース記事 経済分野
- 7 . VOAニュース記事 環境分野
- 8 . 前半のまとめ
- 9 . VOAニュースレポート 国際開発
- 10 . VOAニュースレポート 農業
- 11 . VOAニュースレポート 医療
- 12 . VOAニュースレポート 技術
- 13 . VOAニュースレポート 環境
- 14 . 後半のまとめ
- 15 . 授業全体のまとめ

Intermediate English I (中 2 I - A) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ペア / グループワークへの参加度 : 20%
小テスト : 30%
期末試験 : 50%
最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第 1 回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

単語テストを毎週しますので、その準備を怠らないこと

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に 1 回 TOEIC (TOEFLE) を受験することが義務づけられています。第 1 回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

VOA

Intermediate English I (中 2 I - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 中 2 I - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG301F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

15 Topics for Tomorrow's World/世界の未来を占う最重要トピック15 (松柏社) (¥2,090 [税込])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

速読速聴・英単語 Core1900 ver.5 (Z会) 松本茂 (著) (¥2,090 [税込])

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1: 人工知能が高齢者介護に与える影響
- 第3回 Unit 2: シェアリング経済の未来は中国にあり
- 第4回 Unit 3: プラスチック海洋汚染へのイギリスの取り組み
- 第5回 Unit 4: ビッグデータと人工知能を用いた犯罪予測システム
- 第6回 Unit 5: アメリカの肥満まん延に政府が取り組むべきこと
- 第7回 Unit 6: ウェールズにおけるLGBT も包括した性教育への見直し
- 第8回 Unit 1~6の振り返り
- 第9回 Unit 7: 自動運転車と高齢者の未来
- 第10回 Unit 8: ミレニアル世代はミニマリズムに生きる
- 第11回 Unit 9: FIFA のe ワールドカップはホンモノに追い付きつつある
- 第12回 Unit 10: 加工した自撮り写真とスナップチャット醜形恐怖症
- 第13回 Unit 11: ニューヨーク市の公立学校における食育の取り組みと課題
- 第14回 Unit 12: IT企業のトップガバナーシックインカムを支持する理由
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

Intermediate English I (中 2 I - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

キーワード /Keywords

Intermediate English II (中 2 I - A) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 2 I - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG311F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。
(到達目標)

- 【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
- 【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
- 【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

World English 3A (Third Edition), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13033-9

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

Intermediate English II (中 2 I - A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all-English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

Intermediate English II (中 2 I - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 2 I - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG311F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of reading, listening and critical thinking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. Students will also give a short presentation.

教科書 /Textbooks

In Focus 3: A vocabulary, reading and critical thinking skills course, (2nd ed.), Browne, Culligan & Phillips, Cambridge, ISBN: 978-1-107-68007-4
¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Topic 1 – Critical Cartoon, Core Vocabulary & Reading Skills
- 3回 Topic 1 – Researching, Critical Thinking & Discussion
- 4回 Topic 2 – Critical Cartoon, Core Vocabulary & Reading Skills
- 5回 Topic 2 – Researching, Critical Thinking & Discussion
- 6回 Topic 3 – Critical Cartoon, Core Vocabulary & Reading Skills
- 7回 Topic 3 – Researching, Critical Thinking & Discussion
- 8回 Topic 3 Presentation Preparation
- 9回 Topic 3 Presentations
- 10回 Topic 4 – Critical Cartoon, Core Vocabulary & Reading Skills
- 11回 Topic 4 – Researching, Critical Thinking & Discussion
- 12回 Topic 5 – Critical Cartoon, Core Vocabulary & Reading Skills
- 13回 Topic 5 – Researching, Critical Thinking & Discussion
- 14回 Topic 6 – Critical Cartoon, Core Vocabulary & Reading Skills
- 15回 Topic 6 - Researching, Critical Thinking & Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 30%, Homework 15%, Presentation 10%,
Final Exam 20%

Intermediate English II (中 2 I - B) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary and reading skills. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make one presentation in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take about 60 minutes.

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Higher English I (2 H-A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Reading, Listening, Speaking
3. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Discussion, Writing
4. Global English: Englishes Galore - Reading, Listening, Speaking
5. Global English: Englishes Galore - Discussion, Writing
6. Entrepreneurship: Successes and Failures – Reading, Listening, Speaking
7. Entrepreneurship: Successes and Failures – Discussion, Writing
8. How do Humans Master Foreign Languages? – Reading, Listening, Speaking
9. How do Humans Master Foreign Languages? – Discussion, Writing
10. 'Reading' Film: Reading, Listening, Speaking
11. 'Reading' Film: Discussion, Writing
12. Company and Career: Big vs Small? – Reading, Listening, Speaking
13. Company and Career: Big vs Small? – Discussion, Writing
14. The Pros and Cons of more immigration - Reading, Listening, Speaking
15. The Pros and Cons of more immigration- Discussion, Writing

成績評価の方法 /Assessment Method

60% - attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination

40% - Quizzes

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you all.

キーワード /Keywords

Higher English II (2 H-A) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次 / 2単位 /Credits: 2単位 / 学期 /Semester: 2学期 / 授業形態 /Class Format: 講義 / クラス /Class: 中国済営比人律政

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school and university. We will cover a variety of topics while we improve your English ability. The course will be quite demanding as it will require a large amount of reading, writing, speaking, and listening. While it may be relatively demanding, another goal for the course is that it will be intellectually stimulating for students.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 6) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the class, getting acquainted
- 2回 Conversation strategies, note-taking
- 3回 Assignment 1
- 4回 Discussion 1
- 5回 Assignment 2
- 6回 Discussion 2
- 7回 Assignment 3
- 8回 Discussion 3
- 9回 Assignment 4
- 10回 Discussion 4
- 11回 Assignment 5
- 12回 Discussion 5
- 13回 Assignment 6
- 14回 Discussion 6
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.). We may use a CALL (computer-assisted language learning) classroom. In the CALL room, you will be required to bring your own headset (earphones and microphone).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。
到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第11課 指定詞の丁寧形【～です】
- 13回 第12課 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 第11課と第12課の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅲと並行して受講することが望ましい。

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。

この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

巖基珠、金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年。2200円+税。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭 『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年。2500円+税。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音】
- 4回 文字の発音及び書き順3【濃音】【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 文字の発音及び書き順4【母音2】
- 6回 文字の発音及び書き順5【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 7回 発音の法則【連音化】【激音化】【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】単語読みと書き取りのドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 指示・人称代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど】
- 13回 かしこまった丁寧形 用言活用の仕組み
- 14回 数詞のまとめ 【漢字語数詞、固有語数詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み、小テスト、課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい韓国語授業にしたいと思います。そうするためには皆様の手も必要ですので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【母音】【基本挨拶表現①】
- 3回 文字と発音【子音①】【基本表現②】
- 4回 文字と発音【子音②】【基本表現③】
- 5回 文字と発音【子音③】【合成母音①】【基本表現④】
- 6回 文字と発音【激音】【合成母音②】
- 7回 文字と発音【濃音】【合成母音③】
- 8回 発音の規則【終声・パッチム】
- 9回 発音の規則【連音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【濃音化】【流音化】【その他】
- 11回 文字と発音の復習【日本語のハングル表記】
- 12回 指定詞の丁寧形【～は～です】
- 13回 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 語彙と文型の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Iで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話対応】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上がりますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - b) 【昼】

担当者名
/Instructor

休講

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中比人 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級段階で必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第13課 どこで習っていますか？【かしまった丁寧形◎】
- 4回 第14課 暑くありませんか？【かしまった丁寧形の否定表現】
- 5回 フリートーキング
- 6回 数詞のまとめ
- 7回 第15課 誕生日はいつですか？【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 8回 第16課 どこに住んでいますか？【指定詞以外の打ち解けた丁寧形】
- 9回 復習とフリートーキング
- 10回 第17課 先生いらっしゃいますか？【特殊な尊敬語】
- 11回 第18課 何をお探しですか？【打ち解けた丁寧形の尊敬表現】
- 12回 第19課 何をしましたか？【過去形】
- 13回 復習とフリートーキング
- 14回 何を召し上がりますか？【好みを言ってみよう】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅳと並行して受講するほうが望ましい。

朝鮮語II (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現によって異なる言葉遣いにおける学習、短文の読解ができるための基礎文法を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

厳基珠、金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年。2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Iの学習内容確認、復習
- 2回 用言の否定表現
- 3回 丁寧形I、エヨ・イエヨ・アニエヨ。
- 4回 漢字語・固有語固数字【誕生日】【年齢】【時刻】
- 5回 助詞のまとめ
- 6回 丁寧形2 - 1【打ち解けた丁寧形】
- 7回 丁寧形2 - 2【打ち解けた丁寧形】ドリル
- 8回 尊敬表現1【用言】
- 9回 尊敬表現2【特殊な尊敬語、名詞、助詞】
- 10回 尊敬表現敬3【数字と敬語を使った場面会話練習】
- 11回 過去形【합니다体の過去】【해요体の過去】
- 12回 過去形のドリル【日記作成】
- 13回 好みを尋ね合う【注文場面の会話練習】
- 14回 希望・勧誘・提案表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み、小テスト、課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回する予定の練習問題をノートに予習すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅳの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文法をしっかり勉強すると会話が楽しくなりますので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅰで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』 巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅰの復習
- 2回 動詞の丁寧形【ハムニダ体①】【～を】
- 3回 形容詞の丁寧形【ハムニダ体②】【数詞①】
- 4回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 5回 指定詞の丁寧形【ヘヨ体①】【～です】【～ではありません】
- 6回 数詞のまとめ【数詞②】【年齢】【日付】
- 7回 助詞のまとめ【作文練習】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形【ヘヨ体②】
- 9回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 10回 用言の尊敬形①【ハムニダ体】
- 11回 用言の尊敬形②【ヘヨ体】【特殊な尊敬語】
- 12回 尊敬形のまとめ【作文練習】
- 13回 用言の過去形①【ハムニダ体】
- 14回 用言の過去形②【ヘヨ体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の実践的運用や韓国文化理解の第一歩として、朝鮮語の基礎力・基礎知識を習得することを目標に、講義を進める。朝鮮語学習の初級段階において最も重要な発音の訓練に重点を置き、ハングル文字について解説する。発音や文字に慣れる作業と並行して、基礎的な語彙・文法、簡単な挨拶文や会話表現を紹介する。授業においては毎回、発音練習を課す。また基礎的な語彙や文章表現の暗誦・作文などを課す。
・到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）。その他、授業において提示する資料。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1.金恵媛・李文相・朴賢珠（2007）『サランヘヨ！ハングル-初級から中級へ-』白帝社
- 2.金恵媛ほか（2009）『サランヘヨ！ハングル-別冊練習帳』白帝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化の紹介【映像資料】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ベアで指示代名詞の質問と応答】【自己紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点、小テスト、課題...80% 期末試験...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容についての事前学習、授業内容についての事後学習を推奨する。

履修上の注意 /Remarks

関連の講義を幅広く受講することにより、朝鮮語スキルのより高いレベルを目指すことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語を学ぶことは、韓国への理解を深めるための第一歩です。楽しく学び、しっかり身につけましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...50% 期末試験...50%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すれば、しっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主としてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ！韓国語』白水社 2014年。2300円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円＋税

田谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【かしまった「です・ます」体の作り方】
- 11回 韓国文化紹介【映画鑑賞】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 13回 家族紹介【存在詞を使ってペアで質問と応答】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで趣味・専攻などを質問と応答】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 平常の学習状況、小テスト、課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

朝鮮語Ⅲ (1 - c) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語Ⅲ (1 - d) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲの履修を受け、朝鮮語の実践的運用や韓国文化理解のために、朝鮮語の基礎力・基礎知識を学習する。授業内容は、朝鮮語Ⅲをステップアップした内容で、ハングル表記をマスターする。応用的な語彙・文法を習得し、少し長めの文章・平易な会話表現などを習得することを目標とする。

・到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）。授業において提示する資料。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1.金恵媛・李文相・朴賢珠（2007）『サランヘヨ！ハングル-初級から中級へ-』白帝社
- 2.金恵媛ほか（2009）『サランヘヨ！ハングル-別冊練習帳』白帝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形 1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞 1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字 1【【おいくらですか】【買い物】
- 3回 助詞 2、漢数字 2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日？】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形 2【해오체】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形 2【해오체】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해오체」の不規則、固有数字 1【一つ、二つ...】
- 8回 「해오체」のドリル、固有数字 2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ベアの質問と応答練習】【못~, ~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 グループ発表(会話)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点、小テスト、課題、発表80%、期末試験20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容についての事前学習、授業内容についての事後学習を推奨する。

履修上の注意 /Remarks

関連の朝鮮語授業を並行して受講することによって復習効果が得られるとともに、朝鮮語のコミュニケーション能力を向上させることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語を学ぶことは、韓国への理解を深めるための第一歩です。楽しく学び、しっかり身につけましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor	休講											
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中比人 1年			
対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」	
KRN112F		◎				
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法における類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいくらですか】【買い物】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日?】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해오体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해오体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해오体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해오体」のドリル、固有数字2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ベアの質問と応答練習】【못~,~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 DVD視聴
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...50% 期末試験...50%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すれば、しっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法における類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ!韓国語』白水社 2014年。2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税
油谷幸利他『ポケットプロダクティブ韓国・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、助詞と疑問詞のまとめ復習
- 2回 うちとけた「です・ます」体(해요体)の作り方
- 3回 月日の言い方【何曜日・何月何日】【韓国の記念日】
- 4回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 5回 【僕の一週間の予定】発表
- 6回 不規則な「해요体」
- 7回 動詞・形容詞の否定文、行為目的表現【～しに行く・来る】
- 8回 好き・嫌いを尋ね合う、場所の単語を覚える
- 9回 韓国文化紹介【言語表現・しぐさ】
- 10回 過去形のドリル
- 11回 希望表現【日記作成・発表】
- 12回 反対語・関連語で単語を覚える練習
- 13回 予定・推測表現
- 14回 理由や根拠、動作の進行・状態を表す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 50%、日常の授業への取り組み、小テスト、課題... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～ありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語Ⅳ (1 - d) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN201F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語の基礎的な文法・語彙・表現力などをさらに深め、初級文法の完成を目指す。テキストの他、応用作文の練習を多く行い、簡単な手紙、日記などの文章が書けるようになること、また同程度の読解ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などは調べる。
また、授業終了後は復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。
朝鮮語Ⅶと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN211F		◎			
科目名	朝鮮語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、次回までに復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。

朝鮮語VIIと並行して受講するほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN202F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아서서】
- 10回．第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回．第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回．第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回．第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回．第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2学期 /Semester 単位 /Credits 1単位 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN212F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅷ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-르/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 がしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄴ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ/는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN301F		◎			
科目名	上級朝鮮語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標にする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．授業概要、オリエンテーション(韓国語で自己紹介を含む)
- 2回．読解【私の新年計画、韓国で人気のある職業】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-가/이 되다, -(으)려고, -는 동안(에)】
- 4回．作文発表【夢と将来の計画について】
- 5回．読解【韓国社会人の悩み、進路についての悩み】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-는 건 어때요?/-는 게 좋겠다/-때문에】
- 7回．作文発表【悩みについて】
- 8回．読解【自分の願望のために現在やっていること】
- 9回．聞き取り、会話・文型練習【-기 위해서/ -거나/-(으)면 좋겠다】
- 10回．読解【大衆文化、韓国映画】
- 11回．韓国映画鑑賞
- 12回．読解【韓国の住居環境、部屋探し】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-보다/-지요/-중에서】
- 14回．作文発表【自分が今住んでいる家と将来住みたい家】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

単元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN311F		◎			
科目名	上級朝鮮語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活だけでなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．読解【韓国の交通手段、道路標識】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-(으)로 해서, -(으)까요?,-(으)르 것 같다】
- 4回．作文発表【自分の国と他の国の交通事情を比較】
- 5回．読解【宿泊先の予約】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-기 때문에, -(으)로,-밖에】
- 7回．作文発表【宿泊先に予約のメールを送る】
- 8回．韓国の観光事情について話し合う
- 9回．読解【インターネットバンキング、銀行事情】
- 10回．聞き取り、会話・文型練習【-고 나서, -(으)려면, -에다가】
- 11回．作文発表【自分の国と他の国のインターネット事情を比較】
- 12回．読解【終了式】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-(으)는지, -(으)르 게요】
- 14回．作文発表【学期を終えての感想を発表】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み発・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

課題提出の締め切りをしっかりと守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM101F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書きます、それを発音します。

例えば、

Um wie viel Uhr gehen Sie ins Bett?

Ich gehe um elf Uhr ins Bett.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ぼうつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をするのでしょうか。【未来形】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM111F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

到達目標

日常生活の行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「昨日何時に寝ましたか。」とその答え。
Um wie viel Uhr sind Sie ins Bett gegangen?
Ich bin um elf Uhr ins Bett gegangen.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょう。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語II【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM102F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君のお父さんの職業は何ですか。」とその答え。

Was ist dein Vater von Beruf?

Mein Vater ist Angestellter.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM112F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は週末に何をしましたか。」とその答え。

Was hast du am Wochenende gemacht?

Ich habe gejoggt.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM201F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅴ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

自分の日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は昼食に何を食べますか。」とその答え。

Was isst du zu Mittag?

Ich esse Udon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語V 【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM211F		◎			
科目名	ドイツ語VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君はもうクリスマスを楽しみにしていますか。」とその答え。

Freust du dich schon auf Weihnachten?

Ja, schon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語VI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM202F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」で検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをすると
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM212F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」を検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くととき、相手の感想を聞くととき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くととき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くととき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くととき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN101F		◎			
科目名	フランス語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『バリーポルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第7課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音と綴り字
- 2回 自己紹介をする
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の活用
- 4回 物を指し示す
- 5回 名詞と不定冠詞、形容詞の性・数の一致と位置
- 6回 尋ねる
- 7回 第一群規則動詞、定冠詞
- 8回 買い物をする
- 9回 動詞avoirの活用、否定文
- 10回 物や人について尋ねる
- 11回 動詞allerと近接未来、疑問代名詞
- 12回 場所を尋ねる
- 13回 所有形容詞、疑問形容詞
- 14回 ~したいと言う
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)

遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

フランス語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN111F		◎			
科目名	フランス語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『バリーポルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って2学期は第8課から第14課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 興味を述べる
- 2回 定冠詞の縮約、補語人称代名詞
- 3回 誘う
- 4回 代名動詞、中性代名詞 y
- 5回 天候と時刻を言う
- 6回 非人称構文、命令形
- 7回 数量を表す
- 8回 部分冠詞、中性代名詞 en
- 9回 比較する
- 10回 比較級、単純未来
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去、半過去
- 13回 仮定する
- 14回 条件法現在
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)

教科書は1回目の講義から用意しておくこと。

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN102F		◎			
科目名	フランス語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
日本では「欧米」と一言で括られがちなフランスと英米との言語的、文化的な違いなども交えながら、皆さんがご自身の専攻する言語とは異なる外国・外国語について発見する機会にしたいと思います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『パリ-ポルドー』（藤田裕二著 朝日出版 2500円+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や、必要に応じて、授業中に紹介致します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、自己紹介
- 第2回：1課Dialogue、主語人称代名詞、アルファベの読み方、発音記号
- 第3回：動詞êtreの活用、国籍を表す形容詞、子音の発音
- 第4回：2課Dialogue、名詞と不定詞、母音の発音
- 第5回：指示代名詞ce、形容詞の性・数の一致と位置、複合母音の発音
- 第6回：小テスト①、3課Dialogue、規則動詞、鼻母音
- 第7回：不定詞、疑問文、
- 第8回：仏検5級を目指して1、リエゾン、アンシェヌマン、エリジヨン
- 第9回：小テスト②、4課Dialogue、指示形容詞ce
- 第10回：動詞avoirの活用、数字1～10
- 第11回：否定文、数字11～20、ユー口の言い方
- 第12回：小テスト③、5課Dialogue、動詞allerと近接未来
- 第13回：疑問代名詞、不規則動詞
- 第14回：6課Dialogue、所有形容詞
- 第15回：疑問形容詞、Lecture

※上記は目安であり、実際の授業は習熟度に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提となります。欠席が多い場合はこの限りではありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習をしっかりとってきて下さい。

フランス語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN112F		◎			
科目名	フランス語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
日本では「欧米」と一言で括られがちなフランスと英米との言語的、文化的な違いなども交えながら、皆さんがご自身の専攻する言語とは異なる外国・外国語について発見する機会にしたいと思います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『パリ-ポルドー』（藤田裕二著 朝日出版 2500円+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や、必要に応じて、授業中に紹介致します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：前期の復習、数字20～69、7課Dialogue、
 - 第2回：Il y a と je voudrais、人称代名詞の強制形、数字70～100、
 - 第3回：仏検5級を目指して、指示代名詞、月の言い方
 - 第4回：小テスト①、8課Dialogue、
 - 第5回：冠詞の縮約、補語人称代名詞、曜日の言い方
 - 第6回：9課Dialogue、代名動詞
 - 第7回：中性代名詞y、動詞vouloir、Lecture
 - 第8回：小テスト② 10課Dialogue、感嘆文、
 - 第9回：非人称構文、命令形
 - 第10回：仏検4級を目指して、数量の表現、
 - 第11回：小テスト③、11課Dialogue、部分冠詞、中性代名詞en、
 - 第12回：12課Dialogue、
 - 第13回：比較級、単純未来
 - 第14回：13課Dialogue、複合過去
 - 第15回：複合過去(応用)、半過去
- ※上記は目安であり、実際の授業は習熟度に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習をしっかりとってきて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN201F		◎			
科目名	フランス語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。
リスニングや長文のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『クローワッサン 2』(松村博史他 朝日出版 2300円+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：1課Dialogue、自己紹介
 - 第2回：複合過去の復習、子音の発音
 - 第3回：2課Dialogue、直接目的補語と間接目的補語、母音の発音
 - 第4回：強制形、複合母音、鼻母音の発音、数字1～20
 - 第5回：小テスト① 3課Dialogue、代名動詞、数字21～69
 - 第6回：代名動詞の複合過去、数字70～100
 - 第7回：4課Dialogue、中性代名詞、
 - 第8回：指示代名詞、eの発音
 - 第9回：小テスト②、5課Dialogue、月の言い方
 - 第10回：前未来、曜日の言い方
 - 第11回：現在分詞とジェロンディフ、過去分詞と受動態
 - 第12回：小テスト③、所有代名詞
 - 第13回：6課
 - 第14回：7課Dialogue、複合過去と半過去
 - 第15回：大過去
- ※上記は目安であり、習熟度によって変わる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習をしっかり行うこと

フランス語Ⅴ【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN211F		◎			
科目名	フランス語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。
リスニングや長文のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『クロワッサン2』（村松博史 朝日出版 2300円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Le Petit Prince (Antoine de Saint-Exupéry, Gallimard) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：7課までの復習
- 第2回：8課Dialogue、時を表す接続詞
- 第3回：小テスト①、理由・条件を表す接続詞
- 第4回：長文読解（歌詞）
- 第5回：9課Dialogue、条件法現在
- 第6回：条件法過去
- 第7回：12課
- 第8回：小テスト②、10課Dialogue、関係代名詞
- 第9回：強調構文
- 第10回：11課Dialogue、接続法
- 第11回：小テスト③、リスニング
- 第12回：長文読解（『星の王子さま』狐の話）
- 第13回：長文読解（『星の王子さま』献辞）
- 第14回：長文読解（『星の王子さま』第1章）
- 第15回：長文読解（『星の王子さま』バオバブの話）

※上記はあくまで目安であり、習熟度に合わせて進度が変化する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。欠席が多い場合にはこの通りではありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書中心の回は復習をしっかりとすること。読解などの場合は指示された予習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を学んだ学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN202F		◎			
科目名	フランス語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2500円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1: 自己紹介(前半)
- 2) unité 1: 自己紹介(後半)
- 3) unité 1: 自己紹介(総括)
- 4) unité 2: 質問する(前半)
- 5) unité 2: 質問する(後半)
- 6) unité 2: 質問する(総括)、小テスト
- 7) unité 3: 買い物をする(前半)
- 8) unité 3: 買い物をする(後半)
- 9) unité 3: 買い物をする(総括)
- 10) unité 4: いつ(前半)
- 11) unité 4: いつ(後半)
- 12) unité 4: いつ(総括)、小テスト
- 13) unité 5: どこ(前半)
- 14) unité 5: どこ(後半)
- 15) unité 5: どこ(総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回)・・・40%

期末テスト・・・40%

授業中の取り組み・・・20%

ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN212F		◎			
科目名	フランス語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰 (前半)
 - 2) unité 6：誰 (後半)
 - 3) unité 6：誰 (総括)、リスニング
 - 4) unité 7：何 (前半)
 - 5) unité 7：何 (後半)
 - 6) unité 7：何 (総括)、小テスト
 - 7) unité 8：どのように (前半)
 - 8) unité 8：どのように (後半)
 - 9) unité 8：どのように (総括)、読解
 - 10) unité 9：過去について (前半)
 - 11) unité 9：過去について (後半)
 - 12) unité 9：過去について (総括)、小テスト
 - 13) unité 10：仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10：仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・20%
小テスト(2回)・・・40%
プレゼンテーション・・・20%
レポート・・・20%
ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 野村 明衣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN101F		◎			
科目名	スペイン語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、スペイン語の基礎文法を学び、学生間あるいは教員学生間の会話練習を通して、スペイン語での日常的なコミュニケーション能力の習得を目指します。

また、スペイン各地の世界遺産、歴史や文化なども紹介します。

スペイン語には5つの母音がありますが、これは日本語の母音の発音と似ているので、日本人にとって発音しやすい言語です。また発音のしやすさから、私たちの周りには店やモノの名前が実はスペイン語であることも多々あります。こういった身近にあるスペイン語に気づくとき、言語を学ぶおもしろさを感じることができるでしょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

辻博子・野村明衣 『彩(いろど)リス페인語』 朝日出版社 2021年
ISBN: 978-4-255-55119-7

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西川喬 『わかるスペイン語文法』 同学生社 2010年

西和辞典：

○西和中辞典(小学館)

○現代スペイン語辞典(白水社)

○新スペイン語(研究社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

和西辞典：

○和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)

○クラウン和西辞典(三省堂)

和西辞典(小学館)

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN、アルファベット
- 第2回 発音、アクセント
- 第3回 名詞、名詞の数
- 第4回 冠詞、形容詞
- 第5回 主格人称代名詞、動詞ser
- 第6回 否定文、疑問文、疑問詞(1)
- 第7回 直説法現在 規則動詞
- 第8回 疑問詞(2)、接続詞
- 第9回 指示詞
- 第10回 所有詞
- 第11回 曜日、日付、時間表現(1)
- 第12回 動詞estar, serとestar
- 第13回 hay, hayとestar
- 第14回 総復習(1)
- 第15回 総復習(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 小テスト(毎回)35% 日常の授業への取り組み15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず単語の意味を調べておくこと。また授業後は毎回の小テストに備えて復習を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を持参すること。くわしくは初回の授業でお知らせします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始5~10分程度で毎回小テストを実施します。学習した内容を毎回定着させることによって、定期試験準備の負担が軽くなります。

キーワード /Keywords

スペイン スペイン語

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 明衣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN111F		◎			
科目名	スペイン語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、スペイン語の基礎文法を学び、現在形の活用を一通り学習します。
ペアやグループでの会話練習を通して自分のことをスペイン語で表現する能力を身につけ、日常的なコミュニケーション能力のさらなる向上を目指します。
また、スペインの文化を扱った発展問題を通して異文化理解を深め、自国の文化と比較により学習者の視野を広げることを目標とします。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Iと同じテキストを使用します。
辻博子・野村明衣 『彩(いろど)りスペイン語』 朝日出版社 2021年
ISBN: 978-4-255-55119-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西川喬 『わかるスペイン語文法』 同学社 2010年

西和辞典：

- 西和中辞典(小学館)
- 現代スペイン語辞典(白水社)
- 新スペイン語(研究社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)
パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

和西辞典：

- 和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)
- クラウン和西辞典(三省堂)
- 和西辞典(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1学期の復習
- 第2回 直説法現在 不規則動詞(1)
- 第3回 直接目的格人称代名詞
- 第4回 間接疑問文、時間表現(2)
- 第5回 直説法現在 不規則動詞(2)
- 第6回 間接目的格人称代名詞
- 第7回 直説法現在 不規則動詞(3)
- 第8回 前置詞格人称代名詞、動詞gustar
- 第9回 その他のgustar動詞、不定語・否定語
- 第10回 天候表現、比較表現
- 第11回 再帰動詞
- 第12回 再帰動詞のその他の用法
- 第13回 再帰動詞演習
- 第14回 総復習
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 小テスト(毎回)35% 日常の授業への取り組み 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず辞書で単語の意味を調べておくこと。また授業後は毎回の小テストに備えて復習を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始5～10分程度で毎回小テストを実施します。学習した内容を毎回定着させることによって、定期試験準備の負担が軽くなります。

キーワード /Keywords

スペイン スペイン語

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN102F		◎			
科目名	スペイン語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすくくから出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2017 第2版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、
スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声を出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。
また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN112F		◎			
科目名	スペイン語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデル会話を覚えて行きましょう。口に出してジェスチャーをつけることで、フレーズを暗記しやすくなるはずです。そのあとは会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

IIIと同じテキストを使用。

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2017第2版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN201F		◎			
科目名	スペイン語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年のテキストの文法事項の続きをしますが、テキストは用いず、moodleから教材のプリントに文法事項の内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項を積み上げていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：

スペイン語中辞典(小学館)

新スペイン語(研究社)

現代スペイン語辞典(白水社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

級スペイン語辞典(白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典：

和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)

クラウン和西辞典(三省堂)

その他

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)

スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)

スペイン(増田監修：新潮社)

スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)

スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)

スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)

スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
- 4 スペイン語の動詞活用の全体像について
- 5 点過去・線過去・現在完了の用法(1)
- 6 同上(2)
- 7 同上(3)
- 8 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
- 7 同上(2)
- 9 未来形・過去未来・過去完了(1)
- 10 同上(2)
- 11 同上(3)
- 12 上記時制も含め、重要な文法事項：複文(副詞節・形容詞節)(1)
- 13 同上(2)
- 14 同上(3)
- 15 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

なお、新型コロナウイルスの状況でオンライン授業になった場合には評価の方法を変更します。その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記文法資料に対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN211F		◎			
科目名	スペイン語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項をまとめていきます。

最後にスペイン語版のアニメ(題材未定)を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。

スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典(小学館)

新スペイン語(研究社)

現代スペイン語辞典(白水社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典:

和西辞典(宮城、コントレラス監修:白水社)

クラウン和西辞典(三省堂)

その他

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)

スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)

スペイン(増田監修:新潮社)

スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)

スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)

スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本(寿里著:東洋書店)

スペイン語基礎文法(ロポ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 前期を含め、様々な構文のまとめ (受け身、使役、放任、比較など) (1)
 - 2 同上 (2)
 - 3 時制の一致
 - 4 再帰動詞 (1)
 - 5 同上 (2)
 - 6 いくつかの文法事項 (感嘆文、比較表現)
 - 7 同上 (2)
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法 (1)
 - 10 同上 (2)
 - 11 同上 (3)
 - 12 スペイン語版アニメ (題材未定) による聞き取りと訳
 - 13 同上 (2)
 - 14 同上 (3)
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価 (小テスト、口頭での答え、作文など) も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり (読む、書くなど) や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合 (例えば小テストを受けていないなど) は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

なお、新型コロナウイルスの状況でオンライン授業になった場合には評価の方法を変更します。その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう (30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール : faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN202F		◎			
科目名	スペイン語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を発展させクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 自己紹介 seの無主語文
- 2回 1課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 2課 カフェテリアで 趣味の話など 再帰動詞
- 4回 2課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 3課 花見 直説法現在完了
- 6回 3課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 4課 買い物 目的格人称代名詞
- 8回 4課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 5課 回転寿司 現在分詞
- 10回 5課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 6課 サッカー 直説法点過去・線過去・過去完了
- 12回 6課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 7課 電車にて 3人称複数無主語文
- 14回 7課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。

事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリポートしていく、またスペイン語の速度に合わせシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN212F		◎			
科目名	スペイン語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き教科書を使用しながら会話表現を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を応用・発展させ、クラス内でスペイン語発表も行います。また折紙、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020 (1学期と同じ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 8課 旅館で 直説法未来・過去未来
- 2回 8課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 9課 明治神宮 受身表現
- 4回 9課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 10課 パルで gustar型構文
- 6回 10課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 11課 オリンピック秘話 接続法現在
- 8回 11課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 12課 新幹線 quizáを使った接続法、比較級
- 10回 12課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 13課 銀座への行き方 命令文
- 12回 13課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 14課 通訳依頼の電話 条件文
- 14回 14課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 15課 浅草寺で 接続法過去・過去完了 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。

事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリポートしていく、またスペイン語の速度に合わせシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の1カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70 % (学習者評価30%/ピア評価20%/実習生評価20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 アドバイスを求める【PCメール】
- 4回 問い合わせる【PCメール】
- 5回 依頼する【PCメール】
- 6回 依頼される【PCメール】
- 7回 報告する【PCメール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【携帯&PCメール】
- 10回 誘う【携帯メール】
- 11回 誘われる【携帯メール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 伝言する【メモ】
- 14回 募集する【チラシ】【掲示】
- 15回 【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...70% 小テスト...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題をMoodleで提出すること。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】 【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コソのワーク】 【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

- 『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語ロジカルトレーニング 中級』(西隈俊哉、アルク) ¥2,400
- 『スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版) ¥1,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
- 石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--|------------------|
| 1回 オリエンテーション | |
| 2回 「スタディスキル11」 アクティブラーニングをやってみよう | 「ロジカルトレーニング」発想力① |
| 3回 「スタディスキル12」 テーマからトピックを取り出そう | 「ロジカルトレーニング」発想力② |
| 4回 「スタディスキル14」 インターネットで情報を探そう | 「ロジカルトレーニング」読解力① |
| 5回 「スタディスキル15」 本を手にして読んでみよう | 「ロジカルトレーニング」読解力② |
| 6回 「スタディスキル16」 図解で考えよう | 「ロジカルトレーニング」読解力③ |
| 7回 「スタディスキル17」 表・グラフを使って考えよう | 「ロジカルトレーニング」読解力④ |
| 8回 「スタディスキル18」 議論の方法を知ろう | 「ロジカルトレーニング」読解力⑤ |
| 9回 「スタディスキル19」 レポートの文章の特徴を知ろう | 「ロジカルトレーニング」読解力⑥ |
| 10回 「スタディスキル20」 レジユメを作成してみよう | 「ロジカルトレーニング」表現力① |
| 11回 「スタディスキル21」 レポートの基本を知ろう | 「ロジカルトレーニング」表現力② |
| 12回 「スタディスキル23」 発表の資料を作ろう (テーマ決め・準備) | 「ロジカルトレーニング」表現力③ |
| 13回 「スタディスキル24」 発表をやってみよう (パソコンを使ったプレゼン・発表) | |
| 14回 「スタディスキル24」 発表をやってみよう (パソコンを使ったプレゼン・発表と自己評価) | |
| 15回 「スタディスキル25」 1年間の学びをふりかえろう (総括) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み (発表・課題を含む) ...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておいてください。事後学習としては、授業や課題を通して何をどこまで身につけることができたか、何がまだ足りていないかを振り返り、どうしたら目標を達成できるか、などについて考えるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【詳しいブック・トークをもとにアウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【情報を引用しながらブック・レポートを書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 【全体を振りかえる】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%
ポートフォリオ評価...40%(自己評価 20%、ピア評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語（ライフ・ジャパニーズ）」「大学生活日本語（キャンパス・ジャパニーズ）」「大学日本語（アカデミック・ジャパニーズ）」の育成を行う。

日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学に必要なクリティカル・リーディング（批判的な読み）ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらおう。

教科書 /Textbooks

『読む力（中上級）』（奥田純子監修、竹田悦子他編著 くろしお出版）¥1,900

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』（館岡洋子、東海大学出版会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の多様性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改定 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 授業への取り組み（課題を含む）...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進めます。事後学習として、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなってください。

履修上の注意 /Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいってください。

キーワード /Keywords

「クリティカル・リーディング」「批判的読み」「メタ・コンテンツ」「全体把握」「言語タスク」「認知タスク」

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現(第2版)』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1) 「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2) 修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進めます。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておいてください。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めていくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 (社会) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、「多様性」「多文化共生とは何か」「多文化共生社会に向けて何をすればいいのか」について考えていく。テキストのトピックやテーマについて主体的に考え、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『多文化社会で多様性を考えるワークブック』 (有田佳代子他編著、研究社)
- 『異文化理解入門』 (原沢伊都夫、研究社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異なりを考える」【異文化間ソーシャルスキル】
- 3回 「異なりを考える」【寛容性】
- 4回 「異なりを考える」【アサーション・トレーニング】
- 5回 「異なりを考える」【「日本人」・「外国人」】
- 6回 「差別とその感情を考える」【マイクロ・アグレッション】
- 7回 「差別とその感情を考える」【マイノリティとマジョリティ】【ユニバーサルデザイン】
- 8回 「差別とその感情を考える」【自分の家の近くはだめ?】
- 10回 「差別とその感情を考える」【ステレオタイプ】
- 11回 「言語間の平等を考える」【国境を超える子どもの言語獲得】【やさしい日本語】
- 12回 「多文化共生社会」について考える【私の考える「多文化共生」とは】
- 13回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実現のために】
- 14回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実践】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 授業への取り組み (課題や授業中の発表を含む) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にトピックについての情報を調べ、自分の考えをまとめてきてください。事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ですが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められます。必ず初回のオリエンテーションには参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいください。

キーワード /Keywords

多文化共生 多文化社会 多様性

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジヨナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

日本事情 (社会) B 【昼】

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

研究演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	研究演習 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

< 中国語圏文学研究 >
本演習では、中国現代文学作品の精読を通じて、その文学芸術を味わうとともに、作品に介在する人や社会について考察します。考察に際し、中国語で書かれた参考文献のほか、日本文学および外国文学の翻訳書を活用します。前期は指定の文献を輪読し、プレゼンテーションや討論を行います。同時に資料検索や分析、プレゼンテーションの方法について学びます。後期はそれぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って同様に輪読、討論を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業論文を提出することを最終目標に、本演習では研究を進めるための基礎的な訓練を行います。

* 研究演習A(前期) : 指定された作品や評論について担当者を決めて輪読し、全体で討論を行います(担当者は発表用の資料を作成します)。学期末に仮テーマ、およびテーマ選択の経緯(i自身の興味、ii先行研究状況、iii問題の所在)の発表を行い、以上の内容をレポートにまとめます。
* 研究演習B(後期) : 学期開始後にレポートについて発表をしてもらいます。その後、仮テーマに基づいて作品を選定して、その輪読と討論を全体で行います。学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめます。

到達目標
「思考・判断・表現力」
中国および中国語圏に関わる諸問題について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。
「コミュニケーション力」
自己の見解を持ちつつ、他者と協働して中国および中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
「自立的行動力」
中国および中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)
- 丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)
- ・中国文芸研究会編『図説 中国20世紀文学 解説と資料』(白帝社、1995年)
- 藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)
- 銭理群, 温儒敏, 吳福輝『中国現代文学三十年』(北京大学出版社、1998年)
- ※その他については授業内で随時紹介します。
- ☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

研究演習 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：「中国現代文学を読む視点：ジェンダー・日本・サイノフォン」（講義）、担当決め
 - 第2回 現代文学における女性表象、研究方法について（講義）
 - 第3回 魯迅『故郷』精読（1）
 - 第4回 魯迅『故郷』精読（2）
 - 第5回 魯迅『故郷』精読（3）
 - 第6回 魯迅『故郷』精読（4）
 - 第7回 魯迅作品の延伸閱讀、楊おばさんとその時代（講義）、
 - 第8回 魯迅『故郷』精読（5）
 - 第9回 魯迅『故郷』精読（6）
 - 第10回 魯迅『故郷』精読（7）
 - 第11回 魯迅『故郷』精読（8）
 - 第12回 民国時代の少年・少女の表象について（講義・作品精読）
 - 第13回 まとめ、現代文学における女性表象2（講義）
 - 第14回 仮・研究テーマの発表（1）
 - 第15回 仮・研究テーマの発表（2）
- ※進度によっては順番が前後することがあります。また、テキストの変更・追加の可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業中のプレゼンテーションと討論 50%、中間・学期末のレポート 50%
- ★夏休み、学期末に各自の関心に近い作品（図書）を選び、レポートとして「書評」を書いてもらいます。休暇明け（すなわち後期開始時）、その内容について口頭で発表してもらいます。
- ※討論は担当回以外での発言も含まれます。
- ※発表した仮・研究テーマと関連がある書籍を各自一冊決定し、夏休み明けにその内容を紹介してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 担当者以外も必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。
- ・ 授業前に一度音読をしておいてください。
- ・ 授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 担当者を決めて輪読します。担当者は担当箇所の翻訳のほか、考察も行います。担当者は発表用のレジユメを作成してください。
- ・ 考察の際、自身の問題意識を提示すると同時に、関連する（と思われる）作品または関連図書を提示してください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。
- ・ 中国作品講読I、IIを事前に履修しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語圏地域の「近代」の歩みを理解するうえで重要な視点の一つが日本です。悠久の交流史を有する中国語圏地域と日本は、現代に至り、より活発な相互交流を行うようになりました。交流の内容は思想や文化に留まらず、ことば、人間など多岐にわたります。文学についてみれば小詩、小品文、演劇などいずれも直接日本の影響を受けています。現代の中国語圏地域を読み解く際、日本は重要なキーワードとなりうるでしょう。

キーワード /Keywords

中国語圏文学 / 生活 / 思想 / 文化 / 越境 / ジェンダー / サイノフォン

研究演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 武井 満幹 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	研究演習 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

< 中国古典文学研究 >

1. 概要

本演習では中国古典文学をテーマとし、『三国志演義』を取り上げます。『三国志演義』は、明代に羅貫中という人物が、それまでに語られていた三国時代の物語を集大成して成立したもので、「白話」と呼ばれる中国語で書かれています。白話で書かれた小説を白話小説と言い、明清時代を代表する文学です。この演習では作品を読み、日本語に訳していきます。一読者として読むなら、あまり一字一句にこだわって読むことはないでしょうし、分かりにくいところは読み飛ばしてしまうこともあると思いますが、この演習ではそのような読み方はしません。言葉の意味や働き、表現の特徴、言葉や表現の背景、物語の流れ、エピソードの源、三国時代または明代の習俗・文化・価値観などを可能な限り理解しながら読むことにしています。文言文に興味のある人がいれば、歴史書の『三国志』や三国時代に関する詩文も読んでもらっても構いません。本演習で古典文学を読む方法を学んで下さい。ここで学んだ方法は他の小説や他のジャンルの作品を読む際にも活用できます。また現代中国語の文章の読解力も身につくと思います。

2. 目標

(1) 作品に関して

①近世白話小説について理解する。②『三国志演義』『三国志』について理解する。③言葉の意味や働き、表現の特徴を理解する。④言葉や表現の背景を理解する。⑤物語とそのもとになったエピソードとの違いを理解する。⑥三国時代や明代の社会や文化等について理解する。

(2) 発表に関して

①理解しやすい説明をする。②発表に対して質問やコメントをする。
 (3) 課題作成に関して①気になる点や問題点を見つける。②関連資料を収集する。③適切な文字数で書く。
 ※(3)については授業中に直接言及することはないかもしれません。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

中国および中国語圏に関わる諸問題について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】

自己の見解を持ちつつ、他者と協働して中国および中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

中国および中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『三国志』『三国志演義』に関する参考書、また演習をするにあたっての参考書は授業中に紹介します。
 - 中国古典文学に関する参考書として次のものを挙げておきます。
 - 『中国文学を学ぶ人のために』(興膳宏編、世界思想社、1991年)
 - 『教養のための中国古典文学史』(松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎、研文出版、2009年)
 - 『漢詩のレッスン』(川合康三、岩波書店[岩波ジュニア新書]、2014年)
 - ×『中国近世小説への招待-才子と佳人と豪傑と』(大木康、日本放送出版協会[NHKライブラリー]、2001年)
 - 『中国の五大小説(上・下)』(井波律子、岩波書店[岩波新書]、2008~2009年)
- など

研究演習 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 【講義】 三国時代について-歴史・文学-
- 第2回 【講義】 『三国志』『三国志演義』について
- 第3回 【演習】 作品の精読(1)
- 第4回 【演習】 作品の精読(2)
- 第5回 【演習】 作品の精読(3)
- 第6回 【演習】 作品の精読(4)
- 第7回 【演習】 作品の精読(5)
- 第8回 【演習】 作品の精読(6)
- 第9回 【演習】 作品の精読(7)
- 第10回 【演習】 作品の精読(8)
- 第11回 【演習】 作品の精読(9)
- 第12回 【演習】 作品の精読(10)
- 第13回 【演習】 作品の精読(11)
- 第14回 【演習】 作品の精読(12)
- 第15回 【演習】 作品の精読(13)

※資料作成の担当を割り振ります。資料は担当が回ってくる授業の前に完成させ、授業でその資料に基づいて発表してもらいます。発表後、全員で検討します。なおこの授業は資料担当者が発表するだけでは成立しません。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と質疑応答(50%) + 担当でない箇所における発言(10%) + 課題(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】

- ①発表者-自分の担当箇所について調べる。資料を作成する。
- ②発表者以外-発表者の担当箇所を読んでおく。自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

【事後】

- ①発表者-質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
- ②発表者以外-自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1. この演習は発表者が発表するだけでは成立しません。発表者以外の人の質問や意見、コメントも必要です。
- 2. 人が聞いてわかる(わかってもらう)発表をするにはどうすれば良いかを考えて下さい。
- 3. 自分だったらどう訳すだろう、どう調べるだろうを考えて下さい。

キーワード /Keywords

三国志、三国志演義、近世白話小説、中国古典文学、建安文学

研究演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	研究演習 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、『中国語音声学Ⅰ・Ⅱ』で学んだ音声学の基礎知識を確認しつつ、さらに一步進めて、日本語や中国語の音声に関する論文を読みます。毎回、課題論文を読み込み、内容についての発表・討論を行います。中国語・日本語の音声、音韻に関する諸問題について理解し、その解決方法（研究方法）を学習します。同時に、文献収集の基礎（図書館・インターネットなどの利用の仕方）、論文の読み方を学びます。

到達目標

「思考・判断・表現力」

中国および中国語圏に関わる諸問題について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。

「コミュニケーション力」

自己の見解を持ちつつ、他者と協働して中国および中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

「自立的行動力」

中国および中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

授業時に資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤昭 『中国音声学概説』 2019年
 湯沢質幸・松崎寛 『音声・音韻探求法 日本語音声へのいざない』 朝倉書店 2004年
 竹内京子・木村琢也著 『楽しい音声学』 くらしお出版 2019年
 加藤重広・安藤智子著 『基礎から学ぶ音声学講義』 研究社 2016年
 川原繁人 『音とことばのふしぎな世界—メイド声から英語の達人まで』 岩波書店 2015年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーディング入門
- 3回 問題発見
- 4回 調査から研究へ
- 5回 レポート・論文執筆の基礎
- 6回 図書館ツアー
- 7回 音声言語の特質
- 8回 鼻濁音について
- 9回 オノマトペについて
- 10回 音声と音韻
- 11回 外来語の表記と発音
- 12回 キリシタン資料のローマ字
- 13回 漢字の読みと中国音・日本音
- 14回 八行音の歴史的変遷
- 15回 台湾の近代化と二つの国語

研究演習 A 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (発表、課題提出) … 60%、レポート… 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、受講生は毎回与えられる課題の論文を読み、レジюмеを作成してください。

課題の論文の中でわからないことは、可能な範囲で調べておきましょう。

事後学習としては、授業中に知り得た専門知識について、参考文献を探して読んでみましょう。内容をさらに深く理解することができます。

履修上の注意 /Remarks

欠席する場合は必ず事前にメールで連絡をしてください。

締め切りを過ぎての課題提出は、基本的に受け付けません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業での予習にかなり時間を取られると思います。論文は、1回読んだだけでは理解できないことが多いです。何度も読み返して、しっかり理解したうえで読み進めてください。疑問に思ったことなどは授業中、積極的に質問してください。質問や意見を出し合うことで、問題発見、どのように解決していくかということを学んでいきます。

キーワード /Keywords

音声 音韻 IPA 日本語 中国語

研究演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	研究演習 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国をはじめとする各経済を社会科学的視点から分析する力を養成することを目的とする。
 中国やその他の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。
 実証分析を行うための基本的な統計学、経済学の知識及び分析手法の修得を目指す。
 ゼミ生の自主性を養うことを重視し、スキルの修得や文献の講読及びそれに基づくディスカッションは、担当者による分担部分の文献の紹介、記載事項に関する知識の整理、論点の提示がおこなわれ、それに基づくゼミメンバーによるディスカッションをおこなう、というスタイルをとる。
 経済分析の実践のためにパソコンを使った実習を行う。

到達目標

「思考・判断・表現力」
 中国および中国語圏に関わる諸問題について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。
 「コミュニケーション力」
 自己の見解を持ちつつ、他者と協働して中国および中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
 「自立的行動力」
 中国および中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
 岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年
 白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
 伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
 他の参考文献は授業中に提示する。

研究演習 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
 - 2回 テキスト選定、レジュメ作成の方法について
 - 3回 テキスト輪読、ディスカッション(1)
 - 4回 テキスト輪読、ディスカッション(2)
 - 5回 テキスト輪読、ディスカッション(3)
 - 6回 テキスト輪読、ディスカッション(4)
 - 7回 テキスト輪読、ディスカッション(5)
 - 8回 テキスト輪読、ディスカッション(6)
 - 9回 テキスト輪読、ディスカッション(7)
 - 10回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(1)
 - 11回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(2)
 - 12回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(3)
 - 13回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(4)
 - 14回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(5)
 - 15回 まとめ
- * 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：分担部分だけでなく、輪読の対象文献には全員が目を通してゼミに臨むこと。
事後：ゼミでの議論やこれまでに修得した知識を用いて経済記事や文献を読むよう心がけること。

履修上の注意 /Remarks

中国経済論Ⅲ、時事中国語講読Ⅲ、その他各国・地域の経済に関する科目や経済学に関する科目を履修していることが望ましい。
資料等には事前に目を通してくること。ゼミでの議論には積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 A 【昼】

担当者名 橋本 愛 / 橋本愛 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	研究演習 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：
 [思考・判断・表現力] 中国及び中国語圏に関わる諸問題について学際的、複眼的に思考・判断して解決策を探索し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。
 [コミュニケーション力] 自分の見解を持ちつつ、他社と協働して中国及び中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
 [自立的行動力] 中国及び中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

本演習では、中国語だけでなく日本語（ときに英語）も含め「ことば」について考察していきます。また、「中国語学概論I・II」で学んだ基礎的知識をもとに、より深く中国語の文法事項を学んでいきます。本演習では、認知言語学の視点から中国語学（現代中国語の語彙や文法）についての問題を考えていきます。中国語学や日中対照研究に関する論文を読み、中国語の言語現象を考察したり、日本語と対照することを通して、関連する諸問題について討論します。日中両語を深く考察することを通じて、その背景にある日本や中華圏に暮らす人たちの思考や文化について理解を深めていくことを目的とします。

研究演習A（前期授業）では言語学関連の知識を学んだり、配布資料を輪読しながら、出される課題について、資料・PPTを準備し発表してもらいます。学期末には、前期で学んだものから気になるテーマを選び、レポートを執筆してもらいます。

教科書 /Textbooks

なし（授業中に資料を配布する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小野秀樹『中国人のこころ 「ことば」からみる思考と感覚』集英社、2018年
- 郭春貴『誤用から学ぶ中国語 - 基礎から応用まで』白帝社、2001年
- 奥水優『中国語基本語ノート』大修館書店、1980年
- 瀬戸賢一、山添秀剛、小田希望『解いて学ぶ認知言語学の基礎』大修館書店、2017年
- 松本曜編『認知意味論』大修館書店、2003年

上記の他、授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（授業の進め方、発表担当分け等）
- 2回 資料精読、ディスカッション（1）
- 3回 資料精読、ディスカッション（2）
- 4回 資料精読、ディスカッション（3）
- 5回 資料精読、ディスカッション（4）
- 6回 資料精読、ディスカッション（5）
- 7回 資料精読、ディスカッション（6）
- 8回 資料精読、ディスカッション（7）
- 9回 資料精読、ディスカッション（8）
- 10回 資料精読、ディスカッション（9）
- 11回 資料精読、ディスカッション（10）
- 12回 資料精読、ディスカッション（11）
- 13回 資料精読、ディスカッション（12）
- 14回 資料精読、ディスカッション（13）
- 15回 まとめ

研究演習 A 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート：40%、発表：30%、授業への参加度（積極的な発言など）：30%
* 課題提出の遅延や未提出、欠席、遅刻などは減点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回講義内容となる配布資料には必ず目を通してから授業に臨むこと。また発表担当ではない場合も、授業で発展的な議論ができるよう、資料を読み込んで準備をしておくこと。

事後学習：授業中に紹介した文献や、関連する文献を探し読み、授業中に取り扱った問題などについて引き続き考察する。

履修上の注意 /Remarks

中国語学概論I・IIを履修済であること。（中国語音声学I・IIも履修済であることが望ましい。）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	研究演習 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

日中戦争・アジア太平洋戦争における日本の戦争加害と歴史認識

日中戦争・アジア太平洋戦争における日本の戦争加害の実相、及び現代日本人の戦争をめぐる歴史認識について理解を深める。

到達目標

<思考・判断・表現力>

中国および中国語圏に関わる諸問題について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。

<コミュニケーション力>

自己の見解を持ちつつ、他者と協働して中国および中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

<自立的行動力>

中国および中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

日中友好協会編『日本は中国でなにをしたか』本の泉社、2018年、600円、版元品切れにつきISBN不記、別途指示

笠原十九司『南京事件』岩波新書、1997年、924円、ISBN 4004305306

吉見義明『従軍慰安婦』岩波新書、1995年、880円、ISBN 4004303842

姫田光義『「三光作戦」とは何だったか-中国人の見た日本の戦争』岩波ブックレット、1995年、版元品切れにつきISBN不記、別途指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『新・図説 中国近現代史(改訂版)』法律文化社、2020年、ISBN 4589040557、3300円
(1年次の中国近現代史IIIで使用したテキスト)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講説明
- 2回 中国侵略と加害の歴史 ①1915～1931年
- 3回 中国侵略と加害の歴史 ②1932～1945年
- 4回 南京事件研究：①東京裁判と南京軍事法廷、南京爆撃
- 5回 南京事件研究：②上海派遣軍の南京進軍
- 7回 南京事件研究：③南京近郊農村における被害
- 8回 南京事件研究：④南京陥落
- 9回 南京事件研究：⑤南京掃討戦の実相と事件の全貌
- 10回 従軍慰安婦研究：①日中戦争期中国における慰安所の設置
- 11回 従軍慰安婦研究：②アジア太平洋戦争期における慰安所の拡大
- 12回 従軍慰安婦研究：③各地域における慰安婦の徴集と管理
- 13回 従軍慰安婦研究：④国際法と慰安婦
- 14回 三光作戦研究：①三光作戦の開始
- 15回 三光作戦研究：①三光作戦と無人区

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・課題提出等により総合的に評価する。報告と討論...100%

研究演習 A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	研究演習 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ゼミテーマは「明清時代の中国・旧満州・朝鮮における外交貿易史研究」である。

明清中国や朝鮮王朝の漢文史料や日本・中国・韓国などで発表された論文・著書を通して、近世中国・旧満洲・朝鮮の政治・社会・経済について考察する。中国や朝鮮の漢文史料を手掛かりに、明清時代中国の外交・貿易政策、特に朝鮮との関係について考察する。3年次は『明実録』や『清実録』など簡単な資料を読みながら、漢文読解能力を身に付け、4年次は『朝鮮王朝実録』や『燕行録』など朝鮮側の資料を読み進める。但し漢文の読解は現代中国語の運用能力だけでは不十分なため、中国語やハングルの論文で代用することも視野に入れている。何れの場合でも精読を行うので、毎回予習しなくてはならない。

漢文は現代中国語とは相当懸絶した古典文章語であり、中国語ネイティブでも学習経験がなければ必ずしも読めるとは限らない。ましてや日本人の学生は電子辞書に搭載されている漢和辞典だけでは到底読みこなせない。漢籍用の紙の辞書を購入することを義務付ける。

到達目標

【思考・判断・表現力】中国および中国語圏に関わる諸問題について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】自己の見解を持ちつつ、他者と協働して中国および中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】中国および中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

- 『明実録朝鮮資料輯録』巴蜀書社,2005年(簡体字表記)
- 張存武『清韓宗藩貿易1637-1894』中央研究院近代史研究所,1978年(繁体字表記)
- 『清実録』(筆写本)

講読箇所を複写して配布するので購入の必要なし。学生の関心に応じて史料を変更する可能性もある。

中国語・韓国語論文を選択する学生には別途論文を提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『角川新字源』(購入必須)
- 『中日大辞典』(選択)
- 『朝鮮語辞典』(選択)

研究演習 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第3回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第4回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第5回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第6回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第7回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第8回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第9回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第10回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第11回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第12回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第13回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第14回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第15回 漢文資料の講読および歴史的検討

成績評価の方法 /Assessment Method

- 漢文資料読解能力60%
- 歴史的分析能力40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の予習が全てである。漢文資料を読解するには、必ず辞書を用いて予習すること。参考書に挙げた『角川新字源』で意味が掴めない場合には、より大部な漢和辞典である『諸橋大漢和』や、現代中国語とも共通する語彙であると推測される場合には、やや古い語彙も収録している『中日大辞典』などで調べる。

履修上の注意 /Remarks

履修者の選抜は行わない。但し当ゼミでは資料読解力と並んで中国・朝鮮に関する知識量が重要である。それは大抵の場合、読書量の多寡によって決定される。中国語学習を単なるスキルの習得とのみ捉えることについて頭から否定はしないが、これまで中国史や朝鮮史について全く関心を持って来なかった学生は当ゼミではなかなかついて来られないと思われるので、他の演習の履修を奨める。授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

シラバスはあくまで教育目標である。現実にはゼミ生の数、歴史学に関する基礎学力などの実情に合わせ、内容を柔軟に調整している。担当者は近世東アジア社会経済史を広く研究しているが、受講生が時代や分野が異なるテーマを選んだ場合、十分な対応ができない可能性がある。史料や論文の読解は中国語学習とは大いに異なる。速読・多読は不要。○×式やマークシート式などの機械的の回答は求めない。むしろ精読・熟読して、文章から何を読み取るのかを考え、研究テーマに収斂させてゆくことが重要である。

キーワード /Keywords

明清 中国 朝鮮 後金 女真 満州

研究演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	研究演習 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

< 中国語圏文学研究 >
本演習では、中国現代文学作品の精読を通じて、その文学芸術を味わうとともに、作品に介在する人や社会について考察します。考察に際し、中国語で書かれた参考文献のほか、日本文学および外国文学の翻訳書を活用します。前期は指定の文献を輪読し、プレゼンテーションや討論を行います。同時に資料検索や分析、プレゼンテーションの方法について学びます。後期はそれぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って同様に輪読、討論を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業論文を提出することを最終目標に、本演習では研究を進めるための基礎的な訓練を行います。

* 研究演習A(前期) : 指定された作品や評論について担当者を決めて輪読し、全体で討論を行います(担当者は発表用の資料を作成します)。学期末に仮テーマ、およびテーマ選択の経緯(i自身の興味、ii先行研究状況、iii問題の所在)の発表を行い、以上の内容をレポートにまとめます。
* 研究演習B(後期) : 仮テーマに基づいて文献を選択し、その内容を紹介してもらいます。その後、短編作品の輪読と討論を全体で行います。学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめます。

到達目標
「思考・判断・表現力」
中国および中国語圏に関わる諸問題について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。
「コミュニケーション力」
自己の見解を持ちつつ、他者と協働して中国および中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
「自立的行動力」
中国および中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

授業中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)
 - 丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)
 - ・中国文芸研究会編『図説 中国20世紀文学 解説と資料』(白帝社、1995年)
 - 藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)
 - 銭理群, 温儒敏, 吳福輝『中国現代文学三十年』(北京大学出版社、1998年)
- ※その他については授業内で随時紹介します。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

研究演習 B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、夏季休暇課題の発表(1)
 - 第2回 夏季休暇課題の発表(2)
 - 第3回 夏季休暇課題の発表(3)
 - 第4回 図書館ツアー、作品の選定、発表順の決定
 - 第5回 選択テーマによる作品の精読
 - 第6回 選択テーマによる作品の精読
 - 第7回 選択テーマによる作品の精読
 - 第8回 選択テーマによる作品の精読
 - 第9回 選択テーマによる作品の精読、先行研究の調べ方、論文の分析の仕方について〔講義〕
 - 第10回 選択テーマによる作品の精読
 - 第11回 選択テーマによる作品の精読
 - 第12回 選択テーマによる作品の精読
 - 第13回 選択テーマによる作品の精読
 - 第14回 まとめ、論文の書き方について〔講義〕
 - 第15回 本テーマの発表、卒論報告会でのディスカッション
- ※進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のプレゼンテーションと討論 50%、中間・学期末のレポート 50%

※討論は担当回以外での発言も含みます。

※学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめたものを提出してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・担当者を決めて輪読します。報告担当者は担当箇所の翻訳のほか、考察も行います。担当者は発表用のレジメを作成してください。
- ・考察の際、自身の問題意識を提示すると同時に、関連する(と思われる)作品または関連図書を提示してください。
- ・辞書必携。授業中に辞書を使います。
- ・中国作品講読I、IIを事前に履修しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語圏地域の「近代」の歩みを理解するうえで重要な視点の一つが日本です。悠久の交流史を有する中国語圏地域と日本は、現代に至り、より活発な相互交流を行うようになりました。交流の内容は思想や文化に留まらず、ことば、人間など多岐にわたります。文学についてみれば小詩、小品文、演劇などいずれも直接日本の影響を受けています。現代の中国語圏地域を読み解く際、日本は重要なキーワードとなりうるでしょう。

キーワード /Keywords

中国語圏文学 / 生活 / 思想 / 文化 / 越境 / ジェンダー / サイノフォン

研究演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 武井 満幹 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	研究演習 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

< 中国古典文学研究 >

1. 概要

本演習では中国古典文学をテーマとし、『三国志演義』を取り上げます。『三国志演義』は、明代に羅貫中という人物が、それまでに語られていた三国時代の物語を集大成して成立したもので、「白話」と呼ばれる中国語で書かれています。白話で書かれた小説を白話小説と言い、明清時代を代表する文学です。この演習では作品を読み、日本語に訳していきます。一読者として読むなら、あまり一字一句にこだわって読むことはないでしょうし、分かりにくいところは読み飛ばしてしまうこともあると思いますが、この演習ではそのような読み方はしません。言葉の意味や働き、表現の特徴、言葉や表現の背景、物語の流れ、エピソードの源、三国時代または明代の習俗・文化・価値観などを可能な限り理解しながら読むことにしています。文言文に興味のある人がいれば、歴史書の『三国志』や三国時代に関する詩文も読んでもらっても構いません。本演習で古典文学を読む方法を学んで下さい。ここで学んだ方法は他の小説や他のジャンルの作品を読む際にも活用できます。また現代中国語の文章の読解力も身につくと思います。

2. 目標

(1) 作品に関して

①近世白話小説について理解する。②『三国志演義』『三国志』について理解する。③言葉の意味や働き、表現の特徴を理解する。④言葉や表現の背景を理解する。⑤物語とそのもとになったエピソードとの違いを理解する。⑥三国時代や明代の社会や文化等について理解する。

(2) 発表に関して

①理解しやすい説明をする。②発表に対して質問やコメントをする。
(3) 課題作成に関して①気になる点や問題点を見つける。②関連資料を収集する。③適切な文字数で書く。
※(3)については授業中に直接言及することはないかもしれません。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

中国および中国語圏に関わる諸問題について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】

自己の見解を持ちつつ、他者と協働して中国および中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

中国および中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『三国志』『三国志演義』に関する参考書、また演習をするにあたっての参考書は授業中に紹介します。
 - 中国古典文学に関する参考書として次のものを挙げておきます。
 - 『中国文学を学ぶ人のために』(興膳宏編、世界思想社、1991年)
 - 『教養のための中国古典文学史』(松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎、研文出版、2009年)
 - 『漢詩のレッスン』(川合康三、岩波書店[岩波ジュニア新書]、2014年)
 - ×『中国近世小説への招待-才子と佳人と豪傑と』(大木康、日本放送出版協会[NHKライブラリー]、2001年)
 - 『中国の五大小説(上・下)』(井波律子、岩波書店[岩波新書]、2008~2009年)
- など

研究演習 B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 【演習】作品の精読(1)
- 第2回 【演習】作品の精読(2)
- 第3回 【演習】作品の精読(3)
- 第4回 【演習】作品の精読(4)
- 第5回 【演習】作品の精読(5)
- 第6回 【演習】作品の精読(6)
- 第7回 【演習】作品の精読(7)
- 第8回 【演習】作品の精読(8)
- 第9回 【演習】作品の精読(9)
- 第10回 【演習】作品の精読(10)
- 第11回 【演習】作品の精読(11)
- 第12回 【演習】作品の精読(12)
- 第13回 【演習】作品の精読(13)
- 第14回 【演習】作品の精読(14)
- 第15回 【演習】作品の精読(15)

※資料作成の担当を割り振ります。資料は担当が回ってくる授業の前に完成させ、授業でその資料に基づいて発表してもらいます。発表後、全員で検討します。なおこの授業は資料担当者が発表するだけでは成立しません。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と質疑応答(50%) + 担当でない箇所における発言(10%) + 課題(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】

- ①発表者-自分の担当箇所について調べる。資料を作成する。
- ②発表者以外-発表者の担当箇所を読んでおく。自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

【事後】

- ①発表者-質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
- ②発表者以外-自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1. この演習は発表者が発表するだけでは成立しません。発表者以外の人の質問や意見、コメントも必要です。
2. 人が聞いてわかる(わかってもらう)発表をするにはどうすれば良いかを考えて下さい。
3. 自分だったらどう訳すだろう、どう調べるだろうを考えて下さい。

キーワード /Keywords

三国志、三国志演義、近世白話小説、中国古典文学、建安文学

研究演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	研究演習 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、『中国語音声学I・II』で学んだ音声学の基礎知識を確認しつつ、さらに一歩進めて、日本語や中国語の音声に関する論文を読みます。毎回、課題論文を読み込み、内容についての発表・討論を行います。中国語・日本語の音声、音韻に関する諸問題について理解し、その解決方法（研究方法）を学習します。同時に、文献収集の基礎（図書館・インターネットなどの利用の仕方）、論文の読み方を学びます。

到達目標

「思考・判断・表現力」

中国および中国語圏に関わる諸問題について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。

「コミュニケーション力」

自己の見解を持ちつつ、他者と協働して中国および中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

「自立的行動力」

中国および中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

授業時に資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤昭 『中国音声学概説』 2020年
 大島正二 『中国語の歴史 ことばの変遷・探求の歩み』 大修館書店 2011年 ○
 湯沢質幸・松崎寛 『音声・音韻探求法 日本語音声へのいざない』 朝倉書店 2004年 ○
 竹内京子・木村琢也著 『楽しい音声学』 ころしお出版 2019年 ○
 加藤重広・安藤智子著 『基礎から学ぶ音声学講義』 研究社 2016年

研究演習 B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 唐通事の中国語について(1)
- 3回 唐通事の中国語について(2)
- 4回 唐通事の中国語について(3)
- 5回 唐通事の中国語について(4)
- 6回 唐通事の中国語について(5)
- 7回 唐通事の中国語について(6)
- 8回 清代の中国資料による日本語の音声
- 9回 漢語近世音について(1)
- 10回 漢語近世音について(2)
- 11回 漢語近世音について(3)
- 12回 漢語近世音について(4)
- 13回 漢語近世音について(5)
- 14回 漢語近世音について(6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発表、課題提出)・・・60%、レポート・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、受講生は毎回与えられる課題の論文を読み、レジュメを作成してください。レジュメのファイルは締切を守って提出します。課題の論文の中でわからないことは、可能な範囲で調べておくこと。
事後学習としては、授業中に知り得た専門知識について再度確認しておきましょう。次の課題論文を読むうえで必要な知識となります。また図書館で関連する文献を調べたりしましょう。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 欠席をする場合は必ず事前にメールで連絡をしてください。
- ・ 締め切りを過ぎた課題提出は、基本的に受け付けません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業での予習にかなり時間を取られると思います。論文は、1回読んだだけでは理解できないことが多いです。何度も読み返して、しっかり理解したうえで読み進めてください。疑問に思ったことなどは授業中、積極的に質問してください。質問や意見を出し合うことで、問題発見、どのように解決していくかということを学んでいきます。

キーワード /Keywords

音声 IPA 中国語 日本語

研究演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	研究演習 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国をはじめとする各経済を社会科学的視点から分析する力を養成することを目的とする。
 中国やその他の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。
 実証分析を行うための基本的な統計学、経済学の知識及び分析手法の修得を目指す。
 ゼミ生の自主性を養うことを重視し、スキルの修得や文献の講読及びそれに基づくディスカッションは、担当者による分担部分の文献の紹介、記載事項に関する知識の整理、論点の提示がおこなわれ、それに基づくゼミメンバーによるディスカッションをおこなう、というスタイルをとる。
 経済分析の実践のためにパソコンを使った実習を行う。

到達目標

「思考・判断・表現力」
 中国および中国語圏に関わる諸問題について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。
 「コミュニケーション力」
 自己の見解を持ちつつ、他者と協働して中国および中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
 「自立的行動力」
 中国および中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
 岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年
 白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015
 伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018
 他の参考文献は授業中に提示する。

研究演習 B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
 - 2回 テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得(1)
 - 3回 テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得(2)
 - 4回 テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得(3)
 - 5回 テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得(4)
 - 6回 テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得(5)
 - 7回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(1)
 - 8回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(2)
 - 9回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(3)
 - 10回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(4)
 - 11回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(5)
 - 12回 研究テーマ選定、分析、ディスカッション(1)
 - 13回 研究テーマ選定、分析、ディスカッション(2)
 - 14回 研究テーマ選定、分析、ディスカッション(3)
 - 15回 まとめ
- * 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布された資料や準備すべき文献には、報告担当者以外も必ず目を通して各回のゼミに臨むようにしてください。
事後学習では、ゼミでおこなったディスカッションの内容を踏まえてその論点を発展し、次回につなげられるように思考する習慣を付けてください。また関連する資料や文献に日ごろから目を通すようにしてください。
新しいスキルの学習をおこなった場合は、それを活用できるよう練習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

中国経済論Ⅲ、時事中国語講読Ⅲ、その他各国・地域経済に関する科目や経済学に関する科目を履修していることが望ましい。
資料等には事前に目を通してこること。ゼミでの議論には積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 B 【昼】

担当者名 橋本 愛 / 橋本愛 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	研究演習 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：
 [思考・判断・表現力] 中国及び中国語圏に関わる諸問題について学際的、複眼的に思考・判断して解決策を探求し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。
 [コミュニケーション力] 自分の見解を持ちつつ、他者と協働して中国及び中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
 [自立的行動力] 中国及び中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

本演習では、中国語だけでなく日本語（ときに英語）も含め「ことば」について考察していきます。また、「中国語学概論I・II」で学んだ基礎的知識をもとに、より深く中国語の文法事項を学んでいきます。本演習では、認知言語学の視点から中国語学（現代中国語の語彙や文法）についての問題を考えていきます。中国語学や日中対照研究に関する論文を読み、中国語の言語現象を考察したり、日本語と対照することを通して、関連する諸問題について討論します。日中両語を深く考察することを通じて、その背景にある日本や中華圏に暮らす人たちの思考や文化について理解を深めていくことを目的とします。

研究演習B（後期授業）では、まず前期に提出してもらったレポートについて発表してもらいます。その後は配布資料を輪読しながら、出される課題について、資料・PPTを準備し発表してもらいます。学期末には、4年次の卒業研究演習で扱っていききたいテーマについて、レポート（①問題の所在、②先行研究の状況などについて）を執筆してもらいます。

教科書 /Textbooks

なし（授業中に資料を配布する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小野秀樹『中国人のこころ 「ことば」からみる思考と感覚』集英社、2018年
- 郭春貴『誤用から学ぶ中国語 - 基礎から応用まで』白帝社、2001年
- 奥水優『中国語基本語ノート』大修館書店、1980年
- 瀬戸賢一、山添秀剛、小田希望『解いて学ぶ認知言語学の基礎』大修館書店、2017年
- 松本曜編『認知意味論』大修館書店、2003年

上記の他、授業中に随時紹介する。

研究演習 B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の進め方、発表担当分け等)
- 2回 前期レポート発表 (1)
- 3回 前期レポート発表 (2)
- 4回 前期レポート発表 (3)
- 5回 資料精読、ディスカッション (1)
- 6回 資料精読、ディスカッション (2)
- 7回 資料精読、ディスカッション (3)
- 8回 資料精読、ディスカッション (4)
- 9回 資料精読、ディスカッション (5)
- 10回 資料精読、ディスカッション (6)
- 11回 資料精読、ディスカッション (7)
- 12回 資料精読、ディスカッション (8)
- 13回 資料精読、ディスカッション (9)
- 14回 資料精読、ディスカッション (10)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート：40%、発表：30%、授業への参加度 (積極的な発言など)：30%
* 課題提出の遅延や未提出、欠席、遅刻などは原点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回講義内容となる配布資料には必ず目を通してから授業に臨むこと。また発表担当ではない場合も、授業で発展的な議論ができるよう、資料を読み込んで準備をしておくこと。
事後学習：授業中に紹介した文献や、関連する文献を探し読み、授業中に取り扱った問題などについて引き続き考察する。

履修上の注意 /Remarks

中国語学概論I・IIを履修済であること。(中国語音声学I・IIも履修済であることが望ましい。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	研究演習 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

日中戦争・アジア太平洋戦争における日本の戦争加害と歴史認識

日中戦争・アジア太平洋戦争における日本の戦争加害の実相、及び現代日本人の戦争をめぐる歴史認識について理解を深める。

到達目標

<思考・判断・表現力>

中国および中国語圏に関わる諸問題について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。

<コミュニケーション力>

自己の見解を持ちつつ、他者と協働して中国および中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

<自立的行動力>

中国および中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

吉田裕『日本人の戦争観-戦後史のなかの変容』岩波現代文庫、2005年、1298円、ISBN 4006031076

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『新・図説 中国近現代史(改訂版)』法律文化社、2020年、ISBN 4589040557、3300円
(1年次の中国近現代史IIIで使用したテキスト)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講説明
- 2回 日本人の歴史認識研究：①戦後50年の地点から
- 3回 日本人の歴史認識研究：②太平洋戦争史観の成立
- 4回 日本人の歴史認識研究：③占領期における歴史認識
- 5回 日本人の歴史認識研究：④1950代におけるダブルスタンダードの成立
- 6回 日本人の歴史認識研究：⑤高度経済成長期と戦争体験の風化
- 7回 日本人の歴史認識研究：⑥経済大国のなかの歴史認識の変容
- 8回 日本人の歴史認識研究：⑦1980年代におけるダブルスタンダードの動揺
- 9回 日本人の歴史認識研究：④歴史からの逃避と現在
- 10回 学生個人研究報告
- 11回 学生個人研究報告
- 12回 学生個人研究報告
- 13回 学生個人研究報告
- 14回 学生個人研究報告
- 15回 学生個人研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・課題提出等により総合的に評価する。報告と討論...100%

研究演習 B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	研究演習 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ゼミテーマは「明清時代の中国・旧満州・朝鮮における外交貿易史研究」である。

明清中国や朝鮮王朝の漢文史料や日本・中国・韓国などで発表された論文・著書を通して、近世中国・旧満洲・朝鮮の政治・社会・経済について考察する。中国や朝鮮の漢文史料を手掛かりに、明清時代中国の外交・貿易政策、特に朝鮮との関係について考察する。3年次は『明実録』や『清実録』など簡単な資料を読みながら、漢文読解能力を身に付け、4年次は『朝鮮王朝実録』や『燕行録』など朝鮮側の資料を読み進める。但し漢文の読解は現代中国語の運用能力だけでは不十分なため、中国語やハングルの論文で代用することも視野に入れている。何れの場合でも精読を行うので、毎回予習しなくてはならない。

漢文は現代中国語とは相当懸絶した古典文章語であり、中国語ネイティブでも学習経験がなければ必ずしも読めるとは限らない。ましてや日本人の学生は電子辞書に搭載されている漢和辞典だけでは到底読みこなせない。漢籍用の紙の辞書を購入することを義務付ける。

到達目標

【思考・判断・表現力】中国および中国語圏に関わる諸問題について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、専門的な見地から自分の考えを論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】自己の見解を持ちつつ、他者と協働して中国および中国語圏の専門分野に関わる諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】中国および中国語圏への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

- 『明実録朝鮮資料輯録』巴蜀書社,2005年(簡体字表記)
- 張存武『清韓宗藩貿易1637-1894』中央研究院近代史研究所,1978年(繁体字表記)
- 『清実録』(筆写本)

講読箇所を複写して配布するので購入の必要なし。

中国語・韓国語論文を選択する学生には別途論文を提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『角川新字源』(購入必須)
- 『中日大辞典』(選択)
- 『朝鮮語辞典』(選択)

研究演習 B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第2回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第3回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第4回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第5回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第6回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第7回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第8回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第9回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第10回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第11回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第12回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第13回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第14回 漢文資料の講読および歴史的検討
- 第15回 漢文資料の講読および歴史的検討

成績評価の方法 /Assessment Method

- 漢文資料読解能力60%
- 歴史的分析能力40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の予習が全てである。漢文資料を読解する際には、必ず辞書を用いて予習すること。参考書に挙げた『角川新字源』で意味が掴めない場合には、より大部な漢和辞典である『諸橋大漢和』や、現代中国語とも共通する語彙であると推測される場合には、やや古い語彙も収録している『中日大辞典』などで調べることを。

履修上の注意 /Remarks

履修者の選抜は行わない。但し当ゼミでは資料読解力と並んで中国・朝鮮に関する知識量が重要である。それは大抵の場合、読書量の多寡によって決定される。中国語学習を単なるスキルの習得とのみ捉えることについて頭から否定はしないが、これまで中国史や朝鮮史について全く関心を持って来なかった学生は当ゼミではなかなかついて来れないと思われるので、他の演習の履修を奨める。授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

シラバスはあくまで教育目標である。現実にはゼミ生の数、歴史学に関する基礎学力などの実情に合わせ、内容を柔軟に調整している。担当者は近世東アジア社会経済史を広く研究しているが、受講生が時代や分野が異なるテーマを選んだ場合、十分な対応ができない可能性がある。研究演習Aと同様、史料を読み進めることでゼミ生各自が、自分のテーマを選択し、深掘りできるように指導する。

キーワード /Keywords

明清 中国 朝鮮 後金 女真 満州

中国近現代史Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS120M	◎		○		○
科目名	中国近現代史Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「19世紀後半～20世紀初頭の中国」
アヘン戦争による五港開港から辛亥革命までの政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。

到達目標

<知識>

中国近現代の歴史に関する基礎的な知識を身につけている。

<思考・判断・表現力>

中国の近現代の歴史に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

<自立的行動力>

中国の近現代の歴史への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史〔改訂版〕』（法律文化社、2000年、ISBN 4589040557、3300円）

※初回到必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国への視座と中国近現代史を学ぶ意味
- 2回 大清帝国素描(1)：統治理念と版図の形成
- 3回 大清帝国素描(2)：対外観念と国際関係
- 4回 アヘン貿易とアヘン戦争
- 5回 太平天国
- 6回 洋務運動
- 7回 辺境の喪失
- 8回 朝鮮問題と日清戦争(1)：日清の朝鮮支配争い
- 9回 朝鮮問題と日清戦争(2)：下関条約と東アジア国際関係の変動
- 10回 変法自強運動
- 11回 義和団事件
- 12回 光緒新政
- 13回 清朝打倒の革命運動
- 14回 辛亥革命と清朝の滅亡(1)：鉄道国有化問題
- 15回 辛亥革命と清朝の滅亡(2)：武昌起義と清朝の滅亡

成績評価の方法 /Assessment Method

出席回数が規定内であれば、下記のように評価する。出席回数規定に照らして不足する場合は評価対象から除外する。

試験...80% 小テスト等...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストとレジユメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジユメを学習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

19世紀後半～20世紀初頭、大清帝国、アヘン戦争、太平天国、洋務運動、辺境喪失、変法自強運動、義和団事件、光緒新政、反清革命運動、辛亥革命

中国近現代史Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS121M	◎		○		○
科目名	中国近現代史Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「20世紀の中国」
 中華民国(1912～49年)の政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。また、中華人民共和国の歩みも講じる。

到達目表
 <知識>
 中国近現代の歴史に関する基礎的な知識を身につけている。

<思考・判断・表現力>
 中国の近現代の歴史に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

<自立的行動力>
 中国の近現代の歴史への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史（改訂版）』（法律文化社、2000年、ISBN 4589040557、3300円）
 ※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中華民国の出発と軍閥混戦(1)：袁世凱政権の諸相
- 2回 中華民国の出発と軍閥混戦(2)：北洋軍閥の抗争
- 3回 日本の対華21ヶ条要求
- 4回 新文化運動・五四運動
- 5回 第一次世界大戦下の経済発展
- 6回 戦間期とワシントン体制
- 7回 第一次国共合作と国民革命(1)：国共合作の成立
- 8回 第一次国共合作と国民革命(2)：上海政変と国共分離
- 9回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(1)：柳条湖事件と満州国の成立
- 8回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(2)：西安事変と抗日民族統一政権の成立
- 9回 日中全面戦争の勃発
- 10回 日中全面戦争からアジア太平洋戦争へ
- 11回 国共内戦と中華人民共和国の成立
- 12回 毛沢東時代の中華人民共和国
- 13回 鄧小平と改革開放
- 14回 中華人民共和国と辺境
- 15回 戦後の日中関係

成績評価の方法 /Assessment Method

出席回数が規定内であれば、下記のように評価する。出席回数が規定に照らして不足する場合は評価対象から除外する。
試験... 80% 小テスト等... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校時代に日本史が世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

中華民国、軍閥混戦、対華21ヶ条要求、新文化運動、五四運動、ワシントン体制、第一次国共合作、国民革命、九・一八事変、日中全面戦争、国共内戦、中華人民共和国、毛沢東、鄧小平、日中関係

中国文学概論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 与小田 隆一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT150M	◎		○		○
科目名	中国文学概論Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国古典文学について、特に代表的な時代・ジャンルにのみ絞り、簡単な概説の後、作品（もしくはその一部或いは概要）を講読し、詳細な解説を行う。

(到達目標)

【知識】中国文学に関する基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】中国文学に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

【自立的行動力】中国文学への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス・受講のための予備知識
- 2 中国古典文学の特質(1) - 「文学」の定義
- 3 中国古典文学の特質(2) - 小説の評価
- 4 中国の伝説に見る歴史・文化
- 5 『詩経』
- 6 『韓非子』の中の寓話
- 7 六朝志怪小説(1) - 概要・時代背景
- 8 六朝志怪小説(2) - 作品
- 9 唐詩 - 杜甫
- 10 唐詩 - 李賀(1) - 李賀の生涯
- 11 唐詩 - 李賀(2) - 作品
- 12 唐代伝奇(1) - 概要・時代背景
- 13 唐代伝奇(2) - 作品
- 14 明代の白話小説一『金瓶梅』(1) - 概要・時代背景
- 15 明代の白話小説一『金瓶梅』(2) - 作品

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(70%)、平常点(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテーマについて下調べしておくこと、また授業後ノートを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

私語、30分以上の遅刻、無断の途中退室、携帯電話の使用はいずれも厳禁。場合によっては、失格とすることもあるので注意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文学概論Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 与小田 隆一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT151M	◎		○		○
科目名	中国文学概論Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中華民国期（1912～49）を中心とした中国近現代文学の作品を数編取り上げ、作品講読や、内容、時代背景に関する説明を行う。

（到達目標）

【知識】中国文学に関する基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】中国文学に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

【自立的行動力】中国文学への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス・受講にあたっての予備知識（1）
- 受講にあたっての予備知識（2）
- 魯迅「狂人日記」（1）
- 魯迅「狂人日記」（2）
- 郭沫若「残春」（1）
- 郭沫若「残春」（2）
- 許地山「春桃」（1）
- 許地山「春桃」（2）
- 穆時英「夜」（1）
- 穆時英「夜」（2）
- 施蛰存「梅雨之夕」（1）
- 施蛰存「梅雨之夕」（2）
- 中華民国期の「旧文学」（1）
- 中華民国期の「旧文学」（2）
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（70％）、平常点（30％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテーマについて下調べしておくこと、また授業後ノートを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

私語、30分以上の遅刻、無断の途中退室、携帯電話の使用はいずれも厳禁。場合によっては、失格とすることもあるので注意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE110M	◎		○		○
科目名	中国文化論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国文化を古代文明から現代に至るプロセスの中で、キーワードを拾い、それを解明することで独自性と普遍性を見つけてみる。
(到達目標)

【知識】中国文化に関する基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】中国文化に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

【自立的行動力】中国文化への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『図説 中国文化百華』全18巻 農文協

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 古代文明遺跡が伝えるもの 「三星堆」に見る揚子江文明
- 第2回 中国シャーマニズムに現れる仮面劇
- 第3回 「十二支」という暦の考え方
- 第4回 古代楽器が伝えたもの
- 第5回 孔子の存在 儒教の意義
- 第6回 中国に於ける仏教文化の変遷
- 第7回 書道の意義
- 第8回 絵画の伝統
- 第9回 国技としての気功、太極拳
- 第10回 漢語のパワー
- 第11回 科学文明の受容 ①写真、映画
- 第12回 科学文明の受容 ②家電、携帯電話
- 第13回 科学文明の受容 ③IT産業
- 第14回 東洋医学の現況
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・20% レポート評価・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された課題を予習し、毎回学習内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

授業前に書物またはインターネット情報から該当事項に関する概要を捉えておく。授業後、講義中に指摘された項目についてノートにまとめておく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級総合I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 平田・李

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN100M	○	◎		○	
科目名	中国語初級総合 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

- [知識] 中国語に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。
- [技能] 中国語の4つの技能 (聴く・話す・読む・書く) の基礎を身につけている。
- [コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための基礎的なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、中国語の発音を身につけ、基礎的文型、文法を駆使して、以下のコミュニケーションができるようにする。

第1課

- ①初対面の相手に簡単な自己紹介や挨拶をすることができる。
- ②初対面の相手に姓・名前を尋ねることができる。
- ③初対面の相手の国籍・身分を尋ねることができる。

第2課

- ①相手に出身地、家族構成を尋ねることができる。
- ②自分の出身地、家族構成を語るすることができる。

第3課

- ①時刻・日付・曜日等を聞いたり話したりできる。
- ②1日のスケジュールを語るすることができる。

第4課

- ①人や物の所在を聞いたり答えたりすることができる。
- ②ある場所に向かう道順や交通手段を尋ねることができる。

第5課

- ①買い物する時、商品の値段について尋ねることができる。
- ②過去に経験したことや完了したことを語るすることができる。

第6課

- ①レストランで飲み物や料理を注文することができる。
- ②注文すると時に、相手の好みを聞いたり、自分の好みを告げたりすることができる。
- ③飲み物や食べ物の好き嫌いを語るすることができる。

第7課

- ①相手の趣味や特技を尋ねたり、自分の趣味や特技を語ったりすることができる。
- ②趣味・特技に関して、相手や自分の腕前にコメントすることができる。

第8課

- ①電話番号・アドレス等を教えたり、尋ねたりすることができる。
- ②旅行の予定、計画などを聞いたり話したりすることができる。

第9課

- ①体調を崩した人に声をかけたり慰めたりすることができる。
- ②自分が風邪を引いた時、その症状を説明することができる。
- ③都合が悪くて授業を休みたい時に、友人からその旨を先生に伝えてもらうように依頼ができる。

第10課

- ①故郷などの四季・気候について簡単に説明することができる。
- ②中国の書式を使って簡単な手紙を書くことができる。

教科書 /Textbooks

『新コミュニケーション中国語Level 1』（岡田英樹・絹川浩敏・胡玉華・張恒悦、郁文堂）2800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中国語検定過去問Web」+ 授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音編 中国語概説、声調
- 2回 発音編 単母音
- 3回 発音編 子音前半
- 4回 発音編 子音後半
- 5回 発音編 複母音
- 6回 発音編 鼻母音
- 7回 発音編 声調の組み合わせパターン
- 8回 発音編 変調(一、不)、単語の構造
- 9回 発音編 発音のまとめ
- 10回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 11回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 12回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(タスク活動・リスニング問題)
- 13回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(練習問題、発表準備)
- 14回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 15回 第2課 出身地・家族構成を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 16回 第2課 出身地・家族構成を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 17回 第2課 出身地・家族構成を語る(タスク活動・リスニング問題)
- 18回 第2課 出身地・家族構成を語る(練習問題、発表準備)
- 19回 第2課 出身地・家族構成を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 20回 第3課 スケジュールを語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 21回 第3課 スケジュールを語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 22回 第3課 スケジュールを語る(タスク活動・リスニング問題)
- 23回 第3課 スケジュールを語る(練習問題、発表準備)
- 24回 第3課 スケジュールを語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 25回 第4課 道順を聞く(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 26回 第4課 道順を聞く(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 27回 第4課 道順を聞く(タスク活動・リスニング問題)
- 28回 第4課 道順を聞く(練習問題、発表準備)
- 29回 第4課 道順を聞く(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 30回 第5課 買い物をする(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 31回 第5課 買い物をする(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 32回 第5課 買い物をする(タスク活動・リスニング問題)
- 33回 第5課 買い物をする(練習問題、発表準備)
- 34回 第5課 買い物をする(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 35回 第6課 料理を注文する(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 36回 第6課 料理を注文する(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 37回 第6課 料理を注文する(タスク活動<学外実習を行う予定>・リスニング問題)
- 38回 第6課 料理を注文する(練習問題、発表準備)
- 39回 第6課 料理を注文する(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 40回 第7課 趣味を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 41回 第7課 趣味を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 42回 第7課 趣味を語る(タスク活動・リスニング問題)
- 43回 第7課 趣味を語る(練習問題、発表準備)
- 44回 第7課 趣味を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 45回 第8課 夏休みの計画を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 46回 第8課 夏休みの計画を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 47回 第8課 夏休みの計画を語る(タスク活動・リスニング問題)
- 48回 第8課 夏休みの計画を語る(練習問題、発表準備)
- 49回 第8課 夏休みの計画を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 50回 第9課 体の具合を聞く(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 51回 第9課 体の具合を聞く(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 52回 第9課 体の具合を聞く(タスク活動・リスニング問題)
- 53回 第9課 体の具合を聞く(練習問題、発表準備)
- 54回 第9課 体の具合を聞く(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 55回 第10課 手紙を書く(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 56回 第10課 手紙を書く(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 57回 第10課 手紙を書く(タスク活動・リスニング問題)
- 58回 第10課 手紙を書く(練習問題、発表準備)
- 59回 第10課 手紙を書く(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 60回 まとめ

* 以上の進度は目安であるが、実際の学習状況を見て微調整することがある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験...50% 小テスト・タスクなど...50%
欠席や遅刻、課題の未提出、受講態度が悪い等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は一冊のテキストを用いて、中国人教員と日本人教員ペアで、週四回連続して進められる。特殊な形式の授業なので注意すること。
授業に関するお知らせ、配布物等はmoodleにアップします。moodleを確認する習慣をつけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

母語(日本語)で他者ときちんとしたコミュニケーションが図れないのに、外国語(中国語)でコミュニケーションが図れるようになることはまずありません。母語(日本語)のコミュニケーション能力を鍛えることが外国語(中国語)能力の向上にもつながってきます。日頃から、きちんとしたコミュニケーションを心がけて下さい。また、コミュニケーション能力は実践なくして身につくことはありません。受講者に対しては授業への積極的な参加を求めます。

キーワード /Keywords

中国語、コミュニケーション、異文化理解

中国語初級総合I 【昼】

担当者名 橋本・李
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN100M	○	◎		○	
科目名	中国語初級総合 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

- [知識] 中国語に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。
- [技能] 中国語の4つの技能 (聴く・話す・読む・書く) の基礎を身につけている。
- [コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための基礎的なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、中国語の発音を身につけ、基礎的文型、文法を駆使して、以下のコミュニケーションができるようにする。

第1課

- ①初対面の相手に簡単な自己紹介や挨拶をすることができる。
- ②初対面の相手に姓・名前を尋ねることができる。
- ③初対面の相手の国籍・身分を尋ねることができる。

第2課

- ①相手に出身地、家族構成を尋ねることができる。
- ②自分の出身地、家族構成を語るすることができる。

第3課

- ①時刻・日付・曜日等を聞いたり話したりできる。
- ②1日のスケジュールを語るすることができる。

第4課

- ①人や物の所在を聞いたり答えたりすることができる。
- ②ある場所に向かう道順や交通手段を尋ねることができる。

第5課

- ①買い物する時、商品の値段について尋ねることができる。
- ②過去に経験したことや完了したことを語るすることができる。

第6課

- ①レストランで飲み物や料理を注文することができる。
- ②注文すると時に、相手の好みを聞いたり、自分の好みを告げたりすることができる。
- ③飲み物や食べ物の好き嫌いを語るすることができる。

第7課

- ①相手の趣味や特技を尋ねたり、自分の趣味や特技を語ったりすることができる。
- ②趣味・特技に関して、相手や自分の腕前にコメントすることができる。

第8課

- ①電話番号・アドレス等を教えたり、尋ねたりすることができる。
- ②旅行の予定、計画などを聞いたり話したりすることができる。

第9課

- ①体調を崩した人に声をかけたり慰めたりすることができる。
- ②自分が風邪を引いた時、その症状を説明することができる。
- ③都合が悪くて授業を休みたい時に、友人からその旨を先生に伝えてもらうように依頼ができる。

第10課

- ①故郷などの四季・気候について簡単に説明することができる。
- ②中国の書式を使って簡単な手紙を書くことができる。

教科書 /Textbooks

『新コミュニケーション型中国語Level 1』（岡田英樹・絹川浩敏・胡玉華・張恒悦、郁文堂）2800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中国語検定過去問Web」 + 授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音編 中国語概説、声調
- 2回 発音編 単母音
- 3回 発音編 子音前半
- 4回 発音編 子音後半
- 5回 発音編 複母音
- 6回 発音編 鼻母音
- 7回 発音編 声調の組み合わせパターン
- 8回 発音編 変調(一、不)、単語の構造
- 9回 発音編 発音のまとめ
- 10回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 11回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 12回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(タスク活動・リスニング問題)
- 13回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(練習問題、発表準備)
- 14回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 15回 第2課 出身地・家族構成を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 16回 第2課 出身地・家族構成を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 17回 第2課 出身地・家族構成を語る(タスク活動・リスニング問題)
- 18回 第2課 出身地・家族構成を語る(練習問題、発表準備)
- 19回 第2課 出身地・家族構成を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 20回 第3課 スケジュールを語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 21回 第3課 スケジュールを語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 22回 第3課 スケジュールを語る(タスク活動・リスニング問題)
- 23回 第3課 スケジュールを語る(練習問題、発表準備)
- 24回 第3課 スケジュールを語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 25回 第4課 道順を聞く(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 26回 第4課 道順を聞く(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 27回 第4課 道順を聞く(タスク活動・リスニング問題)
- 28回 第4課 道順を聞く(練習問題、発表準備)
- 29回 第4課 道順を聞く(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 30回 第5課 買い物をする(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 31回 第5課 買い物をする(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 32回 第5課 買い物をする(タスク活動・リスニング問題)
- 33回 第5課 買い物をする(練習問題、発表準備)
- 34回 第5課 買い物をする(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 35回 第6課 料理を注文する(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 36回 第6課 料理を注文する(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 37回 第6課 料理を注文する(タスク活動<学外実習を行う予定>・リスニング問題)
- 38回 第6課 料理を注文する(練習問題、発表準備)
- 39回 第6課 料理を注文する(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 40回 第7課 趣味を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 41回 第7課 趣味を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 42回 第7課 趣味を語る(タスク活動・リスニング問題)
- 43回 第7課 趣味を語る(練習問題、発表準備)
- 44回 第7課 趣味を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 45回 第8課 夏休みの計画を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 46回 第8課 夏休みの計画を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 47回 第8課 夏休みの計画を語る(タスク活動・リスニング問題)
- 48回 第8課 夏休みの計画を語る(練習問題、発表準備)
- 49回 第8課 夏休みの計画を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 50回 第9課 体の具合を聞く(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 51回 第9課 体の具合を聞く(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 52回 第9課 体の具合を聞く(タスク活動・リスニング問題)
- 53回 第9課 体の具合を聞く(練習問題、発表準備)
- 54回 第9課 体の具合を聞く(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 55回 第10課 手紙を書く(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 56回 第10課 手紙を書く(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 57回 第10課 手紙を書く(タスク活動・リスニング問題)
- 58回 第10課 手紙を書く(練習問題、発表準備)
- 59回 第10課 手紙を書く(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 60回 まとめ

* 以上の進度は目安であるが、実際の学習状況を見て微調整することがある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験...50% 小テスト・タスクなど...50%
欠席や遅刻、課題の未提出、受講態度が悪い等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は一冊のテキストを用いて、中国人教員と日本人教員ペアで、週四回連続して進められる。特殊な形式の授業なので注意すること。
授業に関するお知らせ、配布物等はmoodleにアップします。moodleを確認する習慣をつけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

母語(日本語)で他者ときちんとしたコミュニケーションが図れないのに、外国語(中国語)でコミュニケーションが図れるようになることはまずありません。母語(日本語)のコミュニケーション能力を鍛えることが外国語(中国語)能力の向上にもつながってきます。日頃から、きちんとしたコミュニケーションを心がけて下さい。また、コミュニケーション能力は実践なくして身につくことはありません。受講者に対しては授業への積極的な参加を求めます。

キーワード /Keywords

中国語、コミュニケーション、異文化理解

中国語初級総合I 【昼】

担当者名 胡・宋(宥)
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN100M	○	◎		○	
科目名	中国語初級総合 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

- [知識] 中国語に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。
- [技能] 中国語の4つの技能 (聴く・話す・読む・書く) の基礎を身につけている。
- [コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための基礎的なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、中国語の発音を身につけ、基礎的文型、文法を駆使して、以下のコミュニケーションができるようにする。

第1課

- ①初対面の相手に簡単な自己紹介や挨拶をすることができる。
- ②初対面の相手に姓・名前を尋ねることができる。
- ③初対面の相手の国籍・身分を尋ねることができる。

第2課

- ①相手に出身地、家族構成を尋ねることができる。
- ②自分の出身地、家族構成を語るることができる。

第3課

- ①時刻・日付・曜日等を聞いたり話したりできる。
- ②1日のスケジュールを語るることができる。

第4課

- ①人や物の所在を聞いたり答えたりすることができる。
- ②ある場所に向かう道順や交通手段を尋ねることができる。

第5課

- ①買い物する時、商品の値段について尋ねることができる。
- ②過去に経験したことや完了したことを語るることができる。

第6課

- ①レストランで飲み物や料理を注文することができる。
- ②注文すると時に、相手の好みを聞いたり、自分の好みを告げたりすることができる。
- ③飲み物や食べ物好き嫌いを語るすることができる。

第7課

- ①相手の趣味や特技を尋ねたり、自分の趣味や特技を語ったりすることができる。
- ②趣味・特技に関して、相手や自分の腕前にコメントすることができる。

第8課

- ①電話番号・アドレス等を教えたり、尋ねたりすることができる。
- ②旅行の予定、計画などを聞いたり話したりすることができる。

第9課

- ①体調を崩した人に声をかけたり慰めたりすることができる。
- ②自分が風邪を引いた時、その症状を説明することができる。
- ③都合が悪くて授業を休みたい時に、友人からその旨を先生に伝えてもらうように依頼ができる。

第10課

- ①故郷などの四季・気候について簡単に説明することができる。
- ②中国の書式を使って簡単な手紙を書くことができる。

教科書 /Textbooks

『新コミュニケーション型中国語Level 1』（岡田英樹・絹川浩敏・胡玉華・張恒悦・郁文堂）2800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中国語検定過去問Web」+ 授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音編 中国語概説、声調
- 2回 発音編 単母音
- 3回 発音編 子音前半
- 4回 発音編 子音後前半
- 5回 発音編 複母音
- 6回 発音編 鼻母音
- 7回 発音編 声調の組み合わせパターン
- 8回 発音編 変調(一、不)、単語の構造
- 9回 発音編 発音のまとめ
- 10回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 11回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 12回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(タスク活動・リスニング問題)
- 13回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(練習問題、発表準備)
- 14回 第1課 初対面の挨拶と自己紹介(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 15回 第2課 出身地・家族構成を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 16回 第2課 出身地・家族構成を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 17回 第2課 出身地・家族構成を語る(タスク活動・リスニング問題)
- 18回 第2課 出身地・家族構成を語る(練習問題、発表準備)
- 19回 第2課 出身地・家族構成を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 20回 第3課 スケジュールを語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 21回 第3課 スケジュールを語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 22回 第3課 スケジュールを語る(タスク活動・リスニング問題)
- 23回 第3課 スケジュールを語る(練習問題、発表準備)
- 24回 第3課 スケジュールを語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 25回 第4課 道順を聞く(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 26回 第4課 道順を聞く(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 27回 第4課 道順を聞く(タスク活動・リスニング問題)
- 28回 第4課 道順を聞く(練習問題、発表準備)
- 29回 第4課 道順を聞く(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 30回 第5課 買い物をする(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 31回 第5課 買い物をする(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 32回 第5課 買い物をする(タスク活動・リスニング問題)
- 33回 第5課 買い物をする(練習問題、発表準備)
- 34回 第5課 買い物をする(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 35回 第6課 料理を注文する(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 36回 第6課 料理を注文する(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 37回 第6課 料理を注文する(タスク活動<学外実習を行う予定>・リスニング問題)
- 38回 第6課 料理を注文する(練習問題、発表準備)
- 39回 第6課 料理を注文する(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 40回 第7課 趣味を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 41回 第7課 趣味を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 42回 第7課 趣味を語る(タスク活動・リスニング問題)
- 43回 第7課 趣味を語る(練習問題、発表準備)
- 44回 第7課 趣味を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 45回 第8課 夏休みの計画を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 46回 第8課 夏休みの計画を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 47回 第8課 夏休みの計画を語る(タスク活動・リスニング問題)
- 48回 第8課 夏休みの計画を語る(練習問題、発表準備)
- 49回 第8課 夏休みの計画を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 50回 第9課 体の具合を聞く(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 51回 第9課 体の具合を聞く(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 52回 第9課 体の具合を聞く(タスク活動・リスニング問題)
- 53回 第9課 体の具合を聞く(練習問題、発表準備)
- 54回 第9課 体の具合を聞く(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 55回 第10課 手紙を書く(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 56回 第10課 手紙を書く(単語の確認・コミュニケーション練習)
- 57回 第10課 手紙を書く(タスク活動・リスニング問題)
- 58回 第10課 手紙を書く(練習問題、発表準備)
- 59回 第10課 手紙を書く(まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 60回 まとめ

* 以上の進度は目安であるが、実際の学習状況を見て微調整することがある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験...50% 小テスト・タスクなど...50%
欠席や遅刻、課題の未提出、受講態度が悪い等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は一冊のテキストを用いて、中国人教員と日本人教員ペアで、週四回連続して進められる。特殊な形式の授業なので注意すること。
授業に関するお知らせ、配布物等はmoodleにアップします。moodleを確認する習慣をつけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

母語(日本語)で他者ときちんとしたコミュニケーションが図れないのに、外国語(中国語)でコミュニケーションが図れるようになることはまずありません。母語(日本語)のコミュニケーション能力を鍛えることが外国語(中国語)能力の向上にもつながってきます。日頃から、きちんとしたコミュニケーションを心がけて下さい。また、コミュニケーション能力は実践なくして身につくことはありません。受講者に対しては授業への積極的な参加を求めます。

キーワード /Keywords

中国語、コミュニケーション、異文化理解

中国語初級総合Ⅱ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 平田・李
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN110M	○	◎		○	
科目名	中国語初級総合Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

中国語初級総合II【昼】

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

[知識] 中国語に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

[技能] 中国語の4つの技能 (聴く・話す・読む・書く) の基礎を身につけている。

[コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための基礎的なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、中国語の発音を身につけ、基礎的文型、文法を駆使して、以下のコミュニケーションができるようにする。

第1課

①知らない言葉の意味についての尋ね方が分かる。

②タクシーで運転手に指示ができる。

③入寮手続きをすることができる。

第2課

①自分の友人を人に紹介したり、二人を引き合わせたりすることができる。

②人に生活情報を尋ねることができる。

③レストランや食堂について簡単な評価をすることができる。

第3課

①ある1日の行動範囲や行動内容について語る事ができる。

②天気の状態について語る事ができる。

第4課

①お土産を渡す場合の礼儀正しい言い方ができる。

②ある人の技能や外見をほめることができる。

③ほめ言葉に対して返事ができる。

第5課

①お世話を頂いたことに対して感謝を述べる事ができる。

②バスに関する情報を人に尋ねることができる。

第6課

①履修科目及びその学習方法について語る事ができる。

②学校内の施設及びそれらの場所について語る事ができる。

③ある人の性格について語る事ができる。

④将来の夢について尋ねたり、答えたりすることができる。

第7課

①宿泊の予約ができる。

②列車や飛行機の切符の予約ができる。

第8課

①簡単な買い物ができる。

②買い物をする時に値段の交渉ができる。

③お金の両替ができる。

第9課

①映画、劇などを観た後の感想を述べる事ができる。

②簡単なプログラム・パンフレット・チラシを読むことができる。

第10課

①スポーツの勝敗を中国語で表現することができる。

②スポーツ観戦後の感想を述べる事ができる。

第11課

①手紙・はがき・小包を郵便局から送ることができる。

②生活に役立つ広告・パンフレットを読むことができる。

第12課

①式辞を書いてスピーチすることができる。

②実用文 (求人広告など) を書くことができる。

教科書 /Textbooks

『新コミュニケーション中国語Level 2』 (絹川浩敏・胡玉華・張恒悦・郁文堂) 2900円 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中国語検定過去問Web」 + 授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|----|-----|---|
| 1回 | 第1課 | 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明) |
| 2回 | 第1課 | 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (単語の確認・コミュニケーション練習) |
| 3回 | 第1課 | 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (タスク活動・リスニング問題) |
| 4回 | 第1課 | 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (練習問題、発表準備) |
| 5回 | 第1課 | 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (まとめ発表、評価。目標達成確認) |
| 6回 | 第2課 | 身近な情報を得る (単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明) |
| 7回 | 第2課 | 身近な情報を得る (単語の確認・コミュニケーション練習) |
| 8回 | 第2課 | 身近な情報を得る (タスク活動・リスニング問題) |

中国語初級総合II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

9回	第2課	身近な情報を得る(練習問題、発表準備)
10回	第2課	身近な情報を得る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
11回	第3課	1日の経験を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
12回	第3課	1日の経験を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
13回	第3課	1日の経験を語る(タスク活動・リスニング問題)
14回	第3課	1日の経験を語る(練習問題、発表準備)
15回	第3課	1日の経験を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
16回	第4課	中国人の家庭を訪問する(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
17回	第4課	中国人の家庭を訪問する(単語の確認・コミュニケーション練習)
18回	第4課	中国人の家庭を訪問する(タスク活動・リスニング問題)
19回	第4課	中国人の家庭を訪問する(練習問題、発表準備)
20回	第4課	中国人の家庭を訪問する(まとめの発表、評価。目標達成確認)
21回	第5課	北京の観光予定を話し合う(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
22回	第5課	北京の観光予定を話し合う(単語の確認・コミュニケーション練習)
23回	第5課	北京の観光予定を話し合う(タスク活動・リスニング問題)
24回	第5課	北京の観光予定を話し合う(練習問題、発表準備)
25回	第5課	北京の観光予定を話し合う(まとめの発表、評価。目標達成確認)
26回	第6課	留学生活を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
27回	第6課	留学生活を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
28回	第6課	留学生活を語る(タスク活動・リスニング問題)
29回	第6課	留学生活を語る(練習問題、発表準備)
30回	第6課	留学生活を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
31回	第7課	列車に乗る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
32回	第7課	列車に乗る(単語の確認・コミュニケーション練習)
33回	第7課	列車に乗る(タスク活動・リスニング問題)
34回	第7課	列車に乗る(練習問題、発表準備)
35回	第7課	列車に乗る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
36回	第8課	値段を交渉する(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
37回	第8課	値段を交渉する(単語の確認・コミュニケーション練習)
38回	第8課	値段を交渉する(タスク活動・リスニング問題)
39回	第8課	値段を交渉する(練習問題、発表準備)
40回	第8課	値段を交渉する(まとめの発表、評価。目標達成確認)
41回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
42回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
43回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(タスク活動・リスニング問題)
44回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(練習問題、発表準備)
45回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
46回	第10課	試合観戦の感想を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
47回	第10課	試合観戦の感想を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
48回	第10課	試合観戦の感想を語る(タスク活動・リスニング問題)
49回	第10課	試合観戦の感想を語る(練習問題、まとめの発表、評価。目標達成確認)
50回	第11課	郵便物を出す(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
51回	第11課	郵便物を出す(単語の確認・コミュニケーション練習)
52回	第11課	郵便物を出す(タスク活動・リスニング問題)
53回	第11課	郵便物を出す(練習問題、発表準備)
54回	第11課	郵便物を出す(まとめの発表、評価。目標達成確認)
55回	第12課	謝辞を書き、話す(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
56回	第12課	謝辞を書き、話す(単語の確認・コミュニケーション練習)
57回	第12課	謝辞を書き、話す(タスク活動・リスニング問題)
58回	第12課	謝辞を書き、話す(練習問題、発表準備)
59回	第12課	謝辞を書き、話す(まとめの発表、評価。目標達成確認)
60回	まとめ	

* 以上の計画の目安であるが、実際の学習状況を見て微調整することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験...50% 小テスト・宿題など...50%
欠席や遅刻、課題の未提出、受講態度が悪い等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

履修上の注意 /Remarks

本授業は一冊のテキストを用いて、中国人教員と日本人教員ペアで、週四回連続して進められる。特殊な形式の授業なので注意すること。授業に関するお知らせ、配布物等はmoodleにアップします。moodleを確認する習慣をつけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

母語（日本語）で他者ときちんとしたコミュニケーションが図れないのに、外国語（中国語）でコミュニケーションが図れるようになることはまずありません。母語（日本語）のコミュニケーション能力を鍛えることが外国語（中国語）能力の向上にもつながってきます。日頃から、きちんとしたコミュニケーションを心がけて下さい。また、コミュニケーション能力は実践なくして身につくことはありません。受講者に対しては授業への積極的な参加を求めます。

キーワード /Keywords

中国語、コミュニケーション、異文化理解

中国語初級総合Ⅱ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 橋本・李
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN110M	○	◎		○	
科目名	中国語初級総合Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

中国語初級総合II【昼】

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

[知識] 中国語に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

[技能] 中国語の4つの技能 (聴く・話す・読む・書く) の基礎を身につけている。

[コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための基礎的なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、中国語の発音を身につけ、基礎的文型、文法を駆使して、以下のコミュニケーションができるようにする。

第1課

①知らない言葉の意味についての尋ね方が分かる。

②タクシーで運転手に指示ができる。

③入寮手続きをすることができる。

第2課

①自分の友人を人に紹介したり、二人を引き合わせたりすることができる。

②人に生活情報を尋ねることができる。

③レストランや食堂について簡単な評価をすることができる。

第3課

①ある1日の行動範囲や行動内容について語ることができる。

②天気の状態について語ることができる。

第4課

①お土産を渡す場合の礼儀正しい言い方ができる。

②ある人の技能や外見をほめることができる。

③ほめ言葉に対して返事ができる。

第5課

①お世話を頂いたことに対して感謝を述べるができる。

②バスに関する情報を人に尋ねることができる。

第6課

①履修科目及びその学習方法について語ることができる。

②学校内の施設及びそれらの場所について語ることができる。

③ある人の性格について語ることができる。

④将来の夢について尋ねたり、答えたりすることができる。

第7課

①宿泊の予約ができる。

②列車や飛行機の切符の予約ができる。

第8課

①簡単な買い物ができる。

②買い物をする時に値段の交渉ができる。

③お金の両替ができる。

第9課

①映画、劇などを観た後の感想を述べるができる。

②簡単なプログラム・パンフレット・チラシを読むことができる。

第10課

①スポーツの勝敗を中国語で表現することができる。

②スポーツ観戦後の感想を述べるができる。

第11課

①手紙・はがき・小包を郵便局から送ることができる。

②生活に役立つ広告・パンフレットを読むことができる。

第12課

①式辞を書いてスピーチすることができる。

②実用文 (求人広告など) を書くことができる。

教科書 /Textbooks

『新コミュニケーション中国語Level 2』 (絹川浩敏・胡玉華・張恒悦・郁文堂) 2900円 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中国語検定過去問Web」 + 授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|----|-----|---|
| 1回 | 第1課 | 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明) |
| 2回 | 第1課 | 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (単語の確認・コミュニケーション練習) |
| 3回 | 第1課 | 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (タスク活動・リスニング問題) |
| 4回 | 第1課 | 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (練習問題、発表準備) |
| 5回 | 第1課 | 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (まとめの発表、評価。目標達成確認) |
| 6回 | 第2課 | 身近な情報を得る (単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明) |
| 7回 | 第2課 | 身近な情報を得る (単語の確認・コミュニケーション練習) |
| 8回 | 第2課 | 身近な情報を得る (タスク活動・リスニング問題) |

中国語初級総合II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

9回	第2課	身近な情報を得る(練習問題、発表準備)
10回	第2課	身近な情報を得る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
11回	第3課	1日の経験を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
12回	第3課	1日の経験を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
13回	第3課	1日の経験を語る(タスク活動・リスニング問題)
14回	第3課	1日の経験を語る(練習問題、発表準備)
15回	第3課	1日の経験を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
16回	第4課	中国人の家庭を訪問する(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
17回	第4課	中国人の家庭を訪問する(単語の確認・コミュニケーション練習)
18回	第4課	中国人の家庭を訪問する(タスク活動・リスニング問題)
19回	第4課	中国人の家庭を訪問する(練習問題、発表準備)
20回	第4課	中国人の家庭を訪問する(まとめの発表、評価。目標達成確認)
21回	第5課	北京の観光予定を話し合う(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
22回	第5課	北京の観光予定を話し合う(単語の確認・コミュニケーション練習)
23回	第5課	北京の観光予定を話し合う(タスク活動・リスニング問題)
24回	第5課	北京の観光予定を話し合う(練習問題、発表準備)
25回	第5課	北京の観光予定を話し合う(まとめの発表、評価。目標達成確認)
26回	第6課	留学生生活を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
27回	第6課	留学生生活を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
28回	第6課	留学生生活を語る(タスク活動・リスニング問題)
29回	第6課	留学生生活を語る(練習問題、発表準備)
30回	第6課	留学生生活を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
31回	第7課	列車に乗る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
32回	第7課	列車に乗る(単語の確認・コミュニケーション練習)
33回	第7課	列車に乗る(タスク活動・リスニング問題)
34回	第7課	列車に乗る(練習問題、発表準備)
35回	第7課	列車に乗る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
36回	第8課	値段を交渉する(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
37回	第8課	値段を交渉する(単語の確認・コミュニケーション練習)
38回	第8課	値段を交渉する(タスク活動・リスニング問題)
39回	第8課	値段を交渉する(練習問題、発表準備)
40回	第8課	値段を交渉する(まとめの発表、評価。目標達成確認)
41回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
42回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
43回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(タスク活動・リスニング問題)
44回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(練習問題、発表準備)
45回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
46回	第10課	試合観戦の感想を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
47回	第10課	試合観戦の感想を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
48回	第10課	試合観戦の感想を語る(タスク活動・リスニング問題)
49回	第10課	試合観戦の感想を語る(練習問題、まとめの発表、評価。目標達成確認)
50回	第11課	郵便物を出す(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
51回	第11課	郵便物を出す(単語の確認・コミュニケーション練習)
52回	第11課	郵便物を出す(タスク活動・リスニング問題)
53回	第11課	郵便物を出す(練習問題、発表準備)
54回	第11課	郵便物を出す(まとめの発表、評価。目標達成確認)
55回	第12課	謝辞を書き、話す(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
56回	第12課	謝辞を書き、話す(単語の確認・コミュニケーション練習)
57回	第12課	謝辞を書き、話す(タスク活動・リスニング問題)
58回	第12課	謝辞を書き、話す(練習問題、発表準備)
59回	第12課	謝辞を書き、話す(まとめの発表、評価。目標達成確認)
60回	まとめ	

* 以上の計画の目安であるが、実際の学習状況を見て微調整することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験...50% 小テスト・宿題など...50%
欠席や遅刻、課題の未提出、受講態度が悪い等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

履修上の注意 /Remarks

本授業は一冊のテキストを用いて、中国人教員と日本人教員ペアで、週四回連続して進められる。特殊な形式の授業なので注意すること。授業に関するお知らせ、配布物等はmoodleにアップします。moodleを確認する習慣をつけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

母語（日本語）で他者ときちんとしたコミュニケーションが図れないのに、外国語（中国語）でコミュニケーションが図れるようになることはまずありません。母語（日本語）のコミュニケーション能力を鍛えることが外国語（中国語）能力の向上にもつながってきます。日頃から、きちんとしたコミュニケーションを心がけて下さい。また、コミュニケーション能力は実践なくして身につくことはありません。受講者に対しては授業への積極的な参加を求めます。

キーワード /Keywords

中国語、コミュニケーション、異文化理解

中国語初級総合Ⅱ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 胡・宋(宥)
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN110M	○	◎		○	
科目名	中国語初級総合Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

[知識] 中国語に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

[技能] 中国語の4つの技能 (聴く・話す・読む・書く) の基礎を身につけている。

[コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための基礎的なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、中国語の発音を身につけ、基礎的文型、文法を駆使して、以下のコミュニケーションができるようにする。

第1課

- ①知らない言葉の意味についての尋ね方が分かる。
- ②タクシーで運転手に指示ができる。
- ③入寮手続きをすることができる。

第2課

- ①自分の友人を人に紹介したり、二人を引き合わせたりすることができる。
- ②人に生活情報を尋ねることができる。
- ③レストランや食堂について簡単な評価をすることができる。

第3課

- ①ある1日の行動範囲や行動内容について語る事ができる。
- ②天気の状態について語る事ができる。

第4課

- ①お土産を渡す場合の礼儀正しい言い方ができる。
- ②ある人の技能や外見をほめることができる。
- ③ほめ言葉に対して返事ができる。

第5課

- ①お世話を頂いたことに対して感謝を述べる事ができる。
- ②バスに関する情報を人に尋ねることができる。

第6課

- ①履修科目及びその学習方法について語る事ができる。
- ②学校内の施設及びそれらの場所について語る事ができる。
- ③ある人の性格について語る事ができる。
- ④将来の夢について尋ねたり、答えたりすることができる。

第7課

- ①宿泊の予約ができる。
- ②列車や飛行機の切符の予約ができる。

第8課

- ①簡単な買い物ができる。
- ②買い物をする時に値段の交渉ができる。
- ③お金の両替ができる。

第9課

- ①映画、劇などを観た後の感想を述べる事ができる。
- ②簡単なプログラム・パンフレット・チラシを読むことができる。

第10課

- ①スポーツの勝敗を中国語で表現することができる。
- ②スポーツ観戦後の感想を述べる事ができる。

第11課

- ①手紙・はがき・小包を郵便局から送ることができる。
- ②生活に役立つ広告・パンフレットを読むことができる。

第12課

- ①式辞を書いてスピーチすることができる。
- ②実用文 (求人広告など) を書くことができる。

教科書 /Textbooks

『新コミュニケーション中国語Level 2』(絹川浩敏・胡玉華・張恒悦・郁文堂) 2900円 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中国語検定過去問Web」+ 授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 2回 第1課 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (単語の確認・コミュニケーション練習)
- 3回 第1課 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (タスク活動・リスニング問題)
- 4回 第1課 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (練習問題、発表準備)
- 5回 第1課 空港でのタクシーの乗車と入寮手続き (まとめの発表、評価。目標達成確認)
- 6回 第2課 身近な情報を得る (単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
- 7回 第2課 身近な情報を得る (単語の確認・コミュニケーション練習)
- 8回 第2課 身近な情報を得る (タスク活動・リスニング問題)

中国語初級総合II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

9回	第2課	身近な情報を得る(練習問題、発表準備)
10回	第2課	身近な情報を得る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
11回	第3課	1日の経験を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
12回	第3課	1日の経験を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
13回	第3課	1日の経験を語る(タスク活動・リスニング問題)
14回	第3課	1日の経験を語る(練習問題、発表準備)
15回	第3課	1日の経験を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
16回	第4課	中国人の家庭を訪問する(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
17回	第4課	中国人の家庭を訪問する(単語の確認・コミュニケーション練習)
18回	第4課	中国人の家庭を訪問する(タスク活動・リスニング問題)
19回	第4課	中国人の家庭を訪問する(練習問題、発表準備)
20回	第4課	中国人の家庭を訪問する(まとめの発表、評価。目標達成確認)
21回	第5課	北京の観光予定を話し合う(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
22回	第5課	北京の観光予定を話し合う(単語の確認・コミュニケーション練習)
23回	第5課	北京の観光予定を話し合う(タスク活動・リスニング問題)
24回	第5課	北京の観光予定を話し合う(練習問題、発表準備)
25回	第5課	北京の観光予定を話し合う(まとめの発表、評価。目標達成確認)
26回	第6課	留学生活を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
27回	第6課	留学生活を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
28回	第6課	留学生活を語る(タスク活動・リスニング問題)
29回	第6課	留学生活を語る(練習問題、発表準備)
30回	第6課	留学生活を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
31回	第7課	列車に乗る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
32回	第7課	列車に乗る(単語の確認・コミュニケーション練習)
33回	第7課	列車に乗る(タスク活動・リスニング問題)
34回	第7課	列車に乗る(練習問題、発表準備)
35回	第7課	列車に乗る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
36回	第8課	値段を交渉する(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
37回	第8課	値段を交渉する(単語の確認・コミュニケーション練習)
38回	第8課	値段を交渉する(タスク活動・リスニング問題)
39回	第8課	値段を交渉する(練習問題、発表準備)
40回	第8課	値段を交渉する(まとめの発表、評価。目標達成確認)
41回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
42回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
43回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(タスク活動・リスニング問題)
44回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(練習問題、発表準備)
45回	第9課	アート鑑賞後の感想を語る(まとめの発表、評価。目標達成確認)
46回	第10課	試合観戦の感想を語る(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
47回	第10課	試合観戦の感想を語る(単語の確認・コミュニケーション練習)
48回	第10課	試合観戦の感想を語る(タスク活動・リスニング問題)
49回	第10課	試合観戦の感想を語る(練習問題、まとめの発表、評価。目標達成確認)
50回	第11課	郵便物を出す(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
51回	第11課	郵便物を出す(単語の確認・コミュニケーション練習)
52回	第11課	郵便物を出す(タスク活動・リスニング問題)
53回	第11課	郵便物を出す(練習問題、発表準備)
54回	第11課	郵便物を出す(まとめの発表、評価。目標達成確認)
55回	第12課	謝辞を書き、話す(単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明)
56回	第12課	謝辞を書き、話す(単語の確認・コミュニケーション練習)
57回	第12課	謝辞を書き、話す(タスク活動・リスニング問題)
58回	第12課	謝辞を書き、話す(練習問題、発表準備)
59回	第12課	謝辞を書き、話す(まとめの発表、評価。目標達成確認)
60回	まとめ	

* 以上の計画の目安であるが、実際の学習状況を見て微調整することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験...50% 小テスト・宿題など...50%
欠席や遅刻、課題の未提出、受講態度が悪い等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習(宿題)をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

履修上の注意 /Remarks

本授業は一冊のテキストを用いて、中国人教員と日本人教員ペアで、週四回連続して進められる。特殊な形式の授業なので注意すること。授業に関するお知らせ、配布物等はmoodleにアップします。moodleを確認する習慣をつけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

母語（日本語）で他者ときちんとしたコミュニケーションが図れないのに、外国語（中国語）でコミュニケーションが図れるようになることはまずありません。母語（日本語）のコミュニケーション能力を鍛えることが外国語（中国語）能力の向上にもつながってきます。日頃から、きちんとしたコミュニケーションを心がけて下さい。また、コミュニケーション能力は実践なくして身につくことはありません。受講者に対しては授業への積極的な参加を求めます。

キーワード /Keywords

中国語、コミュニケーション、異文化理解

中国語初級会話I 【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN120M		○	○	◎	
科目名	中国語初級会話 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

(到達目標)

- 【技能】中国語を用いて会話するための基礎的な技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】中国語を用いて身近な話題について自分の考えを明確に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための基礎的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話I【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1. 必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
2. 電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話I 【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN120M		○	○	◎	
科目名	中国語初級会話 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

(到達目標)

- 【技能】中国語を用いて会話するための基礎的な技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】中国語を用いて身近な話題について自分の考えを明確に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための基礎的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話I【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1. 必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
2. 電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話I 【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN120M		○	○	◎	
科目名	中国語初級会話 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

(到達目標)

- 【技能】中国語を用いて会話するための基礎的な技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】中国語を用いて身近な話題について自分の考えを明確に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための基礎的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話I【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1. 必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
2. 電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話II 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN121M		○	○	◎	
科目名	中国語初級会話II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

(到達目標)

【技能】中国語を用いて会話するための基礎的な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】中国語を用いて身近な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための基礎的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語初級会話Iを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1. 必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
2. 辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話II 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN121M		○	○	◎	
科目名	中国語初級会話II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

(到達目標)

- 【技能】中国語を用いて会話するための基礎的な技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】中国語を用いて身近な話題について自分の考えを明確に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための基礎的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語初級会話Iを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1. 必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
2. 辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話II 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN121M		○	○	◎	
科目名	中国語初級会話II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

(到達目標)

【技能】中国語を用いて会話するための基礎的な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】中国語を用いて身近な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための基礎的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語初級会話Iを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1. 必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
2. 辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級総合I 【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN200M	○	◎		○	
科目名	中国語中級総合I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を修得することを目的とし、①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の修得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標としますが、とくに④読解力の向上に重きを置きます。

教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。

教科書に従って進めますが、途中省略する箇所があります。また教科書以外の教材（中国語検定試験の問題等）を扱うこともあります。

(到達目標)

【知識】

中国語に関する総合的な知識を体系的に身につけている。

【技能】

中国語の4つの技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための総合的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『読解中国語』（横川伸・王亜新著、白帝社、2007年）（2,400円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』、『誤用から学ぶ中国語 続編1』、『誤用から学ぶ中国語 続編2』（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
 - 『知ってるつもり中国語―「同じ漢字」が誤解のモト』（上野恵司、アスキー[アスキー新書]、2007年）
 - 『中国語ひらめき塾』（相原茂、現代書館、2018年）ほか相原茂氏のエッセイ集。
- ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 (前半) ガイダンス / (後半) 第一課「地理环境」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第2回 第一課「地理环境」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第3回 第二課「人口大国」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第4回 第二課「人口大国」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第5回 第三課「汉语」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第6回 第三課「汉语」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第7回 第三課「汉语」(3)-本文読解
- 第8回 第四課「中国菜」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第9回 第四課「中国菜」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第10回 第四課「中国菜」(3)-本文読解
- 第11回 第五課「黄河」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第12回 第五課「黄河」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第13回 第六課「人口最多的姓氏」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第14回 第六課「人口最多的姓氏」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第15回 阅读课文1、2

※進度はあくまで目安です。「阅读课文」は第一課～第六課の途中に扱うかもしれません。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (70%) + 課題 (30%)

※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、授業時間外に取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

復習するときは、とくに中国語の語順、単語や語句の働き、前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を意識しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく問題集などを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は一年生の時の学習内容を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合I 【昼】

担当者名 /Instructor 武井 満幹 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN200M	○	◎		○	
科目名	中国語中級総合I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を修得することを目的とし、①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の修得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標としますが、とくに④読解力の向上に重きを置きます。

教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。

教科書に従って進めますが、途中省略する箇所があります。また教科書以外の教材（中国語検定試験の問題等）を扱うこともあります。

(到達目標)

【知識】

中国語に関する総合的な知識を体系的に身につけている。

【技能】

中国語の4つの技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための総合的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『読解中国語』（横川伸・王亜新著、白帝社、2007年）（2,400円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』、『誤用から学ぶ中国語 続編1』、『誤用から学ぶ中国語 続編2』（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
 - 『知ってるつもり中国語―「同じ漢字」が誤解のモト』（上野恵司、アスキー[アスキー新書]、2007年）
 - 『中国語ひらめき塾』（相原茂、現代書館、2018年）ほか相原茂氏のエッセイ集。
- ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 (前半) ガイダンス / (後半) 第一課「地理环境」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第2回 第一課「地理环境」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第3回 第二課「人口大国」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第4回 第二課「人口大国」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第5回 第三課「汉语」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第6回 第三課「汉语」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第7回 第三課「汉语」(3)-本文読解
- 第8回 第四課「中国菜」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第9回 第四課「中国菜」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第10回 第四課「中国菜」(3)-本文読解
- 第11回 第五課「黄河」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第12回 第五課「黄河」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第13回 第六課「人口最多的姓氏」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第14回 第六課「人口最多的姓氏」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第15回 阅读课文1、2

※進度はあくまで目安です。「阅读课文」は第一課～第六課の途中に扱うかもしれません。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (70%) + 課題 (30%)

※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、授業時間外に取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

復習するときは、とくに中国語の語順、単語や語句の働き、前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を意識しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく問題集などを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は一年生の時の学習内容を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合I 【昼】

担当者名 /Instructor 武井 満幹 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN200M	○	◎		○	
科目名	中国語中級総合I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を修得することを目的とし、①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の修得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標としますが、とくに④読解力の向上に重きを置きます。

教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。

教科書に従って進めますが、途中省略する箇所があります。また教科書以外の教材（中国語検定試験の問題等）を扱うこともあります。

(到達目標)

【知識】

中国語に関する総合的な知識を体系的に身につけている。

【技能】

中国語の4つの技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための総合的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『読解中国語』（横川伸・王亜新著、白帝社、2007年）（2,400円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』、『誤用から学ぶ中国語 続編1』、『誤用から学ぶ中国語 続編2』（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
 - 『知ってるつもり中国語―「同じ漢字」が誤解のモト』（上野恵司、アスキー[アスキー新書]、2007年）
 - 『中国語ひらめき塾』（相原茂、現代書館、2018年）ほか相原茂氏のエッセイ集。
- ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 (前半) ガイダンス / (後半) 第一課「地理环境」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第2回 第一課「地理环境」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第3回 第二課「人口大国」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第4回 第二課「人口大国」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第5回 第三課「汉语」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第6回 第三課「汉语」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第7回 第三課「汉语」(3)-本文読解
- 第8回 第四課「中国菜」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第9回 第四課「中国菜」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第10回 第四課「中国菜」(3)-本文読解
- 第11回 第五課「黄河」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第12回 第五課「黄河」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第13回 第六課「人口最多的姓氏」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第14回 第六課「人口最多的姓氏」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第15回 阅读课文1、2

※進度はあくまで目安です。「阅读课文」は第一課～第六課の途中に扱うかもしれません。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (70%) + 課題 (30%)

※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、授業時間外に取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

復習するときは、とくに中国語の語順、単語や語句の働き、前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を意識しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく問題集などを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は一年生の時の学習内容を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 武井 満幹 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN210M	○	◎		○	
科目名	中国語中級総合Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を修得することを目的とし、①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の修得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標としますが、とくに④読解力の向上に重きを置きます。

教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。

教科書に従って進めますが、途中省略する箇所があります。また教科書以外の教材（中国語検定試験の問題等）を扱うこともあります。

（到達目標）

【知識】

中国語に関する総合的な知識を体系的に身につけている。

【技能】

中国語の4つの技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための総合的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『読解中国語』（横川伸・王亜新著、白帝社、2007年）（2,400円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』、『誤用から学ぶ中国語 続編1』、『誤用から学ぶ中国語 続編2』（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
 - 『一歩すすんだ中国語文法』（荒川清秀、大修館書店、2003年）
 - 『中国語虎の巻 実力アップ15の秘伝 [増補改訂版]』（彭飛著・榎本英雄監修、東方書店、2017年）
- ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第七課「大城市的年轻夫妇」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第2回 第七課「大城市的年轻夫妇」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第3回 第八課「沙尘暴」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第4回 第八課「沙尘暴」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第5回 第九課「高考」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第6回 第九課「高考」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第7回 第十課「月薪一千元」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第8回 第十課「月薪一千元」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第9回 第十一課「成龙」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第10回 第十一課「成龙」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第11回 第十一課「成龙」(3)-本文読解
- 第12回 第十二課「龙的传说」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第13回 第十二課「龙的传说」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第14回 第十二課「龙的传说」(3)-本文読解
- 第15回 阅读课文3、4

※進度はあくまで目安です。「阅读课文」は第七課～第十二課の途中に扱うかもしれません。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (70%) + 課題 (30%)

※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、授業時間外に取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

復習するときは、とくに中国語の語順、単語や語句の働き、前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を意識しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく問題集などを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は時に一年生の時の教科書を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 武井 満幹 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN210M	○	◎		○	
科目名	中国語中級総合Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を修得することを目的とし、①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の修得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標としますが、とくに④読解力の向上に重きを置きます。

教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。

教科書に従って進めますが、途中省略する箇所があります。また教科書以外の教材（中国語検定試験の問題等）を扱うこともあります。

(到達目標)

【知識】

中国語に関する総合的な知識を体系的に身につけている。

【技能】

中国語の4つの技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための総合的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『読解中国語』（横川伸・王亜新著、白帝社、2007年）（2,400円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』、『誤用から学ぶ中国語 続編1』、『誤用から学ぶ中国語 続編2』（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
 - 『一歩すすんだ中国語文法』（荒川清秀、大修館書店、2003年）
 - 『中国語虎の巻 実力アップ15の秘伝 [増補改訂版]』（彭飛著・榎本英雄監修、東方書店、2017年）
- ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第七課「大城市的年轻夫妇」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第2回 第七課「大城市的年轻夫妇」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第3回 第八課「沙尘暴」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第4回 第八課「沙尘暴」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第5回 第九課「高考」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第6回 第九課「高考」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第7回 第十課「月薪一千元」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第8回 第十課「月薪一千元」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第9回 第十一課「成龙」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第10回 第十一課「成龙」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第11回 第十一課「成龙」(3)-本文読解
- 第12回 第十二課「龙的传说」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第13回 第十二課「龙的传说」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第14回 第十二課「龙的传说」(3)-本文読解
- 第15回 阅读课文3、4

※進度はあくまで目安です。「阅读课文」は第七課～第十二課の途中に扱うかもしれません。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (70%) + 課題 (30%)

※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、授業時間外に取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

復習するときは、とくに中国語の語順、単語や語句の働き、前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を意識しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく問題集などを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は時に一年生の時の教科書を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 武井 満幹 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN210M	○	◎		○	
科目名	中国語中級総合Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を修得することを目的とし、①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の修得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標としますが、とくに④読解力の向上に重きを置きます。

教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。

教科書に従って進めますが、途中省略する箇所があります。また教科書以外の教材（中国語検定試験の問題等）を扱うこともあります。

(到達目標)

【知識】

中国語に関する総合的な知識を体系的に身につけている。

【技能】

中国語の4つの技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための総合的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『読解中国語』（横川伸・王亜新著、白帝社、2007年）（2,400円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』、『誤用から学ぶ中国語 続編1』、『誤用から学ぶ中国語 続編2』（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
 - 『一歩すすんだ中国語文法』（荒川清秀、大修館書店、2003年）
 - 『中国語虎の巻 実力アップ15の秘伝 [増補改訂版]』（彭飛著・榎本英雄監修、東方書店、2017年）
- ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第七課「大城市的年轻夫妇」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第2回 第七課「大城市的年轻夫妇」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第3回 第八課「沙尘暴」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第4回 第八課「沙尘暴」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第5回 第九課「高考」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第6回 第九課「高考」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第7回 第十課「月薪一千元」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第8回 第十課「月薪一千元」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第9回 第十一課「成龙」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第10回 第十一課「成龙」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第11回 第十一課「成龙」(3)-本文読解
- 第12回 第十二課「龙的传说」(1)-重要語句・文法と関連表現
- 第13回 第十二課「龙的传说」(2)-文法と関連表現・本文読解
- 第14回 第十二課「龙的传说」(3)-本文読解
- 第15回 阅读课文3、4

※進度はあくまで目安です。「阅读课文」は第七課～第十二課の途中に扱うかもしれません。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (70%) + 課題 (30%)

※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、授業時間外に取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

復習するときは、とくに中国語の語順、単語や語句の働き、前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を意識しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく問題集などを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は時に一年生の時の教科書を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国作品講読I【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT251M	○	◎	○		
科目名	中国作品講読 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 中国現代文学作品を読む >
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰しながら、様々なジャンルの作品の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合I、IIおよび中国文学概論I、IIを履修済みであることがのぞましい。

到達目標

「知識」

中国の文学等作品に関する基礎的な知識を身につけている。

「技能」

中国語で書かれた文学等の作品の講読を通じて、中国語文献を講読する力を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語で書かれた文学等の作品の講読を通じて、中国語の読解力・表現力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)

○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)

○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

※その他については授業内で適宜案内をします。

☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

中国作品講読I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、中国近代・現代文学について(講義)
- 第2回 エッセイを読む(1)[文学革命・作者について(講義)、作品講読1]
- 第3回 エッセイを読む(2)[作品講読2]
- 第4回 エッセイを読む(3)[作品講読3]、エッセイに関する小テスト
- 第5回 書簡を読む(1)[日常項事を描く(講義)、作品講読1]
- 第6回 書簡を読む(2)[作品講読2]
- 第7回 書簡を読む(3)[作品講読3]、書簡に関する小テスト
- 第8回 日記小説を読む(1)[個人の内面を描く(講義)、作品講読1]
- 第9回 日記小説を読む(2)[作品講読2]
- 第10回 日記小説を読む(3)[作品講読3]、日記に関する小テスト
- 第11回 小品文について(1)[白話文の普及と教育、女学生の出現について(講義)、作品講読1]
- 第12回 小品文について(2)[作品講読2]
- 第13回 小品文について(3)[作品講読3]
- 第14回 小品文に関する小テスト、総合討論
- 第15回 まとめ

※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

※一つの作品の精読完了時に学習到達度をはかるための小テストを実施します(授業3,4回に一回の頻度で実施します)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点(小テスト、授業への貢献度、出席状況)40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

★難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。

・扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
- ・ 予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の精読を通じて、現代中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国作品講読I【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT251M	○	◎	○		
科目名	中国作品講読 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 中国現代文学作品を読む >
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰しながら、様々なジャンルの作品の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合I、IIおよび中国文学概論I、IIを履修済みであることがのぞましい。

到達目標

「知識」

中国の文学等作品に関する基礎的な知識を身につけている。

「技能」

中国語で書かれた文学等の作品の講読を通じて、中国語文献を講読する力を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語で書かれた文学等の作品の講読を通じて、中国語の読解力・表現力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)

○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)

○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

※その他については授業内で適宜案内をします。

☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

中国作品講読I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、中国近代・現代文学について(講義)
- 第2回 エッセイを読む(1)[文学革命・作者について(講義)、作品講読1]
- 第3回 エッセイを読む(2)[作品講読2]
- 第4回 エッセイを読む(3)[作品講読3]、エッセイに関する小テスト
- 第5回 書簡を読む(1)[日常項事を描く(講義)、作品講読1]
- 第6回 書簡を読む(2)[作品講読2]
- 第7回 書簡を読む(3)[作品講読3]、書簡に関する小テスト
- 第8回 日記小説を読む(1)[個人の内面を描く(講義)、作品講読1]
- 第9回 日記小説を読む(2)[作品講読2]
- 第10回 日記小説を読む(3)[作品講読3]、日記に関する小テスト
- 第11回 小品文について(1)[白話文の普及と教育、女学生の出現について(講義)、作品講読1]
- 第12回 小品文について(2)[作品講読2]
- 第13回 小品文について(3)[作品講読3]
- 第14回 小品文に関する小テスト、総合討論
- 第15回 まとめ

※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

※一つの作品の精読完了時に学習到達度をはかるための小テストを実施します(授業3,4回に一回の頻度で実施します)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点(小テスト、授業への貢献度、出席状況)40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

★難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。

・扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
- ・ 予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の精読を通じて、現代中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国作品講読I【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT251M	○	◎	○		
科目名	中国作品講読 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 中国現代文学作品を読む >
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰しながら、様々なジャンルの作品の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合I、IIおよび中国文学概論I、IIを履修済みであることがのぞましい。

到達目標

「知識」

中国の文学等作品に関する基礎的な知識を身につけている。

「技能」

中国語で書かれた文学等の作品の講読を通じて、中国語文献を講読する力を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語で書かれた文学等の作品の講読を通じて、中国語の読解力・表現力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)

○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)

○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

※その他については授業内で適宜案内をします。

☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

中国作品講読I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、中国近代・現代文学について(講義)
- 第2回 エッセイを読む(1)[文学革命・作者について(講義)、作品講読1]
- 第3回 エッセイを読む(2)[作品講読2]
- 第4回 エッセイを読む(3)[作品講読3]、エッセイに関する小テスト
- 第5回 書簡を読む(1)[日常項事を描く(講義)、作品講読1]
- 第6回 書簡を読む(2)[作品講読2]
- 第7回 書簡を読む(3)[作品講読3]、書簡に関する小テスト
- 第8回 日記小説を読む(1)[個人の内面を描く(講義)、作品講読1]
- 第9回 日記小説を読む(2)[作品講読2]
- 第10回 日記小説を読む(3)[作品講読3]、日記に関する小テスト
- 第11回 小品文について(1)[白話文の普及と教育、女学生の出現について(講義)、作品講読1]
- 第12回 小品文について(2)[作品講読2]
- 第13回 小品文について(3)[作品講読3]
- 第14回 小品文に関する小テスト、総合討論
- 第15回 まとめ

※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

※一つの作品の精読完了時に学習到達度をはかるための小テストを実施します(授業3,4回に一回の頻度で実施します)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点(小テスト、授業への貢献度、出席状況)40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

★難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。

・扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
- ・ 予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の精読を通じて、現代中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国作品講読II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT252M	○	◎	○		
科目名	中国作品講読II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 中国現代文学作品を読む >
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品の講読を行います。後期はピンインがない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合I、IIおよび中国文学概論I、IIを履修済みであることが望ましい。

到達目標

「知識」

中国の文学等作品に関する基礎的な知識を身につけている。

「技能」

中国語で書かれた文学等の作品の講読を通じて、中国語文献を講読する力を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語で書かれた文学等の作品の講読を通じて、中国語の読解力・表現力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)

○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)

○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

※その他については授業内で適宜案内をします。

☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

中国作品講読II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、実カテスト
第2回 小品文を読む(1)・グループ分け [文学ジャンルとしての「小品文」について(講義)、作品講読1]
第3回 小品文を読む(2)・グループでの分析、議論 [作品講読2]
第4回 小品文を読む(3)・グループ発表 [作品講読3]
第5回 小品文に関する小テスト、短編小説を読む(1) [作者と都市文学について(講義)、作品講読1]
第6回 短編小説を読む(2) [作品講読2]
第7回 短編小説を読む(3) [作品講読3]
第8回 短編小説に関する小テスト、文芸評論を読む(1) [サイノフォン：魯迅から温又柔まで(講義)]
第9回 文芸評論を読む(2) [文学革命から女子教育、女性の社会進出について(講義)]
第10回 文芸評論を読む(3)
第11回 文芸評論に関する小テスト、散文詩を読む(1) [作者とその時代について(講義)、作品講読1]
第12回 散文詩を読む(2) [作品講読2]
第13回 散文詩を読む(3) [作品講読3]
第14回 散文詩に関する小テスト、総合討論
第15回 まとめ
- ※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。
※一作品の精読完了時に学習到達度をはかるための小テストを実施します(授業3, 4回に一回の頻度で実施します)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点(小テスト、授業への貢献度、出席状況)40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
- ・ 予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国作品講読II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT252M	○	◎	○		
科目名	中国作品講読II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 中国現代文学作品を読む >
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品の講読を行います。後期はピンインがっていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合I、IIおよび中国文学概論I、IIを履修済みであることがのぞましい。

到達目標

「知識」

中国の文学等作品に関する基礎的な知識を身につけている。

「技能」

中国語で書かれた文学等の作品の講読を通じて、中国語文献を講読する力を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語で書かれた文学等の作品の講読を通じて、中国語の読解力・表現力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)

○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)

○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

※その他については授業内で適宜案内をします。

☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

中国作品講読II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、実カテスト
第2回 小品文を読む(1)・グループ分け [文学ジャンルとしての「小品文」について(講義)、作品講読1]
第3回 小品文を読む(2)・グループでの分析、議論 [作品講読2]
第4回 小品文を読む(3)・グループ発表 [作品講読3]
第5回 小品文に関する小テスト、短編小説を読む(1) [作者と都市文学について(講義)、作品講読1]
第6回 短編小説を読む(2) [作品講読2]
第7回 短編小説を読む(3) [作品講読3]
第8回 短編小説に関する小テスト、文芸評論を読む(1) [サイノフォン：魯迅から温又柔まで(講義)]
第9回 文芸評論を読む(2) [文学革命から女子教育、女性の社会進出について(講義)]
第10回 文芸評論を読む(3)
第11回 文芸評論に関する小テスト、散文詩を読む(1) [作者とその時代について(講義)、作品講読1]
第12回 散文詩を読む(2) [作品講読2]
第13回 散文詩を読む(3) [作品講読3]
第14回 散文詩に関する小テスト、総合討論
第15回 まとめ
- ※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。
※一作品の精読完了時に学習到達度をはかるための小テストを実施します(授業3, 4回に一回の頻度で実施します)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点(小テスト、授業への貢献度、出席状況)40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
- ・ 予習の段階で単語の意味調べを着実にを行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国作品講読II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT252M	○	◎	○		
科目名	中国作品講読II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 中国現代文学作品を読む >
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品の講読を行います。後期はピンインがっていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合I、IIおよび中国文学概論I、IIを履修済みであることがのぞましい。

到達目標

「知識」

中国の文学等作品に関する基礎的な知識を身につけている。

「技能」

中国語で書かれた文学等の作品の講読を通じて、中国語文献を講読する力を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語で書かれた文学等の作品の講読を通じて、中国語の読解力・表現力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)

○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)

○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

※その他については授業内で適宜案内をします。

☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

中国作品講読II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、実カテスト
第2回 小品文を読む(1)・グループ分け [文学ジャンルとしての「小品文」について(講義)、作品講読1]
第3回 小品文を読む(2)・グループでの分析、議論 [作品講読2]
第4回 小品文を読む(3)・グループ発表 [作品講読3]
第5回 小品文に関する小テスト、短編小説を読む(1) [作者と都市文学について(講義)、作品講読1]
第6回 短編小説を読む(2) [作品講読2]
第7回 短編小説を読む(3) [作品講読3]
第8回 短編小説に関する小テスト、文芸評論を読む(1) [サイノフォン：魯迅から温又柔まで(講義)]
第9回 文芸評論を読む(2) [文学革命から女子教育、女性の社会進出について(講義)]
第10回 文芸評論を読む(3)
第11回 文芸評論に関する小テスト、散文詩を読む(1) [作者とその時代について(講義)、作品講読1]
第12回 散文詩を読む(2) [作品講読2]
第13回 散文詩を読む(3) [作品講読3]
第14回 散文詩に関する小テスト、総合討論
第15回 まとめ
- ※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。
※一作品の精読完了時に学習到達度をはかるための小テストを実施します(授業3, 4回に一回の頻度で実施します)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点(小テスト、授業への貢献度、出席状況)40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
- ・ 予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国語中級会話A I 【昼】

担当者名 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN220M		○	○	◎	
科目名	中国語中級会話A I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて会話するための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第1課	自己紹介 (講読)
2回	暗誦 (1課)	第2課 家族 (講読)
3回	暗誦 (2課)	会話練習
4回	第3課	父母 (講読)
5回	暗誦 (3課)	第4課 友達 (講読)
6回	暗誦 (4課)	会話練習
7回	第5課	住居 (講読)
8回	暗誦 (5課)	第6課 通勤通学 (講読)
9回	暗誦 (6課)	会話練習
10回	第7課	飲物 (講読)
11回	暗誦 (7課)	第8課 休日 (講読)
12回	暗誦 (8課)	会話練習
13回	第9課	送り迎え-電話会話 (講読)
14回	暗誦 (9課)	第10課 病気 (講読)
15回	暗誦 (10課)	会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話A I 【昼】

担当者名 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN220M		○	○	◎	
科目名	中国語中級会話A I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて会話するための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第1課	自己紹介(講読)
2回	暗誦(1課)	第2課 家族(講読)
3回	暗誦(2課)	会話練習
4回	第3課	父母(講読)
5回	暗誦(3課)	第4課 友達(講読)
6回	暗誦(4課)	会話練習
7回	第5課	住居(講読)
8回	暗誦(5課)	第6課 通勤通学(講読)
9回	暗誦(6課)	会話練習
10回	第7課	飲物(講読)
11回	暗誦(7課)	第8課 休日(講読)
12回	暗誦(8課)	会話練習
13回	第9課	送り迎え-電話会話(講読)
14回	暗誦(9課)	第10課 病気(講読)
15回	暗誦(10課)	会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話A I 【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN220M		○	○	◎	
科目名	中国語中級会話A I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて会話するための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------|----------------|
| 1回 | 第1課 | 自己紹介 (講読) |
| 2回 | 暗誦 (1課) | 第2課 家族 (講読) |
| 3回 | 暗誦 (2課) | 会話練習 |
| 4回 | 第3課 | 父母 (講読) |
| 5回 | 暗誦 (3課) | 第4課 友達 (講読) |
| 6回 | 暗誦 (4課) | 会話練習 |
| 7回 | 第5課 | 住居 (講読) |
| 8回 | 暗誦 (5課) | 第6課 通勤通学 (講読) |
| 9回 | 暗誦 (6課) | 会話練習 |
| 10回 | 第7課 | 飲物 (講読) |
| 11回 | 暗誦 (7課) | 第8課 休日 (講読) |
| 12回 | 暗誦 (8課) | 会話練習 |
| 13回 | 第9課 | 送り迎え-電話会話 (講読) |
| 14回 | 暗誦 (9課) | 第10課 病気 (講読) |
| 15回 | 暗誦 (10課) | 会話練習 |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義・実習 /Class クラス 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN221M		○	○	◎	
科目名	中国語中級会話AⅡ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて会話するための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------|---------------|
| 1回 | 第11課 | 入院 (講読) |
| 2回 | 暗誦 (11課) | 第12課 旅行 (講読) |
| 3回 | 暗誦 (12課) | 会話練習 |
| 4回 | 第13課 | 訃報 (講読) |
| 5回 | 暗誦 (13課) | 第14課 放送 (講読) |
| 6回 | 暗誦 (14課) | 会話練習 |
| 7回 | 第15課 | 手紙 (講読) |
| 8回 | 暗誦 (15課) | 第16課 ローン (講読) |
| 9回 | 暗誦 (16課) | 会話練習 |
| 10回 | 第17課 | 天候 (講読) |
| 11回 | 暗誦 (17課) | 第18課 繁華街 (講読) |
| 12回 | 暗誦 (18課) | 会話練習 |
| 13回 | 第19課 | スポーツ (講読) |
| 14回 | 暗誦 (19課) | 第20課 受験 (講読) |
| 15回 | 暗誦 (20課) | 会話練習 |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AⅡ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN221M		○	○	◎	
科目名	中国語中級会話AⅡ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて会話するための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------|---------------|
| 1回 | 第11課 | 入院 (講読) |
| 2回 | 暗誦 (11課) | 第12課 旅行 (講読) |
| 3回 | 暗誦 (12課) | 会話練習 |
| 4回 | 第13課 | 訃報 (講読) |
| 5回 | 暗誦 (13課) | 第14課 放送 (講読) |
| 6回 | 暗誦 (14課) | 会話練習 |
| 7回 | 第15課 | 手紙 (講読) |
| 8回 | 暗誦 (15課) | 第16課 ローン (講読) |
| 9回 | 暗誦 (16課) | 会話練習 |
| 10回 | 第17課 | 天候 (講読) |
| 11回 | 暗誦 (17課) | 第18課 繁華街 (講読) |
| 12回 | 暗誦 (18課) | 会話練習 |
| 13回 | 第19課 | スポーツ (講読) |
| 14回 | 暗誦 (19課) | 第20課 受験 (講読) |
| 15回 | 暗誦 (20課) | 会話練習 |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN221M		○	○	◎	
科目名	中国語中級会話AⅡ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて会話するための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------|---------------|
| 1回 | 第11課 | 入院 (講読) |
| 2回 | 暗誦 (11課) | 第12課 旅行 (講読) |
| 3回 | 暗誦 (12課) | 会話練習 |
| 4回 | 第13課 | 訃報 (講読) |
| 5回 | 暗誦 (13課) | 第14課 放送 (講読) |
| 6回 | 暗誦 (14課) | 会話練習 |
| 7回 | 第15課 | 手紙 (講読) |
| 8回 | 暗誦 (15課) | 第16課 ローン (講読) |
| 9回 | 暗誦 (16課) | 会話練習 |
| 10回 | 第17課 | 天候 (講読) |
| 11回 | 暗誦 (17課) | 第18課 繁華街 (講読) |
| 12回 | 暗誦 (18課) | 会話練習 |
| 13回 | 第19課 | スポーツ (講読) |
| 14回 | 暗誦 (19課) | 第20課 受験 (講読) |
| 15回 | 暗誦 (20課) | 会話練習 |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話B I 【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN222M		○	○	◎	
科目名	中国語中級会話B I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて会話するための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文)会話「我想到日本去旅行」練習
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 会話「欢迎您来到日本」練習
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 会話「东京的交通真是太方便了」練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 会話「一级棒」練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 会話「这里飞往中国的航班有很多」練習
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 会話「日本新干线很人性化」練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(本文)
- 13回 第七課 会話「圣德太子是日本的骄傲」練習
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 会話「上海和成是友好城市」練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話B I 【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN222M		○	○	◎	
科目名	中国語中級会話B I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて会話するための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文)会話「我想到日本去旅行」練習
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 会話「欢迎您来到日本」練習
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 会話「东京的交通真是太方便了」練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 会話「一级棒」練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 会話「这里飞往中国的航班有很多」練習
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 会話「日本新干线很人性化」練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(本文)
- 13回 第七課 会話「圣德太子是日本的骄傲」練習
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 会話「上海和成是友好城市」練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話B I 【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN222M		○	○	◎	
科目名	中国語中級会話B I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1) 会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2) 様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて会話するための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文) 会話「我想到日本去旅行」 練習
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 会話「欢迎您来到日本」 練習
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 会話「东京的交通真是太方便了」 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 会話「一级棒」 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 会話「这里飞往中国的航班有很多」 練習
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 会話「日本新干线很人性化」 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(本文)
- 13回 第七課 会話「圣德太子是日本的骄傲」 練習
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 会話「上海和成是友好城市」 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN223M		○	○	◎	
科目名	中国語中級会話BⅡ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて会話するための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(本文)
- 2回 第九課 会話「北九州是个环保模范城市」 練習
- 3回 第十課 九州(本文)
- 4回 第十課 会話「沖縄是日本最长寿的地方」 練習
- 5回 第十一課 福岡(本文)
- 6回 第十一課 会話「我有一个好朋友住在福岡」 練習
- 7回 第十二課 佐賀(本文)
- 8回 第十二課 会話「佐贺不再是超级乡下了」 練習
- 9回 第十三課 長崎(本文)
- 10回 第十三課 会話「这是中国送的」 練習
- 11回 第十四課 四国(本文)
- 12回 第十四課 会話「这次没时间了,真可惜」 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 14回 第十五課 会話「一部电影的力量」 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN223M		○	○	◎	
科目名	中国語中級会話BⅡ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1) 会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2) 様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて会話するための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(本文)
- 2回 第九課 会話「北九州是个环保模范城市」 練習
- 3回 第十課 九州(本文)
- 4回 第十課 会話「沖縄是日本最长寿的地方」 練習
- 5回 第十一課 福岡(本文)
- 6回 第十一課 会話「我有一个好朋友住在福岡」 練習
- 7回 第十二課 佐賀(本文)
- 8回 第十二課 会話「佐贺不再是超级乡下了」 練習
- 9回 第十三課 長崎(本文)
- 10回 第十三課 会話「这是中国送的」 練習
- 11回 第十四課 四国(本文)
- 12回 第十四課 会話「这次没时间了,真可惜」 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 14回 第十五課 会話「一部电影的力量」 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BⅡ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN223M		○	○	◎	
科目名	中国語中級会話BⅡ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて会話するための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(本文)
- 2回 第九課 会話「北九州是个环保模范城市」 練習
- 3回 第十課 九州(本文)
- 4回 第十課 会話「沖縄是日本最长寿的地方」 練習
- 5回 第十一課 福岡(本文)
- 6回 第十一課 会話「我有一个好朋友住在福岡」 練習
- 7回 第十二課 佐賀(本文)
- 8回 第十二課 会話「佐贺不再是超级乡下了」 練習
- 9回 第十三課 長崎(本文)
- 10回 第十三課 会話「这是中国送的」 練習
- 11回 第十四課 四国(本文)
- 12回 第十四課 会話「这次没时间了,真可惜」 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 14回 第十五課 会話「一部电影的力量」 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN224M		◎	○	○	
科目名	中国語中級作文 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて文章作成を行うための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に文章で表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 中级写作(1)』(第二版) 蔡永強 編著 北京語言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀編著 北京語言大学出版社
「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	写作训练重点：人物介绍	第1課 我的朋友----李明(1)	范文分析
2回	第1課 我的朋友----李明(2)	写作实践	上次作文讲评
	写作训练重点：介绍出国后发生的事情	第2課 来到中国(1)	范文分析
3回	第2課 来到中国(2)	写作实践	上次作文讲评
4回	写作训练重点：按照时间顺序介绍一天的生活	第3課 上班族的一天(1)	范文分析
5回	第3課 上班族的一天(2)	写作实践	上次作文讲评
6回	写作训练重点：谈谈对.....的看法	第4課 第一印象可靠吗(1)	范文分析
7回	第4課 第一印象可靠吗(2)	写作实践	上次作文讲评
8回	写作训练重点：介绍故乡或其他地方的生活	第5課 我的故乡(1)	范文分析
9回	第5課 我的故乡(2)	写作实践	上次作文讲评
10回	写作训练重点：简单介绍自己的经历	第6課 我的恋爱史(1)	范文分析
11回	第6課 我的恋爱史(2)	写作实践	上次作文讲评
12回	写作训练重点：介绍一件事情的过程	第7課 搬家(1)	范文分析
13回	第7課 搬家(2)	写作实践	上次作文讲评
14回	写作训练重点：限时完成作文	第8課 到底发生了什么事(1)	范文分析
15回	第8課 到底发生了什么事(2)	写作实践	上次作文讲评

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験： 50% 課題： 40% 日常の授業への取組み： 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課の授業の前に予習すること、特に各課の「写作实践」に作文を事前にかきななければならない、これは平常点を評価する項目の一つである。先生に添削された自己の作文をもう一度読んだり、清書したりすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業を調整することがある。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN224M		◎	○	○	
科目名	中国語中級作文 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて文章作成を行うための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に文章で表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 中级写作(1)』(第二版) 蔡永強 編著 北京語言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀編著 北京語言大学出版社
「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	写作训练重点：人物介绍	第1課 我的朋友----李明(1)	范文分析
2回	第1課 我的朋友----李明(2)	写作实践	上次作文讲评
	写作训练重点：介绍出国后发生的事情	第2課 来到中国(1)	范文分析
3回	第2課 来到中国(2)	写作实践	上次作文讲评
4回	写作训练重点：按照时间顺序介绍一天的生活	第3課 上班族的一天(1)	范文分析
5回	第3課 上班族的一天(2)	写作实践	上次作文讲评
6回	写作训练重点：谈谈对.....的看法	第4課 第一印象可靠吗(1)	范文分析
7回	第4課 第一印象可靠吗(2)	写作实践	上次作文讲评
8回	写作训练重点：介绍故乡或其他地方的生活	第5課 我的故乡(1)	范文分析
9回	第5課 我的故乡(2)	写作实践	上次作文讲评
10回	写作训练重点：简单介绍自己的经历	第6課 我的恋爱史(1)	范文分析
11回	第6課 我的恋爱史(2)	写作实践	上次作文讲评
12回	写作训练重点：介绍一件事情的过程	第7課 搬家(1)	范文分析
13回	第7課 搬家(2)	写作实践	上次作文讲评
14回	写作训练重点：限时完成作文	第8課 到底发生了什么事(1)	范文分析
15回	第8課 到底发生了什么事(2)	写作实践	上次作文讲评

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験： 50% 課題： 40% 日常の授業への取組み： 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課の授業の前に予習すること、特に各課の「写作实践」に作文を事前に書かなければならない、これは平常点を評価する項目の一つである。先生に添削された自己の作文をもう一度読んだり、清書したりすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業を調整することがある。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN224M		◎	○	○	
科目名	中国語中級作文 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて文章作成を行うための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に文章で表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 中级写作(1)』(第二版) 蔡永強 編著 北京語言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀編著 北京語言大学出版社
「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	写作训练重点：人物介绍	第1課 我的朋友----李明(1)	范文分析
2回	第1課 我的朋友----李明(2)	写作实践	上次作文讲评
	写作训练重点：介绍出国后发生的事情	第2課 来到中国(1)	范文分析
3回	第2課 来到中国(2)	写作实践	上次作文讲评
4回	写作训练重点：按照时间顺序介绍一天的生活	第3課 上班族的一天(1)	范文分析
5回	第3課 上班族的一天(2)	写作实践	上次作文讲评
6回	写作训练重点：谈谈对.....的看法	第4課 第一印象可靠吗(1)	范文分析
7回	第4課 第一印象可靠吗(2)	写作实践	上次作文讲评
8回	写作训练重点：介绍故乡或其他地方的生活	第5課 我的故乡(1)	范文分析
9回	第5課 我的故乡(2)	写作实践	上次作文讲评
10回	写作训练重点：简单介绍自己的经历	第6課 我的恋爱史(1)	范文分析
11回	第6課 我的恋爱史(2)	写作实践	上次作文讲评
12回	写作训练重点：介绍一件事情的过程	第7課 搬家(1)	范文分析
13回	第7課 搬家(2)	写作实践	上次作文讲评
14回	写作训练重点：限时完成作文	第8課 到底发生了什么事(1)	范文分析
15回	第8課 到底发生了什么事(2)	写作实践	上次作文讲评

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験： 50% 課題： 40% 日常の授業への取組み： 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課の授業の前に予習すること、特に各課の「写作実践」に作文を事前にかきななければならない、これは平常点を評価する項目の一つである。先生に添削された自己の作文をもう一度読んだり、清書したりすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業を調整することがある。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN225M		◎	○	○	
科目名	中国語中級作文Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて文章作成を行うための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に文章で表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 中级写作(1)』(第二版) 蔡永強 編著 北京語言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀編著 北京語言大学出版社
「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 写作训练重点：简单图表分析 第9課 关于出行方式的调查(1) 范文分析
- 2回 第9課 关于出行方式的调查(2) 写作实践 上次作文讲评
- 3回 写作训练重点：谈谈自己的生活 第10課 愉快的周末(1) 范文分析
- 4回 第10課 愉快的周末(2) 写作实践 上次作文讲评
- 5回 写作训练重点：介绍某物的用途 第11課 橘子皮的用途(1) 范文分析
- 6回 第11課 橘子皮的用途(2) 写作实践 上次作文讲评
- 7回 写作训练重点：介绍人物 第12課 语言学家赵元任(1) 范文分析
- 8回 第12課 语言学家赵元任(2) 写作实践 上次作文讲评
- 9回 写作训练重点：说说你的想法和计划 第13課 如果我是公司老板(1) 范文分析
- 10回 第13課 如果我是公司老板(2) 写作实践 上次作文讲评
- 11回 写作训练重点：写一件小事 第14課 一件小事(1) 范文分析
- 12回 第14課 一件小事(2) 写作实践 上次作文讲评
- 13回 写作训练重点：简单说明意见和看法 第15課 你真是个好孩子(1) 范文分析
- 14回 第15課 你真是个好孩子(2) 写作实践 上次作文讲评
- 15回 総合講評

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験： 50% 課題： 40% 日常の授業への取組み： 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課の授業の前に予習すること、特に各課の「写作实践」に作文を事前に書かなければならぬ、これは平常点を評価する項目の一つである。先生に添削された自己の作文をもう一度読んだり、清書したりすること。

中国語中級作文II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業を調整することがある。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN225M		◎	○	○	
科目名	中国語中級作文Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて文章作成を行うための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に文章で表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 中级写作(1)』(第二版) 蔡永強 編著 北京語言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀編著 北京語言大学出版社
「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 写作训练重点：简单图表分析 第9課 关于出行方式的调查(1) 范文分析
- 2回 第9課 关于出行方式的调查(2) 写作实践 上次作文讲评
- 3回 写作训练重点：谈谈自己的生活 第10課 愉快的周末(1) 范文分析
- 4回 第10課 愉快的周末(2) 写作实践 上次作文讲评
- 5回 写作训练重点：介绍某物的用途 第11課 橘子皮的用途(1) 范文分析
- 6回 第11課 橘子皮的用途(2) 写作实践 上次作文讲评
- 7回 写作训练重点：介绍人物 第12課 语言学家赵元任(1) 范文分析
- 8回 第12課 语言学家赵元任(2) 写作实践 上次作文讲评
- 9回 写作训练重点：说说你的想法和计划 第13課 如果我是公司老板(1) 范文分析
- 10回 第13課 如果我是公司老板(2) 写作实践 上次作文讲评
- 11回 写作训练重点：写一件小事 第14課 一件小事(1) 范文分析
- 12回 第14課 一件小事(2) 写作实践 上次作文讲评
- 13回 写作训练重点：简单说明意见和看法 第15課 你真是个好孩子(1) 范文分析
- 14回 第15課 你真是个好孩子(2) 写作实践 上次作文讲评
- 15回 総合講評

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験： 50% 課題： 40% 日常の授業への取組み： 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課の授業の前に予習すること、特に各課の「写作实践」に作文を事前に書かなければならない、これは平常点を評価する項目の一つである。先生に添削された自己の作文をもう一度読んだり、清書したりすること。

中国語中級作文II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業を調整することがある。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN225M		◎	○	○	
科目名	中国語中級作文Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて文章作成を行うための応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて広範な話題について自分の考えを明確に文章で表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 中级写作(1)』(第二版) 蔡永強 編著 北京語言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀編著 北京語言大学出版社
「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 写作训练重点: 简单图表分析 第9課 关于出行方式的调查(1) 范文分析
- 2回 第9課 关于出行方式的调查(2) 写作实践 上次作文讲评
- 3回 写作训练重点: 谈谈自己的生活 第10課 愉快的周末(1) 范文分析
- 4回 第10課 愉快的周末(2) 写作实践 上次作文讲评
- 5回 写作训练重点: 介绍某物的用途 第11課 橘子皮的用途(1) 范文分析
- 6回 第11課 橘子皮的用途(2) 写作实践 上次作文讲评
- 7回 写作训练重点: 介绍人物 第12課 语言学家赵元任(1) 范文分析
- 8回 第12課 语言学家赵元任(2) 写作实践 上次作文讲评
- 9回 写作训练重点: 说说你的想法和计划 第13課 如果我是公司老板(1) 范文分析
- 10回 第13課 如果我是公司老板(2) 写作实践 上次作文讲评
- 11回 写作训练重点: 写一件小事 第14課 一件小事(1) 范文分析
- 12回 第14課 一件小事(2) 写作实践 上次作文讲评
- 13回 写作训练重点: 简单说明意见和看法 第15課 你真是个好孩子(1) 范文分析
- 14回 第15課 你真是个好孩子(2) 写作实践 上次作文讲评
- 15回 総合講評

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験: 50% 課題: 40% 日常の授業への取組み: 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課の授業の前に予習すること、特に各課の「写作实践」に作文を事前に書かなければならない、これは平常点を評価する項目の一つである。先生に添削された自己の作文をもう一度読んだり、清書したりすること。

中国語中級作文II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業を調整することがある。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級リスニングⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN226M		○	○	◎	
科目名	中国語中級リスニングⅠ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

(到達目標)

「技能」

中国語のリスニングに関する応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

広範な話題についての中国語を聞き取り、自分の考えを表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』（第二版）毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第一課	买东西(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
2回	第一課	买东西(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
3回	第二課	看病(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
4回	第二課	看病(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
5回	第三課	去餐厅吃饭(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
6回	第三課	去餐厅吃饭(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
7回	第四課	问路(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
8回	第四課	问路(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
9回	第五課	寄东西(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
10回	第五課	寄东西(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
11回	第六課	旅游(1)	一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习
12回	第六課	旅游(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
13回	第七課	修理(1)	一. 生詞 二. 格式与练习 三. 热身练习
14回	第七課	修理(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
15回	综合复习		

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。

各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

中国語中級リスニングI【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語中級リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN226M		○	○	◎	
科目名	中国語中級リスニングI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

(到達目標)

「技能」

中国語のリスニングに関する応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

広範な話題についての中国語を聞き取り、自分の考えを表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』（第二版）毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第一课	买东西(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
2回	第一课	买东西(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
3回	第二课	看病(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
4回	第二课	看病(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
5回	第三课	去餐厅吃饭(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
6回	第三课	去餐厅吃饭(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
7回	第四课	问路(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
8回	第四课	问路(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
9回	第五课	寄东西(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
10回	第五课	寄东西(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
11回	第六课	旅游(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
12回	第六课	旅游(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
13回	第七课	修理(1)	一. 生词 二. 格式与练习 三. 热身练习
14回	第七课	修理(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
15回	综合复习		

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。

各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

中国語中級リスニングI【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語中級リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN226M		○	○	◎	
科目名	中国語中級リスニングI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

(到達目標)

「技能」

中国語のリスニングに関する応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

広範な話題についての中国語を聞き取り、自分の考えを表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』(第二版) 毛悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第一课	买东西(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
2回	第一课	买东西(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
3回	第二课	看病(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
4回	第二课	看病(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
5回	第三课	去餐厅吃饭(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
6回	第三课	去餐厅吃饭(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
7回	第四课	问路(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
8回	第四课	问路(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
9回	第五课	寄东西(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
10回	第五课	寄东西(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
11回	第六课	旅游(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
12回	第六课	旅游(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
13回	第七课	修理(1)	一. 生词 二. 格式与练习 三. 热身练习
14回	第七课	修理(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
15回	综合复习		

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。

各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

中国語中級リスニングI【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語中級リスニングⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN227M		○	○	◎	
科目名	中国語中級リスニングⅡ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、1学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

(到達目標)

「技能」

中国語のリスニングに関する応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

広範な話題についての中国語を聞き取り、自分の考えを表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』(第二版) 毛悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第八課	休闲娱乐(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
2回	第八課	休闲娱乐(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
3回	第九課	谈学习(1)	一. 生词 二. 格式范句 三. 热身练习
4回	第九課	谈学习(2)	四. 听课文做练习
5回	第九課	谈学习(3)	五. 泛听练习
6回	第十課	家庭(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
7回	第十課	家庭(2)	四. 听课文做练习
8回	第十課	家庭(3)	五. 泛听练习
9回	第十一課	北京见闻(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
10回	第十一課	北京见闻(2)	四. 听课文做练习
11回	第十一課	北京见闻(3)	五. 泛听练习
12回	第十二課	社会问题(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
13回	第十二課	社会问题(2)	四. 听课文做练习
14回	第十二課	社会问题(3)	五. 泛听练习
15回	综合复习		

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。

各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

中国語中級リスニングII【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語中級リスニングⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN227M		○	○	◎	
科目名	中国語中級リスニングⅡ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、1学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

(到達目標)

「技能」

中国語のリスニングに関する応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

広範な話題についての中国語を聞き取り、自分の考えを表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』（第二版）毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第八課	休闲娱乐(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
2回	第八課	休闲娱乐(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
3回	第九課	谈学习(1)	一. 生词 二. 格式范句 三. 热身练习
4回	第九課	谈学习(2)	四. 听课文做练习
5回	第九課	谈学习(3)	五. 泛听练习
6回	第十課	家庭(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
7回	第十課	家庭(2)	四. 听课文做练习
8回	第十課	家庭(3)	五. 泛听练习
9回	第十一課	北京见闻(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
10回	第十一課	北京见闻(2)	四. 听课文做练习
11回	第十一課	北京见闻(3)	五. 泛听练习
12回	第十二課	社会问题(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
13回	第十二課	社会问题(2)	四. 听课文做练习
14回	第十二課	社会问题(3)	五. 泛听练习
15回	综合复习		

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。

各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

中国語中級リスニングII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語中級リスニングⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN227M		○	○	◎	
科目名	中国語中級リスニングⅡ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、1学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

(到達目標)

「技能」

中国語のリスニングに関する応用的な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

広範な話題についての中国語を聞き取り、自分の考えを表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』(第二版) 毛悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第八課	休闲娱乐(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
2回	第八課	休闲娱乐(2)	四. 听课文做练习 五. 泛听练习
3回	第九課	谈学习(1)	一. 生词 二. 格式范句 三. 热身练习
4回	第九課	谈学习(2)	四. 听课文做练习
5回	第九課	谈学习(3)	五. 泛听练习
6回	第十課	家庭(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
7回	第十課	家庭(2)	四. 听课文做练习
8回	第十課	家庭(3)	五. 泛听练习
9回	第十一課	北京见闻(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
10回	第十一課	北京见闻(2)	四. 听课文做练习
11回	第十一課	北京见闻(3)	五. 泛听练习
12回	第十二課	社会问题(1)	一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
13回	第十二課	社会问题(2)	四. 听课文做练习
14回	第十二課	社会问题(3)	五. 泛听练习
15回	综合复习		

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。

各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

中国語中級リスニングII【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語上級総合I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 橋本 愛 / 橋本愛 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN300M	○	◎		○	
科目名	中国語上級総合I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業の達成目標

[知識] : 中国語に関する応用的な知識を体系的に身につけている。

[技能] : 中国語の4つの技能(聴く・話す・読む・書く)を応用的に身につけている。

[コミュニケーション] : 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

本授業は、上級レベルの中国語を総合的(聴く・話す・読む・書く)に習得し、応用力を身につけることを目標とします。

基本の構文や語彙などは全て2年次までに習得しているはずですので、これまでの知識、能力を応用して、更なる表現力や理解力を身につけることを目指します。

中検2級合格相当のレベルに到達することを一つのめやすとし、応用問題にあたります。

教科書 /Textbooks

プリント配布またはWEB問題を利用

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 レベル確認テスト
- 第2回 レベル確認テストに関する説明、応用問題1
- 第3回 応用問題1に関する説明、補充練習
- 第4回 応用問題2
- 第5回 応用問題2に関する説明、補充練習
- 第6回 応用問題3
- 第7回 応用問題3に関する説明、補充練習
- 第8回 中間試験
- 第9回 中間試験に関する説明、補充練習、応用問題4
- 第10回 応用問題4に関する説明、補充練習
- 第11回 応用問題5
- 第12回 応用問題5に関する説明、補充練習
- 第13回 応用問題6
- 第14回 応用問題6に関する説明、補充練習
- 第15回 補充問題

成績評価の方法 /Assessment Method

レベル確認テスト(10%)+中間試験(45%)+期末試験(45%)

※課題：毎回の授業中に取り組む課題や宿題など

欠席や遅刻、授業中の私語、授業に関係のないウェブページなどの閲覧などは減点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前または授業後に指定された範囲の問題(主に作文問題)を期限内に解き提出すること。

授業で間違った問題などは授業後に必ず復習すること。

中国語上級総合I【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

この授業は習熟度別に授業を行うため、1回目にレベル確認テストを実施し、クラス分けを行います。
テストを受けない場合には、この授業を履修することができない場合もありますので、必ず1回目の授業から出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語、中国語総合力・応用力

中国語上級総合I【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN300M	○	◎		○	
科目名	中国語上級総合I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業は、上級レベルの中国語を総合的（聴く・話す・読む・書く）に習得し、応用力を身につけることを目標とします。基本の構文や語彙などは全て2年次までに習得しているはずですので、これまでの知識、能力を応用して、更なる表現力や理解力を身につけることを目指します。中検2級合格相当のレベルに到達することを一つのめやすとし、応用問題にあたります。

（到達目標）

【知識】中国語に関する応用的な知識を体系的に身につけている。

【技能】中国語の4つの技能（聴く・話す・読む・書く）を応用的に身につけている。

【コミュニケーション力】中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

プリント配布またはWEB問題を利用

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 レベル確認テスト
- 第2回 レベル確認テストに関する説明、応用問題1
- 第3回 応用問題1に関する説明、補充練習
- 第4回 応用問題2
- 第5回 応用問題2に関する説明、補充練習
- 第6回 応用問題3
- 第7回 応用問題3に関する説明、補充練習
- 第8回 中間試験
- 第9回 中間試験に関する説明、補充練習、応用問題4
- 第10回 応用問題4に関する説明、補充練習
- 第11回 応用問題5
- 第12回 応用問題5に関する説明、補充練習
- 第13回 応用問題6
- 第14回 応用問題6に関する説明、補充練習
- 第15回 補充問題

成績評価の方法 /Assessment Method

レベル確認テスト（10%）+中間試験（45%）+期末試験（45%）

※課題：毎回の授業中に取り組み課題や宿題など

欠席や遅刻、授業中の私語、授業に関係のないウェブページなどの閲覧などは減点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前または授業後に指定された範囲の問題（主に作文問題）を期限内に解き提出すること。

授業で間違った問題などは授業後に必ず復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この授業は習熟度別に授業を行うため、1回目にレベル確認テストを実施し、クラス分けを行います。

テストを受けない場合には、この授業を履修することができない場合もありますので、必ず1回目の授業から出席してください。

中国語上級総合I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語、中国語総合力・応用力

中国語上級総合Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 橋本 愛 / 橋本愛 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN310M	○	◎		○	
科目名	中国語上級総合Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業の達成目標

- [知識] : 中国語に関する応用的な知識を体系的に身につけている。
- [技能] : 中国語の4つの技能(聴く・話す・読む・書く)を応用的に身につけている。
- [コミュニケーション力] : 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

本授業は、上級レベルの中国語を総合的(聴く・話す・読む・書く)に習得し、さらなる応用力を身につけることを目標とします。これまでの中国語に関する知識、能力を応用して、さらなる表現力や理解力を身につけることを目指します。中検2級合格相当またはそれ以上のレベルに到達することを一つのめやすとし、毎回、応用問題にあたります。

教科書 /Textbooks

プリント配布またはWEB問題を利用

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 レベル確認テスト
- 第2回 レベル確認テスト問題に関する説明、応用問題1
- 第3回 応用問題1に関する説明、補充練習
- 第4回 応用問題2
- 第5回 応用問題2に関する説明、補充練習
- 第6回 応用問題3
- 第7回 応用問題3に関する説明、補充練習
- 第8回 中間試験
- 第9回 中間試験問題に関する説明、応用問題4
- 第10回 応用問題4に関する説明、補充練習
- 第11回 応用問題5
- 第12回 応用問題5に関する説明、補充練習
- 第13回 応用問題6
- 第14回 応用問題6に関する説明、補充練習
- 第15回 補充問題

成績評価の方法 /Assessment Method

レベル確認テスト (10%) + 中間試験 (45%) + 期末試験 (45%)
 ※課題：毎回の授業中に取り組む課題や宿題など
 欠席や遅刻、授業中の私語、授業に関係のないウェブページなどの閲覧などは減点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前または授業後に指定された範囲の問題(主に作文問題)を期限内に解き提出すること。
 授業で間違った問題などは授業後に必ず復習すること。

中国語上級総合II【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

この授業は習熟度別に授業を行うため、1回目にレベル確認テストを実施し、クラス分けを行います。
テストを受けない場合には、この授業を履修することができない場合もありますので、必ず1回目の授業から出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語、中国語総合力・応用力

中国語上級総合Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN310M	○	◎		○	
科目名	中国語上級総合Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業は、上級レベルの中国語を総合的（聴く・話す・読む・書く）に習得し、さらなる応用力を身につけることを目標とします。これまでの中国語に関する知識、能力を応用して、さらなる表現力や理解力を身につけることを目指します。
中検2級合格相当またはそれ以上のレベルに到達することを一つのめやすとし、毎回、応用問題にあたります。

（到達目標）

【知識】中国語に関する応用的な知識を体系的に身につけている。

【技能】中国語の4つの技能（聴く・話す・読む・書く）を応用的に身につけている。

【コミュニケーション力】中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための応用的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

プリント配布またはWEB問題を利用

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 レベル確認テスト
- 第2回 レベル確認テスト問題に関する説明、応用問題1
- 第3回 応用問題1に関する説明、補充練習
- 第4回 応用問題2
- 第5回 応用問題2に関する説明、補充練習
- 第6回 応用問題3
- 第7回 応用問題3に関する説明、補充練習
- 第8回 中間試験
- 第9回 中間試験問題に関する説明、応用問題4
- 第10回 応用問題4に関する説明、補充練習
- 第11回 応用問題5
- 第12回 応用問題5に関する説明、補充練習
- 第13回 応用問題6
- 第14回 応用問題6に関する説明、補充練習
- 第15回 補充問題

成績評価の方法 /Assessment Method

レベル確認テスト（10%）+中間試験（45%）+期末試験（45%）

※課題：毎回の授業中に取り組み課題や宿題など

欠席や遅刻、授業中の私語、授業に関係のないウェブページなどの閲覧などは減点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前または授業後に指定された範囲の問題（主に作文問題）を期限内に解き提出すること。

授業で間違った問題などは授業後に必ず復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この授業は習熟度別に授業を行うため、1回目にレベル確認テストを実施し、クラス分けを行います。

テストを受けない場合には、この授業を履修することができない場合もありますので、必ず1回目の授業から出席してください。

中国語上級総合II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語、中国語総合力・応用力

中国語上級会話A I 【昼】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN320M		○	○	◎	
科目名	中国語上級会話A I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

- [技能] 中国語を用いて会話するための高度な技能を身につけている。
- [思考・判断・表現力] 中国語を用いて知的な話題について自分の考えを明確に表現することができる。
- [コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。

「中国語上級会話A I」と「中国語上級会話B I」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に着けさせるだけでなく、1つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書 /Textbooks

『汉语口语速成 提高篇（第三版）』（马箭飞 主编；李小荣 编著）、北京大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半、③まとめ及び練習・展開、3パーツから構成され、「会話A I」と「会話B I」の教員が交互に担当する。第1週は「会話A I」から先行する。

- 第1周 第1課 我们认识一下、好吗 (前半部分)
- 第2周 第1課 总结与展开：如何打招呼
- 第3周 第2課 健康第一 (后半部分)
- 第4周 第3課 好东西人人爱吃 (前半部分)
- 第5周 第3課 总结与展开：饮食习惯
- 第6周 第4課 这种款式适合我吗 (后半部分)
- 第7周 第5課 你喜欢逛商店吗 (前半部分)
- 第8周 第5課 总结与展开：网购
- 第9周 第6課 生活有时就是琐碎的 (后半部分)
- 第10周 第7課 让我们轻松一下 (前半部分)
- 第11周 第7課 总结与展开：娱乐文化
- 第12周 第8課 计划赶不上变化 (后半部分)
- 第13周 第9課 大手大脚还是精打细算 (前半部分)
- 第14周 第9課 总结与展开：买房还是租房
- 第15周 第10課 我想咨询一下 (后半部分)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (プレゼンテーション) ... 50%、
平常点 (授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と授業内容の復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

大きい声で発言すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語る力、考える力

中国語上級会話A I 【昼】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN320M		○	○	◎	
科目名	中国語上級会話A I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

- [技能] 中国語を用いて会話するための高度な技能を身につけている。
- [思考・判断・表現力] 中国語を用いて知的な話題について自分の考えを明確に表現することができる。
- [コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。

「中国語上級会話A I」と「中国語上級会話B I」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に付けさせるだけでなく、1つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書 /Textbooks

『汉语口语速成 提高篇（第三版）』（马箭飞 主编；李小荣 编著）、北京大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半、③まとめ及び練習・展開、3パーツから構成され、「会話A I」と「会話B I」の教員が交互に担当する。第1週は「会話A I」から先行する。

- 第1周 第1課 我们认识一下、好吗（前半部分）
- 第2周 第1課 总结与展开：如何打招呼
- 第3周 第2課 健康第一（后半部分）
- 第4周 第3課 好东西人人爱吃（前半部分）
- 第5周 第3課 总结与展开：饮食习惯
- 第6周 第4課 这种款式适合我吗（后半部分）
- 第7周 第5課 你喜欢逛商店吗（前半部分）
- 第8周 第5課 总结与展开：网购
- 第9周 第6課 生活有时就是琐碎的（后半部分）
- 第10周 第7課 让我们轻松一下（前半部分）
- 第11周 第7課 总结与展开：娱乐文化
- 第12周 第8課 计划赶不上变化（后半部分）
- 第13周 第9課 大手大脚还是精打细算（前半部分）
- 第14周 第9課 总结与展开：买房还是租房
- 第15周 第10課 我想咨询一下（后半部分）

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（プレゼンテーション）... 50%、
平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ）...50%

中国語上級会話A1【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と授業内容の復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

大きい声で発言すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語る力、考える力

中国語上級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN321M		○	○	◎	
科目名	中国語上級会話A II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

- [技能] 中国語を用いて会話するための高度な技能を身につけている。
- [思考・判断・表現力] 中国語を用いて知的な話題について自分の考えを明確に表現することができる。
- [コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。

「中国語上級会話AII」と「中国語上級会話BII」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に付けさせるだけでなく、1つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書 /Textbooks

『汉语口语速成 提高篇（第三版）』（马箭飞主编；李小荣 编著）、北京大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半、③まとめ及び練習・展開、3パーツから構成され、「会話AII」と「会話BII」の教員が交互に担当する。第1週は「会話BII」から先行する。

- 第1周 第11課 有话好商量（后半部分）
- 第2周 第12課 我们生活在人群里（前半部分）
- 第3周 第12課 总结与展开：为人处世
- 第4周 第13課 特别的经历（后半部分）
- 第5周 第14課 我想去旅游（前半部分）
- 第6周 第14課 总结与展开：读万卷书，行千里路
- 第7周 第15課 谁能说自己不喜欢艺术（后半部分）
- 第8周 第16課 轻轻松松挣大钱（前半部分）
- 第9周 第16課 总结与展开：求职
- 第10周 第17課 永远的爱情永远的家（后半部分）
- 第11周 第18課 地球村（前半部分）
- 第12周 第18課 总结与展开：国际交流
- 第13周 第19課 我们的生活（后半部分）
- 第14周 第20課 今天有什么新闻（前半部分）
- 第15周 第20課 总结与展开：金融危机

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（プレゼンテーション）...50%、
平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ）...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と授業内容の復習をしっかりと行うこと。

中国語上級会話AII【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

大きい声で発言すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語る力 考える力

中国語上級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN321M		○	○	◎	
科目名	中国語上級会話A II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

- [技能] 中国語を用いて会話するための高度な技能を身につけている。
- [思考・判断・表現力] 中国語を用いて知的な話題について自分の考えを明確に表現することができる。
- [コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。

「中国語上級会話AII」と「中国語上級会話BII」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に付けさせるだけでなく、1つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書 /Textbooks

『汉语口语速成 提高篇（第三版）』（马箭飞主编；李小荣 编著）、北京大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半、③まとめ及び練習・展開、3パーツから構成され、「会話AII」と「会話BII」の教員が交互に担当する。第1週は「会話BII」から先行する。

- 第1周 第11課 有话好商量（后半部分）
- 第2周 第12課 我们生活在人群里（前半部分）
- 第3周 第12課 总结与展开：为人处世
- 第4周 第13課 特别的经历（后半部分）
- 第5周 第14課 我想去旅游（前半部分）
- 第6周 第14課 总结与展开：读万卷书，行千里路
- 第7周 第15課 谁能说自己不喜欢艺术（后半部分）
- 第8周 第16課 轻轻松松挣大钱（前半部分）
- 第9周 第16課 总结与展开：求职
- 第10周 第17課 永远的爱情永远的家（后半部分）
- 第11周 第18課 地球村（前半部分）
- 第12周 第18課 总结与展开：国际交流
- 第13周 第19課 我们的生活（后半部分）
- 第14周 第20課 今天有什么新闻（前半部分）
- 第15周 第20課 总结与展开：金融危机

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（プレゼンテーション）...50%、
平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ）...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と授業内容の復習をしっかりと行うこと。

中国語上級会話AII【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

大きい声で発言すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語る力 考える力

中国語上級会話B I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 王 宇南 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN322M		○	○	◎	
科目名	中国語上級会話B I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

- [技能] 中国語を用いて会話するための高度な技能を身につけている。
- [思考・判断・表現力] 中国語を用いて知的な話題について自分の考えを明確に表現することができる。
- [コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。

「中国語上級会話A I」と「中国語上級会話B I」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に着けさせるだけでなく、1つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書 /Textbooks

『汉语口语速成 提高篇（第三版）』（马箭飞主编；李小荣 编著）、北京大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半、③まとめ及び練習・展開、3パーツから構成され、「会話A I」と「会話B I」の教員が交互に担当する。第1週は「会話A I」から先行する。

- 第1周 第1課 让我们认识一下（后半部分）
- 第2周 第2課 健康第一（前半部分）
- 第3周 第2課 总结与展开：养生之道
- 第4周 第3課 好东西人人爱吃（后半部分）
- 第5周 第4課 这种款式适合我吗（前半部分）
- 第6周 第4課 总结与展开：时尚与传统
- 第7周 第5課 你喜欢逛商店吗（后半部分）
- 第8周 第6課 生活有时候就是琐碎的（前半部分）
- 第9周 第6課 总结与展开：自己动手，丰衣足食
- 第10周 第7課 让我们轻松一下（后半部分）
- 第11周 第8課 计划赶不上变化（前半部分）
- 第12周 第8課 总结与展开：理想与现实
- 第13周 第9課 大手大脚还是精打细算（后半部分）
- 第14周 第10課 我想咨询一下（前半部分）
- 第15周 第10課 总结与展开：信息世界

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等）...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定される範囲の予習及び復習をしっかりと行うこと。

中国語上級会話B1【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

授業中の積極性を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語る力、考える力

中国語上級会話B I 【昼】

担当者名 /Instructor 王 宇南 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN322M		○	○	◎	
科目名	中国語上級会話B I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

- [技能] 中国語を用いて会話するための高度な技能を身につけている。
- [思考・判断・表現力] 中国語を用いて知的な話題について自分の考えを明確に表現することができる。
- [コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。

「中国語上級会話AI」と「中国語上級会話BI」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に着けさせるだけでなく、1つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書 /Textbooks

『汉语口语速成 提高篇（第三版）』（马箭飞主编；李小荣 编著）、北京大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半、③まとめ及び練習・展開、3パーツから構成され、「会話AI」と「会話BI」の教員が交互に担当する。第1週は「会話AI」から先行する。

- 第1周 第1課 让我们认识一下（后半部分）
- 第2周 第2課 健康第一（前半部分）
- 第3周 第2課 总结与展开：养生之道
- 第4周 第3課 好东西人人爱吃（后半部分）
- 第5周 第4課 这种款式适合我吗（前半部分）
- 第6周 第4課 总结与展开：时尚与传统
- 第7周 第5課 你喜欢逛商店吗（后半部分）
- 第8周 第6課 生活有时候就是琐碎的（前半部分）
- 第9周 第6課 总结与展开：自己动手，丰衣足食
- 第10周 第7課 让我们轻松一下（后半部分）
- 第11周 第8課 计划赶不上变化（前半部分）
- 第12周 第8課 总结与展开：理想与现实
- 第13周 第9課 大手大脚还是精打细算（后半部分）
- 第14周 第10課 我想咨询一下（前半部分）
- 第15周 第10課 总结与展开：信息世界

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等）...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定される範囲の予習及び復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中の積極性を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語る力、考える力

中国語上級会話BⅡ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 王 宇南 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN323M		○	○	◎	
科目名	中国語上級会話BⅡ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

- [技能] 中国語を用いて会話するための高度な技能を身につけている。
- [思考・判断・表現力] 中国語を用いて知的な話題について自分の考えを明確に表現することができる。
- [コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。

「中国語上級会話AⅡ」と「中国語上級会話BⅡ」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に付けさせるだけでなく、1つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書 /Textbooks

『汉语口语速成 提高篇（第三版）』（马箭飞主编；李小荣 编著）、北京大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半、③まとめ及び練習・展開、3パーツから構成され、「会話AⅡ」と「会話BⅡ」の教員が交互に担当する。第1週は「会話BⅡ」から先行する。

- 第1周 第11課 有话好商量（前半部分）
- 第2周 第11課 总结与展开：城市交通
- 第3周 第12課 我们生活在人群里（后半部分）
- 第4周 第13課 特别的经历（前半部分）
- 第5周 第13課 总结与展开：失败的教训
- 第6周 第14課 我想去旅游（后半部分）
- 第7周 第15課 谁能说自己不喜欢艺术（前半部分）
- 第8周 第15課 总结与展开：艺术生活
- 第9周 第16課 轻轻松松挣大钱（后半部分）
- 第10周 第17課 永远的爱情永远的家（前半部分）
- 第11周 第17課 总结与展开：择偶
- 第12周 第18課 地球村（后半部分）
- 第13周 第19課 我们的生活（前半部分）
- 第14周 第19課 总结与展开：环保
- 第15周 第20課 今天有什么新闻（后半部分）

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等）...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必指定される範囲の予習及び復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中の積極性を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語る力 考える力

中国語上級会話BⅡ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 王 宇南 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN323M		○	○	◎	
科目名	中国語上級会話BⅡ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標：

- [技能] 中国語を用いて会話するための高度な技能を身につけている。
- [思考・判断・表現力] 中国語を用いて知的な話題について自分の考えを明確に表現することができる。
- [コミュニケーション力] 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

具体的に、さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。

「中国語上級会話AⅡ」と「中国語上級会話BⅡ」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に付けさせるだけでなく、1つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書 /Textbooks

『汉语口语速成 提高篇（第三版）』（马箭飞主编；李小荣 编著）、北京大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半、③まとめ及び練習・展開、3パーツから構成され、「会話AⅡ」と「会話BⅡ」の教員が交互に担当する。第1週は「会話BⅡ」から先行する。

- 第1周 第11課 有话好商量（前半部分）
- 第2周 第11課 总结与展开：城市交通
- 第3周 第12課 我们生活在人群里（后半部分）
- 第4周 第13課 特别的经历（前半部分）
- 第5周 第13課 总结与展开：失败的教训
- 第6周 第14課 我想去旅游（后半部分）
- 第7周 第15課 谁能说自己不喜欢艺术（前半部分）
- 第8周 第15課 总结与展开：艺术生活
- 第9周 第16課 轻轻松松挣大钱（后半部分）
- 第10周 第17課 永远的爱情永远的家（前半部分）
- 第11周 第17課 总结与展开：择偶
- 第12周 第18課 地球村（后半部分）
- 第13周 第19課 我们的生活（前半部分）
- 第14周 第19課 总结与展开：环保
- 第15周 第20課 今天有什么新闻（后半部分）

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等）...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必指定される範囲の予習及び復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中の積極性を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語る力 考える力

中国語上級作文I【昼】

担当者名 /Instructor 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN324M		◎	○	○	
科目名	中国語上級作文 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

上級作文は中級作文に続き、応用文から小論文までのあらゆる形態の中国語文章の書き方を学び、一般的完全な中国語文章、中国語の小論文が書ける能力を養う。この授業を通して、与えた中国語の文章を中国語で纏めることができるし、自分の意見や考え及び特定の話題を中国語で文の筋がよく通っているように且つ正確に表現できる。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて文章作成を行うための高度な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて知的な話題について自分の考えを明確に文章で表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 高级写作I』（第二版）岑玉珍 編著 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀 編著 北京语言大学出版社
「中日・日中」辞書

中国語上級作文I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 我和汉语 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习:《我和汉语》
(3) 边读边练:《我学汉语的原因》
- 2回 第1課 我和汉语 (3) 边读边练:《我学汉语的原因》 (4) 参考练习
(5) 本课写作知识要点
- 3回 第2課 往事与朋友 上次作文讲评 (1) 本课导入
(2) 范文讨论与学习:《我的一个朋友》
- 4回 第2課 往事与朋友
(3) 边读边练:《高山流水遇知音——俞伯牙和钟子期的故事》
- 5回 第2課 往事与朋友 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 6回 第3課 童年与梦想 上次作文讲评 (1) 本课导入
(2) 范文讨论与学习:《童年的回忆》
- 7回 第3課 童年与梦想 (3) 边读边练:《狮身人面怪物的谜语》
- 8回 第3課 童年与梦想 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 9回 第4課 异域风情 上次作文讲评 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习:《说不尽的西安古城》 (3) 边读边练:《伦敦印象》
- 10回 第4課 异域风情 (3) 边读边练:《伦敦印象》 (4) 参考练习
(5) 本课写作知识要点
- 11回 第5課 热爱美食 上次作文讲评 (1) 本课导入
(2) 范文讨论与学习:《我是个“小馋猫”》
- 12回 第5課 热爱美食 (3) 边读边练:《中餐和西餐》
- 13回 第5課 热爱美食 (3) 边读边练:《中餐和西餐》 (4) 参考练习
(5) 本课写作知识要点
- 14回 第6課 电影和明星 上次作文讲评 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习:《我喜欢电影明星成龙》 (3) 边读边练:《我喜欢篮球明星姚明》
- 15回 第6課 电影和明星 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験: 50% 課題: 40% 日常の授業への取り組み: 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前予習と事後復習をしなければならない。事前に教科書の本文総括、「试一试・写一写」、「边读边练」の部分をも自分より書かなくてはならない、これは平常点の評価項目の一つである。事後に誤った作文をもう一度書き直さなければならない。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業の調整をすることがある。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語上級作文I【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

担当者名 /Instructor 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN324M		◎	○	○	
科目名	中国語上級作文 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

上級作文は中級作文に続き、応用文から小論文までのあらゆる形態の中国語文章の書き方を学び、一般的完全な中国語文章、中国語の小論文が書ける能力を養う。この授業を通して、与えた中国語の文章を中国語で纏めることができるし、自分の意見や考え及び特定の話題を中国語で文の筋がよく通っているように且つ正確に表現できる。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて文章作成を行うための高度な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて知的な話題について自分の考えを明確に文章で表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 高级写作I』（第二版）岑玉珍 編著 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀 編著 北京语言大学出版社
「中日・日中」辞書

中国語上級作文I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 我和汉语 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习:《我和汉语》
(3) 边读边练:《我学汉语的原因》
- 2回 第1課 我和汉语 (3) 边读边练:《我学汉语的原因》 (4) 参考练习
(5) 本课写作知识要点
- 3回 第2課 往事与朋友 上次作文讲评 (1) 本课导入
(2) 范文讨论与学习:《我的一个朋友》
- 4回 第2課 往事与朋友
(3) 边读边练:《高山流水遇知音——俞伯牙和钟子期的故事》
- 5回 第2課 往事与朋友 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 6回 第3課 童年与梦想 上次作文讲评 (1) 本课导入
(2) 范文讨论与学习:《童年的回忆》
- 7回 第3課 童年与梦想 (3) 边读边练:《狮身人面怪物的谜语》
- 8回 第3課 童年与梦想 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 9回 第4課 异域风情 上次作文讲评 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习:《说不尽的西安古城》 (3) 边读边练:《伦敦印象》
- 10回 第4課 异域风情 (3) 边读边练:《伦敦印象》 (4) 参考练习
(5) 本课写作知识要点
- 11回 第5課 热爱美食 上次作文讲评 (1) 本课导入
(2) 范文讨论与学习:《我是个“小馋猫”》
- 12回 第5課 热爱美食 (3) 边读边练:《中餐和西餐》
- 13回 第5課 热爱美食 (3) 边读边练:《中餐和西餐》 (4) 参考练习
(5) 本课写作知识要点
- 14回 第6課 电影和明星 上次作文讲评 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习:《我喜欢电影明星成龙》 (3) 边读边练:《我喜欢篮球明星姚明》
- 15回 第6課 电影和明星 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験: 50% 課題: 40% 日常の授業への取り組み: 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前予習と事後復習をしなければならない。事前に教科書の本文総括、「试一试・写一写」、「边读边练」の部分をも自分より書かなくてはならない、これは平常点の評価項目の一つである。事後に誤った作文をもう一度書き直さなければならない。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業の調整をすることがある。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語上級作文Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN325M		◎	○	○	
科目名	中国語上級作文Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

上級作文は中級作文に続き、応用文から小論文までのあらゆる形態の中国語文章の書き方を学び、一般的完全な中国語文章、中国語の小論文が書ける能力を養う。この授業を通して、与えた中国語の文章を中国語で纏めることができるし、自分の意見や考え及び特定の話題を中国語で文の筋がよく通っているように且つ正確に表現できる。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて文章作成を行うための高度な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて知的な話題について自分の考えを明確に文章で表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 高级写作I』(第二版) 岑玉珍 編著 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀 編著 北京语言大学出版社
「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課 社会的变迁 上次作文讲评 (1) 本课导入
(2) 范文讨论与学习：读《先人们的快乐》有感
- 2回 第7課 社会的变迁
(3) 边读边练：《我能不能帮助可怜的祥林嫂——<祝福>读后感》
- 3回 第7課 社会的变迁 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 4回 第8課 生命的意义 上次作文讲评 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习：
《关于生命的思考》 (3) 边读边练：《关于生命的再思考》
- 5回 第8課 生命的意义 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 6回 第9課 父母与孩子 上次作文讲评 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习：《鲁迅与儿子、父亲》
- 7回 第9課 父母与孩子 (3) 边读边练：《只要努力就行》
- 8回 第9課 父母与孩子 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 9回 第10課 生活需要挑战 上次作文讲评 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习：《生活需要挑战》 (3) 边读边练：《家庭变小，影响环境》
- 10回 第10課 生活需要挑战 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 11回 第11課 幸福是什么 上次作文讲评 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习
《幸福感与经济发展》 (3) 边读边练：《知足者常乐》
- 12回 第11課 幸福是什么 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 13回 第12課 互联网和社会生活 上次作文讲评 (1) 本课导入
(2) 范文讨论与学习：《大学生上网目的的调查》
- 14回 第12課 互联网和社会生活 (3) 边读边练：《国民阅读情况调查分析》
- 15回 第12課 互联网和社会生活 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：50% 課題：40% 日常の授業への取り組み：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前予習と事後復習をしなければならない。事前に教科書の本文総括、「试一试・写一写」、「边读边练」の部分をも自分より書かなくてはならない。事後に誤った作文をもう一度書き直さなければならない。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業の調整をすることがある。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語上級作文Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN325M		◎	○	○	
科目名	中国語上級作文Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

上級作文は中級作文に続き、応用文から小論文までのあらゆる形態の中国語文章の書き方を学び、一般的完全な中国語文章、中国語の小論文が書ける能力を養う。この授業を通して、与えた中国語の文章を中国語で纏めることができるし、自分の意見や考え及び特定の話題を中国語で文の筋がよく通っているように且つ正確に表現できる。

(到達目標)

「技能」

中国語を用いて文章作成を行うための高度な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国語を用いて知的な話題について自分の考えを明確に文章で表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『发展汉语 高级写作I』(第二版) 岑玉珍 編著 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程 二年级教材』趙建華 祝秉耀 編著 北京语言大学出版社
「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課 社会的变迁 上次作文讲评 (1) 本课导入
(2) 范文讨论与学习：读《先人们的快乐》有感
- 2回 第7課 社会的变迁
(3) 边读边练：《我能不能帮助可怜的祥林嫂——<祝福>读后感》
- 3回 第7課 社会的变迁 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 4回 第8課 生命的意义 上次作文讲评 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习：
《关于生命的思考》 (3) 边读边练：《关于生命的再思考》
- 5回 第8課 生命的意义 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 6回 第9課 父母与孩子 上次作文讲评 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习：《鲁迅与儿子、父亲》
- 7回 第9課 父母与孩子 (3) 边读边练：《只要努力就行》
- 8回 第9課 父母与孩子 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 9回 第10課 生活需要挑战 上次作文讲评 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习：《生活需要挑战》 (3) 边读边练：《家庭变小，影响环境》
- 10回 第10課 生活需要挑战 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 11回 第11課 幸福是什么 上次作文讲评 (1) 本课导入 (2) 范文讨论与学习
《幸福感与经济发展》 (3) 边读边练：《知足者常乐》
- 12回 第11課 幸福是什么 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点
- 13回 第12課 互联网和社会生活 上次作文讲评 (1) 本课导入
(2) 范文讨论与学习：《大学生上网目的的调查》
- 14回 第12課 互联网和社会生活 (3) 边读边练：《国民阅读情况调查分析》
- 15回 第12課 互联网和社会生活 (4) 参考练习 (5) 本课写作知识要点

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：50% 課題：40% 日常の授業への取り組み：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前予習と事後復習をしなければならない。事前に教科書の本文総括、「试一试・写一写」、「边读边练」の部分をも自分より書かなくてはならない。事後に誤った作文をもう一度書き直さなければならない。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業の調整をすることがある。

キーワード /Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語上級リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN326M		○	○	◎	
科目名	中国語上級リスニングI		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

中国学科の3年生を対象に、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

(到達目標)

「技能」

中国語のリスニングに関する高度な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

知的な話題についての中国語を聞き取り、自分の考えを表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』（第二版）毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 校园生活 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第一課 校园生活 四、听课文做练习
- 3回 第二課 饮食 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 4回 第二課 饮食 四、听课文做练习
- 5回 第三課 购物 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 6回 第三課 购物 四、听课文做练习
- 7回 第四課 寻求帮助 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 8回 第四課 寻求帮助 四、听课文做练习
- 9回 第五課 休闲娱乐 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 10回 第五課 休闲娱乐 四、听课文做练习
- 11回 第六課 交通状况 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 12回 第六課 交通状况 四、听课文做练习
- 13回 第七課 婚姻与家庭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 14回 第七課 婚姻与家庭 四、听课文做练习
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・60% 小テスト(2回)・・・30% 日常の学習状況・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語上級リスニングI【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

必ず単語を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語上級リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN326M		○	○	◎	
科目名	中国語上級リスニングI		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

中国学科の3年生を対象に、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

(到達目標)

「技能」

中国語のリスニングに関する高度な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

知的な話題についての中国語を聞き取り、自分の考えを表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』（第二版）毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一课 校园生活 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第一课 校园生活 四、听课文做练习
- 3回 第二课 饮食 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 4回 第二课 饮食 四、听课文做练习
- 5回 第三课 购物 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 6回 第三课 购物 四、听课文做练习
- 7回 第四课 寻求帮助 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 8回 第四课 寻求帮助 四、听课文做练习
- 9回 第五课 休闲娱乐 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 10回 第五课 休闲娱乐 四、听课文做练习
- 11回 第六课 交通状况 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 12回 第六课 交通状况 四、听课文做练习
- 13回 第七课 婚姻与家庭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 14回 第七课 婚姻与家庭 四、听课文做练习
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・ 60% 小テスト(2回)・・・ 30% 日常の学習状況・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語上級リスニングI【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

必ず単語を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語上級リスニングⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN327M		○	○	◎	
科目名	中国語上級リスニングⅡ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国学科3年生を対象に、1学期の引き続き、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

(到達目標)

「技能」

中国語のリスニングに関する高度な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

知的な話題についての中国語を聞き取り、自分の考えを表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』（第二版）毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八课 体育运动 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第八课 体育运动 四、听课文做练习
- 3回 第九课 参观旅游 一、生词 二、格式与范句
- 4回 第九课 参观旅游 三、热身练习
- 5回 第九课 参观旅游 四、听课文做练习
- 6回 第十课 疾病与治疗 一、生词 二、格式与范句
- 7回 第十课 疾病与治疗 三、热身练习
- 8回 第十课 疾病与治疗 四、听课文做练习
- 9回 第十一课 职业工作 一、生词 二、格式与范句
- 10回 第十一课 职业工作 三、热身练习
- 11回 第十一课 职业工作 四、听课文做练习
- 12回 第十二课 健康 一、生词 二、格式与范句
- 13回 第十二课 健康 三、热身练习
- 14回 第十二课 健康 四、听课文做练习
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・ 60% 小テスト(2回)・・・ 30% 日常の学習状況・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語上級リスニングII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

必ず単語を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語上級リスニングⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN327M		○	○	◎	
科目名	中国語上級リスニングⅡ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

中国学科3年生を対象に、1学期の引き続き、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

(到達目標)

「技能」

中国語のリスニングに関する高度な技能を身につけている。

「思考・判断・表現力」

知的な話題についての中国語を聞き取り、自分の考えを表現することができる。

「コミュニケーション力」

中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するための高度なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』（第二版）毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八课 体育运动 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第八课 体育运动 四、听课文做练习
- 3回 第九课 参观旅游 一、生词 二、格式与范句
- 4回 第九课 参观旅游 三、热身练习
- 5回 第九课 参观旅游 四、听课文做练习
- 6回 第十课 疾病与治疗 一、生词 二、格式与范句
- 7回 第十课 疾病与治疗 三、热身练习
- 8回 第十课 疾病与治疗 四、听课文做练习
- 9回 第十一课 职业工作 一、生词 二、格式与范句
- 10回 第十一课 职业工作 三、热身练习
- 11回 第十一课 职业工作 四、听课文做练习
- 12回 第十二课 健康 一、生词 二、格式与范句
- 13回 第十二课 健康 三、热身练习
- 14回 第十二课 健康 四、听课文做练习
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・ 60% 小テスト(2回)・・・ 30% 日常の学習状況・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語上級リスニングII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語科目

履修上の注意 /Remarks

必ず単語を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語学概論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN210M	◎	○			○
科目名	中国語学概論Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

世界には何千種類もの言語が存在するが、その中で中国語とはどのような言語であるかについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では、中国語の概説のほか、音声、文字、語彙等について論ずる。

(到達目標)

【知識】中国語学（言語学）に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】中国語学（言語学）に関して必要な情報を収集、分析することができる。

【自立的行動力】中国および中国語圏の言語への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

なし（毎回、資料を配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学習ハンドブック（改訂版）』相原茂編著、大修館書店
その他、授業中に随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01回 オリエンテーション、概説
- 02回 中国語とはどんな言語か：中国語の特徴
- 03回 中国語とはどんな言語か：中国語の歴史、共通語と方言
- 04回 中国語の音声1（音声の基礎）
- 05回 中国語の音声2（中国語の音節構造）
- 06回 中国語の音声3（韻母の四呼・子音の分類・音変）
- 07回 中国語の音声4（音節構造の復習）
- 08回 中国語の文字1（漢字の歴史）
- 09回 中国語の文字2（漢字の構造）
- 10回 中国語の文字3（漢字の部首、筆画・筆順）
- 11回 中国語の文字4（簡体字）
- 12回 中国語の文字5（現在用いられている3種類の漢字）
- 13回 中国語の文字6（近代文字改革の歴史）
- 14回 中国語の文字7（中国建国前後の文字改革）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 平常点（課題・小テスト・受講態度等）...30%
出席が全受講回数の3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、次回の講義内容の関連項目について、予め自分なりの知識を得ておくことが望ましい。既習項目であれば、復習をしておくこと。必要に応じて課題を出すこともあり、課題については成績評価の対象となる。また、期末試験の他、ほぼ毎回、次の授業で確認テストを行うので、授業後は講義内容をきちんと復習しておくことが必要である。これも成績評価の対象となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語学概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN211M	◎	○			○
科目名	中国語学概論II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本語や英語との比較・対照という視点も取り入れながら、中国語とはどのような言語かについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では特に中国語の文法、表現（発想の違い）について論ずる。

（到達目標）

【知識】中国語学（言語学）に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】中国語学（言語学）に関して必要な情報を収集、分析することができる。

【自立的行動力】中国および中国語圏の言語への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

なし（毎回、資料を配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『誤用から学ぶ中国語』（郭春貴著、白帝社）
- 『中国語わかる文法』（興水優・島田亜実著、大修館書店）
- 『イメージでスッキリわかる中国語文法』（古川裕著、アルク）
- その他、授業中に随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01回 オリエンテーション（前期答案返却、後期の予定）
- 02回 中国語の文法1（中国語文法の基礎知識）
- 03回 中国語の文法2（中国語の文法成分・単語と品詞）
- 04回 中国語の文法3（品詞1 名詞・方位詞・代詞）
- 05回 中国語の文法4（品詞2 数詞と量詞、区別詞）
- 06回 中国語の文法5（品詞3 動詞、助動詞、形容詞、副詞）
- 07回 中国語の文法6（品詞4 副詞、介詞）
- 08回 中国語の文法7（品詞5 接続詞、助詞、擬音詞、感嘆詞）
- 09回 中国語の文法8（フレーズと文法）
- 10回 中国語の文法9（フレーズの文法関係と品詞）
- 11回 中国語の文法10（補語について）
- 12回 中国語の文法11（まとめ）
- ※ 以下は、文法の理解程度に応じて
- 13回 中国語の表現1：あいさつ、親族名称と呼称
- 14回 中国語の表現2：人称代名詞、指示代名詞
- 15回 中国語の表現3：敬語、ボディランゲージ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 平常点（小テスト、課題・受講態度等）...30%
出席が全受講回数の3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、次回の講義内容の関連項目について、予め自分なりの知識を得ておくことが望ましい。既習項目であれば、復習しておくこと。必要に応じて課題を出すこともあり、課題については成績評価の対象となる。また、期末試験の他、ほぼ毎回、次の授業で確認テストを行うので、授業後は講義内容をきちんと復習しておくことが必要である。これも成績評価の対象となる。

中国語学概論II 【昼】

専門教育科目
選択科目
専門科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語音声学Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 1学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN212M	◎	○			○
科目名	中国語音声学Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、まず一般音声学の基礎的知識を学びます。これまでに学習経験のある英語や中国語、私たちが話す日本語といった言語の中から、いろいろな音声現象を例に挙げ、音声学に対する理解を深めていきます。国際音声記号 (IPA) についても触れ、その知識と理論について学びます。次に一般音声学の基礎的知識をもとに、中国語の音節の仕組み、声母・韻母・声調の発音方法などについて講義をします。中国語音声学の知識を身につけ、受講生自身の中国語の発音を振り返る機会としましょう。

到達目標

「知識」

中国語学 (音声学) に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

「技能」

中国語学 (音声学) に関して必要な情報を収集、分析することができる。

「自立的行動力」

中国および中国語圏の言語への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

佐藤昭 編著 『中国音声学概説』

教科書購入時期については、4月中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内京子・木村琢也著 『楽しい音声学』 くらしお出版 2019年

川原繁人 『ビジュアル音声学』 三省堂 2018

日下恒夫 『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』 アルク 2007年

川原繁人 『音とことばのふしぎな世界—メイド声から英語の達人まで』 岩波書店 2015年

中国語音声学I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

漢字と音声、日本語・中国語・英語の音声的特徴、「普通話」の音節構造とその特色、発音表記法の問題など中国語の音声に関わるさまざまな事象についてテーマ別に講義していきます。

- 1回 第1章 文字と音声
- 2回 第1章 文字と音声 日本語の文字、発音に関するDVD鑑賞
- 3回 第2章 音声学の基礎知識(1) ①発音器官(音声器官)について
- 4回 第2章 音声学の基礎知識(1) ②調音器官について
- 5回 第3章 音声学の基礎知識(2)一言語音と音声記号- ①子音の分類
- 6回 第3章 音声学の基礎知識(2)一言語音と音声記号- ②母音の分類
- 7回 第4章 日本語の音節と中国語の音節 ①日本語の音節
- 8回 第4章 日本語の音節と中国語の音節 ②中国語の音節
- 9回 第5章 中国語の声母とその発音
- 10回 第6章 中国語の韻母とピンイン表記
- 11回 第7章 韻母の発音 ①主母音(単母音、複母音)
- 12回 第7章 韻母の発音 ②日本語と中国語の母音の比較
- 13回 第8章 中国語の基本音節表
- 14回 第9章 声調について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験…50% 小テスト、課題提出など…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に予習(教科書に目を通すこと、中国語の語彙調べなど)をしておきましょう。
授業の冒頭では、前回の授業内容の理解度を測るための小テストを実施します。事後学習として、復習を行うのと同時に、課題の提出をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

『中国語学概論I』を履修するとより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書は毎年少しずつ内容が変更されており、ページ数や表が異なります。必ず購入してください。
本講義は、外国語である中国語の発音習得に役立つ内容が多く含まれています。理解できたものを実践の場で生かすように心がけてください。

キーワード /Keywords

中国語 発音 調音 音声記号

中国語音声学Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / Credits 2単位 / Semester 2学期 / Class Format 授業形態 講義 / Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN213M	◎	○			○
科目名	中国語音声学Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、前半は、現代中国語の音声に関する各種の基本事項について学び、後半は中国語の発音の歴史について講義をします。具体的には、まず中国語の兒化韻、轻声、変調など、1音節または2音節レベルの音声現象について学び、次に二音節以上、文レベルでの発音の仕方や理論を学びます。ここでの知識や理論を用いて、自身の発音を振り返りつつ、より正確な発音ができるようになることを目指します。中国語の発音の歴史については、中国語の発音が古代から現代にかけていかに変化発展してきたかということについて、唐詩や漢字音資料、方言音などを言語資料として取り上げて講義します。

到達目標

- 「知識」
中国語学（音声学）に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 「技能」
中国語学（音声学）に関して必要な情報を収集、分析することができる。
- 「自立的行動力」
中国および中国語圏の言語への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

佐藤昭編著『中国音声学概説』2021年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日下恒夫著『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』アルク、2007年
大島正二『中国語の歴史 - ことばの変遷・探求の歩み』大修館書店、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業の進度は以下の通りです。

- 1回 第10章 轻声の発音と重音・軽音（中国語の轻声について）
- 2回 第10章 轻声の発音と重音・軽音（中国語の重音・軽音）
- 3回 第11章 ささまざまな発音変化と多音字（「不」「一」の声調変化）
- 4回 第11章 ささまざまな発音変化と多音字（多音字）
- 5回 第12章 アル化韻母（アル化韻母について）
- 6回 第12章 アル化韻母（接尾辞「儿」の機能）
- 7回 第13章 文の発音（語法重音・対比重音）
- 8回 第13章 文の発音（プロミネンス・イントネーション）
- 9回 第14章 中国の古代音と現代音 付録1 中国古典詩の読み方
- 10回 第14章 中国の古代音について（唐詩押韻字とその発音変化）
- 11回 第15章 中古音から現代音への変化（中古から現代までの主な声母の変化）
- 12回 第15章 中古音から現代音への変化（中国語の漢字と発音に関するDVD）
- 13回 第16章 中国の方言と方言区分（中国語の方言）
- 14回 第16章 中国の方言音と方言区分（北京音と各地の方言音との比較）
- 15回 まとめ

中国語音声学II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験…50% その他(小テスト、課題など)…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：予習(テキストに目を通す、中国語の語彙調べなど)をしてください。
授業内容を把握し、知識が定着しているかを確認するために小テストを実施します。
授業学習として、次回授業の小テストに向けて、授業内容をきちんと復習しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

「中国語学概論II」を履修しておくこと、理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語 普通話 発音 軽声 見化韻

中国研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor エステバン コルドバ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE111M	◎	○			
科目名	中国研究概論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は、主に社会科学の観点から中国を研究するための基礎知識を養うことを目的とします。共産党政権成立から70年以上が経ち、中国は経済・政治・軍事の面で世界有数の大国となりましたが、その未来は決して楽観できない状況にあります。この授業では、中国の統治の仕組み、国内に抱える問題、対外関係、および中国が「内政」と位置づけるけれども大陸中国とは別扱いになっている香港や台湾を取り上げて、中国に関わる問題を多角的に考える力をつけます。

(到達目標)

【知識】現代中国・台湾に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】中国・台湾に関する基本的な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

初回の授業で知らせる。

その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考になる書籍の一部を紹介します。内容が重なっているものもあります。自分が読みやすいと思う本を選んで読んでみましょう。

光田剛『現代中国入門』ちくま新書、2017年。

益尾知佐子『中国の行動原理』中公新書、2019年(○)。

興梠一郎『中国激流 13億のゆくえ』岩波新書、2005年(○)。

川島真・小嶋華津子編著『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年。(○)

下野寿子「香港の『街頭の政治』—中国との共存をめぐる葛藤」阿部容子・北美幸・篠崎香織・下野寿子編『「街頭の政治」をよむ—国際関係学からのアプローチ』法律文化社、2018年、110-130頁。(○)※図書館で探す時は『』で示した書名で検索してください。

園田茂人『はじめて出会う中国』有斐閣、2013年。(○)

園田茂人『チャイナ・インパクト—近隣からみた「台頭」と「脅威」』東京大学出版会、2018年。(○)

東大社研現代中国研究拠点『現代中国ゼミナール 東大駒場連続講義』東京大学出版会、2020年。

服部龍二『日中国交正常化：田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』中公新書、2011年。(○)

毛里和子・園田茂人編『中国問題—キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年。(○)

吉岡桂子『愛国経済 中国のグローバル化』朝日新聞出版、2008年。

中国研究概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※中国情勢の変化などの理由により、順番を入れ替えたり、授業内容に多少の変更を加える可能性があります。但し、大幅な変更の予定はありません。

(予定)

- 1 回 インTRODクション～地域研究としての中国研究、授業の進め方について
- 2 回 中国研究の基礎知識と概論
- 3 回 共産党一党支配体制I【経済体制】
- 4 回 共産党一党支配体制II【政治体制】
- 5 回 中央と地方
- 6 回 情報統制
- 7 回 経済発展と経済格差
- 8 回 汚職腐敗、人権、民主
- 9 回 民族
- 10 回 一国両制
- 11 回 大国になった中国と国際関係
- 12 回 日中関係
- 13 回 日台関係
- 14 回 中台関係
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト2回 40%、 レポート30%、 日常の授業への取り組みと出席確認クイズ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。

授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと（図書館のDVDなどを活用してください）。

新聞（紙面）を読む習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストに関しては、授業で学んだ基礎知識を確認するためのもので、

レポートは生徒さんが自分自身で国際関係の問題点について考えさせるのが目的です。

授業で紹介した参考文献を自分で読んで、議論することを目指します。

キーワード /Keywords

現代中国の政治【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE211M	◎	○			
科目名	現代中国の政治			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中国の研究に必要な専門的知識を習得し、中国政治に関する情報の収集・分析方法について学ぶ。授業では、中国の近現代史を政治的観点と人物考察から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

(到達目標)

- 【知識】現代中国の政治に関する専門的な知識を身につけている。
- 【技能】現代中国政治の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。
主に授業で配布するプリント・資料を用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川島真・小嶋華津子編『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年(○)
- 久保亨『シリーズ中国近現代史④ 社会主義への挑戦 1945 - 1971』岩波新書、2011年(○)
- 下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
- 2回 なぜ中国は共産主義を選択したのか
- 3回 中国が国際政治の変遷から受けた影響
- 4回 建国当初の中国はどのような国家だったのか
- 5回 社会主義化
- 6回 文化大革命I【1960年代後半】
- 7回 文化大革命II【1970年代前半】
- 8回 近代化の模索
- 9回 改革開放I【対外開放】
- 10回 改革開放II【経済改革】
- 11回 改革開放がもたらした歪みと第二次天安門事件
- 12回 改革開放の加速と政治改革の停滞
- 13回 長期政権が抱える問題
- 14回 習近平時代の中国
- 15回 まとめ

各テーマの時間配分を調整する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2~3回) ... 90%、 日常の授業への取り組み ... 10 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業でレジュメや資料が提示された場合は指定日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと(図書館のDVDなどを活用してください)。
新聞(紙面)を読む習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

「中国研究概論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

図書館には現代中国に関する書籍がたくさん所蔵されていますので、自分の関心の赴くままに手に取ってみてください。授業への理解も深まるはずです。

キーワード /Keywords

現代中国の外交【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE212M	◎	○			
科目名	現代中国の外交			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、中国の外交政策・対外関係・台湾問題などについて専門的な知識を習得し、中国外交に関する情報の収集・分析方法を総合的に学ぶことである。国内政治、政策の変化、国際環境の変化と、中国外交の変化との関連性を示し、中国の視点から主要国との二国間関係や台湾・香港問題を検討する。中国の地域主義・グローバリズムへの参加といった今日的課題についても、中国国内の議論を紹介しながら説明する。

(到達目標)

- 【知識】現代中国の外交に関する専門的な知識を身につけている。
- 【技能】現代中国外交の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示する。主に授業中に配布する資料・レジュメを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川島真・小嶋華津子編『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年(○)。
- 青山瑠妙『現代中国の外交』慶應義塾大学出版会、2007年(○)。
- 王逸舟『中国外交の新思考』東京大学出版会、2007年(○)。
- 服部龍二『日中国交正常化一田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』中公新書、2011年(○)。
- 安田淳・門間理良編著『台湾をめぐる安全保障』慶應義塾大学出版会、2016年(○)。
- ワン・ジョン『中国の歴史認識はどう作られたのか』東洋経済新報社、2014年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
 - 2回 中国外交を見る視点(1)【歴史的な分析視点】
 - 3回 中国外交を見る視点(2)【歴史以外の分析視点】
 - 4回 多国間外交【地域主義、グローバリズム】
 - 5回 経済外交と安全保障
 - 6回 対日関係(1)【1972年体制の構築】
 - 7回 対日関係(2)【21世紀を中心に】
 - 8回 対米関係(1)【イデオロギーと国益】
 - 9回 対米関係(2)【現状をどうみるか】
 - 10回 台湾とは何か
 - 11回 中国の台湾政策
 - 12回 中台関係の現状
 - 13回 香港とは何か
 - 14回 中港関係
 - 15回 補足とまとめ
- (順番が入れ替わることがあります)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2~3回) ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
- 授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと(図書館のDVDなどを活用してください)。
- 新聞(紙面)を読む習慣をつけること。

現代中国の外交【昼】

履修上の注意 /Remarks

「中国研究概論」「現代中国の政治」を先に受講しておくこと、本講義の理解がより深いものになると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の対外認識と論理を理解して、中国の思考・行動パターンを推察する手がかりを得てください。
図書館に所蔵されている、中国の二国間関係・東アジアの国際関係・台湾問題・香港問題などに関する本を読んでみてください。授業がもっとよくわかるようになるはずです。
また、授業では中国に関連する国際ニュースを取り上げることもあります。日頃から新聞に目を通す習慣をつけてください。

キーワード /Keywords

中国の社会【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE210M	◎		○		○
科目名	中国の社会			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国の社会について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国の社会について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。そこで、中国における政治・外交・経済・宗教・文化などの分野について、歴史学研究成果をふまえて論じたい。本講義では、専門的な基礎知識を習得したうえで、中国の社会に対する理解・関心を深めることを目標とする。

(到達目標)

【知識】中国の社会に関する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】中国の社会に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

【自立的行動力】中国の社会への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 日中交流史
 - 3回 中国の歴史(1) 【「中国」のはじまり】
 - 4回 中国の歴史(2) 【秦の中国統一】
 - 5回 中国の歴史(3) 【前漢から後漢へ】
 - 6回 中国の歴史(4) 【魏晋南北朝時代】
 - 7回 中国の歴史(5) 【隋唐時代】
 - 8回 中国の歴史(6) 【宋元時代】
 - 9回 中国の歴史(7) 【明清時代】
 - 10回 中国の政治体制と国際関係
 - 11回 中国の宗教(1) 【儒教】
 - 12回 中国の宗教(2) 【道教と仏教】
 - 13回 中国の文化
 - 14回 中国の経済
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)

予習については、中国に関する書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、授業を集中して聞き、適宜ノートを取ることを。定期試験では、ノートの持ち込みを許可する。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の「現在」を理解するには、「歴史」を知ることが大切です。
中国の「今と昔」を理解することは、必ず学生諸君のプラスになります。

キーワード /Keywords

中国 社会 歴史 政治 外交 宗教 文化 経済 日中関係

日中比較文化論【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE263M	◎		○		○
科目名	日中比較文化論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

日本と中国の交流を歴史的に鳥瞰し、文化面を細分化して、その特徴を捉えてみる。視聴覚教材を随時使用し、理解を深める。

(到達目標)

【知識】日中文化の比較的理解に関する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】日中文化の比較的理解に関する諸問題について学際的に思考して 解決策を探索し、自分の考えを論理的に表現することができる。

【自立的行動力】日本と中国の文化の比較的理解への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

『東方栄養新書』（メディカルユーコン社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史年表にみる日中比較 概説
- 第2回 漢字文化の伝来 ①【漢字という文字】
- 第3回 漢字文化の伝来 ②【音声の比較】
- 第4回 仏教の伝来と日中の差異 ①【大乘仏教と小乗仏教】
- 第5回 仏教の伝来と日中の差異 ②【経文と宗派】
- 第6回 日中食文化の比較 ①【主食穀物】
- 第7回 日中食文化の比較 ②【肉食比較】
- 第8回 日中食文化の比較 ③【茶の伝来と現況】
- 第9回 書と絵画 小史①【王羲之の足跡】
- 第10回 書と絵画 小史②【国画】
- 第11回 芸能史が伝えるもの ①【仮面劇】
- 第12回 芸能史が伝えるもの ②【京劇と歌舞伎】
- 第13回 自然保護と環境問題 ①【水問題】
- 第14回 自然保護と環境問題 ②【宇宙開発】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の講義への取り組み・・・20% レポート評価・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された課題を予習し、学習した内容を復習し、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

授業前に書物等において関連事項について概要を捉えておくこと。授業後、講義中に指摘された質問について解答をノートに記しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知りたい・観たい・聴きたい

中国社会経済史I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS220M	◎		○		○
科目名	中国社会経済史 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義では古代から近世までの中国史を主として社会経済の側面から教授する。但し中国史の概説的知識を持たない受講生が大多数を占めるため、社会経済史以外の分野やトピックも適宜織り交ぜて、分かりやすく説明する。

到達目標

【知識】中国および周辺国の社会経済史に関する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】中国および周辺国の社会経済史に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

【自立的行動力】中国および周辺国の社会や経済への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

Moodleに各回の講義レジュメをupする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義
- 第2回 中国文明の誕生
- 第3回 中国の生活文化(1)...食
- 第4回 中国の生活文化(2)...衣と住
- 第5回 前近代の中国(1)...唐代まで
- 第6回 前近代の中国(2)...宋元明清
- 第7回 近代中国
- 第8回 現代中国
- 第9回 世界史における資本主義
- 第10回 商品生産発達史
- 第11回 明清市場史
- 第12回 明清商業史
- 第13回 明清財政史
- 第14回 前半のまとめ(中国の社会や経済の特徴)
- 第15回 後半のまとめ(古代から近代における中国経済の発展)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習は特に不要。但し高校世界史レベルの基礎知識を必要とするので、何らかの概説書で中国史の流れを予習しておく、講義がより分かりやすくなると思う。

履修上の注意 /Remarks

授業中、講義レジュメは配布しない。各自でダウンロードすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史II【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS221M	◎		○		○
科目名	中国社会経済史II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

明代に成立した伝奇小説である『三国志通俗演義』を通して、中国の社会と文化、経済と政治を包括的に学ぶ。三国志に描かれている人物の行動様式から、中国人がいかなる社会を構成し、いかなる経済を営んでいたかを、事例研究的に学ぶ。特に日本社会との相違点について論じる。

到達目標

- 【知識】中国および周辺国の社会経済史に関する専門的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】中国および周辺国の社会経済史に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。
- 【自立的行動力】中国および周辺国の社会や経済への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

使用しない。ビデオと講義レジュメ(Moodleにup)を中心教材とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 立間祥介『諸葛孔明』岩波新書、1990年
- 『三国演義』(VHS)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学と白話小説
- 第2回 中国の都市空間と市場
- 第3回 地方財政の不在と賄賂
- 第4回 関羽の商業神化
- 第5回 儒教倫理としての孝
- 第6回 長江中流域の特徴
- 第7回 中国人の名前
- 第8回 中国の葬儀と埋葬
- 第9回 三顧の礼
- 第10回 能力の表象としての面子
- 第11回 赤壁の戦いと関羽の報恩
- 第12回 貴族制社会と士大夫社会との違い
- 第13回 漢人政権の衰退と五胡の擡頭
- 第14回 諸葛亮の評価
- 第15回 封建社会と専制国家

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

中国社会経済史II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

三国志の話を知らない受講生は小説や漫画・映画でも構わないから事前にあらすじを予習しておくこと。事後には小テスト対策も兼ねてレジюме・口頭説明の内容を再確認すること。

履修上の注意 /Remarks

ビデオは中国語で放送するが、日本語字幕が付く。「東洋史」を履修していることが好ましい。
三国志のあらすじは小説などで事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジюме・口頭説明の内容を再確認すること。
授業中、講義レジюмеは配布しない。各自でダウンロードすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

劉備 関羽 諸葛亮 徐庶 孫権 赤壁 五丈原

中国経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN253M	◎		○		○
科目名	中国経済論 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国経済の仕組み・特徴や企業の行動を理解することを本講義の目的とします。
中国経済論Iでは、中国における高度経済成長・市場経済化の経験、2010年代に入ってから展開について理解を深めます。
より深く理解するために初歩的な（ミクロ・マクロ）経済学の知識も併せて学びます。

到達目標

「知識」
中国経済に関する専門的な知識を身につけている。
「思考・判断・表現力」
中国経済に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的に表現することができる。
「自立的行動力」
中国経済の現状への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 経済発展とは【経済開発】【新興国】
 - 3回 中国の行政の仕組みと特徴【「戸籍」】【都市】【農村】
 - 4回 中国経済の概観(1)【SNA】
 - 5回 中国経済の概観(2)【所有】
 - 6回 中国経済を見る視点と枠組(1)【供給曲線】【利潤最大化】【需要曲線】
 - 7回 中国経済を見る視点と枠組(2)【完全競争】
 - 8回 中国経済を見る視点と枠組(3)【独占】
 - 9回 中間総括：インターミッション
 - 10回 市場経済化(1)【工業化】【生産性】
 - 11回 市場経済化(2)【インセンティブ】【工業化】【民営化】
 - 12回 市場経済化(3)【国有企業】【民営企業】【規制緩和】
 - 13回 リーマンショック前後の中国経済(1)【国進民退】
 - 14回 リーマンショック前後の中国経済(2)【上場企業】
 - 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

中国経済論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

70% : 定期試験 30% : 講義・課題への取り組み

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 : 各回の講義内容に関して、開発経済学や途上国に関するトピックや事項に可能な限り触れてください。

事後学習 : 経済学のエッセンスも出来るだけ講義で触れていくので、実態経済でそれがどのように表れているか考えてください。

履修上の注意 /Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてください。

配布資料を遺漏なく入手すること。講義後には自筆メモ・ノートもあわせて内容を整理してください。

講義中には中国経済事情とあわせて出来るだけ経済学等のエッセンスも伝えていくので、講義後には、それらの習得した知識を生かしながら日本経済新聞等を読んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済(学)関連の科目や各国地域の経済社会に関する講義を受講することが望ましい。

キーワード /Keywords

中国経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN254M	◎		○		○
科目名	中国経済論II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では経済改革が多く分野について一応の終結をみた2000年以降に、中国で形成された市場経済の特徴、特質について、主として金融、為替の動向を例に挙げながら議論していきます。

またリーマンショック前後での相違点に付いても言及し、以上の議論を踏まえて中国経済が直面する課題を整理していきます。

到達目標

「知識」

中国経済に関する専門的な知識を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国経済に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的に表現することができる。

「自立的行動力」

中国経済の現状への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年

岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年

白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年

伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年

他の参考文献は授業中に提示する。

中国経済論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国の経済発展の特徴(1)【改革開放】【市場経済化】
- 3回 中国の経済発展の特徴(2)【財政政策】【金融政策】
- 4回 政策の実行とその影響(1)【地方政府】【企業】
- 5回 政策の実行とその影響(2)【経済改革】
- 6回 金融政策と金融システム(1)【間接金融】【直接金融】【中央銀行】
- 7回 金融政策と金融システム(2)【引き締め政策】【緩和政策】
- 8回 金融政策と金融システム(3)【金融政策の方法と中国での効果】
- 9回 通貨・為替制度の変遷(1)【変動相場制】【為替レート】
- 10回 通貨・為替制度の変遷(2)【輸出】【輸入】【人民元】
- 11回 通貨・為替制度の変遷(3)【国際資本移動】【金融政策】
- 12回 為替の動向と金融政策の効果 【国際金融のトリレンマ】
- 13回 中国経済が直面する課題(1)
- 14回 中国経済が直面する課題(2)
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

70% : 定期試験 30% : 講義・課題への取り組み

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 : 各回の講義内容に関して、開発経済学や途上国に関するトピックや事項に可能な限り触れてください。

事後学習 : 経済学のエッセンスも出来るだけ講義で触れていくので、実態経済でそれがどのように表れているか考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてみてください。

配布資料を遺漏なく入手すること。講義後には自筆メモ・ノートもあわせて内容を整理してみてください。

講義中には中国経済事情とあわせて出来るだけ経済学等のエッセンスも伝えていくので、講義後には、それらの習得した知識を生かしながら日本経済新聞等を読んでみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済(学)関連の科目や各国地域の経済社会に関する講義を受講することが望ましい。

キーワード /Keywords

漢文学【昼】

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT250M	◎		○		
科目名	漢文学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「漢文」とは、中国古代の「文語文」で書かれた文章である。中国ではこれが正式の文章語として、実に二千年にわたって使用されてきた。日本・朝鮮半島・ベトナムにおいても、共通の書記言語として、西洋のラテン語と同じような役割を果たしてきた。したがって「漢文」を学ぶことは、日本人にとっては、自文化形成の「追体験」をすることでもある。

この授業では、過去に中国から日本にもたらされ、日本人によって広く読まれ、血肉と化していた「古典的」な文章をまず取り上げる。日本における「訓点」の発明や、仮名と漢字の関係、などについても基礎的な理解をする。さらに、日本人によって書かれた「漢文」作品をも読んでいく。こうした作業によって、日中をはじめとする異文化交流に対する関心を高め、また相互比較などによって、自国の文化に対しても、いっそう理解を深めていくことをねらいとする。

(到達目標)

【知識】漢文学に関する知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断】漢文学について、総合的思考して解決策を探らし、自分の考えを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜、プリント・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金文京著『漢文と東アジア-訓読の文化圏-』(岩波書店、岩波新書)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【「漢文」とは何か】
- 2回 儒教(1)【孔子の生涯】【論語】
- 3回 儒教(2)【孔子の生涯】【論語】
- 4回 儒教(3)【孟子】【荀子】【儒教】
- 5回 諸子百家(1)【百家争鳴の時代】【道家】
- 6回 諸子百家(2)【百家争鳴の時代】【法家】
- 7回 諸子百家(3)【百家争鳴の時代】【墨家など】
- 8回 仏教漢文【インド思想と中国人】【格義仏教】【音訳】【翻訳仏典】
- 9回 中国漢文の中の日本・日本人【魏志倭人伝】
- 10回 漢字・漢文の伝来【訓点】【日本語と漢文】【万葉仮名】
- 11回 日本漢詩文(1)【飛鳥・奈良~室町】【十七条憲法】【日本書紀】
- 12回 日本漢詩文(2)【奈良~室町】【懐風藻】【菅原道真】
- 13回 日本漢詩文(3)【江戸時代】【菅茶山】【頼山陽】
- 14回 近代日本文学者と漢詩文【夏目漱石】【森鷗外】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題など) ... 30% 期末試験(もしくは最終レポート) ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

漢和辞典を準備して授業に臨むことが望ましい。
授業前には、あらかじめ指示もしくは配布された資料などを読んでおくこと。
授業後には、配布プリントなどを再読し、内容を各自まとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較中国思想 【昼】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE310M	◎		○		○
科目名	比較中国思想			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

中国思想史の流れを勉強したうえで、日本における儒学の発展軌跡を勉強する。中、日両国の思想を比較し、それぞれの特徴を解明する。

到達目標

「知識」

中国思想の比較的理解に関する専門的な知識を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国思想の比較的理解に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的に表現することができる。

「自立的行動力」

中国思想の比較的理解への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

授業ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中国文化叢書』、大修館書店1980年。○

『从汉学到中国学』（中華書局2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 中国思想史概論
- 第二回 中国神話と古代国家のイデオロギ
- 第三回 先秦諸子百家の思想
- 第四回 秦漢時代の思想
- 第五回 六朝の思想
- 第六回 唐代の思想
- 第七回 宋代の思想
- 第八回 日本古代の思想と儒教
- 第九回 江戸時代の思想史
- 第十回 日本の朱子学と古学派
- 第十一回 日本の陽明学
- 第十二回 日本における儒学の終焉と近代学校
- 第十三回 中國の儒教の終結
- 第十四回 新文化運動
- 第十五回 新中国の思想傾向、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に臨む態度30%、演習あるいはレポート70%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講者は、授業前に前回提示したキーワードを調べ、授業後にノート確認すること。授業中に出された課題に取り組むこと。

比較中国思想 【昼】

専門教育科目
選択科目
専門科目

履修上の注意 /Remarks

本授業は、外国語学部中国学科と文学部比較文化学科の共通授業。
授業は日本語で行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語が、普通の学生にとってはこれからの人生の武器に過ぎざるも、外国語学部の学生にとってはすべてである。

キーワード /Keywords

儒学、儒教、仁義礼智信、忠孝

時事中国語講読Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE311M	◎		○		○
科目名	時事中国語講読Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献の講読を通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。
中国経済・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指す。その中で出来るだけ現地で出版された個別時事問題に関する文献を扱うことも目指す。
中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解を深める。
出来る限り多方面の時事問題を取り扱い、生活や社会など身近な話題から、政治・経済などの話題まで取り上げ、現在の中国の諸相に触れる。

到達目標

「知識」
中国の時事問題に関する専門的な知識を身につけている。
「思考・判断・表現力」
中国の時事問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。
「自立的行動力」
中国の時事問題への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】 【輪読】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【輪読】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【輪読】 【ディスカッション】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】 【輪読】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【輪読】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【輪読】 【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】 【輪読】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【輪読】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【輪読】 【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】 【輪読】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【輪読】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【輪読】 【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

時事中国語講読I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 課題・輪読・発表等授業への取り組み 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献には必ず目を通しておくこと

事後学習：講義での輪読、説明、議論を踏まえて、中国社会や日本社会等への客観的認識を深めるよう思考し、次の回につなげるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事中国語講読II【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE312M	◎		○		○
科目名	時事中国語講読II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献の講読を通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。
中国経済・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指す。その中で出来るだけ現地で出版された個別時事問題に関する文献を扱うことも目指す。
中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解を深める。
出来る限り多方面の時事問題を取り扱い、生活や社会など身近な話題から、政治・経済などの話題まで取り上げ、現在の中国の諸相に触れる。

到達目標

「知識」
中国の時事問題に関する専門的な知識を身につけている。
「思考・判断・表現力」
中国の時事問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。
「自立的行動力」
中国の時事問題への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
この他は講義中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】【輪読】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【輪読】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【輪読】【ディスカッション】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】【輪読】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【輪読】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【輪読】【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】【輪読】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【輪読】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【輪読】【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】【輪読】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【輪読】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【輪読】【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

時事中国語講読II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 課題・輪読・発表等授業への取り組み 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献には必ず目を通しておくこと

事後学習：講義での輪読、説明、議論を踏まえて、中国社会や日本社会等への客観的認識を深めるよう思考し、次の回につなげるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語現代文献講読I【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE313M	◎		○		○
科目名	中国語現代文献講読 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代中国語の文献講読を通じて、以下の技能・知識を習得する。

- ① 現代中国語文献を日本語に翻訳する技能を習得する。
- ② 文献に記された内容を十分に理解し、専門的知識を深める。
- ③ 文献に記された主題を通じて、中国語使用圏への関心と理解を深める。
- ④ 台湾と香港で使用され、字体と画数が簡略化されていない伝統的な繁体字（繁体字）に習熟する。

到達目表

< 知識 >

中国語の文献を通じて現代中国に関する専門的な知識を身につけている。

< 思考・判断・表現力 >

現代中国に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

< 自立的行動力 >

現代中国への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

洪長泰『地標...北京の空間政治』（OXFORD University Press 2011年、中文繁体字横書き）
「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」
※こちらでテキストは用意し配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 倉沢進他『北京 皇都の歴史と空間』（中公新書 2007年）

中国語現代文献講読【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「序論」輪読-内戦の帰趨と共産黨の北平入城
- 第3回 「序論」輪読-空間政治理論と記念碑的建築群
- 第4回 「序論」輪読-共産黨の政治と首都北京の決定
- 第5回 「序論」輪読-空間政治理論と一黨専制、本書の内容
- 第6回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-1949年建國大典と天安門廣場
- 第7回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-新行政區中心の配置を巡って
- 第8回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-中國人都市設計家の構想
- 第9回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-北京改造を巡る中ソ論争
- 第10回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門廣場の創出と設計プラン
- 第11回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門前からの住民強制退去
- 第12回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門廣場の主要建物をめぐって
- 第13回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門廣場の面積をめぐって
- 第14回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-長安街の廣さをめぐって
- 第15回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門廣場の誕生と中國の民族主義

- ①初めに文献を正確な発音で朗読し、次いで日本語に逐語訳する。
- ②語彙や文法についても適宜解説する。
- ③あらかじめ輪読の担当者2～3人と担当部分を決め、文献を読み進める。
- ④学生の読解力に応じて進度を調整し、輪読する文献が増減することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験は実施しない。
平常評価100% (【毎回の授業前の翻訳文の事前提出50%、授業時の音読と翻訳50%】)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業において、予習として辞書を引き、音読し、【日本語訳文を授業前に提出することを課す】。
復習としてテキストを再読し文法事項と未学習の単語を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの中国語学習では繁體字に触れる機会は少ないと思います。本授業を通じて繁體字に慣れましょう。

キーワード /Keywords

中国語現代文献講読II 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE314M	◎		○		○
科目名	中国語現代文献講読II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代中国語の文献講読を通じて、以下の技能・知識を習得する。

- ①現代中国語文献を日本語に翻訳する技能を習得する。
- ②文献に記された内容を十分に理解し、専門的知識を深める。
- ③文献に記された主題を通じて、中国語使用圏への関心と理解を深める。
- ④台湾と香港で使用され、字体と画数が簡略化されていない伝統的な字体「繁體字」（繁体字）に習熟する。

到達目表

< 知識 >

中国語の文献を通じて現代中国に関する専門的な知識を身につけている。

< 思考・判断・表現力 >

現代中国に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

< 自立的行動力 >

現代中国への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

張戎『鴻 三代中国女人的故事』（唐莊文化 2006年、中文繁體字縦書き）
1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾」

※こちらでテキストは用意し配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○田中仁等『新図説中国近現代史』（法律文化社、2012年）

中国語現代文献講読II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
第2回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第3回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第4回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第5回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第6回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第7回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第8回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第9回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第10回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第11回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第12回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第13回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第14回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
第15回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾 (1909 ~ 1933年)」 輪読
- ①初めに文献を正確な発音で朗読し、次いで日本語に逐語訳する。
②語彙や文法についても適宜解説する。
③あらかじめ輪読の担当者2~3人と担当部分を決め、文献を読み進める。
④学生の読解力に応じて進度を調整し、輪読する文献が増減することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 期末試験は実施しない。
平常評価100% (【毎回の授業前の翻訳文の事前提出50%、授業時の音読と翻訳50%】)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 毎回の授業において、予習として辞書を引き、音読し、【日本語訳文を授業前に提出することを課す】。
復習としてテキストを再読し文法事項と未学習の単語を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの中国語学習では繁體字に触れる機会は少ないと思います。本授業を通じて繁體字に慣れましょう。

キーワード /Keywords

中国歴史社会研究I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS320M	◎		○		○
科目名	中国歴史社会研究 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、東アジアにおける中国文化の普遍性について考察する。

到達目標

- 【知識】中国および周辺地域の社会と歴史に関する専門的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】中国および周辺地域の社会と歴史に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的に表現することができる。
- 【自立的行動力】中国および周辺地域の社会と歴史への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回ドラマ1話を見せて解説する。
講義レジュメはMoodleにupする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『宮廷女官チャングムの誓い』(DVD)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 孝観念と刑罰
- 第2回 「子ども」観と漢字教育
- 第3回 酒と衣料の歴史
- 第4回 軟水と硬水
- 第5回 面子の社会的機能
- 第6回 稲作文化と燃料
- 第7回 公共道徳に優先する孝
- 第8回 中国・朝鮮の人間関係
- 第9回 冊封体制
- 第10回 陶磁器文化
- 第11回 東アジアの食文化
- 第12回 儒教社会と親孝行
- 第13回 衣裳と服制
- 第14回 朝鮮における中国年号の使用
- 第15回 儒教経典概説

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。事後には小テスト対策も兼ねてレジюме・口頭説明の内容を再確認すること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、講義レジюмеは配布しない。各自でダウンロードすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国歴史社会研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS321M	◎		○		○
科目名	中国歴史社会研究II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ『イ・サン』を通して中国・朝鮮のような官僚専制社会と日本のような共同体社会との相違点について論じる。また、朝鮮と中国・日本との関係に触れられた部分などを素材として、近世東アジア社会の外交(宗藩関係)と貿易(朝貢貿易)について論ずる。

到達目標

- 【知識】中国および周辺地域の社会と歴史に関する専門的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】中国および周辺地域の社会と歴史に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的に表現することができる。
- 【自立的行動力】中国および周辺地域の社会と歴史への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

使用しない。第13回まではDVDを見せ解説する。第14/15回は論文を読む。
講義レジュメおよび論文はMoodleにupする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『大清帝国と朝鮮経済』九州大学出版会、2014年
山本進『朝鮮後期財政史研究』九州大学出版会、2017年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 東アジアの宮殿
- 第2回 東アジアの都市景観
- 第3回 清国使節団
- 第4回 中朝貿易
- 第5回 東アジアの貨幣
- 第6回 漢方薬と人蔘
- 第7回 乱塵(1)...官許商人v.s.自由商人
- 第8回 乱塵(2)...辛亥通共・裸負商
- 第9回 火縄銃の性能と限界
- 第10回 燕行使
- 第11回 中朝陸上交通
- 第12回 洗草の意義
- 第13回 朝鮮の対清関係
- 第14回 朝鮮時代の火器(1)...朝鮮前期～壬辰倭乱
- 第15回 朝鮮時代の火器(2)...朝鮮後期

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には概説書などにより近世東アジアの歴史を学んでおくこと。事後には定期的に小テストを行うので、復習も行うこと。

履修上の注意 /Remarks

「日本史」や「東洋史」を履修していることが望ましい。
概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。事後には小テスト対策も兼ねてレジюме・口頭説明の内容を再確認すること。
授業中、講義レジюмеは配布しない。各自でダウンロードすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN330M	○	◎		○	
科目名	ビジネス中国語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読み力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

到達目標

- 「知識」 中国ビジネスに関する専門的な用語・文章を理解することができる。
- 「技能」 中国ビジネスに必要な中国語を運用できる能力を身につけることができる。
- 「コミュニケーション力」 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するためのコミュニケーション力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する。

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期(A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使用される基本文章を学習する。BCT試験内容「ヒアリング・閲読・作文」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。BCTテストに挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ビジネス用語単語テスト・基本作文に関する説明
- 3回 ビジネス用語単語テスト・経済図表分析文作成に関する説明
- 4回 ビジネス用語単語テスト・作文練習1
- 5回 ビジネス用語単語テスト・作文練習2
- 6回 ビジネス用語単語テスト・伝言メモ作成に関する説明
- 7回 ビジネス用語単語テスト・作文練習3
- 8回 ビジネス用語単語テスト・作文練習4
- 9回 ビジネス用語単語テスト・企画書作成に関する説明
- 10回 ビジネス用語単語テスト・作文練習5
- 11回 ビジネス用語単語テスト・作文練習6
- 12回 ビジネス用語単語テスト・お詫び文作成に関する説明
- 13回 ビジネス用語単語テスト・作文練習7
- 14回 ビジネス用語単語テスト・作文練習8
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト30%、作文30%、定期試験25%。

ビジネス中国語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

履修上の注意 /Remarks

毎回必ず授業の内容を予習と復習すること。

欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネスに関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス専門用語 B C T 受験 （ B C T 初級、中・ 上級を含む ）

ビジネス中国語II【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN331M	○	◎		○	
科目名	ビジネス中国語II		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス実務に使われる基本会話力、聞く能力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

到達目標

- 「知識」 中国ビジネスに関する専門的な用語・文章を理解することができる。
- 「技能」 中国ビジネスに必要な中国語を運用できる能力を身につけることができる。
- 「コミュニケーション力」 中国語を用いて他者と協働して効果的に活動するためのコミュニケーション力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する
その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期（B）
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。
「ヒアリング・閲読・会話」について繰り返して学習する。（BCT問題集を学習する。）
ビジネス会話に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ビジネス用語単語テスト・閲読練習1
- 3回 ビジネス用語単語テスト・閲読練習2
- 4回 ビジネス用語単語テスト・閲読練習3
- 5回 ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習1
- 6回 ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習2
- 7回 ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習3
- 8回 思考力、考える力に関する練習
- 9回 発想力練習
- 10回 実践ビジネス会話翻訳1
- 11回 実践ビジネス会話練習1
- 12回 実践ビジネス会話翻訳2
- 13回 実践ビジネス会話練習2
- 14回 実践ビジネス会話翻訳3
- 15回 実践ビジネス会話練習3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・小テスト30%、翻訳発表40%、定期試験30%。

ビジネス中国語II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

単語テストの予習、会話発表の準備。

履修上の注意 /Remarks

毎回必ず授業の内容を予習と復習すること。

欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚え、ビジネス情報に関心を持ってほしい。
必ず出席すること。

キーワード /Keywords

ビジネス専門用語 会話力 ビジネス文章 B C T 受験 (B C T 初級、中・ 上級を含む)

東アジア経済論【昼】

担当者名 /Instructor 柳 学洙 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN352M	◎	○			
科目名	東アジア経済論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

東アジアが世界経済の成長エンジンと言われるようになって久しい。21世紀は東アジアの時代だとも言われる。だが、「東アジア」という言葉が指す地域は広大であり、それぞれの国・地域がたどった歴史と経済成長の経路も多様である。そのような東アジアの発展経路の多様性を知り、それぞれの特徴を比較して考える視点を持つことは、日本に生きる我々にとって必要な知的訓練である。

この授業では、アジア経済の将来を展望するために必要な基本的知識を得ることを目標として、第二次世界大戦後のアジア各国の経済発展の歩みと現在の課題を概観する。

また、日本と東アジアを比較して考えるためのトレーニングとして、隣国である韓国・中国と日本が共通して抱える社会・経済的課題を取り上げて解説する。

最後に、東アジアの経済統合がいかなる秩序とコンセンサスの下で可能なのかを探るために、現在進んでいる様々な経済統合の試みを分析する。

(到達目標)

【知識】相互交流が深まる東アジア経済の現状について幅広い知識を身につけている。

【技能】東アジア経済の分析に必要な情報を収集、活用することができる。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。各回の講義で配布するプリントに沿って授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 三重野文春 / 深川由紀子編 (2017) 『現代東アジア経済論』ミネルヴァ書房
- 遠藤環ほか編 (2018) 『現代アジア経済論 - 「アジアの世紀」を学ぶ』有斐閣
- 坂田幹男 (2013) 『ベーシックアジア経済論』見洋書房
- ジェトロ・アジア経済研究所『アジア動向年報』各年版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、第二次世界大戦後の東アジア経済 - 社会主義と開発主義
- 第2回 「東アジアの奇跡」と開発主義国家
- 第3回 1997年のアジア通貨危機と従来の発展モデルの挫折
- 第4回 アジアNIEsの経済発展① 韓国
- 第5回 アジアNIEsの経済発展② 台湾
- 第6回 アジアNIEsの経済発展③ シンガポール
- 第7回 東南アジアの経済開発
- 第8回 中国の経済発展 - 社会主義市場経済の挑戦
- 第9回 北朝鮮の経済改革 - 自力更生と市場経済
- 第10回 日韓経済の比較 若年層の雇用と格差拡大
- 第11回 日中韓経済の比較 少子化問題と社会保障
- 第12回 2000年代の東アジア経済① 経済交流の深化と中国の台頭
- 第13回 2000年代の東アジア経済② 地域内の労働力移動と人の定着
- 第14回 2000年代の東アジア経済③ 広域自由貿易圏構想と中国主導の経済秩序
- 第15回 まとめ - アジアの経済統合の展望と日本の役割

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習姿勢およびリアクションペーパー：30%，期末レポート：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、JETROのHPにある「国・地域別に見る」(<https://www.jetro.go.jp/world/asia/>)のコーナーで、授業で取り上げる国の基本データを確認しておくことを勧める。事後学習としては、授業内容をよく復習し、講義や配布プリントで分からなかった点を自分なりに調べ、それでも解決できなければ次回の授業で質問してほしい。

履修上の注意 /Remarks

とくにありませんが、授業を受ける前に、自分が関心のある東アジア各国の本や映画、芸能文化などに触れてみて、これから学ぶ地域のイメージをふくらませておけば、授業がより楽しくなると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「東アジア」という地域は、何となく知っているようでありながら、学んでみると知らないことや意外な側面がドンドン出てきます。この授業を通じて、皆さんがすぐ隣にある東アジアの人々と国のことを知り、親しみを感じられるようになったらいいと思います。

キーワード /Keywords

東アジアの開発主義，移行経済論，東アジアの少子化問題，労働力移動，国際分業，地域統合

東南アジア研究概論 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE113M	◎	○			
科目名	東南アジア研究概論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、東南アジアという地域の特徴をとらえるとともに、自らを東南アジアという地域に位置づけている11カ国のうち主な国を取り上げて、各国の特徴をとらえることを目的とする。東南アジアに関する時事問題の読み解きや、東南アジアに関する専門書を読みこなすうえで必要となる基本的な地理や歴史、各国の現代政治史と今日的な課題などを中心に説明していく。

(到達目標)

- 【知識】 東南アジアに関する基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】 東南アジアに関する基本的な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 弘末雅士『東南アジアの港市世界』岩波書店、2004年。
 - 清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門 第2版』ミネルヴァ書房、2018年。
- このほかにも講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「東南アジア」という地域概念の展開&地理の把握
- 3回 多様な東南アジア世界：自然環境、言語、宗教
- 4回 東南アジアの近現代史
- 5回 島嶼部諸国のプロフィール(1) インドネシア
- 6回 島嶼部諸国のプロフィール(2) マレーシア
- 7回 島嶼部諸国のプロフィール(3) シンガポール
- 8回 島嶼部諸国のプロフィール(4) フィリピン
- 9回 東南アジアと日本(1) 第2次世界大戦前まで
- 10回 大陸部諸国のプロフィール(1) ベトナム
- 11回 大陸部諸国のプロフィール(2) カンボジア
- 12回 大陸部諸国のプロフィール(3) タイ
- 13回 大陸部諸国のプロフィール(4) ミャンマー
- 14回 東南アジアと日本(2) 第2次世界大戦以降
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 40% 期末試験 ... 60%

小テスト実施日に欠席する/した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試にはなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。授業終了後は授業の内容を復習するよう心がけてください。

東南アジア研究概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
関連科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論 I 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE130M	◎	○			
科目名	英米文化概論 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、旧植民地を含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

(到達目標)

【知識】英米文化(主にイギリス)に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に理解している。

【技能】英米文化(主にイギリス)を知るために必要な情報を収集、分析できる。

教科書 /Textbooks

指定しない。各回でレジュメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション【イギリス文化】
 - 第2回 英米文化への接近方法【異文化理解】【コミュニケーション】
 - 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
 - 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
 - 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
 - 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
 - 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【帝国】【スコットランド】
 - 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
 - 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
 - 第10回 アイルランドはイギリスが作った(1)【アイルランド】【カソリック】
 - 第11回 アイルランドはイギリスが作った(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
 - 第12回 ホワイトハウスが白いのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
 - 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
 - 第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【民主主義】
 - 第15回 まとめ【イギリス文化】
- オンライン授業の場合、期末試験は実施しない。

成績評価の方法 /Assessment Method

対面授業の場合 = 期末試験(小テスト含む)...100%

オンライン授業の場合 = 各回の課題(小テスト含む)...100%(期末試験は実施しない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE226M	◎	○			
科目名	英米文化概論Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の社会を織りなす精神文化、精神的遺産について植民地から21世紀までの歴史的發展を通じて概説する。

[到達目標]

- 【知識】 英米文化(主にアメリカ合衆国)に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に理解している。
- 【技能】 英米文化(主にアメリカ合衆国)を知るために必要な情報を収集、分析できる。

教科書 /Textbooks

前半はテキストとして斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』(東京大学出版会 2012年)を使用する。同書のほか、後半で基礎文献を追加する場合があるので注意すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【アメリカ合衆国の輪郭】
 - 第2回 英領アメリカ植民地の文化【ピューリタニズム】【自由主義】【多様性】
 - 第3回 独立革命と共和主義【大覚醒】【共和主義】
 - 第4回 19世紀アメリカの形成【合衆国憲法】【フェデラリスト】【ジェファソン民主主義】
 - 第5回 市場革命【西部】【市場革命】【超絶主義】
 - 第6回 奴隷制の拡大と南北戦争【奴隷制】【南北戦争】
 - 第7回 再建の時代から20世紀アメリカ秩序へ【再建】【憲法修正】【金ぴか時代】【移民】【ポピュリズム】【革新主義】
 - 第8回 米国関係者との文化交流
 - 第9回 第一次世界大戦【100%アメリカニズム】
 - 第10回 大衆消費社会と禁酒法【移民制限】【1920年代】
 - 第11回 大恐慌の発生【世界恐慌】【ニューディール】
 - 第12回 第二次世界大戦【冷戦】【日系人】
 - 第13回 公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【人種問題】
 - 第14回 多文化主義の興隆【ヒスパニック】【同性結婚】
 - 第15回 これからのアメリカ社会【9.11】【21世紀】
- * 上記の予定は、外部講師の都合で変動する場合がありますので、注意すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習の指示をするので、それにしたがって事前学習を行い、授業後はレポート、試験に備えて授業で示された文献を読んで、内容を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカの文化と歴史について包括的な知識を提供します。

キーワード /Keywords

アメリカ 文化 歴史

東アジア地域秩序論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 大和 裕美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE315M	◎	○			
科目名	東アジア地域秩序論Ⅰ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

第二次世界大戦後において、東アジア秩序形成はどのように展開されたのか。それは現在の東アジアが抱える諸問題といかに関連するのか。本授業では諸問題のひとつとして、日韓の歴史認識問題を取り上げる。この問題はなぜいまなおすぶり続けるのか。この問いについてはいろいろな角度から説明されているが、本授業ではアメリカの対アジア政策との関連から考える。後期（東アジア地域秩序論Ⅱ）で、その外性要因が日本と韓国それぞれの国内でどのように作用し、日韓歴史認識にどう関連していくのかを考えるため、前期（東アジア地域秩序論Ⅰ）では、まず外性要因としての日本および韓国にたいするアメリカの政策・関与がいかに展開されたかを中心に見ていく。

（到達目標）

【知識】東アジア共同体論の歴史と展開の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。

【技能】東アジア共同体論について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料等を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

菅英輝『冷戦期アメリカのアジア政策』晃洋書房、2019年。その他、授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 国際関係と秩序論
- 3回 東アジアの歴史認識問題【地域秩序の観点から】
- 4回 アメリカの戦後アジア戦略
- 5回 アメリカの対日占領政策
- 6回 北朝鮮と韓国の建国【東アジアの冷戦】
- 7回 アメリカの対日占領政策の転換
- 8回 李承晩政権と朝鮮戦争
- 9回 調整・中間まとめ
- 10回 岸信介政権と安保闘争
- 11回 朴正熙政権と日韓国交正常化
- 12回 佐藤栄作政権と沖縄返還
- 13回 ベトナム戦争と反戦運動の展開
- 14回 朴正熙政権とベトナム戦争
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。とくに高校までに世界史の現代史で学習した内容を振り返っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「東アジア地域秩序論Ⅱ」を後期に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

東アジア地域秩序論Ⅰ【昼】

専門教育科目
選択科目
関連科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア地域秩序論 II 【昼】

担当者名 /Instructor 大和 裕美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE316M	◎	○			
科目名	東アジア地域秩序論 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

第二次世界大戦後において、東アジア秩序形成はどのように展開されたのか。それは現在の東アジアが抱える諸問題といかに関連するのか。本授業では諸問題のひとつとして、日韓の歴史認識問題を取り上げる。この問題はなぜいまなおくすぶり続けるのか。この問いについてはいろいろな角度から説明されているが、本授業ではアメリカの対アジア政策との関連から考える。前期（東アジア地域秩序論I）では、まず外性要因としての日本および韓国にたいするアメリカの政策・関与がいかに展開されたかを中心にみていったが、後期（東アジア地域秩序論II）では、その外性要因が日本と韓国それぞれの国内でどのように作用し、日韓歴史認識にどう関連していくのかを考える。

（到達目標）

- 【知識】 東アジア三国(日本、韓国・朝鮮、中国)のナショナリズムの進展の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
- 【技能】 東アジア三国のナショナリズムの歴史と現状について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

菅英輝『冷戦期アメリカのアジア政策』見洋書房、2019年。その他、授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 東アジアにおける歴史認識問題概説
- 3回 日本における歴史認識(1) 【戦争責任論】
- 4回 日本における歴史認識(2) 【植民地支配をめぐる議論】
- 5回 韓国における歴史認識(1) 【博物館にみる歴史観】
- 6回 韓国における歴史認識(2) 【朴正熙をめぐる評価】
- 7回 日韓における歴史認識問題
- 8回 調整・中間まとめ
- 9回 東アジアの歴史認識問題(1) 【戦後補償運動】
- 10回 東アジアの歴史認識問題(2) 【追悼碑建立運動・事例その1】
- 11回 東アジアの歴史認識問題(3) 【追悼碑建立運動・事例その2】
- 12回 東アジアの歴史認識問題(4) 【ヘイトスピーチ】
- 13回 核をめぐる実践(1) 【非核都市宣言】
- 14回 核をめぐる実践(2) 【非核都市宣言運動と行政の取り組み】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。とくに前期（東アジア地域秩序論I）で学習した内容を振り返っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「東アジア地域秩序論I」を前期に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

東アジア地域秩序論 II 【昼】

専門教育科目
選択科目
関連科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN224M	◎	○	○		
科目名	国際経済論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

<本講義の概要>

- 1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
- 2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
- 3、地域貿易協定締結の経済的影響について理解する。

<本講義の主な到達目標>

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル（3）【貿易の利益】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（3）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 貿易政策の分析（1）【輸入関税】
- 10回 貿易政策の分析（2）【輸入数量制限】
- 11回 貿易政策の分析（3）【輸出補助金】【輸出自主規制】
- 12回 貿易政策の分析（4）【有効保護】
- 13回 地域貿易協定（1）【自由貿易協定】【関税同盟】
- 14回 地域貿易協定（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論特講」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、自由貿易協定

国際経済論特講【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN225M	◎	○	○		
科目名	国際経済論特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

<本講義の概要>

- 1、不完全競争市場の下で、貿易政策の経済効果を学ぶ。
- 2、国際労働移動、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
- 3、貿易政策と環境政策のお互いに与える影響を理解する。

<本講義の主な到達目標>

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 不完全競争と国際貿易（1）【国内独占】
- 3回 不完全競争と国際貿易（2）【貿易の利益】
- 4回 不完全競争と国際貿易（3）【ダンピング】【価格差別化】
- 5回 不完全競争と国際貿易（4）【産業内貿易】【独占的競争市場】
- 6回 不完全競争と貿易政策（1）【輸入関税】
- 7回 不完全競争と貿易政策（2）【輸入数量割当】
- 8回 不完全競争と貿易政策（3）【外国独占】【国際複占】
- 9回 不完全競争と貿易政策（4）【戦略的貿易政策】
- 10回 生産要素の国際移動（1）【海外直接投資】
- 11回 生産要素の国際移動（2）【国際労働移動】
- 12回 貿易と環境（1）【貿易政策から環境への影響】
- 13回 貿易と環境（2）【排出権取引】
- 14回 貿易と環境（3）【環境政策から貿易への影響】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、国際経済論をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済論の履修済みが望ましい。

キーワード /Keywords

不完全競争、貿易政策、国際労働移動、海外直接投資、貿易と環境

アメリカ経済 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN332M	◎		○		○
科目名	アメリカ経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

新型コロナウイルス感染症に大きく揺さぶられた昨年の世界経済でしたが、今後何年間かは平常への回復の道になるでしょう。ヨーロッパに比べれば、まだましな面があるとは言え、アメリカ経済に残された傷も大きいものがあります。バイデン新大統領の内政・外交面での手腕が、今年のアメリカ経済に決定的な影響を持つことになるでしょう。

貿易、投資、金融の面で日本との深い結びつきを持つアメリカ経済の動向は、たいへん密接に私たちの仕事や生活に影響を与えます。この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済との比較も交えてわかりやすく説明します。

学部を超えて、現代日本を生きていくうえで必須の知識がここにはあります。前提となる経済学の知識もわかりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

【到達目標】

1. アメリカ経済に関する専門的な知識を総合的に身につけている。
2. アメリカ経済について総合的に思考し、専門の見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。
3. アメリカ経済への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田端克至『みんなが知りたいアメリカ経済』創成社、2020年6月。

山崎養世『21世紀型大恐慌－「アメリカ型経済システム」が変わるとき』PHP研究所、2020年11月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題から2問が出題されます。

試験の出題範囲は時期が来たらポータルサイトを通じて連絡します。

アメリカ経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、テキストの当該章を読んでください(30分)。
事後学習では、その日の講義内容を記憶し、コラムの計算問題を解いて答え合わせをしておいてください(30分)。

履修上の注意 /Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授(経済学部・大学院経済学研究科)なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール(yamazaki@kitakyu-u.ac.jp)に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 Fed 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨

東南アジアの社会と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE215M	◎	○			
科目名	東南アジアの社会と歴史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、東南アジアについて社会と歴史の側面から理解を深めることである。授業の前半では歴史について取り上げ、後半では社会について取り上げる。歴史・社会いずれの側面においても、多民族社会である東南アジアをとらえ、東南アジアの事例を通じて多文化共生について考える視点を養うことに力点を置く。

(到達目標)

【知識】東南アジアの社会と歴史に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】東南アジアの社会と歴史の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける「くに」の形成とインド文明の受容(1~11世紀)
- 3回 王国の発展と新たな外来文明(イスラム教・仏教)の受容(11~15世紀)
- 4回 交易の時代(15~18世紀)
- 5回 東南アジアの植民地化(19~20世紀)
- 6回 植民地期の社会変容(19~20世紀)
- 7回 日本軍政と脱植民地化(20世紀後半~21世紀)
- 8回 開発の時代と権威主義体制(20世紀後半~)
- 9回 開発と社会是正：信仰への回帰(1970年代~)
- 10回 信仰と暴力とが結びつけられる時(1)事例紹介・分析
- 11回 信仰と暴力とが結びつけられる時(2)分析・解説
- 12回 多民族社会の現在
- 13回 多民族社会における共存の模索(1)導入・事例紹介
- 14回 多民族社会における共存の模索(2)事例紹介・分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回)...30% 課題(2回)...10% 期末テスト...60%

小テスト実施日に欠席する/した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを2回実施するほか、授業中に課題を2回提出してもらう予定です。小テストおよび課題の成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。授業後は復習をしてください。

東南アジアの社会と歴史【昼】

専門教育科目
選択科目
関連科目

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえでこの授業を受講すると、この授業の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジアの政治と外交【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE216M	◎	○			
科目名	東南アジアの政治と外交		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN（東南アジア諸国連合）を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与える地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

(到達目標)

【知識】 東南アジアの政治と外交に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】 東南アジアの政治と外交の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山影進『ASEAN—シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEAN/パワー—アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- 山影進『転換期のASEAN—新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
- 山影進『新しいASEAN—地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジアにおける地域協力という発想の登場
- 4回 東南アジア連合(ASA)の成立と地域紛争
- 5回 地域紛争と第2の地域協力機構：マフィリンド(Maphilindo)
- 6回 東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
- 7回 ASEANの始動と変容
- 8回 インドシナ紛争とASEAN諸国(1)「難民」への対応
- 9回 インドシナ紛争とASEAN諸国(2)カンボジア内戦への関与
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(1)ASEANの拡大と経済協力の進展
- 11回 ポスト冷戦期のASEAN(2)経済協力への取り組み：AFTA
- 12回 アジア太平洋協力の核としてのASEAN
- 13回 ASEAN憲章とASEAN共同体
- 14回 政治的な変化と内政不干渉の再検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)...45% 期末テスト...55%

小テスト実施日に欠席する/した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

東南アジアの政治と外交 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割以上を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえでこの授業を受講すると、この授業の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特定課題演習 A 【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM184M			○	○	◎
科目名	特定課題演習 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

英語による模擬国連 (Model United Nations) を通じて、国際連合や国際会議の仕組みや方法の理解を進める。また国際的な議論の場で意思決定過程を体験することにより、持続可能な開発目標 (SDGs) をはじめ、国際問題 (今回は特に気候変動) に対する理解の深化、および英語運用力とコミュニケーション力 (パブリック・スピーキング、二者間交渉、多数者間交渉) の向上を目指す。受講者には、日本大学英語模擬国連 (JUEMUN) に参加し、教室の枠を越えて他大学の学生と英語で議論する機会を持つことが推奨される。

DP (Diploma Policy) に基づく到達目標

- 《知識》国際問題に関する幅広い知識を身につけている。
- 《思考・判断・表現力》国際問題に対して学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、適切な方法で発信できる。
- 《自立的行動力》国際問題への関心と基礎的知識を持ち続け、主体的に行動し、問題解決に貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○図書館本館 2F 英語模擬国連 (齊藤) のコーナーを参照

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス (授業計画、模擬国連の概要、JUEMUNについて)
- 第2回：国連の歴史と仕組み、国連憲章、持続可能な開発目標 (SDGs)
- 第3回：模擬する会議に関するリサーチ --- 国際連合開発計画 (UNDP)
- 第4回：担当国に関するリサーチ < 外部講師参加予定 >
- 第5回：模擬国連議題に関するリサーチ --- Climate Change (特に、SDG9、SDG12、SDG13)
- 第6回：ポジション・ペーパー (担当国方針説明書) 案の作成 < 外部講師参加予定 >
- 第7回：ポジション・ペーパー案の加筆・修正
- 第8回：ポジション・ペーパーの完成
- 第9回：ワーキング・ペーパー (1) --- 準備
- 第10回：ワーキング・ペーパー (2) --- プレゼンテーション
- 第11回：模擬国連議事進行手順の確認、公式スピーチ原稿作成
- 第12回：会議シミュレーション (1) --- 公式スピーチ
- 第13回：会議シミュレーション (2) --- 二者間交渉、多数者間交渉
- 第14回：会議シミュレーション (3) --- 決議案と修正案の作成 < 外部講師参加予定 >
- 第15回：会議シミュレーション (4) --- 採決、振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (意見交換への参加度、小テスト、発表、課題提出など) ... 70%
授業内 (およびJUEMUN) における模擬国連活動 (会議シミュレーション) への貢献度 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

- JUEMUNに参加する際には大会ルールを守ることを約束する誓約書の提出が求められる。JUEMUNの詳細は第1回目の授業で説明する。
- 活動にはオンライン会議が含まれる。その際には、Zoomをはじめ複数のオンラインプラットフォームを並行して使用する予定である。

特定課題演習 A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語による議論に積極的に参加していただきたい。

キーワード /Keywords

持続可能な開発目標 (SDGs)、国際連合、気候変動、国際交渉力、グローバル人材、多様性 (diversity)

特定課題演習 B (ダイバーシティ) 【昼】

担当者名 /Instructor: フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科, 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year: 1年次 / 単位 /Credits: 2単位 / 学期 /Semester: 2学期 / 授業形態 /Class Format: 講義・実習 / クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM185M			○	○	◎
科目名	特定課題演習 B		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

【到達目標】
 知識：多様性やジェンダーに関する基礎的な知識を身につけている。
 思考・判断・表現力：多様性やジェンダーに関する課題について総合的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を適切な方法で発信することができる。
 自立的行動力：専門的な知識を活かして、多彩な社会貢献ができる姿勢を身につけている。

The main purpose of this course is to guide students through the fields of diversity, gender, and Second Language Acquisition. Students will have the opportunity to study about a wide range of subjects related to diversity and gender through English and Japanese. Students will be given a thorough grounding in the areas of equality and diversity, inclusion and basic human rights. Instructors will guide and encourage students to develop life skills necessary for work in an ever-increasing diverse world. Classes will be creative and instructive, including workshop style classes, seminar style classes. Guest speakers will also be invited to impart their knowledge and experience about the world.

All students are welcome. Those who are taking teacher training course will be given additional guidance how to teach the course in the future.

本授業は、ダイバーシティ論とジェンダー研究、第二言語習得研究の知見に基づき、多様性やジェンダーについての基礎的な知識を涵養することを目的とします。具体的には、LGBTQ+コミュニティ、平等、多様性と包摂や基本的な人権について、英語と日本語で学習します。授業はワークショップを取り入れながら、インタラクティブに行います。また、i-Designコミュニティカレッジの受講生にも参加を促し、学内における多様な学習者との学びを実践する機会とします。さらに、ゲストスピーカーから世界についての知識と経験を聞く機会も設けます。

外国語学部全ての学生向けです。
 教職を目指す学生には、将来、教員として同様の授業を実施するための助言も行います。

教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructors.
 授業で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be introduced by the instructors.
 授業中に紹介します。

特定課題演習B (ダイバーシティ) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

The content will be adjusted according to students' understanding and interests.
授業計画は以下の通りですが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整します。

- Week 1: Why How? Gender, Diversity and Second Language Acquisition (オリエンテーション: ジェンダー研究、ダイバーシティ論、第二言語習得研究)
- Week 2: What is Gender? What is Diversity? What is SLA? (ジェンダーとは? 多様性とは? SLAとは?)
- Week 3: Breaking down the Myths of Feminism (フェミニズム)
- Week 4: Marriage Education and Career (結婚、教育とキャリア)
- Week 5: Workshop 1: Assertiveness and Assertive training (ワークショップ1: アサーティブネスの練習)
- Week 6: Gender Fluid -LGBTQ+ community (ジェンダー・フルイドとLGBTQ+コミュニティ)
- Week 7: Marriage for All (すべての人に結婚の権利を)
- Week 8: Workshop 2: Proud of PRIDE: Understanding the Importance of the LGBTQ+ Community (ワークショップ2: プライド: LGBTQ+コミュニティの重要性に対する理解)
- Week 9: Civil Rights/ Human Rights (市民の権利・人権)
- Week 10: The lives of Rosa Parks and Malala Yousafzai (ローザ・パークスとマララ・ユスフザイ)
- Week 11: Workshop 3: The Changing Face of Japan Looking inwards: Cultural diversity in Japan (ワークショップ3: 変わりつつある日本の顔)
- Week 12: Celebrating differently Abled Abilities (障がいに対する見方)
- Week 13: Different Ways of Learning, Different Minds (学び方の違い)
- Week 14: Human Rights, Educational Rights (人権、教育を受ける権利)
- Week 15: Student led Workshop (学生によるワークショップ)

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class participation 50%; Workshop preparation 10%; Student-led Workshop 20%; Short creative piece of writing 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習: 語彙の確認、Moodle課題など (30~60分)
- 事後学習: 毎週の授業内容の復習、ワークショップやレポートの準備 (30~60分)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

We hope to make this course enjoyable, informative, and educational for all students.
受講者にとって楽しくてためになる、教育的な授業にしたいと思っています。

キーワード /Keywords

diversity and inclusion, gender, second language acquisition
多様性と包摂、ジェンダー、第二言語習得論

特定課題演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 堀地 明 / 中国学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM186M			○	○	◎
科目名	特定課題演習 C		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本科目は、学内で公募する海外インターンシップ(オンラインのみでのものは含まないので注意)に参加する学生を対象に開講されます。学生自らが積極的に学外における活動に身を置き、主体的に行動し問題解決能力を身に付けることを目的としています。なお、この科目は集中講義として開講されます。

(到達目標)

[思考・判断・表現力] 多文化共生社会への深い理解に基づいて、自分の考えを発信することができる。

[コミュニケーション力] 文化的背景の異なる他者と外国語で円滑なコミュニケーションをとることができる。

[自立的行動力] 多文化共生社会の課題解決に向けて主体的に取り組み、自他ともに尊重する解決方法を模索することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

夏期休業期間中に行われる学内公募の海外インターンシップに参加し、80時間以上の就業体験が必要です。そのインターンシップを挟む形で、学内において事前研修と事後学習が行われます。1学期に行われる事前研修においては、海外インターンシップに参加するにあたって、1)海外における安全管理・危機管理、2)インターンシップに臨むにあたっての心構え、について講義を行います。また、履修登録者には、海外インターンシップによって、どのような力を身に付けてきたいかをプレゼンテーションで発表してもらいます。事後研修では、海外インターンシップの内容だけでなく、参加して身につけた能力についてプレゼンテーションを行っていただきます。なお、オンラインのみでのインターンシップは対象になりませんので、注意してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

この科目での評価はN(認定)とし、2単位が付与されます。単位を得るためには、上記の事前事後研修への参加およびそこでのプレゼンテーション、ならびに履修登録者自らがつけた「日誌」「報告書」、さらには研修受入機関が作成した「研修終了報告書」の提出が必要です。これらのうちの一つでも欠けた場合には単位は付与されません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に自分が訪問する国の治安状況等について、外務省のサイト等を参照して学習しておいてください。事後学習としては、インターンシップ先で身につけた知識や能力を帰国後の日常生活において確認してください。

履修上の注意 /Remarks

履修登録は4月の履修登録期間に行ってもらいます。事前研修の日程は掲示で通知します。また、Moodleでのメッセージでも知らせるので、見逃しがないように注意してください。履修にあたっては、特定課題演習C取扱要領を熟読してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類-1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提として進めます。

教職論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

教育課程論【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。

本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題②(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④(グループ討論)
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%
コメントシート：20%
小テスト：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動・キャリア教育論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本講義の主な内容は以下のとおりである。

1. 文科省の中学校及び高等学校の学習指導要領・特別活動の目標と内容について
2. 学級活動や学校行事、生徒会活動を通じた「人間関係形成」「社会参加」「自己実現」の課題と方法
3. 特別活動の取り組みを進めていくための教職員の共同や家庭・地域との連携の課題と方法
4. 学校における進路指導、キャリア教育の位置づけと学校教育全体を通じたキャリア教育の課題
5. 職場体験学習などの体験活動を通じたキャリア教育の意義と進め方
6. キャリアカウンセリングの基本的な課題と方法について

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 文科省の学習指導要領「特別活動」の課題と方法についての基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文科省 中学校学習指導要領解説「特別活動編」 東山書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き

○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店

○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 特別活動の目標と内容
- 2回 教育課程の中での特別活動の位置づけと各教科との関連
- 3回 学級活動の目標と内容
- 4回 学級活動の実際 その1 中学校の取り組み
- 5回 学級活動の実際 その2 高等学校の取り組み
- 6回 学級活動における対立解決プログラムの取り組み
- 7回 学校行事の目標と内容
- 8回 学校行事の実際
- 9回 生徒会活動の目標と内容
- 10回 生徒会活動の実際
- 11回 キャリア教育の課題について
- 12回 今日の若者の就労問題とキャリア教育の課題
- 13回 北九州キャリア教育研究会 夢授業の取り組み(講師 北九州キャリア教育研究会 木原大助さん)
- 14回 キャリアカウンセリングの課題と方法(ポートフォリオの活用を含む)
- 15回 中学校におけるキャリア教育の取り組み

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30点

キャリア教育に関する学習指導案 20点

期末試験 50点

本授業は原則としてすべての授業回に出席して、課題を提出してもらうことが原則です。介護等体験などで欠席した場合には、その回のレジュメを読んで課題を提出してください。その感想文の提出をもって出席扱いとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では多くのグループワークと意見発表の機会を設け、教師としての実践的な指導力の育成を目指します。
大変かと思いますが、よろしくお願いします。

特別活動・キャリア教育論【夜】

履修上の注意 /Remarks

遅刻に対しては厳しく対応するので、十分に注意すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の目標、学級活動、生徒会活動、学校行事、キャリア教育

教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法【夜】

教育の基礎的理解に関する科目等
必修科目

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。また学校ごとに特色ある「総合的な学習の時間」について、その内容の取り扱いや目標のあり方を理解し、各教科との関連を踏まえて捉えるようにする。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

到達目標

【知識】 これからの子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基本的知識を身につけている

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 改訂版 (2019 有斐閣アルマ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)
高等学校学習指導要領 (平成30年告示 文部科学省)
他にも授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：西洋における教育思想と教育方法の歴史
 - 第3回：日本における教育改革と教育方法の歴史
 - 第4回：現代教育方法学の論点と課題
 - 第5回：子どもは何を学ぶのか・学習とは何か
 - 第6回：「学力」について考える・学力とは何か
 - 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
 - 第8回：教育の道具・素材・環境を考える
 - 第9回：何をどう評価するのか・評価と評定・基準と規準
 - 第10回：教科外活動を構想する
 - 第11回：授業研究・授業をいかに捉えるか
 - 第12回：総合的な学習の意義と課題
 - 第13回：総合的な学習の指導計画と取り扱い
 - 第14回：教師の専門性・専門職性
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (グループワークや質疑などへの参加) (30%)
発表・レジュメ作成 (20%)
定期試験・課題レポート (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料 (レジュメ) を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義の3分の2以上の出席が試験受験の前提となる。
欠席の際は、連絡を入れるようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合的な学習の時間は、各学校や地域ごとに特色ある活動を行っています。どのような実態があるかを考えるためには、他者との交流や対話的な学びが不可欠です。

能動的・積極的な姿勢を身に着けていきましょう。

キーワード /Keywords

生徒指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害、セクシュアルマイノリティ等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 生徒理解と生徒指導に対する基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待・いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト

参考書・参考資料等

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 生徒指導の意義と目的 - 子どもたちの自己存在感を育むために
- 2回 生徒指導における個別指導と集団指導、積極的生徒指導と生活指導
- 3回 教育相談と生徒指導、不登校問題と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その1 - 教科教育と生徒指導
- 5回 教育課程と生徒指導 その2 - 総合的な学習の時間、道徳教育と生徒指導
- 6回 教育課程と生徒指導 その3 - 学級づくりを通じた生徒指導
- 7回 生徒指導に関する法制度等(第7章他)
- 8回 生徒指導における規範意識の醸成をめぐる諸問題(ゼロトレランスの問題も含めて)
- 9回 生徒指導における体罰問題を考える - 家父長制的学校観を乗り越えるために
- 10回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 11回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールカウンセラーとの連携
- 12回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールソーシャルワーカーその他との連携
- 13回 青少年の自殺予防の取り組み
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 学校での支援
- 15回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 関係諸機関との連携

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート20点、試験80点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」のテキストはしっかり読み込んで内容を修得しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

全学の教職課程履修学生の必修科目ではありますが、人間関係学科の学生で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの仕事に関心がある学生にも対応した内容になっているので、積極的に履修してください。

生徒指導論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活指導、生徒指導の3機能、積極的生徒指導と消極的生徒指導、児童虐待問題

教育相談【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
最終試験 60%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

教育相談【夜】

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

到達目標

- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な知識を身につけている。
- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な技能を身につけている。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編『教育実習』学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の講演)
- 6回 特別活動の模擬授業について(4年生の実演)
- 7回 教科教育の模擬授業について(4年生の実演)
- 8回 特別活動の模擬授業 その1
- 9回 特別活動の模擬授業 その2
- 10回 教科の模擬授業 その1
- 11回 教科の模擬授業 その2
- 12回 学級づくりと学級経営案
- 13回 教育相談のロールプレイ
- 14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の講演)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード /Keywords

模擬授業、実践的指導力

特別支援教育論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや外国にルーツを持つ子ども、セクシュアルマイノリティの子どもなど、多様な「特別なニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

到達目標 特別なニーズを持つ子ども、特別支援教育に関する基礎的な知見を修得している。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文科省特別支援学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

1. オリエンテーション + 昨年度のテキスト感想レポートの紹介
2. 特別支援教育の教育制度と教育課程
3. 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
4. 自閉スペクトラム症の当事者研究
5. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その1 日本語学習支援の取り組み
6. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その2 学力問題とアイデンティティ問題に視点をあてて
7. セクシュアルマイノリティの子ども・青年の抱える生きづらさについて
8. 性の多様性が尊重される学級づくりの課題
9. 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援 (外部講師)
10. 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
11. 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
12. 被虐待児に対する理解と指導 - 不安定な愛着の問題に視点をあてて
13. インクルーシブ教育と集団づくり その1 小学校
14. インクルーシブ教育と集団づくり その2 中学校
15. インクルーシブ教育と集団づくり その3 高等学校
全体のまとめ

注 この中の第9回目から第11回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月の中旬に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート 25点、平常点 25点(+ボーナス点)、期末試験 50点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。
 介護等体験に行く学生は、9回目から11回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。
 ただし、9回目から11回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。
 そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。

特別支援教育論【夜】

キーワード /Keywords

特別支援教育、特別なニーズ、自閉スペクトラム症、セクシュアルマイノリティ、外国にルーツを持つ子ども

発達心理学 【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他者の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。「到達目標」は豊かな知識を得ることである。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通じた人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 性と人権 「性的いじめ」「子どもの性被害と性加害」
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 14回 コロナ禍中での人権 「エッセンシャルワーカー」「トリアージ」
- 15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

課題、テストなど総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(40%)、課題(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Teamsでの授業の場合は、moodleに示された資料、特にワークシート等は印刷しておいてください。

オンデマンドの授業では、事後学習として課題提出があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、対面ではなく、オンデマンド、Teamsなど授業形態が変わります。Moodleでお知らせします。

キーワード /Keywords

人権教育、子どもの人権 人権課題

自然史へのいざない【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0001F	◎		○		○
科目名	自然史へのいざない				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- 【知識】自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】自然史についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。()内は担当者。【 】はキーワード

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 植物を鍵とした生物間相互作用(真鍋)【共生】【食物連鎖】
- 3回 生命の起源を探る(柳川)【極限環境】【微生物】
- 4回 北九州市周辺の地質と化石の多様性について(太田)【化石】【ジオパーク】
- 5回 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化(大橋)【恐竜】【脊椎動物】
- 6回 鳥類の生態と進化(中原)【適応放散】【進化的軍拡競争】
- 7回 海産無脊椎動物の行動生態学(竹下)【無脊椎動物】
- 8回 多様性生物学と進化(養島)【進化】【生物多様性】
- 9回 石の歌がきこえる(森)【岩石】【考古】【文理融合】
- 10回 魚類分類学と多様性(日比野)【ホロタイプ】【分類学の歴史】
- 11回 博物館見学(日高)
- 12回 フィールドの地学と歴史を楽しむ(野井)【地学と歴史のかかわり】
- 13回 人新世におけるヒトと植物の関係(河野)【人新世】【科学史】
- 14回 課題研究(日高)
- 15回 まとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。
 - 事後学習：授業中に出示された課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
- <https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

自然史へのいざない【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第7回～第9回は11月28日（日）博物館にて講義と見学の予定。
（博物館までの交通費は自己負担とする）
- ・ 上記以外は遠隔授業（オンデマンド動画配信）の予定。
- ・ 第1回目Moodleで詳細について説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1回 ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高) | 【ウイルス】 |
| 7回 生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 8回 生物の多様性(4)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 9回 生物の多様性(5)多様な生命(日高) | 【生物多様性】 |
| 10回 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 11回 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 12回 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 13回 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 14回 科学的な方法とは(3)人類の起源(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 15回 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

生命と環境 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
- ・ 遠隔授業 (オンデマンド動画配信) の予定。
- ・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高 (生物担当) および中尾 (物理担当) による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

【少人数による対話型（教員と受講生の双方向）の授業】

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑥・⑩山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容：50%

レポート試験：50%

環境問題概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後にレポート試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

安全保障論【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理したり、新作も作りしたいと思います。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(8回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、YouTube配信なので、コメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
篠崎 香織 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL003F	◎		○		○
科目名	現代の国際情勢				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
 - 第3回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
 - 第4回 阿部 米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
 - 第5回 政所 国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
 - 第6回 政所 国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
 - 第7回 久木 2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
 - 第8回 久木 2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
 - 第9回 篠崎 東南アジアの多文化・多宗教社会【イスラム教】【上座仏教】【自律史観】
 - 第10回 篠崎 世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華僑華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
 - 第11回 リーダー Humour in British Politics (イギリス政治におけるユーモア)【British politics (イギリス政治)】【Protest (抵抗)】【Humour (ユーモア)】
 - 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
 - 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
 - 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
 - 第15回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- ※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連

第4回 阿部 9「産業・技術革命」

第5回、第6回 政所 16「平和と公正」

第9回、第10回 篠崎 11「まちづくり」

第12回 白石 17「グローバル・パートナーシップ」

第15回 下野 5「ジェンダー平等」、16「平和と公正」

近代史入門【夜】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

- ・ 本授業の到達目標
「知識」
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
「思考・判断・表現力」
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
「自立的行動力」
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストの指定はありません。教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学で学ぶ歴史
- 第2回 現代の起点としての第一次世界大戦
- 第3回 言論の「中立」化
- 第4回 国際協調体制と戦争の違法化
- 第5回 1920年代の日本と中国
- 第6回 近代日本と災害
- 第7回 政治の大衆化
- 第8回 軍縮をめぐる政治と世論
- 第9回 満洲事変と「熱狂」の創出
- 第10回 政党政治の崩壊と軍の政治的台頭
- 第11回 日中戦争の諸相
- 第12回 新体制運動
- 第13回 日米交渉・日米開戦
- 第14回 戦時体制下における情報・宣伝・報道
- 第15回 太平洋戦争の終結と聖断

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

近代史入門【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT210F	◎		○		○
科目名	現代社会と文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
 - 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
 - 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局
 - 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
 - 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- ※そのほか必要に応じて講義中に指示する

現代社会と文化【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 レポートについての注意と課題レポート①の説明

第7回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第8回 多文化主義の可能性と限界

第9回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ

第10回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 癒しの多様性

第15回 課題レポート②の解説と課題レポート③の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート（3回）60%、毎回の授業課題 40%

毎回の授業課題については、提出時期や授業への貢献により得点が変わります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遠隔授業の場合は、オンデマンド配信となりますが、毎回の課題は提出時期により得点が変わるので、計画的に受講すること。
- ・ 受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。
- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済みの学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

アカデミック・スキルズI【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

アカデミック・スキルズI【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】 情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】 情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライブログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。
その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

- DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
- DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業時に指示した文献の講読
- 事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

ことばの科学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」がわかるわけではありません。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるのではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、嘔むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

「こころ」は目に見えるものではないので、「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始めます。観察するとは、行動だけでなく、質問にハイ・イイエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。

こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難さを抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 福田恭介 (2018) ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きつとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版
- 行場次朗・箱田裕司 (2014) 新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 神奈川LD協会編 (2006) ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 三浦麻子・佐藤博 (2018) なるほど！心理学観察法 北大路書房
- 丸野俊一・子安増生 (1998) 子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編 (2006) ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。ミネルヴァ書房
- やまだようこ (1987) ことばの前のことば 新曜社

現代人のこころ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6: 目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：40点
レポート：30点
期末試験：30点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：Moodleにあげた資料を読んでください。
事後：授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート：もっとも関心のある本やウェブサイトを読んで、所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し、200字程度のコメントを書いてください。レポートを書くのは前期で1回限りです。所定の書式は最初の授業で紹介します。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます（事後学習）。
2. 次の時間、書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3. 配付資料やコメントへの回答には、関連する本やウェブサイトを紹介しますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようにいろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚，目の動き，注意，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリ，心の発達，発達障害

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

(到達目標)

【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

企業と社会 【夜】

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8. 働きがい・経済成長、SDGs12. 作る・使う責任、SDGs15. 環境保全、等の問題と強く関連する。

社会哲学入門 【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。最後に、COVID(コビット)-19との関係の中で私たちの社会は今後どうあるべきか、どこへむかうのか、どうなったらいいのか、一緒に考えていきたいとも思います。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

* この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「倫理思想史」があります。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・バトラー』, 青土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

社会哲学入門 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？社会って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：善き生と徳（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：支配と民主制（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：神と被造物（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：愛の共同体（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：社会契約と国家（ホッブス、ロック、ルソー、カント）
- 第7回 【近代】人間って何？③：自由と権利（カント）
- 第8回 【近現代】人間って何？④：産業の奴隷（マルクス）
- 第9回 【近現代】共同体って何？④：社会主義と資本主義（ハイエク）
- 第10回 【現代】公共性って何？：プライベートとパブリック（ハーバーマス）
- 第11回 【現代】正義って何？：平等と格差（ロールズ）
- 第12回 【現代】フェミニズムって何？：男女の平等と差異
- 第13回 【現代】ジェンダーって何？：ジェンダーとセックス（バトラー）
- 第14回 【現代】優生思想って何？：命の法的管理
- 第15回 【現代】COVID-19と共にどう生きたらいいのか？

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 45%
- （オンデマンドの場合は、Googleフォームを使用します。）
- ・ 期末テスト 55%

* 授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるINTRODUCTION（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われませんが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

市民活動論【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

(到達目標)

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 40%

期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

（到達目標）

【知識】地域福祉を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、地域福祉に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】地域福祉に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

採用予定のテキストが2021年8月頃発行予定のため、授業時に指示させていただきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 志賀信夫・畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・行政の今とこれから』旬報社
 福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
 難波利光・坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済-福祉-国際視点からのアプローチ』大学教育出版
 その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 5回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域包括ケアと地域共生社会【地域包括ケア、多機関協働、生活困窮者自立支援】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 災害と地域福祉活動【非常時や災害時における法制度、福祉避難所、災害ボランティア】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。

事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

メンタル・ヘルス【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達の視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康（SDGs 3）や平和と暴力（SDGs 16）をテーマに持続可能な豊かな社会を求めよう行動するかを皆で考える授業である。

（到達目標）【自立的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性（アイデンティティ）の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs（持続可能な開発目標）の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度（40%）②定期試験もしくは期末課題レポート（60%）

メンタル・ヘルス【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。

フィジカル・ヘルス【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自立的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅でも軽く運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある